



VDI-in-a-Box 5.1.x

2015-03-16 16:21:07 UTC

© 2015 Citrix Systems, Inc. All rights reserved. [Terms of Use](#) | [Trademarks](#) | [Privacy Statement](#)

目次

VDI-in-a-Box 5.1.x	6
VDI-in-a-Box 5.1.x.....	7
Citrix VDI-in-a-Box 5.1.xについて	11
既知の問題	15
VDI-in-a-Boxのアーキテクチャ	20
VDI-in-a-Box 5.1.xに必要なシステム	23
VDI-in-a-Boxインフラストラクチャに必要なシステムリソース	27
VDI-in-a-Boxを導入する前に	31
VDI-in-a-Boxの導入	32
Citrix XenServerでのWindows 7イメージの使用	33
VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには	34
グリッドを作成して構成する.....	36
最初のWindowsイメージを作成する	43
公開イメージから最初のテンプレートを作成するには	51
テンプレートを編集するには	56
ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て	57
ユーザーとしての接続のテスト.....	61
Citrix XenServerでのWindows XPイメージの使用	63
VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには	64
グリッドを作成して構成する.....	66
最初のWindowsイメージを作成する	73
公開イメージから最初のテンプレートを作成するには	80
テンプレートを編集するには	84
ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て	85
ユーザーとしての接続のテスト.....	89
Citrix XenServerでのWindows Server 2008 R2イメージの使用.....	91
VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには	92
グリッドを作成して構成する.....	94
最初のWindowsイメージを作成する	101

公開イメージから最初のテンプレートを作成するには	108
テンプレートを編集するには	112
ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て	113
ユーザーとしての接続のテスト	117
Microsoft Hyper-VでのWindows 7イメージの使用	119
VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには	120
グリッドを作成して構成する	122
最初のWindowsイメージを作成する	130
公開イメージから最初のテンプレートを作成するには	137
テンプレートを編集するには	142
ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て	143
ユーザーとしての接続のテスト	147
Microsoft Hyper-VでのWindows XPイメージの使用	149
VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには	150
グリッドを作成して構成する	152
最初のWindowsイメージを作成する	159
公開イメージから最初のテンプレートを作成するには	166
テンプレートを編集するには	170
ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て	171
ユーザーとしての接続のテスト	175
Microsoft Hyper-VでのWindows Server 2008 R2イメージの使用	177
VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには	178
グリッドを作成して構成する	180
最初のWindowsイメージを作成する	188
公開イメージから最初のテンプレートを作成するには	195
テンプレートを編集するには	199
ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て	200
ユーザーとしての接続のテスト	204
VMware ESXiでのWindows 7イメージの使用	206
VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには	207
グリッドを作成して構成する	209
最初のWindowsイメージを作成する	216
公開イメージから最初のテンプレートを作成するには	224
テンプレートを編集するには	229
ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て	230
ユーザーとしての接続のテスト	234
VMware ESXiでのWindows XPイメージの使用	236

VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには	237
グリッドを作成して構成する	239
最初のWindowsイメージを作成する	246
公開イメージから最初のテンプレートを作成するには	253
テンプレートを編集するには	257
ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て	258
ユーザーとしての接続のテスト	262
VMware ESXiでのWindows Server 2008 R2イメージの使用	264
VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには	265
グリッドを作成して構成する	267
最初のWindowsイメージを作成する	274
公開イメージから最初のテンプレートを作成するには	281
テンプレートを編集するには	285
ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て	286
ユーザーとしての接続のテスト	290
VDI-in-a-Box 5.0.xから5.1.xへのアップグレード	292
ライセンスのアップグレード	296
パーソナルデスクトップの管理	297
パーソナルデスクトップのバックアップと復元	300
VDI-in-a-Boxの管理	303
イメージの作成、アップデート、および修復	304
デスクトップとユーザーセッションの管理	306
セッションパラメーターを設定するには	311
Desktop Agentの手作業によるインストール	313
汎用ユーザーアカウントを設定するには	316
グリッドの管理	318
Active Directoryフェールオーバーの準備	326
MACアドレスのプールからデスクトップを生成する	330
資格情報の変更に伴うサーバー構成の更新	332
デュアルデータストア機能	333
ユーザーとコンピューターのドメインを分離する	335
VDI-in-a-Boxキオスクの構成	338
ユーザーデバイスをキオスクとして構成する	340
安全なリモートアクセスの構成	343
リモートデスクトップゲートウェイを介したvdiManager接続を構成するには	347
Profile managementの構成	349
スマートカード認証の構成	351

VDI-in-a-Boxアプライアンスへのログオン	353
HDX機能および拡張機能の使用	354
ユーザーデバイスからのVDI-in-a-Boxへのアクセス	355
VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのWindowsデバイスの構成	359
VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのMacデバイスの構成	361
VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのLinuxデバイスの構成	363
VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのiOSデバイスの構成	365
VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスできるようにAndroidデバイスを構成するには	367

VDI-in-a-Box 5.1.x

Citrix VDI-in-a-Boxは、市販のサーバー上で動作するデスクトップ仮想化ソリューションであり、さまざまな種類のデバイスを使用するすべてのユーザーに、一元管理された仮想デスクトップを配信します。

About Citrix VDI-in-a-Box 5.1.x	Get started with VDI-in-a-Box
Known issues	Manage VDI-in-a-Box
System requirements for VDI-in-a-Box 5.1.x	Access VDI-in-a-Box from user devices

Citrix VDI-in-a-Box 5.1.xについて

更新日：2012-11-21

VDI-in-a-Boxは、仮想デスクトップの作成、プロビジョニング、管理、負荷分散に必要なすべての機能を単体で提供する仮想アプライアンスです。VDI-in-a-Boxには、接続ブローカー、負荷分散機能、ユーザーマネージャー、およびデスクトップProvisioning Servicesサーバーが組み込まれています。共有ストレージや高速の相互接続、複数の管理サーバーを別個に用意する必要はありません。このアプライアンスは、Citrix XenServer、Microsoft Hyper-V、VMware ESXiなどのハイパーバイザーを実行するコモディティサーバー上で実行されます。

Citrix Receiverは、VDI-in-a-Boxデスクトップのユーザーに安全な接続を提供し、高品位なユーザーエクスペリエンスを実現します。Citrix HDXテクノロジーを装備したVDI-in-a-Boxにより、Flashマルチメディアやアプリケーション、3Dグラフィック、Webカメラ、オーディオ、および支社への配信などにおける高品位なユーザーエクスペリエンスを提供できます。デスクトップはリモートサーバー上で実行されますが、ユーザーはこのデスクトップを、ローカルのWindowsデスクトップと同じように操作できます。ユーザーの操作性の点から言えば、仮想デスクトップへのログオンとローカルデスクトップへのログオンには違いがありません。

新機能

このリリースのCitrix VDI-in-a-Boxには、以下の新機能および拡張が追加されています。

パーソナルデスクトップ

Windows 7の共通公開イメージから、チェックボックスをオンにするだけで特定ユーザー用のデスクトップを作成できるようになりました。パーソナルデスクトップのユーザーは、独自のアプリケーションをインストールしたり、プロファイルを変更したり、データを保存したりできます。管理者は、これらのパーソナルデスクトップをアップデート、管理、バックアップ、および復元できます。公開イメージをアップデートすると、すべてのパーソナルデスクトップの基本イメージが管理者による変更内容で自動的にアップデートされます。このとき、ユーザーがインストールしたアプリケーションおよびプロファイルやデータの変更内容は保持されます。

ユーザープロファイルのバックアップには、パーソナルデスクトップ機能を備えたプロファイル管理ツールを使用することをお勧めします。VDI-in-a-Boxには、Citrix Profile managementが付属しています。

Desktop Agentの自動化

VDI-in-a-Box Desktop Agentは、公開イメージから作成した各デスクトップ上で動作します。vdiManagerは、このエージェントを介してデスクトップと通信します。このリリースでは、Desktop Agentプロセスにより、ドラフトイメージにDesktop Agentが自動的にインストールされます。

この自動インストールは、最初のドラフトイメージの作成時に行われます。

Active Directoryフェールオーバー

このリリースでは、Active Directoryフェールオーバーがサポートされました。この機能では、プライマリのActive Directoryサーバーに問題が発生したときに、自動的にほかのサーバーが使用されます。管理者は、複数のActive Directoryサーバーを一覧に追加して、優先順位を設定できます。まず、優先順位最上位のActive Directoryサーバーが使用され、そのサーバーに障害が発生すると、次の優先順位のActive Directoryサーバーが順次使用されます。障害が発生したActive Directoryサーバーの状態も監視され、優先順位の高いサーバーが障害から回復したことが検出されると、自動的にそのサーバーが使用されます。

注：デスクトッププロビジョニングのサービスを中断させないためには、指定したすべてのActive Directoryサーバーでデータが正しく同期されていることが重要です。VDI-in-a-Boxでは、Active Directoryサーバー間の同期をチェックすることはできません。

仮想デスクトップ名の指定

このリリースでは、管理者が仮想デスクトップの完全な名前を指定できます。これにより、管理者がハイパーバイザー上の仮想マシンを識別したり、その関連コンピューターをActive Directoryサーバー上で容易に管理したりできるようになりました。

仮想デスクトップの名前は、次の形式で指定します。

<prefix><suffix>

<prefix>（プレフィックス）には、英数字およびハイフン（-）を使用できます。<suffix>（サフィックス）には数字のみ使用でき、1~4桁で指定します。サフィックスの上位桁の数字を「0」にすることをお勧めします（「0001」など）。

グリッド用の仮想IPアドレス

この機能では、グリッド内の任意のサーバーでホストされる単一の仮想IPアドレスを使用して、ユーザーデバイスからそのグリッドにアクセスできます。この場合、すべてのユーザーからの接続要求は、その仮想IPアドレスをホストするサーバーに送信されます。そのサーバーに障害が発生している場合は、同一グリッド内のほかのサーバーが接続要求を処理します。

このグリッド用の仮想IPアドレス機能により、ユーザーとサーバーグリッド間に負荷分散装置を使用することなく、エンドツーエンドの高可用性が提供されます。この機能は、すべてのユーザーデバイスをサポートします。

Citrix HDX 5.6 Feature Pack 1のサポート

このリリースには、Citrix HDX 5.6 Feature Pack 1が含まれています。

Active Directoryサービスでのユーザーおよびグループの検索

仮想デスクトップにユーザーやグループを割り当てるときに、Active Directoryからユーザーやグループが検索され、表示された一覧から適切な項目を選択できるようになりました。

複数の仮想CPU

一部のアプリケーションでは、複数のCPUがないと正しく動作しなかったり、パフォーマンスを発揮できなかったりする場合があります。このリリースでは、仮想デスクトップに複数のCPUを割り当てることができます。ただし、この機能を使用するには多くの物理CPUリソースが必要になり、同時にそのサーバー上で実行できる仮想デスクトップの数にも影響します。

ユーザーとコンピューターとのドメインの分離

VDI-in-a-Boxでは、ユーザーとデスクトップを異なるWindowsドメインに配置することができます。この機能は、セキュリティ上の要件によりユーザーとそのデスクトップ間に厳格な関係が必要な場合に便利です。

デュアルデータストア

デュアルデータストア機能では、プールデスクトップで使用されるデータストアとは異なるデータストアにイメージやパーソナルデスクトップを格納できます。この機能を使用すると、たとえばプールデスクトップをソリッドステートドライブ上に格納して、パフォーマンスを向上させることができます。プールデスクトップに必要なディスク領域は小さいため、サーバーに大容量のソリッドステートドライブを搭載しなくても、デスクトップのパフォーマンスを向上させることができます。

リモートデスクトップゲートウェイ

リモートデスクトップゲートウェイを経由してVDI-in-a-Boxデスクトップにリモートからアクセスすることができます。この場合、リモートデスクトップゲートウェイがDMZ（Delimitarized Zone：非武装地帯）内で動作している必要があります。また、リモートアクセスを提供する仮想デスクトップと同じドメインに属している必要があります。vdiManagerを構成するときに、リモートデスクトップゲートウェイのIPアドレスを指定します。

ネットワークタイムプロトコル

VDI-in-a-Boxでは、ネットワークタイムプロトコルサーバーを使用して、グリッド内のすべてのvdiManagerのシステムクロックを同期できます。これにより、複数サーバーで一貫した時刻がログに記録されるようになります。

Google Earth用の最適化

VDI-in-a-Boxでプロビジョニングされたデスクトップでは、Google Earthでより鮮明な画像が表示されるようになりました。この機能を有効にするには、Google Earth Optimization Packをインストールします。

Google Earth Optimization Packをインストールするには、<http://citrix.com/downloads/xendesktop/components/optimization-pack-for-google-earth.html>からドラフトイメージにこの最適化パックをダウンロードして、D3d9.dllをGoogleear.exeと同じフォルダーにコピーします。

詳しくは、<http://support.citrix.com/article/CTX131167>を参照してください。

注：この最適化パックを実行するイメージでは、2つ以上の仮想CPUを割り当てる必要があります。

Citrix Desktop Lock (2012年11月リリース)

ユーザーがローカルデスクトップを操作する必要がない場合は、Desktop Lockを使用します。これにより、ローカルデスクトップが仮想デスクトップで置き換えられ、ユーザーはローカルデスクトップを操作するように仮想デスクトップを操作できます。つまり、ワークステーションはVDI-in-a-Boxに接続するシンクライアントとして動作します。

Desktop Lockは、Citrix社のWebサイトのVDI-in-a-Boxダウンロードページからダウンロードできます。

Citrix VDI-in-a-Box 5.1.xについて

更新日：2012-11-21

VDI-in-a-Boxは、仮想デスクトップの作成、プロビジョニング、管理、負荷分散に必要なすべての機能を単体で提供する仮想アプライアンスです。VDI-in-a-Boxには、接続ブローカー、負荷分散機能、ユーザーマネージャー、およびデスクトップProvisioning Servicesサーバーが組み込まれています。共有ストレージや高速の相互接続、複数の管理サーバーを別個に用意する必要はありません。このアプライアンスは、Citrix XenServer、Microsoft Hyper-V、VMware ESXiなどのハイパーバイザーを実行するコモディティサーバー上で実行されます。

Citrix Receiverは、VDI-in-a-Boxデスクトップのユーザーに安全な接続を提供し、高品位なユーザーエクスペリエンスを実現します。Citrix HDXテクノロジーを装備したVDI-in-a-Boxにより、Flashマルチメディアやアプリケーション、3Dグラフィック、Webカメラ、オーディオ、および支社への配信などにおける高品位なユーザーエクスペリエンスを提供できます。デスクトップはリモートサーバー上で実行されますが、ユーザーはこのデスクトップを、ローカルのWindowsデスクトップと同じように操作できます。ユーザーの操作性の点から言えば、仮想デスクトップへのログオンとローカルデスクトップへのログオンには違いがありません。

新機能

このリリースのCitrix VDI-in-a-Boxには、以下の新機能および拡張が追加されています。

パーソナルデスクトップ

Windows 7の共通公開イメージから、チェックボックスをオンにするだけで特定ユーザー用のデスクトップを作成できるようになりました。パーソナルデスクトップのユーザーは、独自のアプリケーションをインストールしたり、プロファイルを変更したり、データを保存したりできます。管理者は、これらのパーソナルデスクトップをアップデート、管理、バックアップ、および復元できます。公開イメージをアップデートすると、すべてのパーソナルデスクトップの基本イメージが管理者による変更内容で自動的にアップデートされます。このとき、ユーザーがインストールしたアプリケーションおよびプロファイルやデータの変更内容は保持されます。

ユーザープロファイルのバックアップには、パーソナルデスクトップ機能を備えたプロファイル管理ツールを使用することをお勧めします。VDI-in-a-Boxには、Citrix Profile managementが付属しています。

Desktop Agentの自動化

VDI-in-a-Box Desktop Agentは、公開イメージから作成した各デスクトップ上で動作します。vdiManagerは、このエージェントを介してデスクトップと通信します。このリリースでは、Desktop Agentプロセスにより、ドラフトイメージにDesktop Agentが自動的にインストールされます。

この自動インストールは、最初のドラフトイメージの作成時に行われます。

Active Directoryフェールオーバー

このリリースでは、Active Directoryフェールオーバーがサポートされました。この機能では、プライマリのActive Directoryサーバーに問題が発生したときに、自動的にほかのサーバーが使用されます。管理者は、複数のActive Directoryサーバーを一覧に追加して、優先順位を設定できます。まず、優先順位最上位のActive Directoryサーバーが使用され、そのサーバーに障害が発生すると、次の優先順位のActive Directoryサーバーが順次使用されます。障害が発生したActive Directoryサーバーの状態も監視され、優先順位の高いサーバーが障害から回復したことが検出されると、自動的にそのサーバーが使用されます。

注：デスクトッププロビジョニングのサービスを中断させないためには、指定したすべてのActive Directoryサーバーでデータが正しく同期されていることが重要です。VDI-in-a-Boxでは、Active Directoryサーバー間の同期をチェックすることはできません。

仮想デスクトップ名の指定

このリリースでは、管理者が仮想デスクトップの完全な名前を指定できます。これにより、管理者がハイパーバイザー上の仮想マシンを識別したり、その関連コンピューターをActive Directoryサーバー上で容易に管理したりできるようになりました。

仮想デスクトップの名前は、次の形式で指定します。

<prefix><suffix>

<prefix>（プレフィックス）には、英数字およびハイフン（-）を使用できます。<suffix>（サフィックス）には数字のみ使用でき、1~4桁で指定します。サフィックスの上位桁の数字を「0」にすることをお勧めします（「0001」など）。

グリッド用の仮想IPアドレス

この機能では、グリッド内の任意のサーバーでホストされる単一の仮想IPアドレスを使用して、ユーザーデバイスからそのグリッドにアクセスできます。この場合、すべてのユーザーからの接続要求は、その仮想IPアドレスをホストするサーバーに送信されます。そのサーバーに障害が発生している場合は、同一グリッド内のほかのサーバーが接続要求を処理します。

このグリッド用の仮想IPアドレス機能により、ユーザーとサーバーグリッド間に負荷分散装置を使用することなく、エンドツーエンドの高可用性が提供されます。この機能は、すべてのユーザーデバイスをサポートします。

Citrix HDX 5.6 Feature Pack 1のサポート

このリリースには、Citrix HDX 5.6 Feature Pack 1が含まれています。

Active Directoryサービスでのユーザーおよびグループの検索

仮想デスクトップにユーザーやグループを割り当てるときに、Active Directoryからユーザーやグループが検索され、表示された一覧から適切な項目を選択できるようになりました。

複数の仮想CPU

一部のアプリケーションでは、複数のCPUがないと正しく動作しなかったり、パフォーマンスを発揮できなかったりする場合があります。このリリースでは、仮想デスクトップに複数のCPUを割り当てることができます。ただし、この機能を使用するには多くの物理CPUリソースが必要になり、同時にそのサーバー上で実行できる仮想デスクトップの数にも影響します。

ユーザーとコンピューターとのドメインの分離

VDI-in-a-Boxでは、ユーザーとデスクトップを異なるWindowsドメインに配置することができます。この機能は、セキュリティ上の要件によりユーザーとそのデスクトップ間に厳格な関係が必要な場合に便利です。

デュアルデータストア

デュアルデータストア機能では、プールデスクトップで使用されるデータストアとは異なるデータストアにイメージやパーソナルデスクトップを格納できます。この機能を使用すると、たとえばプールデスクトップをソリッドステートドライブ上に格納して、パフォーマンスを向上させることができます。プールデスクトップに必要なディスク領域は小さいため、サーバーに大容量のソリッドステートドライブを搭載しなくても、デスクトップのパフォーマンスを向上させることができます。

リモートデスクトップゲートウェイ

リモートデスクトップゲートウェイを経由してVDI-in-a-Boxデスクトップにリモートからアクセスすることができます。この場合、リモートデスクトップゲートウェイがDMZ（Delimitarized Zone：非武装地帯）内で動作している必要があります。また、リモートアクセスを提供する仮想デスクトップと同じドメインに属している必要があります。vdiManagerを構成するときに、リモートデスクトップゲートウェイのIPアドレスを指定します。

ネットワークタイムプロトコル

VDI-in-a-Boxでは、ネットワークタイムプロトコルサーバーを使用して、グリッド内のすべてのvdiManagerのシステムクロックを同期できます。これにより、複数サーバーで一貫した時刻がログに記録されるようになります。

Google Earth用の最適化

VDI-in-a-Boxでプロビジョニングされたデスクトップでは、Google Earthでより鮮明な画像が表示されるようになりました。この機能を有効にするには、Google Earth Optimization Packをインストールします。

Google Earth Optimization Packをインストールするには、<http://citrix.com/downloads/xendesktop/components/optimization-pack-for-google-earth.html>からドラフトイメージにこの最適化パックをダウンロードして、D3d9.dllをGoogleear.exeと同じフォルダーにコピーします。

詳しくは、<http://support.citrix.com/article/CTX131167>を参照してください。

注：この最適化パックを実行するイメージでは、2つ以上の仮想CPUを割り当てる必要があります。

Citrix Desktop Lock (2012年11月リリース)

ユーザーがローカルデスクトップを操作する必要がない場合は、Desktop Lockを使用します。これにより、ローカルデスクトップが仮想デスクトップで置き換えられ、ユーザーはローカルデスクトップを操作するように仮想デスクトップを操作できます。つまり、ワークステーションはVDI-in-a-Boxに接続するシンクライアントとして動作します。

Desktop Lockは、Citrix社のWebサイトのVDI-in-a-Boxダウンロードページからダウンロードできます。

既知の問題

更新日：2012-10-29

VDI-in-a-Box 5.1.1の既知の問題

ここでは、次の内容について説明します。

- ・ インストールの問題
- ・ 一般的な問題
- ・ サードパーティの問題

インストールの問題

- ・ アップグレード時にメンテナンスモードを解除するときの [Take grid out of maintenance mode] ダイアログボックスに、異なるバージョンのグリッドノードが存在することを示すメッセージが表示された場合は、しばらく待ってからグリッドのメンテナンスモードを解除してください。これは、グリッド内のサーバーが2回アップグレードされるためです。 [324628]
- ・ アップグレード後の状態の履歴に「Hyper-V Connector upgrade failed」というメッセージが2回記録された後に「Server checks out fine」が記録される場合、アップグレードは正しく完了しています。 [324937]
- ・ Hyper-V ServerのファイアウォールによりSMBポート（ファイルとプリンターの共有用）がブロックされる場合、VDI-in-a-Box 5.0.2から5.1にアップグレードした非英語版Windows Server 2008 R2の環境が「Broken」として表示されます。この問題を解決するには、Hyper-Vコネクタをアンインストールし、VDI-in-a-Box_Hyper-V_v5_1_1.zipでダウンロードしたVDI-in-a-Box 5.1.1バージョンを手動でインストールします。 [327239]

一般的な問題

- ・ XenServer 6.1はサポートされておらず、VDI-in-a-Box 5.1.xはXenServer 6.1上で実行されません。
- ・ CitrixライセンスをVDI-in-a-Boxにアップロードした後で、そのライセンスが [About VDI-in-a-Box] ダイアログボックスに表示されない場合があります。この問題が発生した場合は、ライセンスをアップロードしたVDI-in-a-Boxマネージャーを再起動してください。VDI-in-a-Boxマネージャーが起動したら再接続し、 [About] をクリックしてライセンス情報を確認してください。 [300849]
- ・ VDI-in-a-Boxは、ハイパーバイザー項目（仮想マシン名やネットワーク名など）に使用されたサロゲートペア文字をサポートしません。 [318681]

- VDI-in-a-Boxは、VMware ESXやESXi項目に使用された非ASCII文字をサポートしません。 [318690]
- RDPセッションでのログオン画面で、非ASCII文字を含んでいるユーザー名が正しく表示されない場合があります。 [321966]
- VDI-in-a-Boxは、[コマンドプロンプト] ウィンドウから起動したVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントで使用されたユーザー名の非ASCII文字をサポートしません。この問題を避けるには、Webブラウザの[アドレス] ボックスに `https://<IPaddress>/dt/vdiclient.jnlp` と入力してJavaデスクトップクライアントを起動してください。 [297880]
- MAK (Multiple Activation Key : マルチライセンス認証キー) ライセンスを使用するパーソナルデスクトップでは、更新時またはリセット時に新しいライセンスが消費されます。 [317240]
- ワークグループに属している基本イメージからドラフトイメージを作成する場合、ドメイン用の[ファイルとプリンターの共有]のファイアウォール例外規則が作成されません。例外規則を作成するには、コントロールパネルの[システムとセキュリティ] > [Windowsファイアウォール] > [許可されたプログラム] で [ドメイン] 列の [ファイルとプリンターの共有] チェックボックスをオンにしてください。 [325619]
- ドラフトイメージよりも多くのvCPU数を割り当てたパーソナルデスクトップでは、プロビジョニングに失敗することがあります。この問題を避けるには、プロビジョニングで使用する数のvCPU数をドラフトイメージに設定してください。 [326647]
- デュアルデータストア機能を有効にした後で無効にする場合、2つ目のデータストアが自動的に削除されたりブロックされたりすることはありません。無効にした後でも2つのデータストアがそのまま残ります。2つ目のデータストアを削除するには、VDI-in-a-Boxマネージャーの[Servers] タブで、対象のサーバーをクリックします。[Server Properties] ダイアログボックスで [Configure] をクリックし、[Select datastores] セクションの2つのボックスで同じデータストアを指定します。 [310168]
- [User Database] で [VDI-in-a-Box workgroup] が選択されている場合、Webブラウザで表示するVDI-in-a-Boxログオンページの [ユーザー名] ボックスで、大文字と小文字が区別されます。 [328059]
- VMware ESX/ESXiハイパーバイザー上のWindows 7を使用する場合、そのVDI-in-a-BoxデスクトップへのHDX接続に失敗することがあります。この問題は、VDI-in-a-Box Desktop Agentをインストールした後でVMware Toolsをアップデートすると発生します。この問題を解決するには、VMware Toolsのインストールにより追加されるディスプレイアダプターVMware SVGA 3Dを無効にしてください。 [318109]

VDI-in-a-Box 5.1.1で解決された問題

「Hotfix 1 for Citrix VDI-in-a-Box 5.1」を<http://support.citrix.com/article/CTX135053> から参照してください。

VDI-in-a-Box 5.1の既知の問題

ここでは、以下の内容について説明します。

- ・ インストールの問題
- ・ 一般的な問題
- ・ サードパーティ製品の問題
- ・ グローバリゼーションに関する問題

インストールの問題

- ・ アップグレード時にメンテナンスモードを解除するときの [Take grid out of maintenance mode] ダイアログボックスに、異なるバージョンのグリッドノードが存在することを示すメッセージが表示された場合は、しばらく待ってからグリッドのメンテナンスモードを解除してください。これは、グリッド内のサーバーが2回アップグレードされるためです。 [324628]
- ・ アップグレード後の状態の履歴に「Hyper-V Connector upgrade failed」というメッセージが2回記録された後に「Server checks out fine」が記録される場合、アップグレードは正しく完了しています。 [324937]
- ・ ワークグループ内のドラフトイメージにDesktop Agentをインストールした直後には、HDX接続を確立できません。この問題を回避するには、[Image] ページでそのドラフトイメージを再起動します。 [325666]
- ・ Hyper-VサーバーのファイアウォールによりSMBポート（ファイルとプリンターの共有）がブロックされる場合、VDI-in-a-Box 5.0.2から5.1にアップグレードしたサーバーの状態が「Broken」として表示されます。この問題を解決するには、Hyper-V Connectorを手作業でアップグレードするか、ファイアウォール設定の [ファイルとプリンターの共有] を有効にしてvdiManagerを再起動してください。一部の非英語環境では、Hyper-V Connectorを手作業でアップグレードした後でvdiManagerを再起動する必要があります。 [328040]

一般的な問題

- ・ CitrixライセンスをVDI-in-a-Boxにアップロードした後で、そのライセンスが [About VDI-in-a-Box] ダイアログボックスに表示されない場合があります。この問題が発生した場合は、ライセンスをアップロードしたVDI-in-a-Boxマネージャーを再起動してください。VDI-in-a-Boxマネージャーが起動したら再接続し、[About] をクリックしてライセンス情報を確認してください。 [300849]
- ・ VDI-in-a-Boxは、ハイパーバイザー項目（仮想マシン名やネットワーク名など）に使用されたサロゲートペア文字をサポートしません。 [318681]
- ・ VDI-in-a-Boxは、VMware ESXやESXi項目に使用された非ASCII文字をサポートしません。 [318690]
- ・ RDPセッションでのログオン画面で、非ASCII文字を含んでいるユーザー名が正しく表示されない場合があります。 [321966]
- ・ VDI-in-a-Boxは、[コマンドプロンプト] ウィンドウから起動したVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントで使用されたユーザー名の非ASCII文字をサポートしません。この問題を避けるには、Webブラウザの [アドレス] ボックスに **`https://<IPaddress>/dt/vdiclient.jnlp`** と入力してJavaデスクトップクライアントを起動してください。 [297880]

- MAK (Multiple Activation Key : マルチライセンス認証キー) ライセンスを使用するパーソナルデスクトップでは、更新時またはリセット時に新しいライセンスが消費されます。 [317240]
- ワークグループに属している基本イメージからドラフトイメージを作成する場合、ドメイン用の [ファイルとプリンターの共有] のファイアウォール例外規則が作成されません。例外規則を作成するには、コントロールパネルの [システムとセキュリティ] > [Windowsファイアウォール] > [許可されたプログラム] で [ドメイン] 列の [ファイルとプリンターの共有] チェックボックスをオンにしてください。 [325619]
- ドラフトイメージよりも多くのvCPU数を割り当てたパーソナルデスクトップでは、プロビジョニングに失敗することがあります。この問題を避けるには、プロビジョニングで使用する数のvCPU数をドラフトイメージに設定してください。 [326647]
- デュアルデータストア機能を有効にした後で無効にする場合、2つ目のデータストアが自動的に削除されたりブロックされたりすることはありません。無効にした後でも2つのデータストアがそのまま残ります。2つ目のデータストアを削除するには、VDI-in-a-Boxマネージャーの [Servers] タブで、対象のサーバーをクリックします。 [Server Properties] ダイアログボックスで [Configure] をクリックし、 [Select datastores] セクションの2つのボックスで同じデータストアを指定します。 [310168]
- [User Database] で [VDI-in-a-Box workgroup] が選択されている場合、Webブラウザで表示するVDI-in-a-Boxログオンページの [ユーザー名] ボックスで、大文字と小文字が区別されます。 [328059]
- VMware ESX/ESXiハイパーバイザー上のWindows 7を使用する場合、そのVDI-in-a-BoxデスクトップへのHDX接続に失敗することがあります。この問題は、VDI-in-a-Box Desktop Agentをインストールした後でVMware Toolsをアップデートすると発生します。この問題を解決するには、VMware Toolsのインストールにより追加されるディスプレイアダプターVMware SVGA 3Dを無効にしてください。 [318109]
- イメージのインポート時に資格情報に関する問題の原因を示すエラーダイアログボックスに、次のメッセージが表示されません。「The Trust Relationship between the selected image and the domain failed. (選択したイメージとドメインの信頼関係に失敗しました) Please rejoin the image to the domain. (イメージをドメインに追加し直してください)」 [327674]

サードパーティの問題

- VDI-in-a-Box for Hyper-Vのインストール時に、「SSL Certificate for vdiHVConnctor failed to install」というエラーメッセージが表示されることがあります。これはWindowsの問題 (Microsoft社のサポート技術情報「[MachineKeysフォルダーに対する既定のアクセス許可](#)」を参照) により発生します。

この問題を避けるには、MachineKeysフォルダーおよびそのサブフォルダーに対するアクセス許可を変更して、SYSTEMおよびAdministratorsグループにフルコントロールを指定してください。個々のファイルについてアクセス拒否のエラーメッセージが表示される場合は、必要に応じて [続行] をクリックして処理を完了してください。 [328174]

グローバル化に関する問題

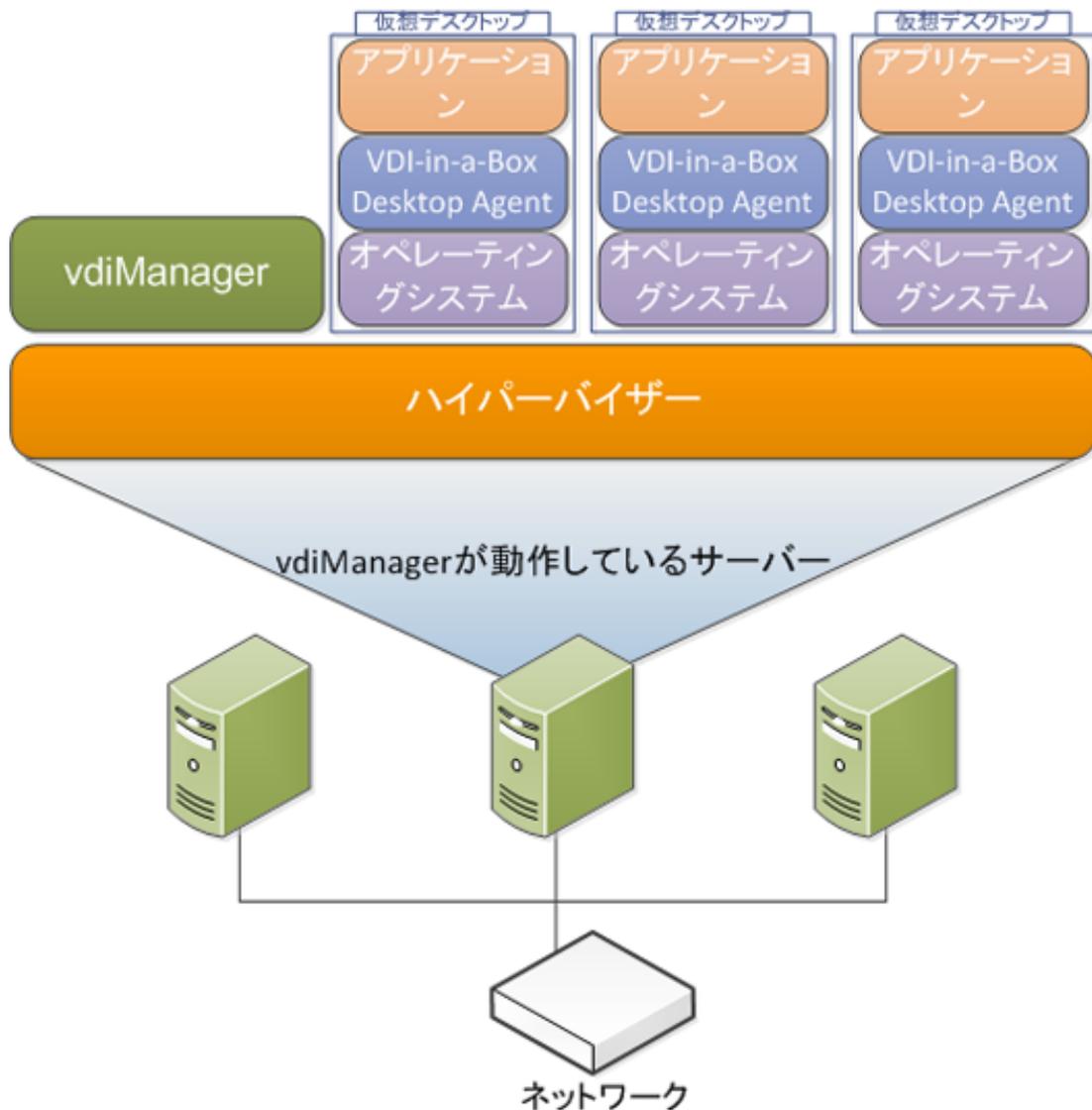
- VDI-in-a-Boxは、ESXi項目に使用された非ASCII文字をサポートしません。 [318690]

- ・ VDI-in-a-Boxは、ハイパーバイザー項目（仮想マシン名やネットワークアダプター名など）に使用されたサロゲートペア文字をサポートしません。 [318681]

VDI-in-a-Boxのアーキテクチャ

更新日：2012-09-11

VDI-in-a-Boxアプリケーションは「VDI-in-a-Boxマネージャー」または「vdiManager」と呼ばれ、ハイパーバイザー上の仮想マシンとして実行されます。vdiManagerはローカルのハイパーバイザーと通信することで、ローカル物理サーバー上に仮想デスクトップを作成し、管理します。



各vdiManagerは、単一の物理サーバーとして実行したり、「VDI-in-a-Boxグリッド」と呼ばれる物理サーバーのグループの一部として実行したりできます。グリッド内の各vdiManagerは、次の機能を実行します。

- ・ テンプレートからの仮想デスクトップの作成。テンプレートは、次の項目から構成されます。
 - ・ デスクトップオペレーティングシステム（Windows Server 2008 R2 Service Pack 1、Windows 7、Windows 8、またはWindows XP）、一連のアプリケーション、およびVDI-in-a-Box Desktop Agentがインストールされたイメージ。VDI-in-a-Box Desktop Agentは、ユーザー接続とデスクトップのヘルス状態についてvdiManagerと通信します。複数のテンプレートで同じイメージを使用できます。
 - ・ 作成するデスクトップの数、それらのデスクトップに割り当てるRAMの量、仮想デスクトップからローカルUSB周辺機器へのアクセスの可否、およびデスクトップ更新ポリシーなどの特性を指定するポリシー。
- ・ グリッド内での負荷分散。vdiManagerは、各サーバーで現在実行されているデスクトップの数と、各サーバー上のコンピューティングリソース（メモリおよびCPUコア）の使用状況に基づいて、vdiManagerを実行しているサーバー全体でデスクトップ作成を均等に配分します。ユーザーがログオンすると、vdiManagerは負荷が軽いサーバーでデスクトップのプロビジョニングを行います。
- ・ 高可用性の提供。物理サーバー上のvdiManagerインスタンスは互いに通信を行って、運用および構成に関する主要な情報を共有します。

たとえば、VDI-in-a-Boxのテンプレートとイメージは複数のサーバーに格納されるので、1台の物理サーバーに障害が発生しても失われることはありません。物理サーバーに障害が発生しても、グリッド内の残りのサーバーには、別のデスクトップを作成して障害の発生したサーバーのデスクトップを置き換えるために必要な情報が存在しています。障害の発生したサーバーが修復されグリッドに再度追加されると、運用と構成に関する主要な情報がそのサーバーに送られ、デスクトップのプロビジョニングが再開されます。

- ・ 接続の仲介。これにより、ユーザーがグリッド内の任意のサーバーにログオンできるようになります。
- ・ WebベースのインターフェイスであるVDI-in-a-Boxコンソールの提供。このコンソールを使用して、vdiManagerを実行しているサーバー、デスクトップ、テンプレート、イメージ、ユーザー、およびグリッドの構成と管理を、すべてグリッドレベルで行います。VDI-in-a-Boxコンソールでは、グリッドが、vdiManagerを実行している単一の論理サーバーとして表示されます。必要に応じて、各サーバーの状態と動作を個別に表示することも可能です。1台のサーバーでvdiManagerを更新すると、vdiManagerがその変更内容をグリッド内のすべてのサーバーに配布します。

VDI-in-a-Boxは、共有ストレージを構成しなくても動作するように設計されています。各サーバーから直接アクセスできるストレージデバイスがあれば、VDI-in-a-Box環境を構築できます。

ユーザーの認証とユーザーデータ

VDI-in-a-Boxは、Active Directoryまたはワークグループ環境で使用できます。

VDI-in-a-Boxでは、認証にはActive Directoryが使用され、ユーザーデータの保持には簡易ネットワークファイルシステムが使用されます。



Windowsドメイン環境では、ユーザーの承認と認証を提供するためにActive Directoryサービスが必要になります。

Active Directoryは、「移動プロファイル」を提供するためにも使用できます。これにより、ユーザーのアプリケーション構成とマイドキュメントフォルダーをデスクトップ以外の集中管理用の場所に格納することができます。この手法により、ユーザーがログオンするたびに、カスタマイズされたデスクトップが表示されます。移動プロファイルの使用はオプションですが、この機能を使用すると、物理デスクトップに近いユーザーエクスペリエンスを仮想デスクトップで提供できるようになります。サードパーティ製のプロファイル管理ツールは、そのエージェントを各VDI-in-a-Boxイメージ上にインストールしておくだけで簡単に使用可能になります。

vdiManagerを実行している各サーバーには、高可用性システムが必要とする、イメージ、テンプレート、および構成情報を保持するために十分なローカルストレージが必要です。VDI-in-a-Boxでは、仮想デスクトップ上に格納されるユーザーデータはバックアップされません。一般的な使用法としては、テンプレートからデスクトップを動的に作成して、更新ポリシーに基づいてデスクトップを破棄します。簡易ネットワークファイルシステムは、デスクトップの外部にユーザーデータを保持するためには十分です。

ワークグループ環境では、ユーザー認証用のデータベースがVDI-in-a-Boxに含まれます。

VDI-in-a-Box 5.1.xに必要なシステム

更新日：2013-01-02

Citrix VDI-in-a-Boxを使用するには、以下のハイパーバイザー、ユーザーデバイス、およびシステムリソースが必要です。

注：VDI-in-a-Boxには独自のクラスター機能が実装されているため、ハイパーバイザー側のクラスターまたはプール機能を使用しないことをお勧めします。

サポートされるハイパーバイザー

Citrix XenServer

- ・ Citrix XenServer 6.0～6.0.2 Platinum、Enterprise、Advanced、および無償版
- ・ Citrix XenServer 5.6 Feature Pack 1 Platinum、Enterprise、Advanced、および無償版
- ・ Citrix XenServer 5.6 Service Pack 2. Platinum、Enterprise、Advanced、および無償版

注：XenServerリソースプール内のサーバーは、VDI-in-a-Boxではサポートされません。

サーバー上の領域の使用量を最適化するには、XenServerシンプロビジョニング機能を使用することをお勧めします。

Microsoft Hyper-V

- ・ Microsoft Hyper-V Server 2008 R2 Service Pack 1
- ・ Hyper-Vの役割を有効にしたWindows Server 2008 R2 Service Pack 1 Enterprise Edition
 - ・ DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバーをサポート
 - ・ Active Directoryをサポート
- ・ Hyper-Vの役割を有効にしたWindows Server 2008 R2 Service Pack 1 Server Core
 - ・ DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバーをサポート
 - ・ Active Directoryをサポート

注：Windows Server 2008 R2 Service Pack 1, Standard EditionでのHyper-Vは、VDI-in-a-Boxでサポートされません。

VMware ESXiまたはVMware vSphere

- ・ VMware Essentialsまたはそれ以上のライセンス

注： Citrix VDI-in-a-Boxを評価するためにVMware社のWebサイトからESXiの無償版をダウンロードした場合は、そのバージョンに付属するライセンスキーをインストールしないでください。このライセンスキーをインストールすると、Citrix VDI-in-a-Boxがハイパーバイザーと連動するために必要なAPIが使用不能になり、セットアッププロセスが終了してしまいます。ライセンスの選択を、[Evaluation Mode (No License Key)] のままにしておき、試用期間中に有償のハイパーバイザーライセンスに変更してください。

- ・ VMware ESXi 5.0 Update 1
- ・ VMware ESXi 4.1 Update 2

Citrix Profile Management

VDI-in-a-Boxは、Citrix Profile management 4.1.1をサポートしています。

vdiManager管理コンソールへのアクセスに使用するWebブラウザ

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) の管理コンソールにアクセスするには、以下のいずれかのWebブラウザを使用してください。

- ・ Windows Internet Explorer 8または9
- ・ Google Chrome
- ・ Mozilla Firefox

ユーザーデバイスからデスクトップへのアクセスに使用するWebブラウザ

VDI-in-a-Boxでプロビジョニングされたデスクトップにアクセスするには、ユーザーが以下のいずれかのWebブラウザを使用する必要があります。

- ・ Windows Internet Explorer 8または9
- ・ Google Chrome
- ・ Mozilla Firefox
- ・ Safari 5
- ・ Opera 11

ユーザーデバイス

VDI-in-a-Boxでプロビジョニングされたデスクトップには、Webブラウザ、Citrix Receiver、またはVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアント（Java SE Runtime Environment (JRE) 6または7を使用）からアクセスすることができます。ただし、いずれの場合でも、ユーザーデバイス上にCitrix Receiverがインストールされている必要があります。また、Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、ユーザーデバイス上にJRE 6または7がインストールされている必要があります。

- ・ Citrix Receiverは、<http://receiver.citrix.com/?ntref=citrixdotcomdownloads>からダウンロードできます。
- ・ JREは<https://www.java.com>からダウンロードしてください。

以下のオペレーティングシステムが動作するデバイスがサポートされます。

- ・ Windows XP Service Pack 3（32ビットまたは64ビット版）
- ・ Windows 7 Service Pack 1（32ビットまたは64ビット版）
- ・ Windows Server 2008 R2 Service Pack 1（64ビット版）
- ・ Mac OS X 10.8
- ・ Ubuntu 12.04 Long Term Support (LTS)（32ビット版）
- ・ Ubuntu 12.04 Long Term Support (LTS)（64ビット版）
- ・ iOS 5.0.1または5.1（iPhoneおよびiPad）
- ・ Android 3.1、3.2.6、または4.04

サポートされるシンクライアントデバイスの一覧については、<http://www.citrix.com/read/y/>を参照してください。

Desktop Lockを使用するには、ユーザーデバイス上でWindows XPまたはWindows 7が動作しており、Receiver Enterprise Editionがインストールされている必要があります。

安全なリモート接続

以下の製品では、ユーザーデバイスから仮想デスクトップへの安全なリモート接続がサポートされます。

- ・ Citrix Access Gateway VPX 5.0.4
- ・ Citrix Netscaler Access Gateway 10
- ・ リモートデスクトップゲートウェイとリモートデスクトップ接続ソフトウェア6.1または7

仮想デスクトップオペレーティングシステム

- ・ Windows XP Service Pack 3 (Professional Edition) 32ビット版
- ・ Windows 7 Service Pack 1 (ProfessionalおよびEnterprise Edition) 32ビットまたは64ビット版
- ・ Windows Server 2008 R2 Service Pack 1 Enterprise Edition (64ビット版)
- ・ Windows 8 RTM (32ビットまたは64ビット版) (試験的サポート。 RDP接続のみ)
- ・ Windows Server 2012 Standard Edition (64ビット版) (試験的サポート。 RDP接続のみ)

Windows 7 Nはサポートされません。

仮想デスクトップにアクセスするには、Windows Virtual Desktop Accessのボリュームライセンスが必要です。 このライセンスについて詳しくは、<http://www.microsoft.com/licensing/software-assurance/windows-virtualization.aspx>を参照してください。

VDI-in-a-Boxインフラストラクチャに必要なシステムリソース

更新日：2012-09-04

ここでは、VDI-in-a-Box環境の規模を決定するためのCPU、メモリ、ディスク、およびストレージ割り当ての推奨値について説明します。これらの推奨値は、平均的なナレッジワーカーやタスクワーカーのデスクトップに基づくものであり、デスクトップのニーズによって異なる場合があります。

注：デスクトップのパフォーマンスは、ユーザーの作業、実行するアプリケーション、ハイパーバイザー、サーバーコンポーネント（CPU、クロック速度、L1/L2キャッシュ、ディスクコントローラーのキャッシュサイズなど）など、さまざまな要因に依存します。

Citrixでは、サーバーのシステムリソースを決定するためのツールを、以下のURLで公開しています。

- ・ パートナー向け：<http://www.citrix.com/skb>で [VDI-in-a-Box]、[Citrix VDI-in-a-Box 5.1 Server Sizing Tool] の順にクリックします。
- ・ 一般カスタマー向け：<http://www.citrix.com/English/ps2/products/feature.asp?contentID=2316439>で [VDI-in-a-Box 5.1 Server Sizing Calculator] をクリックします。

CPU

- ・ 標準的なCPU：
 - ・ ナレッジワーカー向けには、単一コアあたり3つのデスクトップ
 - ・ タスクワーカー向けには、単一コアあたり6つのデスクトップ
- ・ ハイパースレッディングが有効なCPU：
 - ・ ナレッジワーカー向けには、単一コアあたり4つのデスクトップ
 - ・ タスクワーカー向けには、単一コアあたり10のデスクトップ
- ・ パーソナルデスクトップでは、プールされるデスクトップに比べ、最大で15%のCPUオーバーヘッドが見込まれます。グリッドで多くのパーソナルデスクトップを運用する場合は、CPUリソースを多めに見積もる必要があります。
- ・ ハイパーバイザー用に少なくとも1つのコアが必要です。

メモリ (RAM)

- ・ Windows 7およびWindows Server 2008 R2のデスクトップ : 1.5~2GB
- ・ Windows XPのデスクトップ : 0.5~1GB
- ・ VDI-in-a-Boxアプライアンス用に少なくとも1GBが必要です。
- ・ サーバー機能用に10%が予約されます。
- ・ ハイパーバイザー用のRAMは、ハイパーバイザーにより異なります。
 - ・ Citrix XenServer

ハイパーバイザー用に128MB、Dom0用に752MB、仮想マシンごとに20MB+1024×1%

サーバーあたりの仮想マシン数が75を超える場合は、Dom0用のメモリを2940MBに増やします。
 - ・ Microsoft Hyper-V

ハイパーバイザー用に300MB、仮想マシンごとにRAMの最初の1GBに32MB、それ以降の1GBごとに8MB
 - ・ VMware ESXiまたはVMware vSphere

ハイパーバイザー用に800MB、仮想マシンごとにRAMの最初の1GBに25MB、それ以降の1GBごとに8MB

例 :

	デスクトップの数			
	25	50	75	100
Citrix XenServer				
ナレッジワーカー用のWindows 7 またはWindows Server 2008 R2	2GB	3GB	7GB	8GB
タスクワーカー用のWindows XP	2GB	3GB	6GB	7GB
Microsoft Hyper-V				
ナレッジワーカー用のWindows 7 またはWindows Server 2008 R2	2GB	3GB	4GB	5GB
タスクワーカー用のWindows XP	2GB	2GB	3GB	4GB
VMware ESXiまたはVMware vSphere				
ナレッジワーカー用のWindows 7 またはWindows Server 2008 R2	3GB	4GB	5GB	6GB
タスクワーカー用のWindows XP	2GB	4GB	4GB	5GB

ディスク

- ・ ハードディスク

- ・ SAS : 10,000 (最小RPM) 、 15,000 (推奨RPM) 、 またはSSD

ハードディスクRPM	IOPS (RAID 0)	IOPS (RAID 10)
SSD	6000	
15,000	175	122.5
10,000	125	87.5

- ・ IOPS値は、エンドユーザーがデスクトップにアクセスしているときに、4対6の割合で読み取りと書き込みを行った場合の1秒あたりの処理回数です。
- ・ RAID 1、0+1、および1+0ではIOPSが低下し、必要なディスクおよびストレージの数が増えます。

ディスクのIOPS値の算出方法：(1秒あたりの読み取り回数×40%) + (1秒あたりの書き込み回数×60%) ×0.5

たとえば、15,000RPMのSASドライブ、175 IOPSのRAID 10構成のIOPSは、(175×40%) + (175×60%) ×50% = 122.5のように算出されます。

- ・ デスクトップに必要な最小IOPS

デスクトップIOPS	Windows 7または Windows Server 2008 R2	Windows XP
タスクワーカー	10 IOPS	5 IOPS
ナレッジワーカー	20 IOPS	10 IOPS

- ・ 必要なディスク数

デスクトップ	ディスク数 (RAID 0)	ディスク数 (RAID 10)
25	4	8
50	6~8	12~16
75	10~12	20~24

注：プールされるデスクトップの場合、RAID 0で十分なサーバーの高可用性が提供され、最高のパフォーマンスが得られます。 ディスクレベルの障害からサーバーを保護するには、RAID 1またはRAID 10を使用してください。 RAID 1またはRAID 10を使用すると、必要なディスク数が2倍になります（サーバーあたり1TBが必要な場合、2TB分のストレージ容量が必要です）。

ストレージ

ストレージの容量は、イメージの数、デスクトップの数、およびデスクトップの種類を考慮して決定します。

算出方法：

- ・ ゴールデンイメージ：ゴールデンイメージサイズの2倍

VDI-in-a-Boxインフラストラクチャに必要なシステムリソース

- ・ VDI-in-a-Boxアプライアンス : 75GB (縮小可)
- ・ プールされるデスクトップ1つにつき : ゴールデンイメージサイズの15%

プールされるデスクトップの想定 : ユーザーおよびプロファイルのデータは外部に格納されます。デスクトップは頻繁に更新 (リフレッシュ) されます (少なくとも1週間または2週間に1回)。実際の環境がこれと異なる場合、または大きな書き込み用ディスク領域が必要なアプリケーションを使用する場合は、プールされるデスクトップあたり15%以上を割り当ててください。

- ・ パーソナルデスクトップ1つにつき : テンプレートに割り当てられたサイズ。4~60GB
- ・ スワップ領域 : 仮想マシンのRAMサイズ×仮想マシン数
- ・ シンクローン用の拡張バッファ : 10%×ゴールデンイメージサイズ×デスクトップ数

例 :

	50のプールデスクトップ	40のプールデスクトップ+10のパーソナルデスクトップ
ゴールデンイメージ	2×20GB×2 = 80GB	
VDI-in-a-Boxアプライアンス	75GB	
1デスクトップあたりのイメージ領域	15%×20GB×50 = 150GB	プール : 15%×20GB×40 = 120GB パーソナル : 8GB×10 = 80GB
スワップ領域	2GB×50 = 100GB	
シンクローン用の拡張バッファ	10%×20GB×50 = 100GB	
各サーバーでの推奨ストレージ	合計 : 505GB 推奨 : 750GB~約1TB	合計 : 555GB 推奨 : 850GB~約1TB

VDI-in-a-Boxを導入する前に

更新日：2012-08-15

Citrix VDI-in-a-Boxをインストール、構成、および使用する前に、以下のものを用意する必要があります。

- ・ 以下のハイパーバイザーシステムのいずれかを実行している1台または複数のサーバー（およびそのシステムの管理ツール）
 - ・ Citrix XenServer/XenCenter
 - ・ Microsoft Hyper-V/Hyper-V Manager
 - ・ VMware ESXi/vSphere Client
- ・ Windowsボリュームライセンス
- ・ DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバー

VDI-in-a-Boxの導入

更新日：2012-08-17

ここでは、Windowsオペレーティングシステムのイメージを使用して、ハイパーバイザー上にCitrix VDI-in-a-Boxグリッドを作成する手順について説明します。以下のシナリオが対象となります。

- ・ [Citrix XenServerでのWindows 7イメージの使用](#)
- ・ [Citrix XenServerでのWindows XPイメージの使用](#)
- ・ [Citrix XenServerでのWindows Server 2008 R2イメージの使用](#)
- ・ [Microsoft Hyper-VでのWindows 7イメージの使用](#)
- ・ [Microsoft Hyper-VでのWindows XPイメージの使用](#)
- ・ [Microsoft Hyper-VでのWindows Server 2008 R2イメージの使用](#)
- ・ [VMware ESXiでのWindows 7イメージの使用](#)
- ・ [VMware ESXiでのWindows XPイメージの使用](#)
- ・ [VMware ESXiでのWindows Server 2008 R2イメージの使用](#)

Citrix XenServerでのWindows 7イメージの使用

更新日： 2012-08-17

以下のトピックを参照して、Citrix VDI-in-a-Box環境をセットアップします。

- ・ [VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには](#)
- ・ [グリッドを作成して構成する](#)
- ・ [最初のWindowsイメージを作成する](#)
- ・ [公開イメージから最初のテンプレートを作成するには](#)
- ・ [テンプレートを編集するには](#)
- ・ [ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て](#)
- ・ [ユーザーとしての接続のテスト](#)

VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには

更新日： 2012-11-29

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) はVDI-in-a-Box仮想アプライアンスとして提供されています。この仮想アプライアンスをCitrixのWebサイトからダウンロードして、Citrix XenServerにインポートします。

ダウンロードパッケージのVDI-in-a-Box_XenServer_v5_1_0.zipには、vdiManagerの仮想アプライアンスであるvdiManager_Xen_v5_1_0.xvaが含まれています。vdiManagerを抽出するには、約1.9GBの空きディスクスペースが必要です。

注： Citrix XenCenterからアクセス可能な場所にダウンロードして抽出するようにしてください。

1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. My Citrixにログオンしていない場合は、ログオンします。
3. [Downloads] をクリックします。
4. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
5. ダウンロードの種類として、[Product Software] を選択します。
6. [Find] をクリックします。VDI-in-a-Box製品のページが開きます。
7. [VDI-in-a-Box 5.1.1] をクリックします。VDI-in-a-Box 5.1のページが開きます。
8. 「Appliances」セクションで、適切なハイパーバイザーの [Download] をクリックします。



ライセンス契約が表示されます。

9. ライセンス契約に同意します。 [Download Manager] ウィンドウが開きます。
10. [Download Now] をクリックします。
11. Citrix Download Managerをインストールして、VDI-in-a-Box_XenServer_v5_1_0.zipを保存します。 ZIPファイルがダウンロードされます。
12. ZIPファイルから、vdiManager_Xen_v5_1_0.xvaを抽出します。

vdiManagerをインポートするには

vdiManager_Xen_v5_1_0.xvaを抽出したら、この仮想アプライアンスをCitrix XenCenterを使用してXenServer上にインポートします。 XenCenterでの仮想アプライアンスのインポートについては、XenServerのドキュメントを参照してください。 インポート処理が終了すると、vdiManagerはXenCenter管理コンソール内に仮想マシンとして表示されます。

重要： ハイパーバイザーに複数のvdiManagerをインポートしないでください。 これを行うと、CPU、RAM、ディスク、およびネットワークが過度に消費され、システムが応答不能になることがあります。

グリッドを作成して構成する

更新日：2012-10-29

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) がハイパーバイザーにインポートされ、管理コンソールで利用可能になったら、VDI-in-a-Boxグリッドを構成します。

グリッドは、vdiManagerを実行しているサーバーをグループ化して負荷分散を可能にし、サーバー上の仮想マシンの高可用性を保証します。

また、WebブラウザーでJavaScriptとCookieを有効にしてください。

初回セットアップ時にvdiManager管理コンソールを開くには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって多少異なる場合があります。

1. ハイパーバイザー上でvdiManagerが起動しており、電源がオンの状態であることを確認します。

注：vdiManager仮想アプライアンスのIPアドレスを書き留めていない場合は、書き留めます。
2. WebブラウザーのURLボックスに「`https://<IPaddress>/admin/`」と入力し、Enterキーを押します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。さらに警告が表示される場合は、それらの警告も受け入れます。[Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページが開きます。
4. [Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページの [ユーザー名] ボックスに、「`vdiadmin`」と入力します。
5. [パスワード] ボックスに「`kaviza`」と入力し、[ログオン] をクリックします。[Welcome] ページが開き、仮想デスクトップを生成するために必要な4つの手順が表示されます。

VDI-in-a-Box

Welcome!

Thank you for choosing VDI-in-a-Box. We want this to be a fast and pleasant experience. Below is a brief overview of the set up process. If you want background information on VDI-in-a-Box before you get started, go to support.citrix.com/vdi-in-a-box.

Overview

Below are the 4 steps you will need to complete in order to generate desktops for your users.

- 
Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid
- 
Generate a Base Desktop Image
- 
Create Desktop Templates from the Base Image
- 
Assign Users to Desktops

[Get Started](#)

ハイパーバイザーをセットアップするには

1. [Welcome] ページで、[Get Started] をクリックします。 [Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid] ページが開きます。
2. [Continue] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Hypervisor] ページが開きます。

The screenshot shows the 'VDI-in-a-Box Initial Set up' wizard window. The title bar includes 'About | Logout' and a close button. On the left, a sidebar menu has 'Hypervisor' selected, with other options 'Datastore', 'Grid', and 'Configuration'. The main area contains the text 'To connect to the hypervisor, please enter the credentials below.' and three input fields: 'IP Address' with the value '192.0.2.9', 'User Name' with the value 'root', and 'Password' with masked characters '.....'. A blue 'Next' button is located at the bottom right.

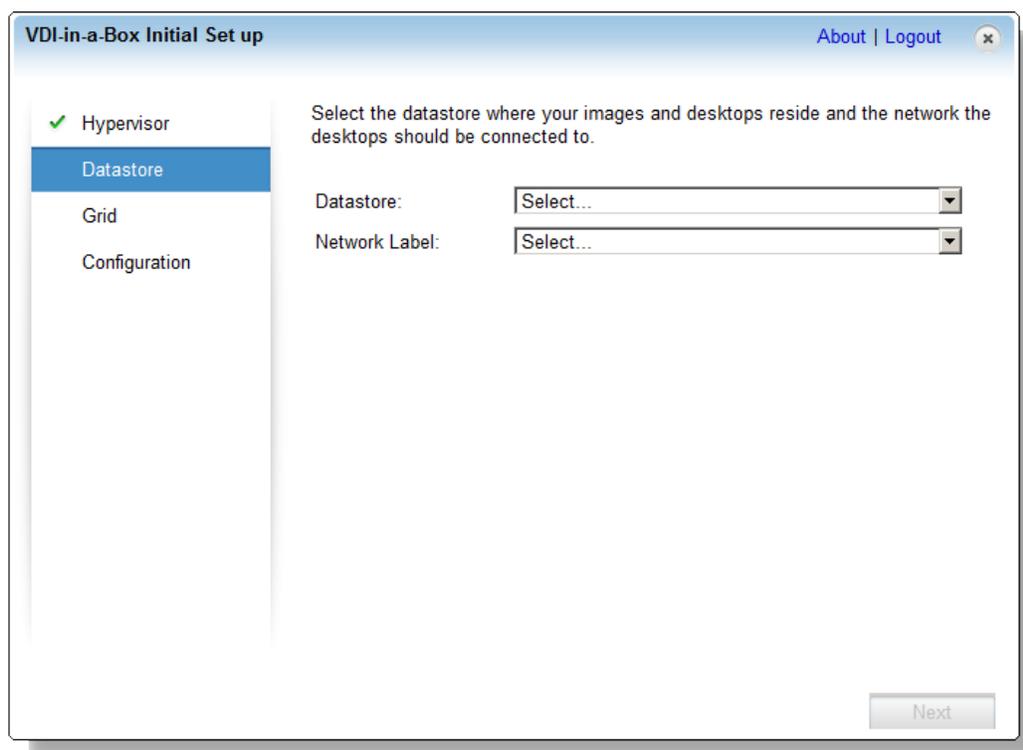
3. [IP Address] ボックスに、ハイパーバイザーを実行しているサーバーのIPアドレスを入力します。
4. [User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーアカウントは、root特権を持っている必要があります。
5. [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Datastore] ページが開きます。

データストアとネットワークラベルをセットアップするには

データストアには、デスクトップのイメージと仮想デスクトップが格納されます。

注： ESXiまたはHyper-Vを使用している場合は、VDI-in-a-Boxで指定したデータストア名を変更しないでください。データストア名を変更すると、デスクトップの生成やクリーンアップに失敗することがあります。

1. [Datastore] ページでは、データストアとネットワークラベルを選択します。



2. [Next] をクリックします。データストアの情報が保存され、VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページが開きます。ここでは、新規グリッドを作成したり、既存のグリッドを追加したりできます。

新規または既存のグリッドの選択

新規のVDI-in-a-Box環境をセットアップする場合は、新規のグリッドを作成します。新規のグリッドを作成するときは、VDI-in-a-Box仮想マシンにアクセスするユーザーとグループを格納しているデータベースに、そのグリッドを関連付ける必要があります。このデータベースとして、Active Directoryサーバー、またはローカルに格納されているワークグループと呼ばれるデータベースを使用できます。

既存のVDI-in-a-Box環境を拡張する場合は、既存のグリッドにこのVDI-in-a-Boxサーバーを追加します。

新規のグリッドを作成してデータベースに割り当てるには

1. [Grid] ページで、[Create a new VDI-in-a-Box grid] を選択し、[Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの[Configuration] ページが開きます。
2. [User Database] で、[VDI-in-a-Box workgroup] または [Microsoft Active Directory] を選択します。[Microsoft Active Directory] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。[VDI-in-a-Box workgroup] を選択した場合は、この情報を入力する必要はありません。

VDI-in-a-Box Initial Set up

About | Logout

✓ Hypervisor
✓ Datastore
✓ Grid
Configuration

User Database:

VDI-in-a-Box workgroup
 Microsoft Active Directory

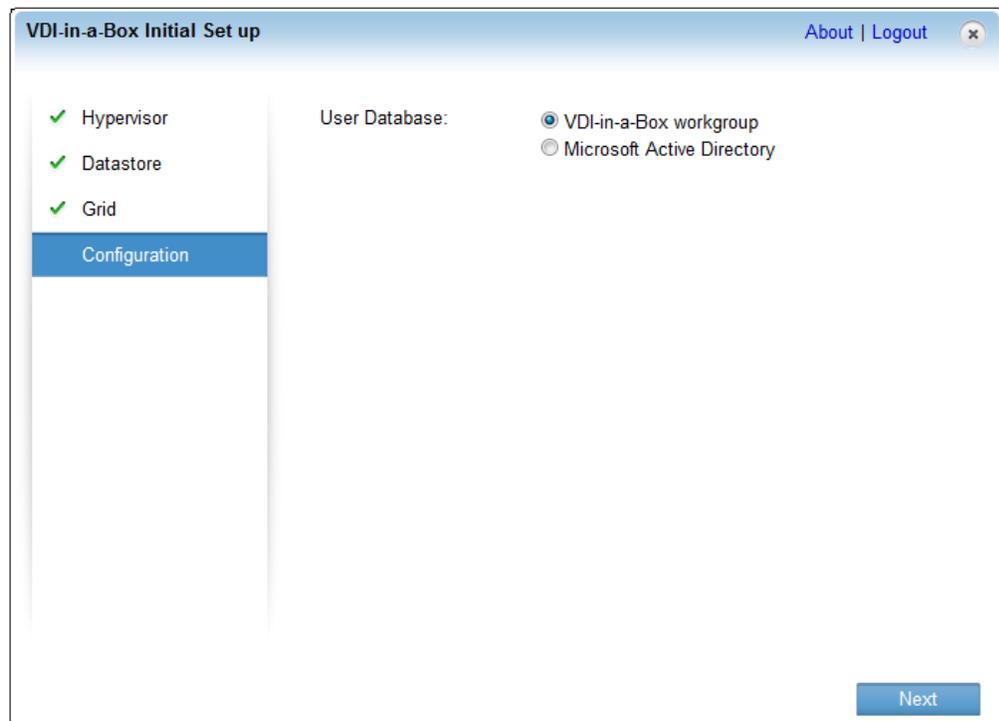
IP Address: 192.0.2.9
(Domain example: example.com)

Domain: <domain.com>

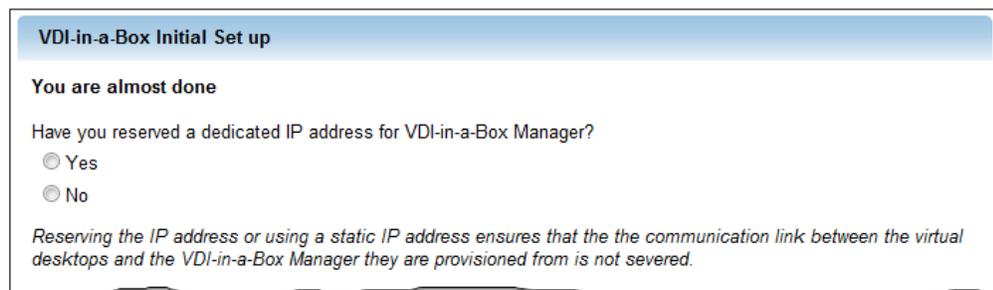
User Name: administrator

Password:

Next



3. Active Directoryを選択した場合、[IP Address] ボックスに、データベースをホストするサーバーのIPアドレスを入力します。
4. Active Directoryを選択した場合、[Domain] ボックスにDNSドメインを入力します。
5. Active Directoryを選択した場合、[User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
6. [Next] をクリックします。「Have you reserved a dedicated IP address for VDI-in-a-Box Manager?」というメッセージが表示されます。



7. [Yes] または [No] を選択して、[Done] をクリックします。 [Generate a Base Desktop Image] ページが開きます。

既存のグリッドにサーバーを追加するには

1. VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページで、 [Join a VDI-in-a-Box server on an existing grid] を選択し、 [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Configuration] ページが開きます。
2. [Configuration] ページの [IP Address] ボックスに、既存のグリッドで動作している vdiManagerのIPアドレスを入力します。
3. [Configuration] ページの [User Name] および [Password] ボックスに、vdiManager管理コンソールのユーザー名とパスワードを入力します。
4. [Next] をクリックします。 これで、グリッドの構成手順が完了しました。

最初のWindowsイメージを作成する

更新日：2012-08-28

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) をサーバーにインポートして、データストア、データベース、およびグリッドに関連付けたら、最初のWindowsイメージを作成します。

ハイパーバイザーの機能を使用して新しい仮想マシンを作成して、Windowsをインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

ここで作成する仮想マシンは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ 仮想マシン上でWindows XP Professional (32ビット)、Windows 7 Professional、またはEnterprise (32ビットまたは64ビット) が実行されている。
- ・ 仮想マシン上でリモートデスクトップ接続 (RDP) 機能が有効になっている。
- ・ 仮想マシンのネットワークインターフェイスカード (NIC) は1つだけで、Device 0に割り当てられている。
- ・ 仮想マシンのディスクイメージは1つだけである。
- ・ VDI-in-a-Boxにインポートする前に仮想マシンが起動しており、電源がオンの状態になっている。
- ・ 仮想マシンに4GB以上のディスクの空き領域がある。

イメージのインポートの準備を行うには

VDI-in-a-Boxとは別に、以下の手順を完了する必要があります。詳しくは、各製造元のドキュメントを参照してください。

1. 有効なMicrosoftボリュームアクティベーションキーを使用して、仮想マシンのライセンス認証を行います。
2. 仮想マシンのローカルの管理者アカウントを有効にします。
3. ハイパーバイザーの管理ツールを仮想マシンにインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。
4. 必要に応じて、仮想マシンをドメインに参加させます。

注：仮想マシンはワークグループのメンバーでも構いません。

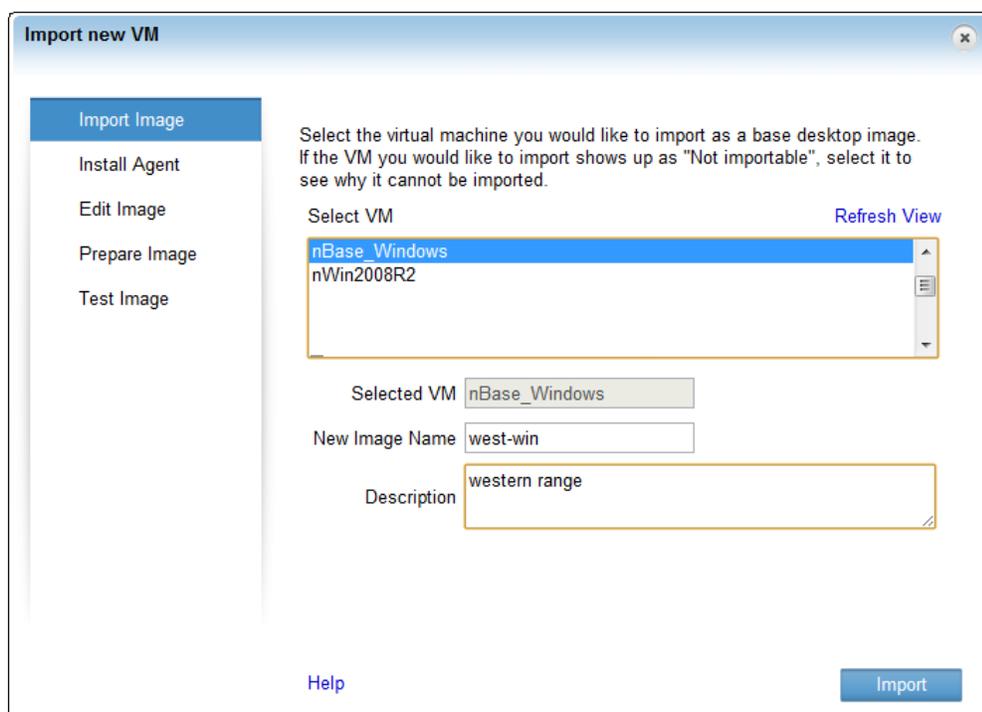
5. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、ユーザーのリモート接続を有効にします。

6. リモートエージェントのインストールを許可するように、ファイアウォール設定の [ファイアウォールとプリンターの共有] を有効にします。詳しくは、使用するファイアウォールのドキュメントを参照してください。

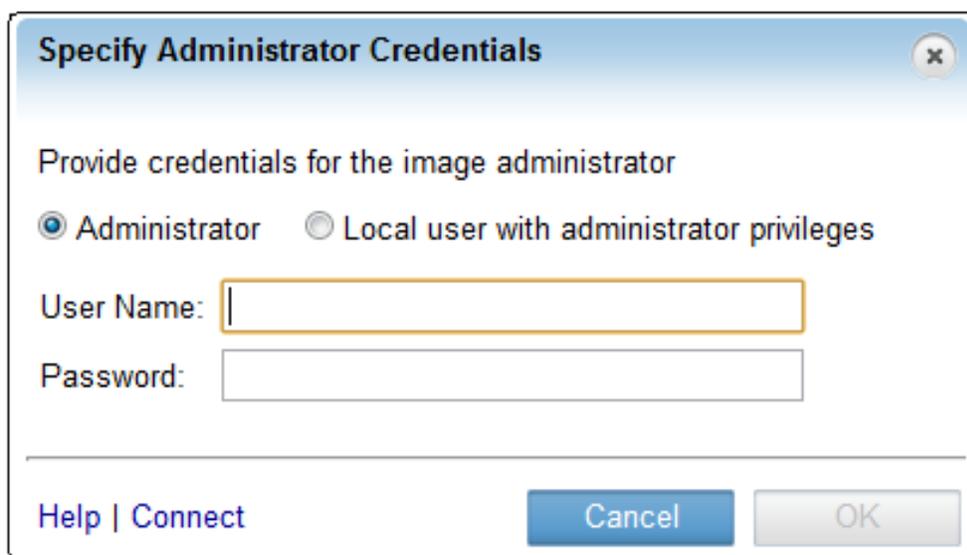
Windows仮想マシンをインポートするには

Webブラウザ上に [Generate a Base Desktop Image] ページが開いていない場合は、セットアップが完了したvdiManager (<https://<IPAddress>/admin/>) にログインしてこのページを開きます。

1. [Generate a Base Desktop Image] ページで、 [Continue] をクリックします。
2. [Import new VM] ページで、イメージとして使用する仮想マシンを選択します。



3. [New Image Name] ボックスに、インポートした仮想マシンの名前を入力します。
注：インポート元のイメージとは別の名前を指定してください。
4. [Description] ボックスに、仮想マシンの説明を入力し、 [Import] をクリックします。 [Specify Administrator Credentials] ダイアログボックスが開きます。



5. 管理者の資格情報を使用するか、管理者特権を持つローカルユーザーの資格情報を使用するかを選択します。

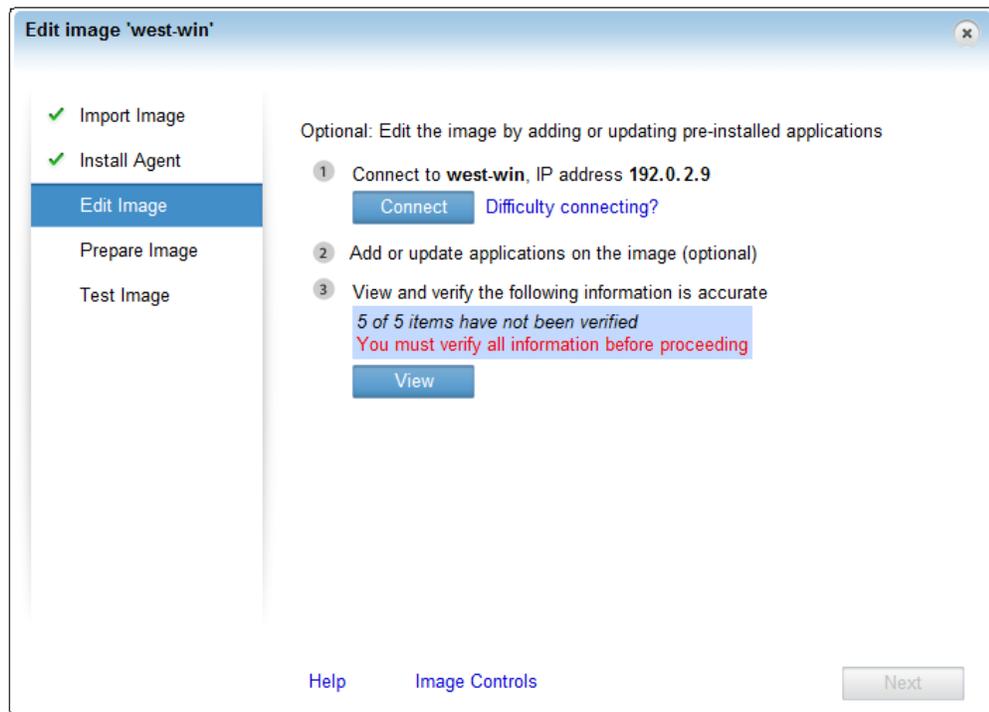
重要： 管理者特権を持つローカルユーザーの資格情報を使用する場合は、Microsoft Windowsのユーザーアカウント制御（UAC）を無効にする必要があります。詳しくは、[Microsoft社のTechNetライブラリ](#)を参照してください。

6. イメージの管理者特権を持つアカウントのユーザー名およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。インポートおよびDesktop Agentのインストールによるドラフトイメージの作成が開始され、進捗状況を示す状態ページが開きます。Import new VMウィザードの[Edit Image] ページが開きます。

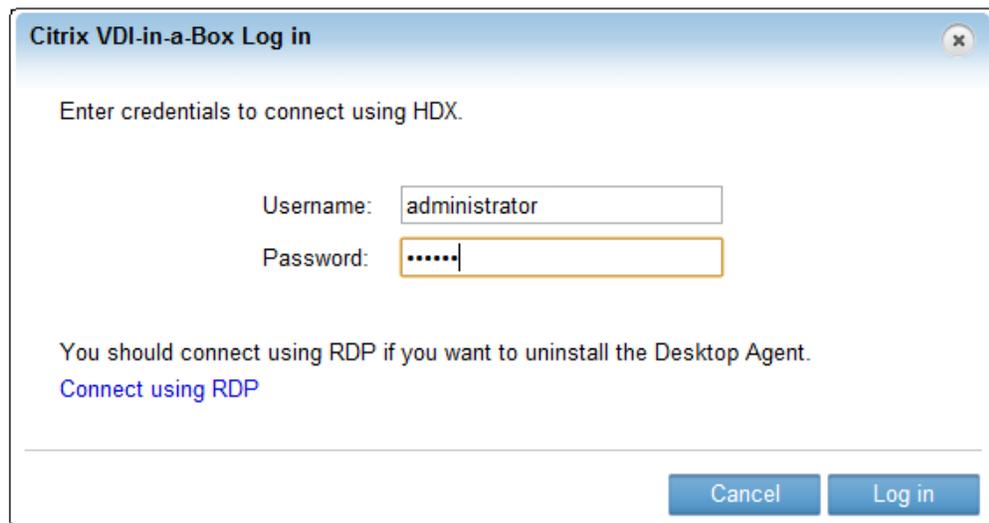
ドラフトイメージを編集するには

エージェントをインストールしたドラフトイメージを編集して、展開する仮想デスクトップに必要なアップデート、設定、パッチ、そのほかのアプリケーションを追加します。イメージからデスクトップを生成するために必要な前提条件を確認するためのチェックリストが表示されます。

1. [Edit Image] ページで、[Connect] をクリックします。



2. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、イメージの管理者特権を持つアカウントの資格情報を入力して [Log in] をクリックします。



3. 必要に応じてイメージを編集し、イメージからログオフします。
4. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

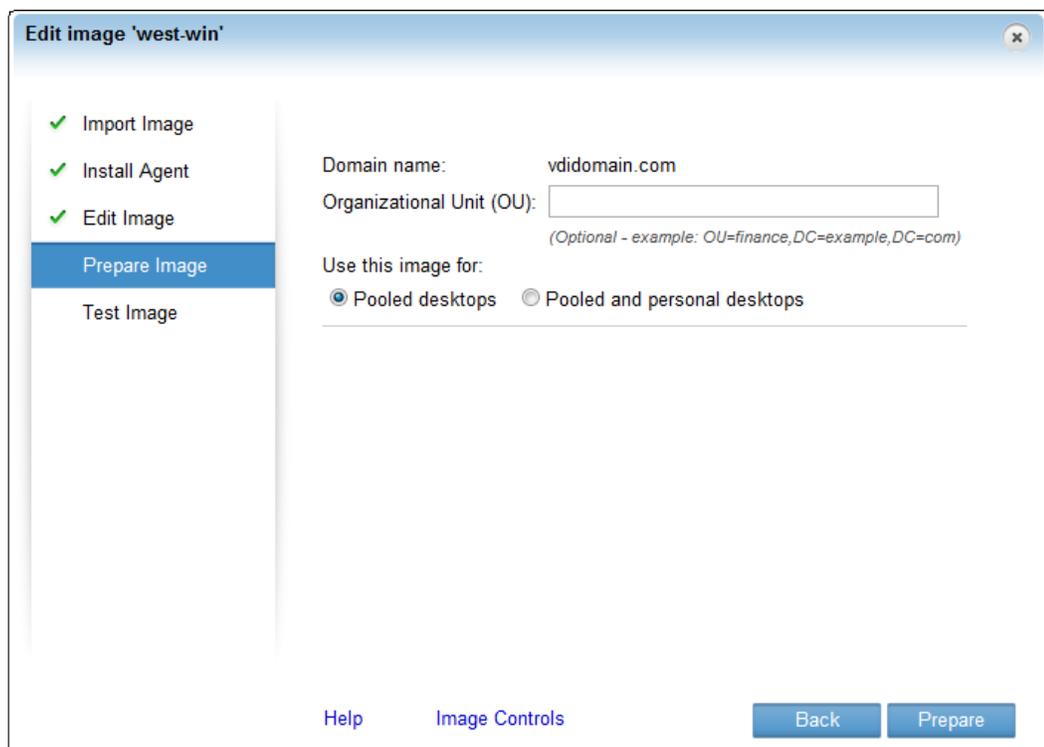
5. [Edit Image] ページで、[View] をクリックします。前提条件の一覧が質問形式で表示されます。

注：ここに表示される前提条件は、ハイパーバイザーとイメージのオペレーティングシステムによって異なります。

6. [Yes] をクリックして、各前提条件を満たしていることを確認します。
7. すべての前提条件を満たしていることを確認した後で、[Done] をクリックします。前提条件の一覧が閉じて、[Edit Image] ページに戻ります。
8. [Next] をクリックします。[Prepare Image] ページが開きます。

イメージの準備を行うには

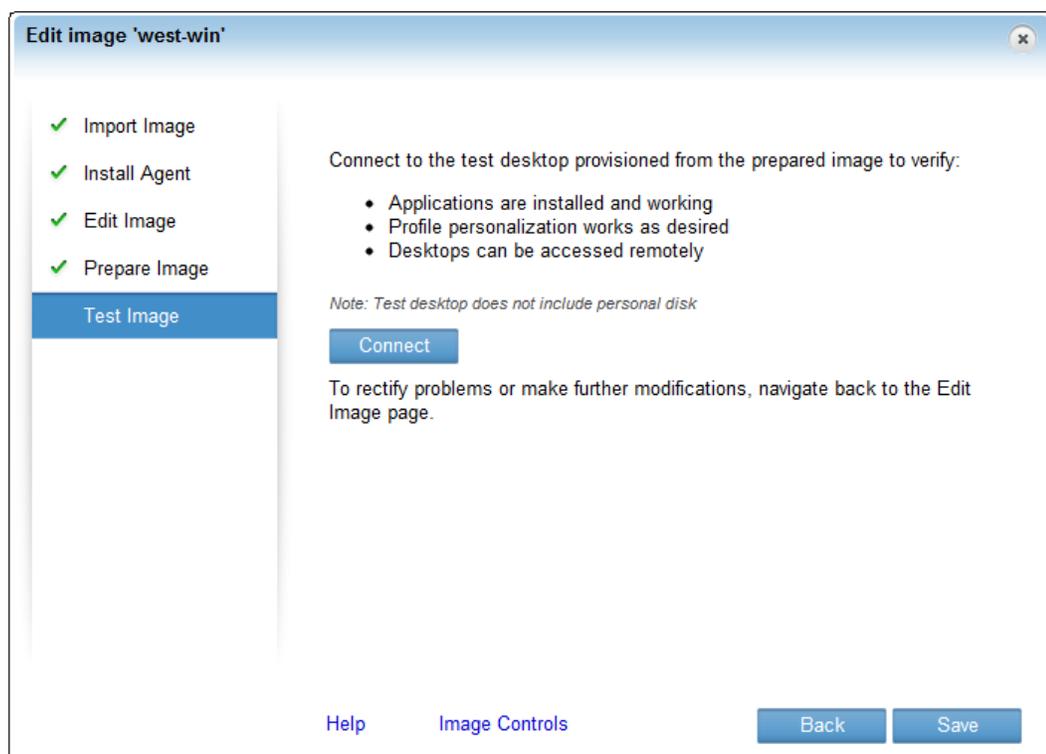
[Prepare Image] ページでは、イメージから作成するデスクトップとして、プールされるデスクトップまたはパーソナルデスクトップを選択します。プールされるデスクトップは単一のディスクで構成されるデスクトップで、このウィザードで作成する公開イメージから配信されます。パーソナルデスクトップは、公開イメージとPersonal vDiskを組み合わせた2つのディスクで構成されます。パーソナルデスクトップについて詳しくは、「[パーソナルデスクトップの管理](#)」を参照してください。パーソナルデスクトップ用に作成した公開イメージは、プールされるデスクトップの生成にも使用できます。ただし、プールされるデスクトップ専用のイメージを作成する場合は、[Pooled desktops] を選択することでPersonal vDisk関連の設定手順を省略できます。



1. [Prepare Image] ページの [Domain name] ボックスの一覧で、ドメインまたはワークグループを選択します（選択可能な場合）。
2. 必要に応じて、[Organizational unit (OU)] ボックスに、イメージの適用先の組織単位を入力します。
3. [Pooled desktops] または [Pooled and personal desktops] を選択します。
4. [Prepare] をクリックします。 [Confirm] メッセージが表示されます。
5. [Confirm] をクリックします。 [Confirm] メッセージと [Prepare Image] ページが閉じます。 進行状況を示す状態ページが開きます。 準備されたイメージからテストデスクトップが作成され、 [Test Image] ページが開きます。

準備したデスクトップイメージをテストするには

テストイメージを使用して、そのドラフトイメージから適切なデスクトップを生成できるかどうか、およびユーザーがこのデスクトップにHDX接続とRDP接続を確立できるかどうかを検証します。ドラフトイメージを保存すると、テストイメージおよびそのイメージに対する変更内容はすべて削除されます。



1. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。 [Connect to the draft image] ダイアログボックスが開きます。



2. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Citrix HDX] を選択し、[Connect] をクリックします。 [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスが開きます。
3. 資格情報を入力して、[Log in] をクリックします。 HDX接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
4. インストールされているアプリケーションが正常に動作すること、および必要なグループポリシーが適用されていることを確認します。
5. Active Directoryを使用して構成したグリッドでは、ドメインユーザーとしてログオンとログオフを行ってアクセスをテストします。
6. テストイメージからログオフします。 テストイメージが閉じます。
7. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
8. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。
9. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Microsoft RDP] を選択し、[Connect] をクリックします。 RDP接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
10. テストイメージにログオンし、RDP接続が正常に機能しているかどうかを確認して、ログオフします。 テストイメージが閉じます。
11. [Test Image] ページで [Save] をクリックします。 [Confirm] メッセージが表示されます。
12. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。 [Confirm] メッセージと [Test Image] ページが閉じます。 進行状況を示す状態ページが開きます。 [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開きます。

公開イメージから最初のテンプレートを作成するには

更新日： 2012-10-09

ここでは、必要な仕様を満たす同一の仮想デスクトップを生成するためのテンプレートを作成します。テンプレートは、イメージとポリシーで構成されています。イメージには、デスクトップ上で実行されるオペレーティングシステムとアプリケーションが含まれます。イメージの作成について詳しくは、「[最初のWindowsイメージを作成する](#)」を参照してください。1つのイメージを複数のテンプレートで使用することができます。

重要： テンプレートを作成する前に、少なくとも1つのイメージの作成と公開を行う必要があります。

テンプレート作成中に設定するポリシーにより、いくつのデスクトップを作成するのか、どれだけのRAMを割り当てるのかなどの特性が定義されます。

テンプレートから生成されるデスクトップに一定のパターンの名前が付けられるように、コンピューター名の先頭（プレフィックス）および末尾（サフィックス）に特定の語を追加します。プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。サフィックスの上位桁に「0」を使用でき、4桁まで指定できます（「0001」など）。サフィックスにより生成される番号は、仮想デスクトップの作成ごとに増分されます。たとえば、プレフィックスとして「<name>」、サフィックスとして「0000」を設定し、仮想デスクトップを2つ作成すると、「<name>0001」および「<name>0002」という名前が使用されます。サフィックスの上位桁に「0」を使用しない場合、生成される名前にも「0」が使用されません。たとえば、サフィックスとして「1」を指定すると、「<name>1」、「<name>2」、「<name>3」などの名前が設定されます。

テンプレートでは、デスクトップを事前起動するためのオプションも選択できます。「事前起動デスクトップ」とは、電源が入り、ログオンプロンプトが表示された状態でユーザーのアクセスを待機するデスクトップを指します。事前起動デスクトップでは、ユーザーが仮想デスクトップの起動を待つ必要がありません。事前起動するデスクトップの数を指定すると、ユーザーがログオンするデスクトップの数に応じて、事前起動デスクトップの数が保持されます。たとえば、テンプレートで事前起動デスクトップ数として5を指定した場合、5つの仮想デスクトップが事前起動してユーザーを待機します。2人のユーザーが各自のデスクトップにログオンすると、新たに2台のデスクトップが事前起動され、指定した事前起動デスクトップ数が保持されます。テンプレートで指定した最大数に達するまで、この処理が継続されます。テンプレートの自動起動デスクトップ数を「0」に設定すると、そのテンプレートはシャットダウンし、ユーザーが接続できなくなります。

Webブラウザー上に [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPAddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1. [Create Desktop Templates from the Base Image] ページで、[Continue] をクリックします。Create a New Desktop Templateウィザードの [Template Information] ページが開きます。

Template name: Building A

Image name: west-win View image details

Description: Personal desktops for Building A

Computer name: Prefix: BuildA Suffix: 0000
1-11 characters 0-4 digits

Memory (MB): 1536

Virtual CPUs: 1

Connect these local devices to the VDI-in-a-Box desktop

Disk drives Printers Serial ports
 Smart cards Other USB devices

Color depth: True color (32 bit)

Reset the activation timer (KMS clients)

Help Next

2. [Template Name] ボックスに、テンプレートの名前を入力します。
3. 使用可能なイメージの一覧から、このテンプレートに関連付けるイメージを選択します。
4. [Description] ボックスに、テンプレートの説明を入力します。
5. [Prefix] ボックスに、生成したイメージの名前に追加されるプレフィックスを入力します。
注：プレフィックスとして、英数字およびハイフン (-) を使用できます。
6. [Suffix] ボックスに、生成したイメージの名前に追加されるサフィックスを入力します。
注：プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。サフィックスとして、1~4文字の数字を使用できます。サフィックスの上位桁に「0」を使用することもできます（「0001」など）。
7. [Memory (MB)] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるメモリを選択します。
注：Windows 7およびWindows Server 2008 R2のデスクトップには、少なくとも1536MBのメモリを割り当てることをお勧めします。Windows XPのデスクトップには、少なくとも512MBのメモリを割り当てる必要があります（1GB以上を推奨）。
8. [Virtual CPUs] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるCPUの数を選択します。
9. ディスクドライブやプリンターなど、仮想デスクトップに接続するローカルデバイスを選択します。
10. 必要に応じて、HDX接続の表示色数を変更します。

公開イメージから最初のテンプレートを作成するには

11. キー管理服务 (KMS) のライセンス認証キーを持つ公開イメージでは、[Reset the activation time (KMS clients)] を選択することをお勧めします。
12. [Next] をクリックします。[Template Policies] ページが開きます。

The screenshot shows the 'Create a New Desktop Template - Building A' dialog box with the 'Template Policies' tab selected. The left sidebar has 'Template Information' with a green checkmark and 'Template Policies' with a blue bar. The main area contains the following settings:

- Maximum desktops: 2
- Pre-started desktops: 1
- Template will provision:
 - Pooled desktop
 - Personal desktop
- Personal disk size (GB) (application + personalization space): 4
- A personal desktop is refreshed only when its image is updated and a user logs out.
- Make this the default template

At the bottom, there is a 'Help' link and 'Back' and 'Save' buttons.

The screenshot shows the 'Create a New Desktop Template - Building A' dialog box with the 'Template Policies' tab selected. The left sidebar has 'Template Information' with a green checkmark and 'Template Policies' with a blue bar. The main area contains the following settings:

- Maximum desktops: 2
- Pre-started desktops: 1
- Template will provision:
 - Pooled desktop
 - Personal desktop
- Refresh desktop: On logout
- Do not reassign desktops "On Hold" to new users
- Enable fast refresh of desktops
- Make this the default template

At the bottom, there is a 'Help' link and 'Back' and 'Save' buttons.

13. [Maximum desktops] ボックスに、このテンプレートで展開するデスクトップの最大数を入力します。
14. [Pre-started desktops] ボックスに、ユーザーが直ちにログオンできるように事前起動しておくデスクトップの数を入力します。ユーザーがテンプレートにアクセスできるように、自動起動デスクトップ数として1以上を指定します。

注：テスト段階では、最大デスクトップ数として2、事前起動デスクトップ数として1を設定することをお勧めします。

15. [Make this the default template] チェックボックスをオンにすると、テンプレートが割り当てられていないユーザーにこのテンプレートが使用されるようになります。

注：グリッドのデフォルトテンプレートが指定されていない場合、テンプレートが割り当てられていないユーザーの資格情報はログオン時に拒否されます。

16. テンプレートの種類として、[Pooled Desktop] または [Personal Desktop] を選択します。これらの種類では、異なる情報が必要です。
17. [Pooled Desktop] を選択した場合は、[Refresh desktop] ボックスの一覧で、デスクトップの更新方法を選択します。ここでは、ユーザーのデスクトップを、テンプレートから生成した直後の状態に更新するタイミングを指定します。[On logout] を選択した場合、デバッグ上の理由からこれは管理者には適用されません。管理者は、デスクトップライフサイクルイベントをトリガーすることなくログオンやログオフを許可されます。

- ・ On logout : ユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。
- ・ Scheduled : 毎日、毎週、または毎月など、指定した日時にデスクトップが更新されます。使用中のデスクトップも更新するかどうかを指定することもできます。使用中のデスクトップを更新するオプションを選択しない場合は、指定した日時が経過した後にユーザーがログアウトした時点で更新されます。
- ・ Scheduled or on logout : 指定した日時、およびユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。これはユーザーが長時間デスクトップにログオンする環境で役立ちます。
- ・ Manual : デスクトップの更新を手作業で行います。この設定により、特定のユーザーに無期限に割り当てられる「永続デスクトップ」が生成されます。永続デスクトップでは、ユーザーが追加したアプリケーションや変更した設定がログオフ後も永続的に保持されるため、通常のパーソナルコンピューターのように使用できます。

18. [Pooled Desktop] を選択した場合は、ユーザーが保持しているデスクトップがほかのユーザーに割り当てられないように [Do not reassign desktops "On Hold" to new users] を選択します。

注：このオプションは、デフォルトで有効になっています。

19. [Pooled Desktop] を選択した場合は、[Enable fast refresh of desktops] チェックボックスをオンにすると、ユーザーがログオフしたときにデスクトップが高速にリフレッシュされるようになります。

20. [Personal Desktop] を選択した場合は、パーソナルデスクトップのディスクサイズを選択します。
21. [Save] をクリックします。
22. [Close] をクリックします。事前起動として指定した数のデスクトップが起動し、[Assign Users to Desktops] ページが開きます。

テンプレートを編集するには

更新日：2011-10-18

テンプレートを編集することで、デスクトップの最大数や事前起動デスクトップの数などの設定を変更できます。

Webブラウザで、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインします。

1. VDI-in-a-Boxコンソールで、[Templates] タブをクリックします。
2. 編集するテンプレート名を選択します。
3. 必要に応じて設定を変更して、[Save] をクリックします。

重要： [Save] は、[Template Policies] ページ上にあります。

ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て

更新日： 2012-08-29

テンプレートを作成したら、ユーザー、ユーザーグループ、およびIPアドレスにそのテンプレートを割り当てることができます。ユーザーとグループには、複数のテンプレートを割り当てることができます。キオスクなどのIPアドレスにテンプレートを割り当てると、そのキオスクにログオンするすべてのユーザーで同じデスクトップが使用されます。

テンプレートが割り当てられていないユーザーがログオンした場合は、デフォルトテンプレートが使用されます。ただし、デフォルトテンプレートを指定していない場合、そのユーザーの資格情報は拒否されます。

Webブラウザー上に [Assign Users to Desktops] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

ユーザーグループにテンプレートを割り当てるには

1. [Assign Users to Desktops] ページで、[Continue] をクリックします。[Users] ページが開きます。このページには、ユーザーグループ、ユーザー、およびIPアドレスの一覧が表示されます。
2. ユーザーグループの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

Group Name	Description	#	Templates
<input type="text"/>	<input type="text"/>		None

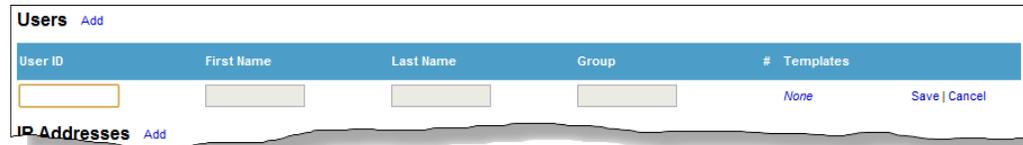
Save | Cancel

Users [Add](#)

3. [Group Name] ボックスに、テンプレートを割り当てるグループの名前を入力します。ユーザーデータベースとしてActive Directoryが使用されている環境では、グループ名の最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたグループ名を選択するには、Enterキーを押します。
4. [Description] ボックスに、グループの説明を入力します。
5. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。[Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、[None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、テンプレート名が [None] に変わります。
6. [Save] をクリックします。グループが一覧に追加されます。
7. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のグループに割り当てます。

ユーザーにテンプレートを割り当てるには

1. ユーザーの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



The screenshot shows a web interface for managing users. At the top, there is a header 'Users' with an 'Add' link. Below it is a table with the following columns: 'User ID', 'First Name', 'Last Name', 'Group', and '# Templates'. The 'User ID' column has an input field. The 'First Name', 'Last Name', and 'Group' columns have empty input fields. The '# Templates' column contains the text 'None'. To the right of the table, there is a 'Save | Cancel' button. Below the table, there is a link for 'IP Addresses' with an 'Add' link.

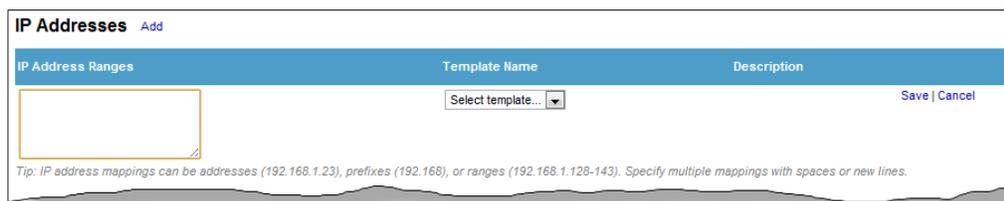
2. [User ID] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーのユーザーIDを入力します。ユーザーデータベースとしてActive Directoryが使用されている環境では、ユーザーIDの最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたIDを選択するには、Enterキーを押します。

注： [First Name]、[Last Name]、および [Group] は空欄でも構いません。そのユーザーの情報がActive Directoryに格納されている場合は、これらの情報が自動的に入力されます。

3. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。 [Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、 [None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、テンプレート名が [None] に変わります。
4. [Save] をクリックします。ユーザーが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のユーザーに割り当てます。

受信IPアドレスにテンプレートを割り当てるには

1. IPアドレスの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "IP Addresses" with an "Add" button. The dialog has a table with three columns: "IP Address Ranges", "Template Name", and "Description". Below the table is a "Select template..." dropdown menu. To the right of the dropdown are "Save" and "Cancel" buttons. Below the table, there is a tip: "Tip: IP address mappings can be addresses (192.168.1.23), prefixes (192.168), or ranges (192.168.1.128-143). Specify multiple mappings with spaces or new lines."

2. [IP Address Ranges] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーデバイスのIPアドレスの範囲を入力します。個々のアドレス（「192.168.23.143」など）、プレフィックス（「192.168」など）、または範囲（「192.168.10.174-204」など）を指定できます。各エントリは改行またはスペースで区切ります。
3. テンプレートの一覧で、IPアドレスに割り当てるテンプレートを選択します。
4. [Save] をクリックします。IPアドレスが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、IPアドレスに別のテンプレートを割り当てます。

注：テンプレートをIPアドレスに割り当てたら、既存の割り当てを削除するまで再割り当てを行うことはできません。

テンプレートの割り当てを編集するには

1. vdiManager管理コンソールで、[Users] ページを選択します。
2. テンプレートを編集するユーザーグループ、ユーザー、またはIPアドレスにポインターを合わせて [Edit] をクリックします。
3. 必要に応じて編集し、[Save] をクリックします。

ユーザーとしての接続のテスト

更新日：2012-10-08

テンプレートを設定し、テンプレートからデスクトップを作成して、ユーザーに割り当てたら、ユーザーとしてデスクトップにログオンし、接続が正しく機能することを確認します。これを行うには、Citrix Receiverの最新バージョンをインストールしておく必要があります。Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、JRE（Java Runtime Environment）6または7もインストールします。

ユーザーデバイスを準備するには

テスト用のユーザーデバイスを準備するには、HDXで接続できるようにCitrix Receiverをインストールします。

- ・ Citrix Receiverがインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からWebサイトの指示に従ってダウンロードします。
- ・ Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、ユーザーデバイスにJRE 6または7がインストールされているかを確認します。必要な場合は、<https://www.java.com>からWebサイトの指示に従って、最新バージョンを入手します。

デスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって多少異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「<https://<IPaddress>/>（VDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレス）」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
4. [Citrix VDI-in-a-Box] ページの [ユーザー名] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [パスワード] ボックスにパスワードを入力し、[ログオン] をクリックします。
6. 接続するデスクトップをクリックします。仮想デスクトップに接続されます。

WebブラウザからVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「`https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。使用するWebブラウザによっては、「Opening vdiclient.jnlp」ダイアログボックスが開く場合があります。
4. 「Opening vdiclient.jnlp」ダイアログボックスが開いた場合は、「Open with」が選択され、その横の一覧に「Java(TM) Web Start Launcher (default)」が表示されていることを確認して、「OK」をクリックします。
5. 「Citrix VDI-in-a-Box Client」ダイアログボックスにユーザーの資格情報を入力し、「Log On」をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、「Select a Desktop」ダイアログボックスが開きます。
6. 「Connect」をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

コマンドプロンプトからVDI-in-a-Box Java デスクトップクライアントを使用してデスクトッ プに接続するには

以下の手順は、使用するユーザーデバイスによって異なる場合があります。

1. 「コマンドプロンプト」ウィンドウを開きます。
2. 「`javaws https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」というコマンドを入力します。
3. Enterキーを押します。
4. 「Log on」ダイアログボックスの「User name」ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. 「Password」ボックスにパスワードを入力し、「Log On」をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、「Select a Desktop」ダイアログボックスが開きます。
6. 「Connect」をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

Citrix XenServerでのWindows XPイメージの使用

更新日： 2012-08-17

以下のトピックを参照して、Citrix VDI-in-a-Box環境をセットアップします。

- ・ [VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには](#)
- ・ [グリッドを作成して構成する](#)
- ・ [最初のWindowsイメージを作成する](#)
- ・ [公開イメージから最初のテンプレートを作成するには](#)
- ・ [テンプレートを編集するには](#)
- ・ [ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て](#)
- ・ [ユーザーとしての接続のテスト](#)

VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには

更新日： 2012-11-29

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) はVDI-in-a-Box仮想アプライアンスとして提供されています。この仮想アプライアンスをCitrixのWebサイトからダウンロードして、Citrix XenServerにインポートします。

ダウンロードパッケージのVDI-in-a-Box_XenServer_v5_1_0.zipには、vdiManagerの仮想アプライアンスであるvdiManager_Xen_v5_1_0.xvaが含まれています。vdiManagerを抽出するには、約1.9GBの空きディスクスペースが必要です。

注： Citrix XenCenterからアクセス可能な場所にダウンロードして抽出するようにしてください。

1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. My Citrixにログオンしていない場合は、ログオンします。
3. [Downloads] をクリックします。
4. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
5. ダウンロードの種類として、[Product Software] を選択します。
6. [Find] をクリックします。VDI-in-a-Box製品のページが開きます。
7. [VDI-in-a-Box 5.1.1] をクリックします。VDI-in-a-Box 5.1のページが開きます。
8. 「Appliances」セクションで、適切なハイパーバイザーの [Download] をクリックします。



ライセンス契約が表示されます。

9. ライセンス契約に同意します。 [Download Manager] ウィンドウが開きます。
10. [Download Now] をクリックします。
11. Citrix Download Managerをインストールして、VDI-in-a-Box_XenServer_v5_1_0.zipを保存します。 ZIPファイルがダウンロードされます。
12. ZIPファイルから、vdiManager_Xen_v5_1_0.xvaを抽出します。

vdiManagerをインポートするには

vdiManager_Xen_v5_1_0.xvaを抽出したら、この仮想アプライアンスをCitrix XenCenterを使用してXenServer上にインポートします。 XenCenterでの仮想アプライアンスのインポートについては、XenServerのドキュメントを参照してください。 インポート処理が終了すると、vdiManagerはXenCenter管理コンソール内に仮想マシンとして表示されます。

重要： ハイパーバイザーに複数のvdiManagerをインポートしないでください。 これを行うと、CPU、RAM、ディスク、およびネットワークが過度に消費され、システムが応答不能になることがあります。

グリッドを作成して構成する

更新日：2012-10-29

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) がハイパーバイザーにインポートされ、管理コンソールで利用可能になったら、VDI-in-a-Boxグリッドを構成します。

グリッドは、vdiManagerを実行しているサーバーをグループ化して負荷分散を可能にし、サーバー上の仮想マシンの高可用性を保証します。

また、WebブラウザーでJavaScriptとCookieを有効にしてください。

初回セットアップ時にvdiManager管理コンソールを開くには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって多少異なる場合があります。

1. ハイパーバイザー上でvdiManagerが起動しており、電源がオンの状態であることを確認します。

注：vdiManager仮想アプライアンスのIPアドレスを書き留めていない場合は、書き留めます。
2. WebブラウザーのURLボックスに「`https://<IPaddress>/admin/`」と入力し、Enterキーを押します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。さらに警告が表示される場合は、それらの警告も受け入れます。[Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページが開きます。
4. [Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページの [ユーザー名] ボックスに、「`vdiadmin`」と入力します。
5. [パスワード] ボックスに「`kaviza`」と入力し、[ログオン] をクリックします。[Welcome] ページが開き、仮想デスクトップを生成するために必要な4つの手順が表示されます。

VDI-in-a-Box

Welcome!

Thank you for choosing VDI-in-a-Box. We want this to be a fast and pleasant experience. Below is a brief overview of the set up process. If you want background information on VDI-in-a-Box before you get started, go to support.citrix.com/vdi-in-a-box.

Overview

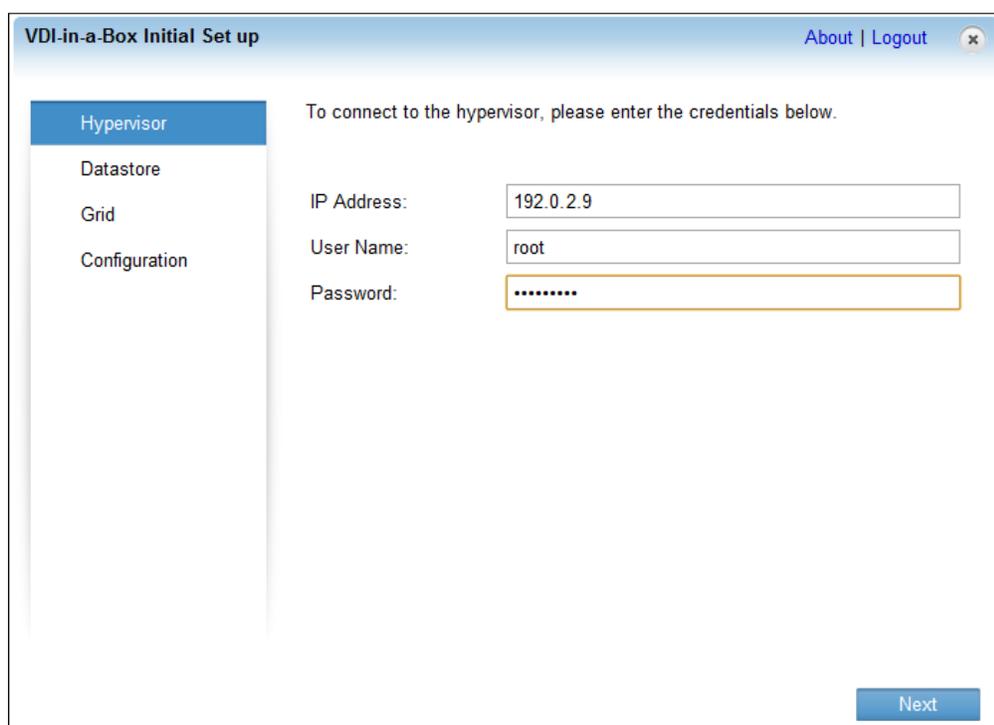
Below are the 4 steps you will need to complete in order to generate desktops for your users.

- 
Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid
- 
Generate a Base Desktop Image
- 
Create Desktop Templates from the Base Image
- 
Assign Users to Desktops

[Get Started](#)

ハイパーバイザーをセットアップするには

1. [Welcome] ページで、[Get Started] をクリックします。 [Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid] ページが開きます。
2. [Continue] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Hypervisor] ページが開きます。



The screenshot shows the 'VDI-in-a-Box Initial Set up' wizard window. The title bar includes 'About | Logout' and a close button. On the left, a sidebar menu has 'Hypervisor' selected, with other options: 'Datastore', 'Grid', and 'Configuration'. The main area contains the text: 'To connect to the hypervisor, please enter the credentials below.' Below this are three input fields: 'IP Address:' with the value '192.0.2.9', 'User Name:' with the value 'root', and 'Password:' with masked characters '.....'. A blue 'Next' button is located at the bottom right of the form area.

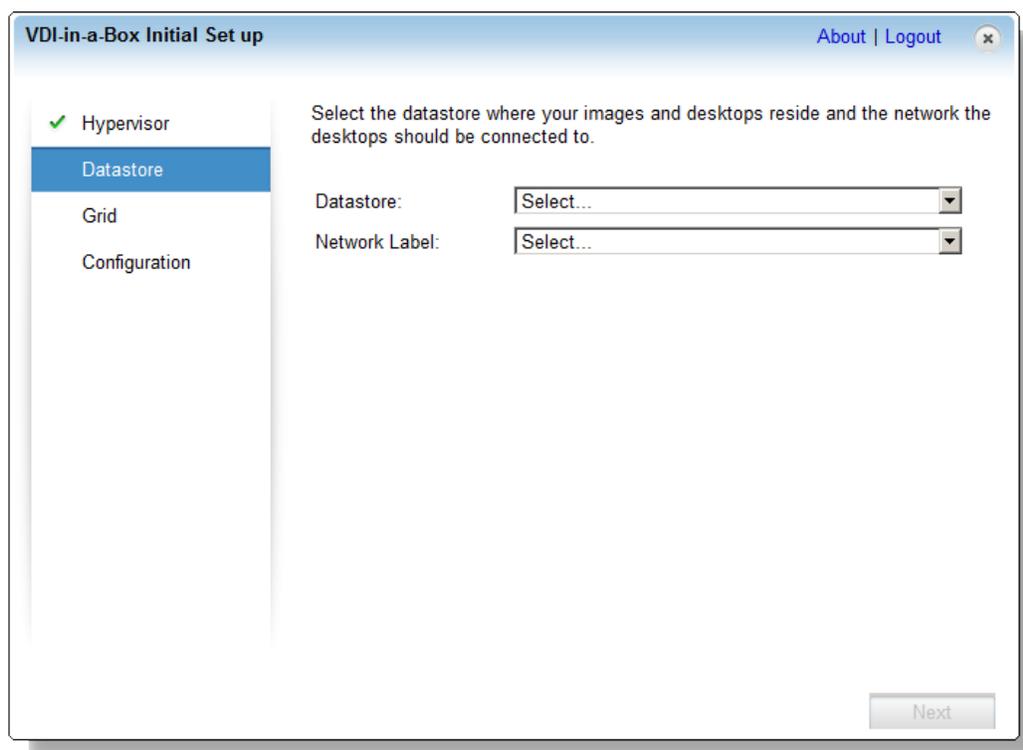
3. [IP Address] ボックスに、ハイパーバイザーを実行しているサーバーのIPアドレスを入力します。
4. [User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーアカウントは、root特権を持っている必要があります。
5. [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Datastore] ページが開きます。

データストアとネットワークラベルをセットアップするには

データストアには、デスクトップのイメージと仮想デスクトップが格納されます。

注： ESXiまたはHyper-Vを使用している場合は、VDI-in-a-Boxで指定したデータストア名を変更しないでください。データストア名を変更すると、デスクトップの生成やクリーンアップに失敗することがあります。

1. [Datastore] ページでは、データストアとネットワークラベルを選択します。



2. [Next] をクリックします。データストアの情報が保存され、VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページが開きます。ここでは、新規グリッドを作成したり、既存のグリッドを追加したりできます。

新規または既存のグリッドの選択

新規のVDI-in-a-Box環境をセットアップする場合は、新規のグリッドを作成します。新規のグリッドを作成するときは、VDI-in-a-Box仮想マシンにアクセスするユーザーとグループを格納しているデータベースに、そのグリッドを関連付ける必要があります。このデータベースとして、Active Directoryサーバー、またはローカルに格納されているワークグループと呼ばれるデータベースを使用できます。

既存のVDI-in-a-Box環境を拡張する場合は、既存のグリッドにこのVDI-in-a-Boxサーバーを追加します。

新規のグリッドを作成してデータベースに割り当てるには

1. [Grid] ページで、[Create a new VDI-in-a-Box grid] を選択し、[Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの[Configuration] ページが開きます。
2. [User Database] で、[VDI-in-a-Box workgroup] または [Microsoft Active Directory] を選択します。[Microsoft Active Directory] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。[VDI-in-a-Box workgroup] を選択した場合は、この情報を入力する必要はありません。

VDI-in-a-Box Initial Set up About | Logout

✓ Hypervisor
✓ Datastore
✓ Grid
Configuration

User Database: VDI-in-a-Box workgroup Microsoft Active Directory

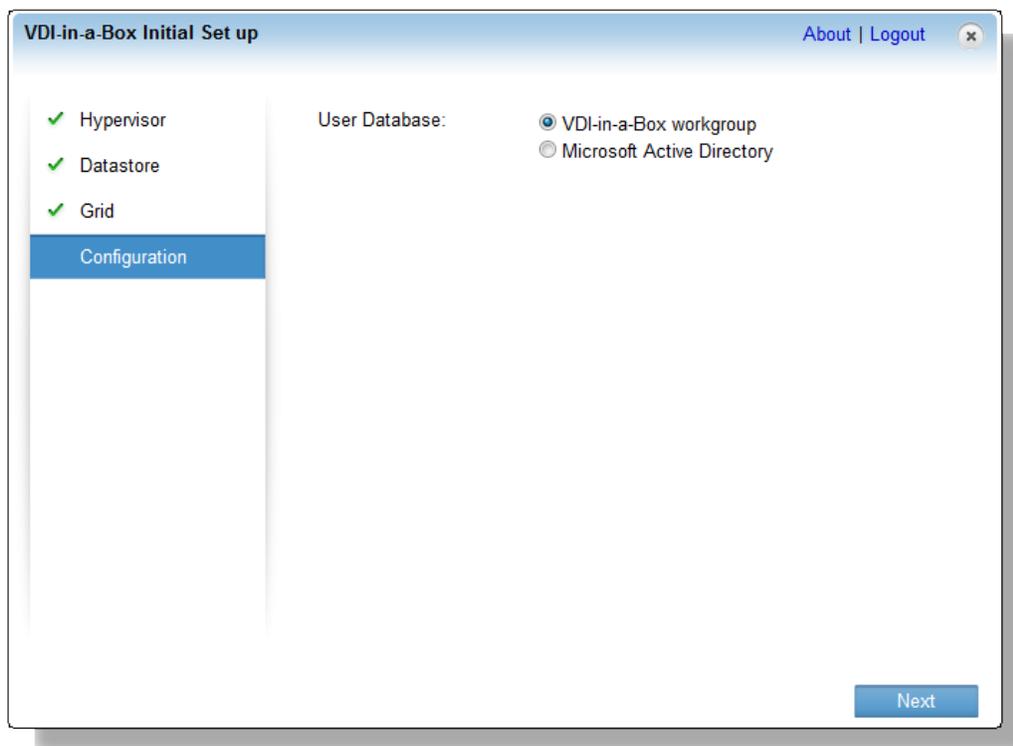
IP Address:
(Domain example: example.com)

Domain:

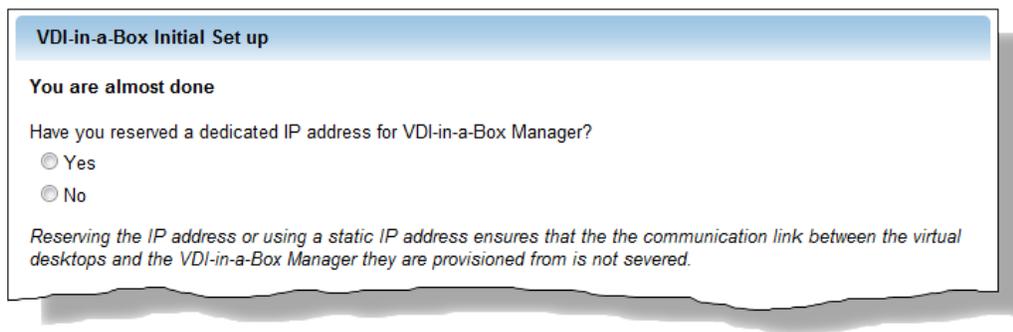
User Name:

Password:

Next



3. Active Directoryを選択した場合、[IP Address] ボックスに、データベースをホストするサーバーのIPアドレスを入力します。
4. Active Directoryを選択した場合、[Domain] ボックスにDNSドメインを入力します。
5. Active Directoryを選択した場合、[User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
6. [Next] をクリックします。「Have you reserved a dedicated IP address for VDI-in-a-Box Manager?」というメッセージが表示されます。



7. [Yes] または [No] を選択して、[Done] をクリックします。 [Generate a Base Desktop Image] ページが開きます。

既存のグリッドにサーバーを追加するには

1. VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページで、 [Join a VDI-in-a-Box server on an existing grid] を選択し、 [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Configuration] ページが開きます。
2. [Configuration] ページの [IP Address] ボックスに、既存のグリッドで動作している vdiManagerのIPアドレスを入力します。
3. [Configuration] ページの [User Name] および [Password] ボックスに、vdiManager管理コンソールのユーザー名とパスワードを入力します。
4. [Next] をクリックします。 これで、グリッドの構成手順が完了しました。

最初のWindowsイメージを作成する

更新日：2012-08-29

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) をサーバーにインポートして、データストア、データベース、およびグリッドに関連付けたら、最初のWindowsイメージを作成します。

ハイパーバイザーの機能を使用して新しい仮想マシンを作成して、Windowsをインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

ここで作成する仮想マシンは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ 仮想マシン上でWindows XP Professional (32ビット)、Windows 7 Professional、またはEnterprise (32ビットまたは64ビット) が実行されている。
- ・ 仮想マシン上でリモートデスクトップ接続 (RDP) 機能が有効になっている。
- ・ 仮想マシンのネットワークインターフェイスカード (NIC) は1つだけで、Device 0に割り当てられている。
- ・ 仮想マシンのディスクイメージは1つだけである。
- ・ VDI-in-a-Boxにインポートする前に仮想マシンが起動しており、電源がオンの状態になっている。
- ・ 仮想マシンに4GB以上のディスクの空き領域がある。

イメージのインポートの準備を行うには

VDI-in-a-Boxとは別に、以下の手順を完了する必要があります。詳しくは、各製造元のドキュメントを参照してください。

1. ハイパーバイザーの管理ツールを仮想マシンにインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

2. 必要に応じて、仮想マシンをドメインに参加させます。

注：仮想マシンはワークグループのメンバーでも構いません。

3. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、ユーザーのリモート接続を有効にします。

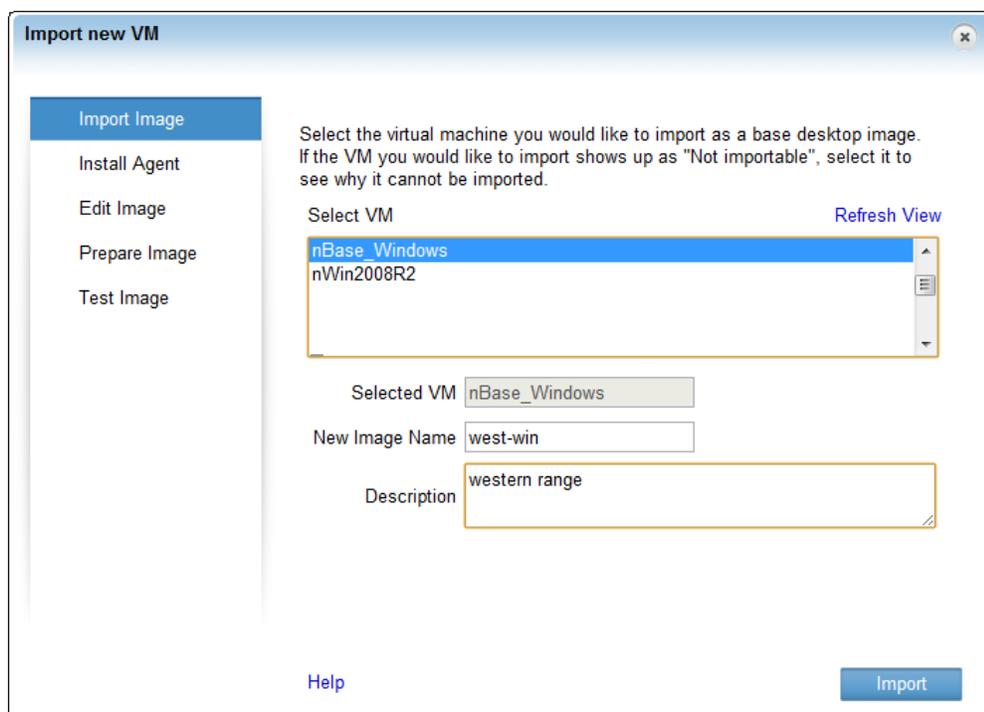
4. リモートエージェントのインストールを許可するように、ファイアウォール設定の [ファイルとプリンターの共有] を有効にします。詳しくは、使用するファイアウォールのドキュメントを参照してください。

5. [マイコンピュータ] フォルダーで [フォルダオプション] ダイアログボックスを開き、[表示] タブの [詳細設定] の一覧で、 [簡易ファイルの共有を使用する] チェックボックスをオフにします。

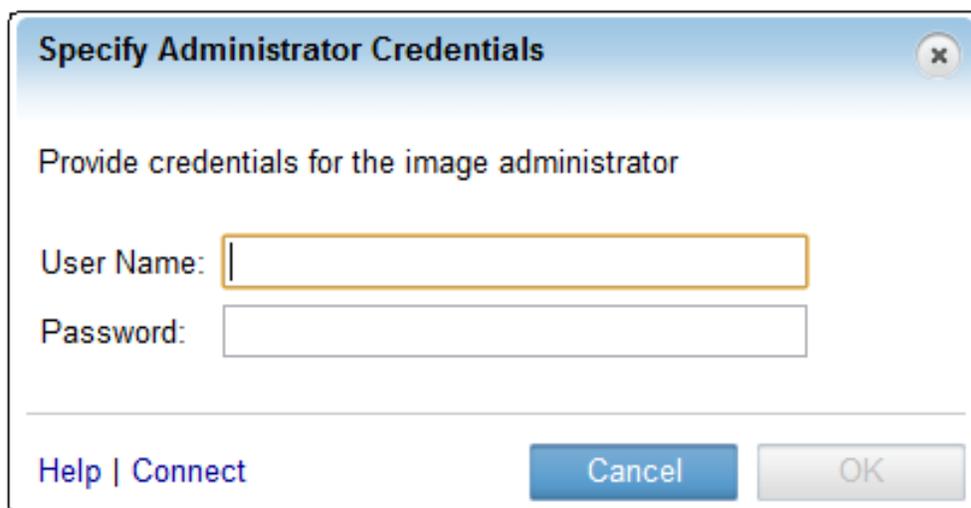
Windows仮想マシンをインポートするには

Webブラウザ上に [Generate a Base Desktop Image] ページが開いていない場合は、セットアップが完了したvdiManager (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインしてこのページを開きます。

1. [Generate a Base Desktop Image] ページで、 [Continue] をクリックします。
2. [Import new VM] ページで、イメージとして使用する仮想マシンを選択します。



3. [New Image Name] ボックスに、インポートした仮想マシンの名前を入力します。
注：インポート元のイメージとは別の名前を指定してください。
4. [Description] ボックスに、仮想マシンの説明を入力し、 [Import] をクリックします。 [Specify Administrator Credentials] ダイアログボックスが開きます。

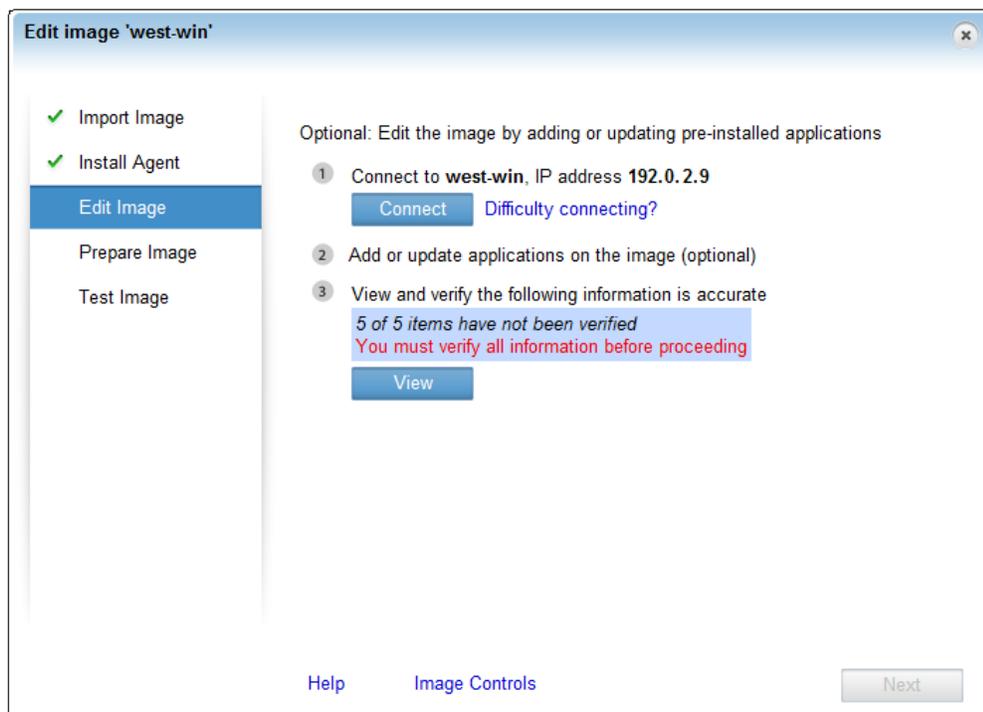


5. イメージの管理者特権を持つアカウントのユーザー名およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。インポートおよびDesktop Agentのインストールによるドラフトイメージの作成が開始され、進捗状況を示す状態ページが開きます。Import new VMウィザードの[Edit Image] ページが開きます。

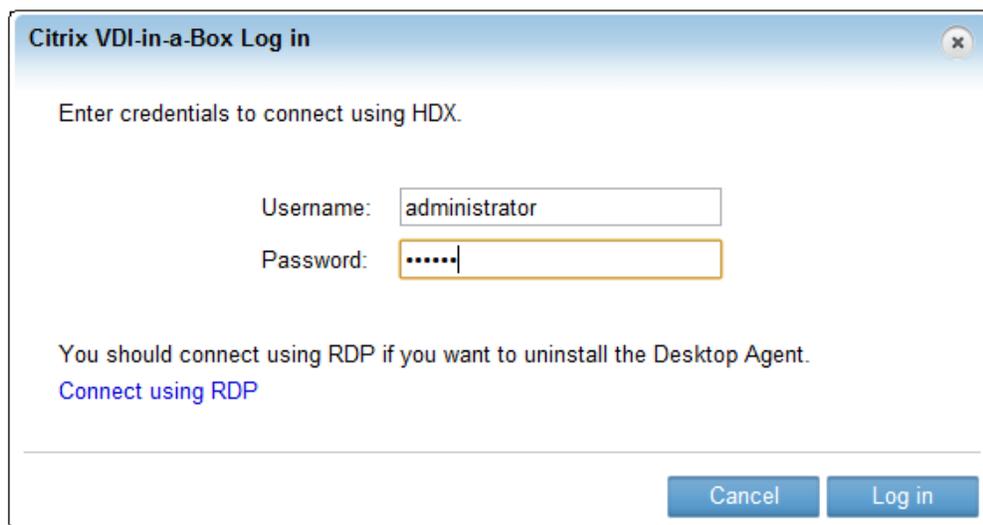
ドラフトイメージを編集するには

エージェントをインストールしたドラフトイメージを編集して、展開する仮想デスクトップに必要なアップデート、設定、パッチ、そのほかのアプリケーションを追加します。イメージからデスクトップを生成するために必要な前提条件を確認するためのチェックリストが表示されます。

1. [Edit Image] ページで、[Connect] をクリックします。



2. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、イメージの管理者特権を持つアカウントの資格情報を入力して [Log in] をクリックします。



3. 必要に応じてイメージを編集し、イメージからログオフします。
4. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

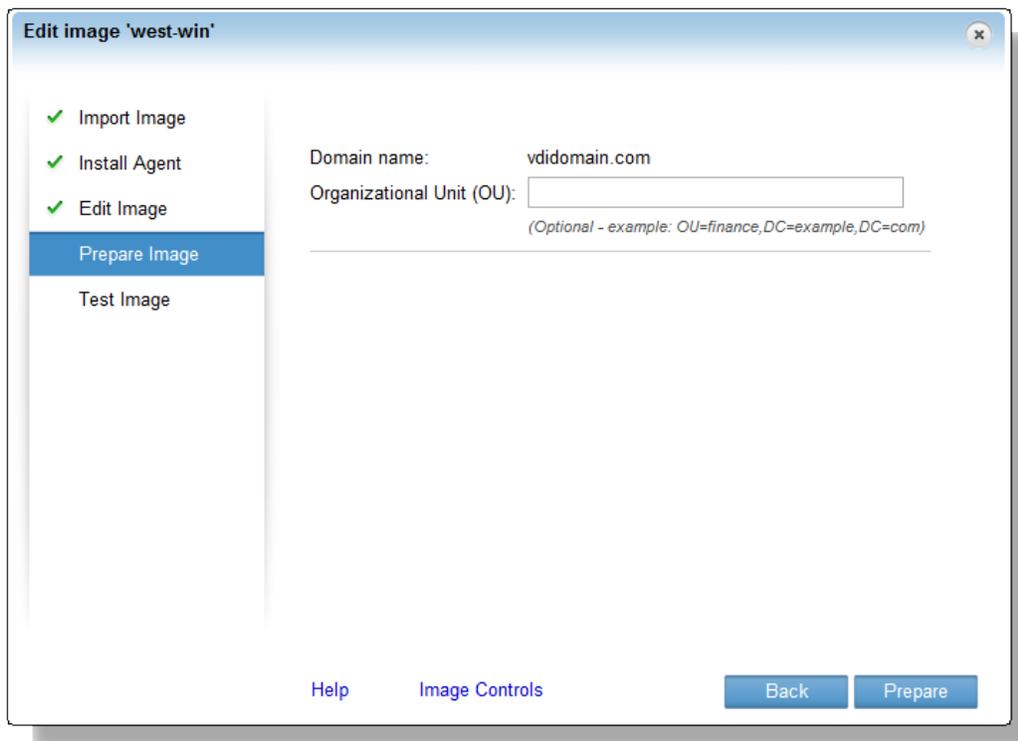
5. [Edit Image] ページで、[View] をクリックします。前提条件の一覧が質問形式で表示されます。

注：ここに表示される前提条件は、ハイパーバイザーとイメージのオペレーティングシステムによって異なります。

6. [Yes] をクリックして、各前提条件を満たしていることを確認します。
7. すべての前提条件を満たしていることを確認した後で、[Done] をクリックします。前提条件の一覧が閉じて、[Edit Image] ページに戻ります。
8. [Next] をクリックします。[Prepare Image] ページが開きます。

イメージの準備を行うには

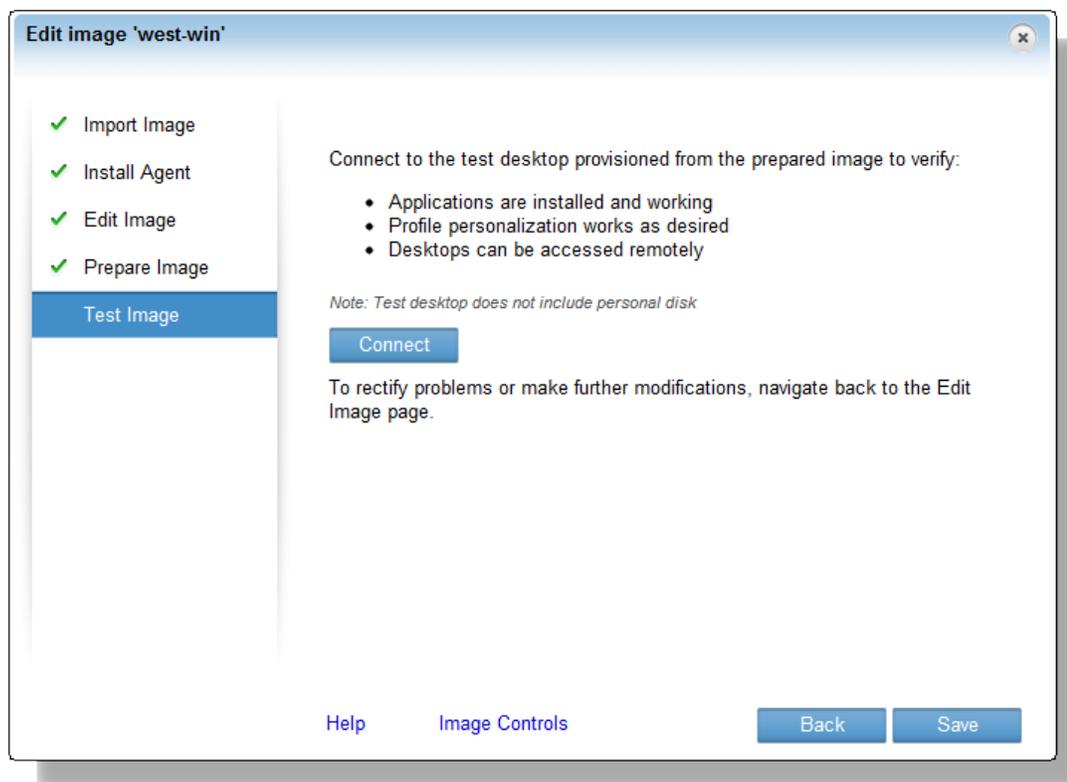
1. [Prepare Image] ページの [Domain name] ボックスの一覧で、ドメインまたはワークグループを選択します（選択可能な場合）。



2. 必要に応じて、[Organizational unit (OU)] ボックスに、イメージの適用先の組織単位を入力します。
3. [Prepare] をクリックします。[Confirm] メッセージが表示されます。
4. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。[Confirm] メッセージと [Prepare Image] ページが閉じます。進行状況を示す状態ページが開きます。準備されたイメージからテストデスクトップが作成され、[Test Image] ページが開きます。

準備したデスクトップイメージをテストするには

テストイメージを使用して、そのドラフトイメージから適切なデスクトップを生成できるかどうか、およびユーザーがこのデスクトップにHDX接続とRDP接続を確立できるかどうかを検証します。ドラフトイメージを保存すると、テストイメージおよびそのイメージに対する変更内容はすべて削除されます。



1. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。 [Connect to the draft image] ダイアログボックスが開きます。



2. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Citrix HDX] を選択し、[Connect] をクリックします。 [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスが開きます。
3. 資格情報を入力して、[Log in] をクリックします。 HDX接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
4. インストールされているアプリケーションが正常に動作すること、および必要なグループポリシーが適用されていることを確認します。
5. Active Directoryを使用して構成したグリッドでは、ドメインユーザーとしてログオンとログオフを行ってアクセスをテストします。
6. テストイメージからログオフします。 テストイメージが閉じます。
7. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
8. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。
9. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Microsoft RDP] を選択し、[Connect] をクリックします。 RDP接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
10. テストイメージにログオンし、RDP接続が正常に機能しているかどうかを確認して、ログオフします。 テストイメージが閉じます。
11. [Test Image] ページで [Save] をクリックします。 [Confirm] メッセージが表示されます。
12. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。 [Confirm] メッセージと [Test Image] ページが閉じます。 進行状況を示す状態ページが開きます。 [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開きます。

公開イメージから最初のテンプレートを作成するには

更新日： 2012-10-09

ここでは、必要な仕様を満たす同一の仮想デスクトップを生成するためのテンプレートを作成します。テンプレートは、イメージとポリシーで構成されています。イメージには、デスクトップ上で実行されるオペレーティングシステムとアプリケーションが含まれます。イメージの作成について詳しくは、「[最初のWindowsイメージを作成する](#)」を参照してください。

重要： テンプレートを作成する前に、少なくとも1つのイメージの作成と公開を行う必要があります。

テンプレート作成中に設定するポリシーにより、いくつのデスクトップを作成するのか、どれだけのRAMを割り当てるのかなどの特性が定義されます。

テンプレートから生成されるデスクトップに一定のパターンの名前が付けられるように、コンピューター名の先頭（プレフィックス）および末尾（サフィックス）に特定の語を追加します。プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。サフィックスには、最大で4文字の数字を設定できます。サフィックスの上位桁に「0」を使用することもできます（「0001」など）。サフィックスにより生成される番号は、仮想デスクトップの作成ごとに増分されます。たとえば、プレフィックスとして「<name>」、サフィックスとして「0000」を設定し、仮想デスクトップを2つ作成すると、「<name>0001」および「<name>0002」という名前が使用されます。サフィックスの上位桁に「0」を使用しない場合、生成される名前にも「0」が使用されません。たとえば、サフィックスとして「1」を指定すると、「<name>1」、「<name>2」、「<name>3」などの名前が設定されます。

テンプレートでは、デスクトップを事前起動するためのオプションも選択できます。「事前起動デスクトップ」とは、電源が入り、ログオンプロンプトが表示された状態でユーザーのアクセスを待機するデスクトップを指します。事前起動デスクトップでは、ユーザーが仮想デスクトップの起動を待つ必要がありません。事前起動するデスクトップの数を指定すると、ユーザーがログオンするデスクトップの数に応じて、事前起動デスクトップの数が保持されます。たとえば、テンプレートで事前起動デスクトップ数として5を指定した場合、5つの仮想デスクトップが事前起動してユーザーを待機します。2人のユーザーが各自のデスクトップにログオンすると、新たに2つのデスクトップが事前起動され、指定した事前起動デスクトップ数が保持されます。テンプレートで指定した最大数に達するまで、この処理が継続されます。テンプレートの自動起動デスクトップ数を「0」に設定すると、そのテンプレートはシャットダウンし、ユーザーが接続できなくなります。

注： Windows XPを実行するイメージでは、テンプレートによりプールデスクトップだけがプロビジョニングされます。

Webブラウザー上に [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1. [Create Desktop Templates from the Base Image] ページで、[Continue] をクリックします。
Create a New Desktop Templateウィザードの [Template Information] ページが開きます。

The screenshot shows the 'Create a New Desktop Template' wizard. The 'Template Information' tab is active. The fields are filled with the following values: Template name: Building A; Image name: west-win; Description: Pooled desktops for Building A; Computer name Prefix: BuildA; Suffix: 0000; Memory (MB): 512; Virtual CPUs: 1; Color depth: True color (32 bit). The 'Connect these local devices to the VDI-in-a-Box desktop' section has checkboxes for Disk drives, Printers, Serial ports, Smart cards, and Other USB devices, all of which are checked.

2. [Template Name] ボックスに、テンプレートの名前を入力します。
3. 使用可能なイメージの一覧から、このテンプレートに関連付けるイメージを選択します。
4. [Description] ボックスに、テンプレートの説明を入力します。
5. [Prefix] ボックスに、生成したイメージの名前に追加されるプレフィックスを入力します。
注：プレフィックスとして、英数字およびハイフン (-) を使用できます。
6. [Suffix] ボックスに、生成したイメージの名前に追加されるサフィックスを入力します。
注：プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。サフィックスとして、1~4文字の数字を使用できます。サフィックスの上位桁に「0」を使用することもできます（「0001」など）。
7. [Memory (MB)] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるメモリを選択します。
注：Windows 7およびWindows Server 2008 R2のデスクトップには、少なくとも1536MBのメモリを割り当てることをお勧めします。Windows XPのデスクトップには、少なくとも512MBのメモリを割り当てる必要があります（1GB以上を推奨）。
8. [Virtual CPUs] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるCPUの数を選択します。

9. ディスクドライブやプリンターなど、仮想デスクトップに接続するローカルデバイスを選択します。
10. 必要に応じて、HDX接続の表示色数を変更します。
11. [Next] をクリックします。 [Template Policies] ページが開きます。

The screenshot shows a window titled "Create a New Desktop Template - Building A". On the left, there is a sidebar with two tabs: "Template Information" (with a green checkmark) and "Template Policies" (which is selected and highlighted in blue). The main area contains the following settings:

- Maximum desktops: 2
- Pre-started desktops: 1
- Template will provision:
 - Pooled desktop
 - Personal desktop
- Refresh desktop: On logout (dropdown menu)
- Do not reassign desktops "On Hold" to new users
- Enable fast refresh of desktops
- Make this the default template

At the bottom, there is a "Help" link on the left and "Back" and "Save" buttons on the right.

12. [Maximum desktops] ボックスに、このテンプレートで展開するデスクトップの最大数を入力します。
13. [Pre-started desktops] ボックスに、ユーザーが直ちにログオンできるように事前起動しておくデスクトップの数を入力します。ユーザーがテンプレートにアクセスできるように、自動起動デスクトップ数として1以上を指定します。

注：テスト段階では、最大デスクトップ数として2、事前起動デスクトップ数として1を設定することをお勧めします。

14. [Refresh desktop] ボックスの一覧で、デスクトップの更新方法を選択します。ここでは、ユーザーのデスクトップを、テンプレートから生成した直後の状態に更新するタイミングを指定します。 [On logout] を選択した場合、デバッグ上の理由からこれは管理者には適用されません。管理者は、デスクトップライフサイクルイベントをトリガーすることなくログオンやログオフを許可されます。

- ・ On logout : ユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。
- ・ Scheduled : 毎日、毎週、または毎月など、指定した日時にデスクトップが更新されます。使用中のデスクトップも更新するかどうかを指定することもできます。使用中のデスクトップを更新するオプションを選択しない場合は、指定した日時が経過した後にユーザーがログアウトした時点で更新されます。

- ・ Scheduled or on logout : 指定した日時、およびユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。これはユーザーが長時間デスクトップにログオンする環境で役立ちます。
 - ・ Manual : デスクトップの更新を手作業で行います。この設定により、特定のユーザーに無期限に割り当てられる「永続デスクトップ」が生成されます。永続デスクトップでは、ユーザーが追加したアプリケーションや変更した設定がログオフ後も永続的に保持されるため、通常のパーソナルコンピューターのように使用できます。
15. [Do not reassign desktops "On Hold" to new users] チェックボックスをオンにすると、デスクトップをユーザーが保持できるようになります。

注 : このオプションは、デフォルトで有効になっています。
 16. [Enable fast refresh of desktops] チェックボックスをオンにすると、ユーザーがログオフしたときにデスクトップが高速にリフレッシュされるようになります。
 17. [Make this the default template] チェックボックスをオンにすると、テンプレートが割り当てられていないユーザーにこのテンプレートが使用されるようになります。

注 : グリッドのデフォルトテンプレートが指定されていない場合、テンプレートが割り当てられていないユーザーの資格情報はログオン時に拒否されます。
 18. [Save] をクリックします。
 19. [Close] をクリックします。事前起動として指定した数のデスクトップが起動し、[Assign Users to Desktops] ページが開きます。

テンプレートを編集するには

更新日：2011-10-18

テンプレートを編集することで、デスクトップの最大数や事前起動デスクトップの数などの設定を変更できます。

Webブラウザで、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインします。

1. VDI-in-a-Boxコンソールで、[Templates] タブをクリックします。
2. 編集するテンプレート名を選択します。
3. 必要に応じて設定を変更して、[Save] をクリックします。

重要： [Save] は、[Template Policies] ページ上にあります。

ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て

更新日： 2012-08-29

テンプレートを作成したら、ユーザー、ユーザーグループ、およびIPアドレスにそのテンプレートを割り当てることができます。ユーザーとグループには、複数のテンプレートを割り当てることができます。キオスクなどのIPアドレスにテンプレートを割り当てると、そのキオスクにログオンするすべてのユーザーで同じデスクトップが使用されます。

テンプレートが割り当てられていないユーザーがログオンした場合は、デフォルトテンプレートが使用されます。ただし、デフォルトテンプレートを指定していない場合、そのユーザーの資格情報は拒否されます。

Webブラウザー上に [Assign Users to Desktops] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

ユーザーグループにテンプレートを割り当てるには

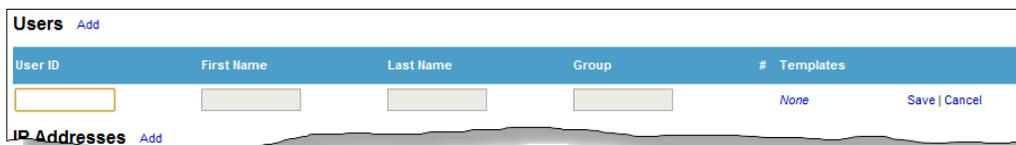
1. [Assign Users to Desktops] ページで、[Continue] をクリックします。[Users] ページが開きます。このページには、ユーザーグループ、ユーザー、およびIPアドレスの一覧が表示されます。
2. ユーザーグループの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

Group Name	Description	#	Templates
<input type="text"/>	<input type="text"/>		None

3. [Group Name] ボックスに、テンプレートを割り当てるグループの名前を入力します。ユーザーデータベースとしてActive Directoryが使用されている環境では、グループ名の最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたグループ名を選択するには、Enterキーを押します。
4. [Description] ボックスに、グループの説明を入力します。
5. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。[Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、[None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、テンプレート名が [None] に変わります。
6. [Save] をクリックします。グループが一覧に追加されます。
7. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のグループに割り当てます。

ユーザーにテンプレートを割り当てるには

1. ユーザーの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



The screenshot shows a web interface for managing users. At the top, there is a header 'Users' with an 'Add' link. Below it is a table with the following columns: 'User ID', 'First Name', 'Last Name', 'Group', and '# Templates'. The 'User ID' column has an input field. The 'First Name', 'Last Name', and 'Group' columns have empty input fields. The '# Templates' column contains the text 'None'. To the right of the table, there are 'Save | Cancel' buttons. Below the table, there is another header 'IP Addresses' with an 'Add' link.

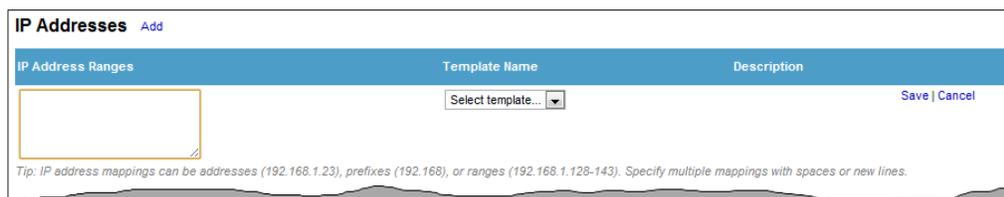
2. [User ID] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーのユーザーIDを入力します。ユーザーデータベースとしてActive Directoryが使用されている環境では、ユーザーIDの最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたIDを選択するには、Enterキーを押します。

注： [First Name]、[Last Name]、および [Group] は空欄でも構いません。そのユーザーの情報がActive Directoryに格納されている場合は、これらの情報が自動的に入力されます。

3. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。 [Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、 [None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、テンプレート名が [None] に変わります。
4. [Save] をクリックします。ユーザーが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のユーザーに割り当てます。

受信IPアドレスにテンプレートを割り当てるには

1. IPアドレスの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



IP Address Ranges	Template Name	Description
<input type="text"/>	Select template... ▼	

Tip: IP address mappings can be addresses (192.168.1.23), prefixes (192.168), or ranges (192.168.1.128-143). Specify multiple mappings with spaces or new lines.

2. [IP Address Ranges] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーデバイスのIPアドレスの範囲を入力します。個々のアドレス（「192.168.23.143」など）、プレフィックス（「192.168」など）、または範囲（「192.168.10.174-204」など）を指定できます。各エントリは改行またはスペースで区切ります。
3. テンプレートの一覧で、IPアドレスに割り当てるテンプレートを選択します。
4. [Save] をクリックします。IPアドレスが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、IPアドレスに別のテンプレートを割り当てます。

注：テンプレートをIPアドレスに割り当てたら、既存の割り当てを削除するまで再割り当てを行うことはできません。

テンプレートの割り当てを編集するには

1. vdiManager管理コンソールで、[Users] ページを選択します。
2. テンプレートを編集するユーザーグループ、ユーザー、またはIPアドレスにポインターを合わせて [Edit] をクリックします。
3. 必要に応じて編集し、[Save] をクリックします。

ユーザーとしての接続のテスト

更新日：2012-10-08

テンプレートを設定し、テンプレートからデスクトップを作成して、ユーザーに割り当てたら、ユーザーとしてデスクトップにログオンし、接続が正しく機能することを確認します。これを行うには、Citrix Receiverの最新バージョンをインストールしておく必要があります。Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、JRE（Java Runtime Environment）6または7もインストールします。

ユーザーデバイスを準備するには

テスト用のユーザーデバイスを準備するには、HDXで接続できるようにCitrix Receiverをインストールします。

- ・ Citrix Receiverがインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からWebサイトの指示に従ってダウンロードします。
- ・ Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、ユーザーデバイスにJRE 6または7がインストールされているかを確認します。必要な場合は、<https://www.java.com>からWebサイトの指示に従って、最新バージョンを入手します。

デスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって多少異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「<https://<IPaddress>/>（VDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレス）」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
4. [Citrix VDI-in-a-Box] ページの [ユーザー名] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [パスワード] ボックスにパスワードを入力し、[ログオン] をクリックします。
6. 接続するデスクトップをクリックします。仮想デスクトップに接続されます。

WebブラウザからVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「`https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。使用するWebブラウザによっては、「Opening vdiclient.jnlp」ダイアログボックスが開く場合があります。
4. 「Opening vdiclient.jnlp」ダイアログボックスが開いた場合は、「Open with」が選択され、その横の一覧に「Java(TM) Web Start Launcher (default)」が表示されていることを確認して、「OK」をクリックします。
5. 「Citrix VDI-in-a-Box Client」ダイアログボックスにユーザーの資格情報を入力し、「Log On」をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、「Select a Desktop」ダイアログボックスが開きます。
6. 「Connect」をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

コマンドプロンプトからVDI-in-a-Box Java デスクトップクライアントを使用してデスクトッ プに接続するには

以下の手順は、使用するユーザーデバイスによって異なる場合があります。

1. 「コマンドプロンプト」ウィンドウを開きます。
2. 「`javaws https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」というコマンドを入力します。
3. Enterキーを押します。
4. 「Log on」ダイアログボックスの「User name」ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. 「Password」ボックスにパスワードを入力し、「Log On」をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、「Select a Desktop」ダイアログボックスが開きます。
6. 「Connect」をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

Citrix XenServerでのWindows Server 2008 R2イメージの使用

更新日： 2012-08-15

以下のトピックを参照して、Citrix VDI-in-a-Box環境をセットアップします。

- ・ [VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには](#)
- ・ [グリッドを作成して構成する](#)
- ・ [最初のWindowsイメージを作成する](#)
- ・ [公開イメージから最初のテンプレートを作成するには](#)
- ・ [テンプレートを編集するには](#)
- ・ [ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て](#)
- ・ [ユーザーとしての接続のテスト](#)

VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには

更新日： 2012-11-29

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) はVDI-in-a-Box仮想アプライアンスとして提供されています。この仮想アプライアンスをCitrixのWebサイトからダウンロードして、Citrix XenServerにインポートします。

ダウンロードパッケージのVDI-in-a-Box_XenServer_v5_1_1.zipには、vdiManagerファイルであるvdiManager_Xen_v5_1_1.xvaが含まれています。vdiManagerを抽出するには、約1.9GBの空きディスクスペースが必要です。

注： Citrix XenCenterからアクセス可能な場所にダウンロードして抽出するようにしてください。

1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. My Citrixにログオンしていない場合は、ログオンします。
3. [Downloads] をクリックします。
4. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
5. ダウンロードの種類として、[Product Software] を選択します。
6. [Find] をクリックします。VDI-in-a-Box製品のページが開きます。
7. [VDI-in-a-Box 5.1.1] をクリックします。VDI-in-a-Box 5.1.1のページが開きます。
8. 「Appliances」セクションで、適切なハイパーバイザーの [Download] をクリックします。



ライセンス契約が表示されます。

9. ライセンス契約に同意します。 [Download Manager] ウィンドウが開きます。
10. [Download Now] をクリックします。
11. [Install] をクリックして、VDI-in-a-Box_XenServer_v5_1_1.zipを保存します。ZIPファイルがダウンロードされます。
12. ZIPファイルから、vdiManager_Xen_v5_1_1.xvaを抽出します。

vdiManagerをインポートするには

vdiManager_Xen_v5_1_1.xvaを抽出したら、このvdiManagerファイルをCitrix XenCenterを使用してXenServer上にインポートします。XenCenterでの仮想アプライアンスのインポートについては、XenServerのドキュメントを参照してください。インポート処理が終了すると、vdiManagerはXenCenter管理コンソール内に仮想マシンとして表示されます。

重要： ハイパーバイザーに複数のvdiManagerをインポートしないでください。これを行うと、CPU、RAM、ディスク、およびネットワークが過度に消費され、システムが応答不能になることがあります。

グリッドを作成して構成する

更新日：2012-08-29

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) がハイパーバイザーにインポートされ、管理コンソールで利用可能になったら、VDI-in-a-Boxグリッドを構成します。

グリッドは、vdiManagerを実行しているサーバーをグループ化して負荷分散を可能にし、サーバー上の仮想マシンの高可用性を保証します。

また、WebブラウザーでJavaScriptとCookieを有効にしてください。

初回セットアップ時にvdiManager管理コンソールを開くには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって異なる場合があります。

1. ハイパーバイザー上でvdiManagerが起動しており、電源がオンの状態であることを確認します。

注：vdiManager仮想アプライアンスのIPアドレスを書き留めていない場合は、書き留めます。
2. WebブラウザーのURLボックスに「`https://<IPaddress>/admin/`」と入力し、Enterキーを押します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。さらに警告が表示される場合は、それらの警告も受け入れます。[Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページが開きます。
4. [Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページの [ユーザー名] ボックスに、「`vdiadmin`」と入力します。
5. [パスワード] ボックスに「`kaviza`」と入力し、[ログオン] をクリックします。[Welcome] ページが開き、仮想デスクトップを生成するために必要な4つの手順が表示されます。

VDI-in-a-Box

Welcome!

Thank you for choosing VDI-in-a-Box. We want this to be a fast and pleasant experience. Below is a brief overview of the set up process. If you want background information on VDI-in-a-Box before you get started, go to support.citrix.com/vdi-in-a-box.

Overview

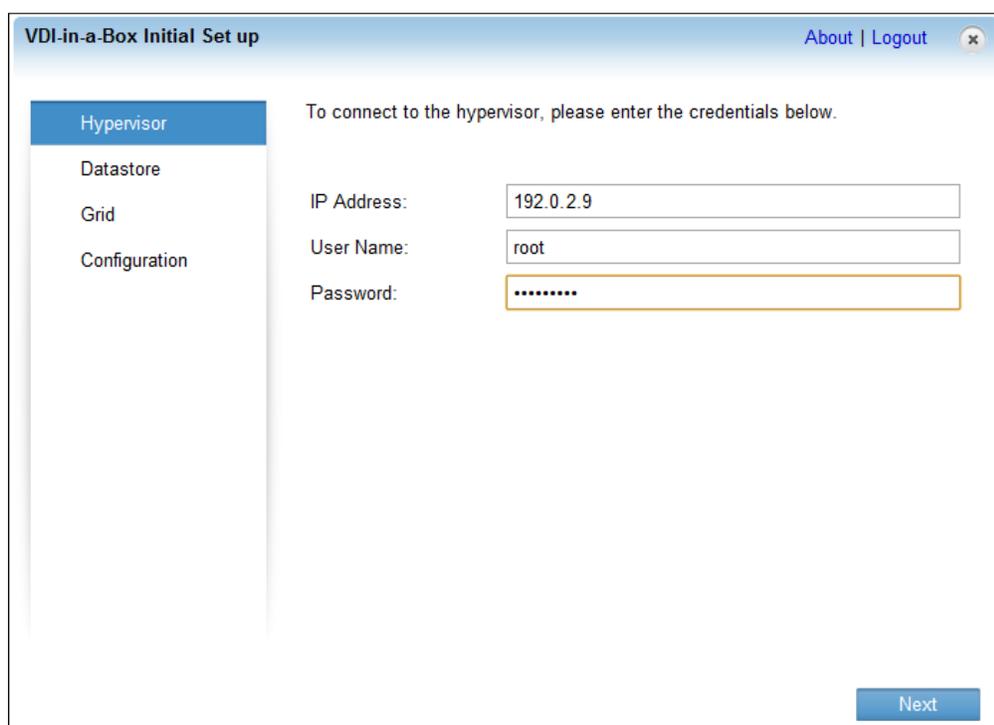
Below are the 4 steps you will need to complete in order to generate desktops for your users.

- 
Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid
- 
Generate a Base Desktop Image
- 
Create Desktop Templates from the Base Image
- 
Assign Users to Desktops

[Get Started](#)

ハイパーバイザーをセットアップするには

1. [Welcome] ページで、[Get Started] をクリックします。 [Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid] ページが開きます。
2. [Continue] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Hypervisor] ページが開きます。



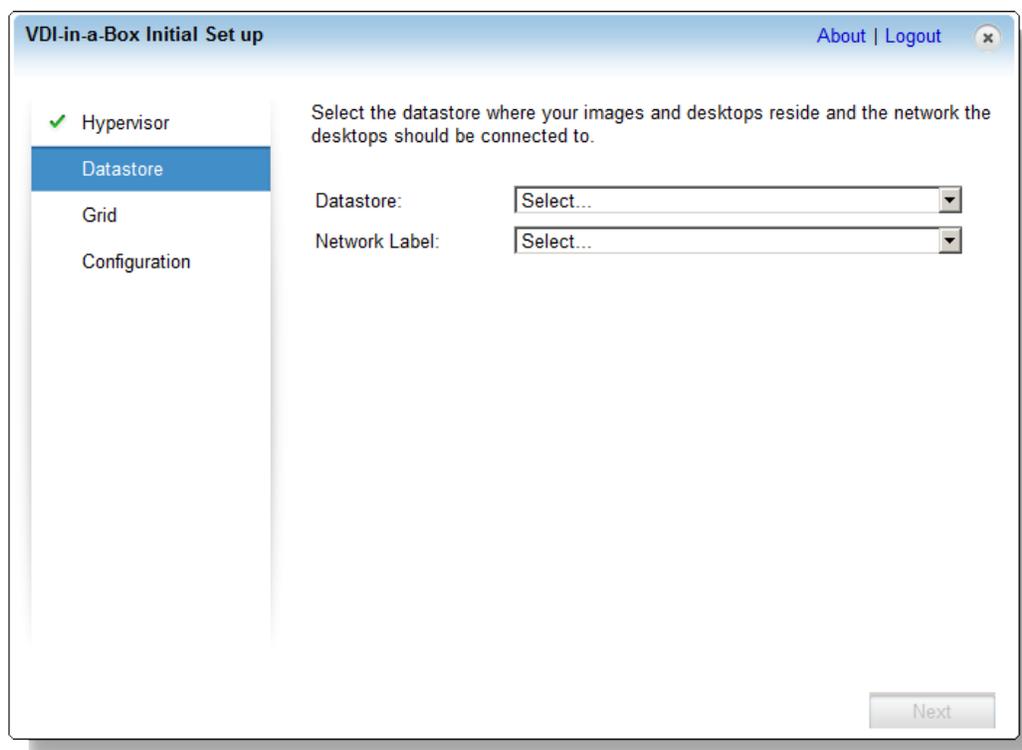
The screenshot shows the 'VDI-in-a-Box Initial Set up' wizard window. The title bar includes 'About | Logout' and a close button. On the left, a sidebar menu has 'Hypervisor' selected, with other options 'Datastore', 'Grid', and 'Configuration'. The main area contains the text 'To connect to the hypervisor, please enter the credentials below.' and three input fields: 'IP Address:' with the value '192.0.2.9', 'User Name:' with the value 'root', and 'Password:' with masked characters '.....'. A blue 'Next' button is located at the bottom right.

3. [IP Address] ボックスに、ハイパーバイザーを実行しているサーバーのIPアドレスを入力します。
4. [User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーアカウントは、root特権を持っている必要があります。
5. [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Datastore] ページが開きます。

データストアとネットワークラベルをセットアップするには

データストアには、デスクトップのイメージと仮想デスクトップが格納されます。

1. [Datastore] ページでは、データストアとネットワークラベルを選択します。



2. [Next] をクリックします。データストアの情報が保存され、VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページが開きます。ここでは、新規グリッドを作成したり、既存のグリッドを追加したりできます。

新規または既存のグリッドの選択

新規のVDI-in-a-Box環境をセットアップする場合は、新規のグリッドを作成します。新規のグリッドを作成するときは、VDI-in-a-Box仮想マシンにアクセスするユーザーとグループを格納しているデータベースに、そのグリッドを関連付ける必要があります。このデータベースとして、Active Directoryサーバー、またはローカルに格納されているワークグループと呼ばれるデータベースを使用できます。

既存のVDI-in-a-Box環境を拡張する場合は、既存のグリッドにこのVDI-in-a-Boxサーバーを追加します。

新規のグリッドを作成してデータベースに割り当てるには

1. [Grid] ページで、[Create a new VDI-in-a-Box grid] を選択し、[Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの[Configuration] ページが開きます。
2. [User Database] で、[VDI-in-a-Box workgroup] または [Microsoft Active Directory] を選択します。[Microsoft Active Directory] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。[VDI-in-a-Box workgroup] を選択した場合は、この情報を入力する必要はありません。

VDI-in-a-Box Initial Set up

About | Logout

✓ Hypervisor
✓ Datastore
✓ Grid
Configuration

User Database:

VDI-in-a-Box workgroup
 Microsoft Active Directory

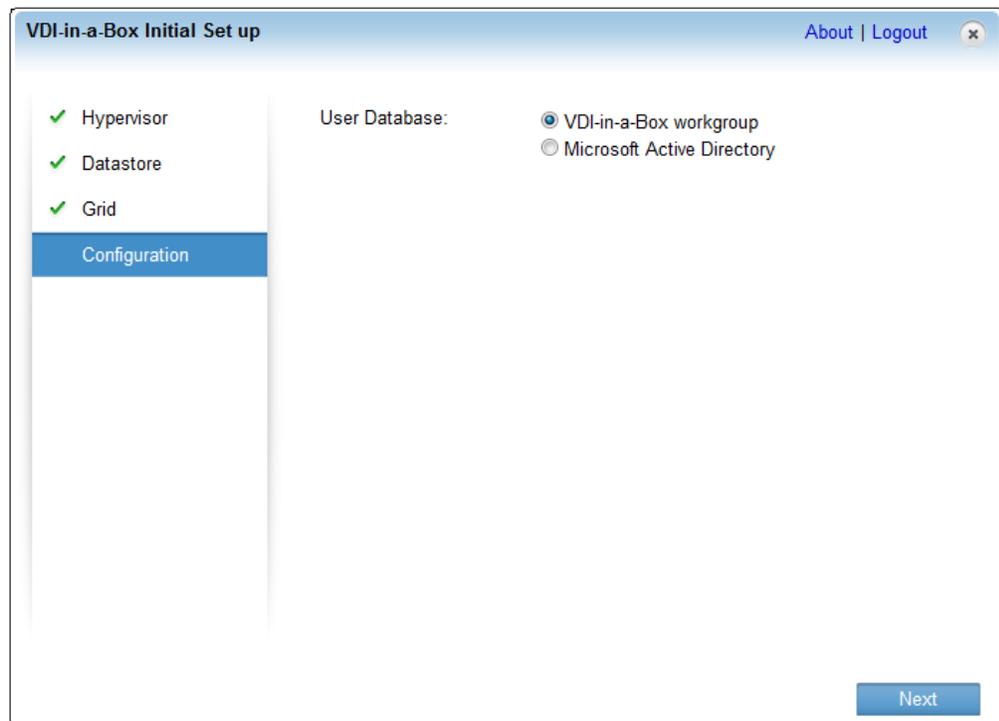
IP Address: 192.0.2.9
(Domain example: example.com)

Domain: <domain.com>

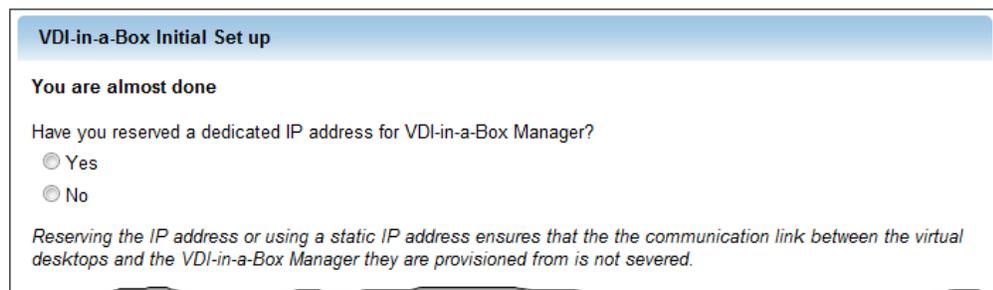
User Name: administrator

Password:

Next



3. Active Directoryを選択した場合、[IP Address] ボックスに、データベースをホストするサーバーのIPアドレスを入力します。
4. Active Directoryを選択した場合、[Domain] ボックスにDNSドメインを入力します。
5. Active Directoryを選択した場合、[User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
6. [Next] をクリックします。「Have you reserved a dedicated IP address for VDI-in-a-Box Manager?」というメッセージが表示されます。



7. [Yes] または [No] を選択して、[Done] をクリックします。 [Generate a Base Desktop Image] ページが開きます。

既存のグリッドにサーバーを追加するには

1. VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページで、 [Join a VDI-in-a-Box server on an existing grid] を選択し、 [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Configuration] ページが開きます。
2. [Configuration] ページの [IP Address] ボックスに、既存のグリッドで動作している vdiManagerのIPアドレスを入力します。
3. [Configuration] ページの [User Name] および [Password] ボックスに、vdiManager管理コンソールのユーザー名とパスワードを入力します。
4. [Next] をクリックします。 これで、グリッドの構成手順が完了しました。

最初のWindowsイメージを作成する

更新日： 2012-08-30

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) をサーバーにインポートして、データストア、データベース、およびグリッドに関連付けたら、最初のWindowsイメージを作成します。

ハイパーバイザーの機能を使用して新しい仮想マシンを作成して、Windowsをインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

ここで作成する仮想マシンは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ 仮想マシン上でWindows Server 2008 R2, Enterprise Editionが実行されている。
- ・ 仮想マシン上でリモートデスクトップ接続 (RDP) 機能が有効になっている。
- ・ 仮想マシンのネットワークインターフェイスカード (NIC) は1つだけで、Device 0に割り当てられている。
- ・ 仮想マシンのディスクイメージは1つだけである。
- ・ VDI-in-a-Boxにインポートする前に仮想マシンが起動しており、電源がオンの状態になっている。
- ・ 仮想マシンに4GB以上のディスクの空き領域がある。

イメージのインポートの準備を行うには

VDI-in-a-Boxとは別に、以下の手順を完了する必要があります。詳しくは、各製造元のドキュメントを参照してください。

1. 有効なMicrosoftボリュームアクティベーションキーを使用して、仮想マシンのライセンス認証を行います。
2. 仮想マシンのローカルの管理者アカウントを有効にします。
3. ハイパーバイザーの管理ツールを仮想マシンにインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。
4. 必要に応じて、仮想マシンをドメインに参加させます。

注：仮想マシンはワークグループのメンバーでも構いません。

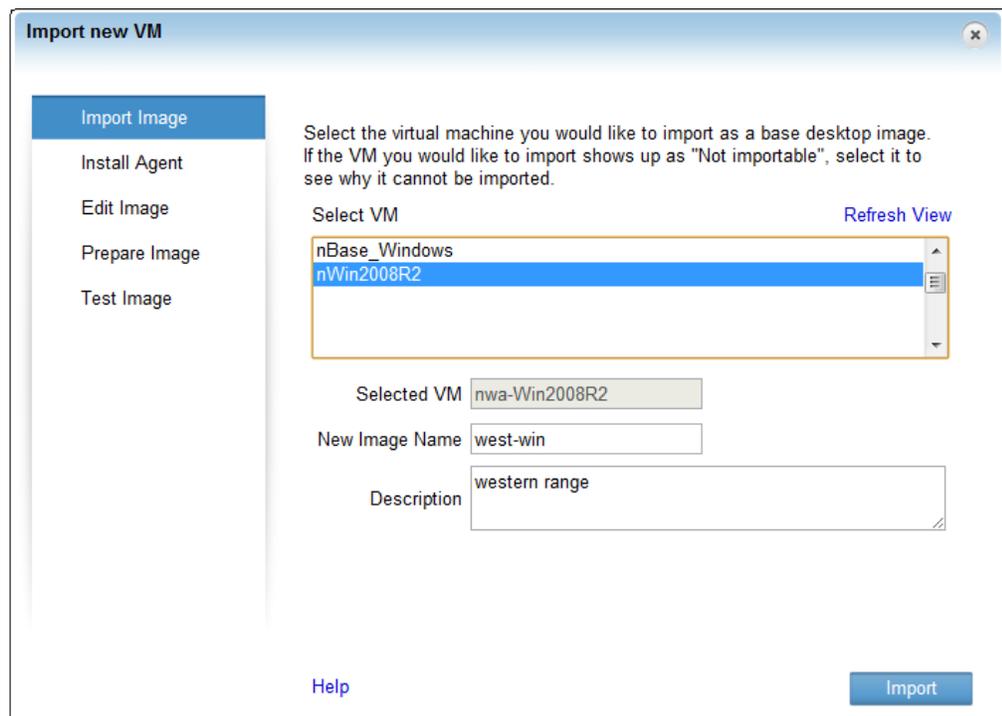
5. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、ユーザーのリモート接続を有効にします。
6. リモートエージェントのインストールを許可するように、ファイアウォール設定の [ファイルとプリンターの共有] を有効にします。詳しくは、使用するファイアウォールのド

キュメントを参照してください。

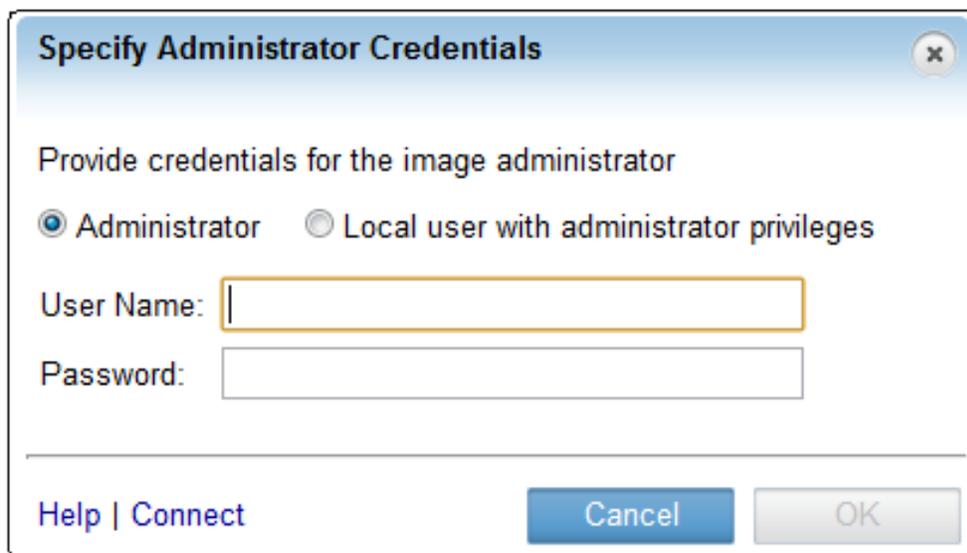
Windows仮想マシンをインポートするには

Webブラウザ上に [Generate a Base Desktop Image] ページが開いていない場合は、セットアップが完了したvdiManager (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1. [Generate a Base Desktop Image] ページで、 [Continue] をクリックします。
2. [Import new VM] ページで、イメージとして使用する仮想マシンを選択します。



3. [New Image Name] ボックスに、インポートした仮想マシンの名前を入力します。
注：インポート元のイメージとは別の名前を指定してください。
4. [Description] ボックスに、仮想マシンの説明を入力し、 [Import] をクリックします。 [Specify Administrator Credentials] ダイアログボックスが開きます。



5. 管理者の資格情報を使用するか、管理者特権を持つローカルユーザーの資格情報を使用するかを選択します。

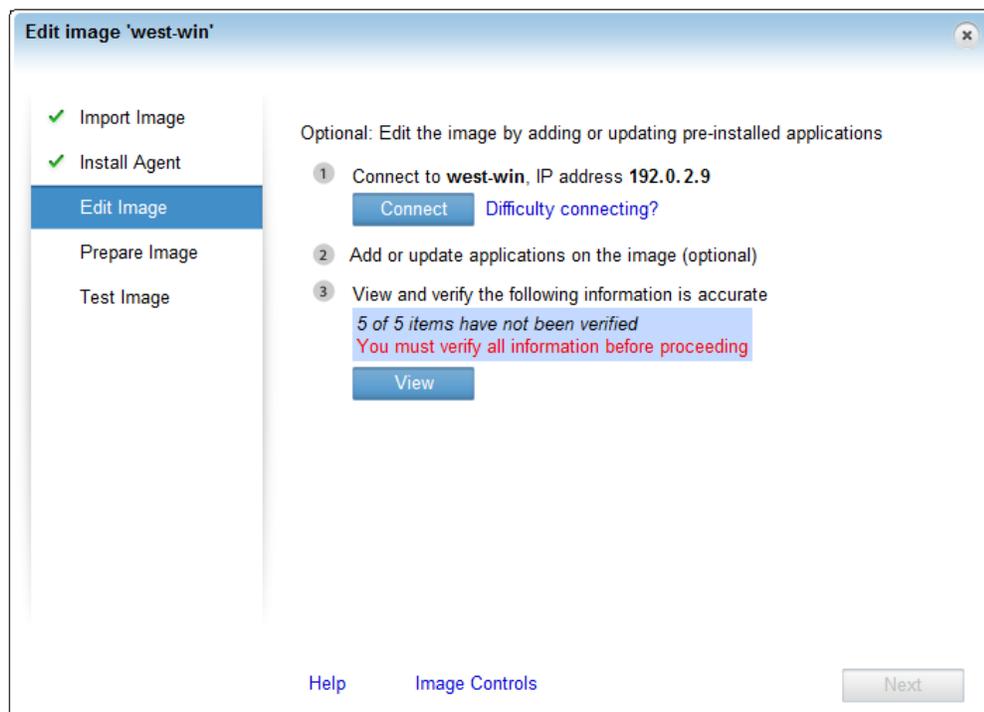
重要： 管理者特権を持つローカルユーザーの資格情報を使用する場合は、Microsoft Windowsのユーザーアカウント制御 (UAC) を無効にする必要があります。詳しくは、[Microsoft社のTechNetライブラリ](#)を参照してください。

6. イメージの管理者特権を持つアカウントのユーザー名およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。

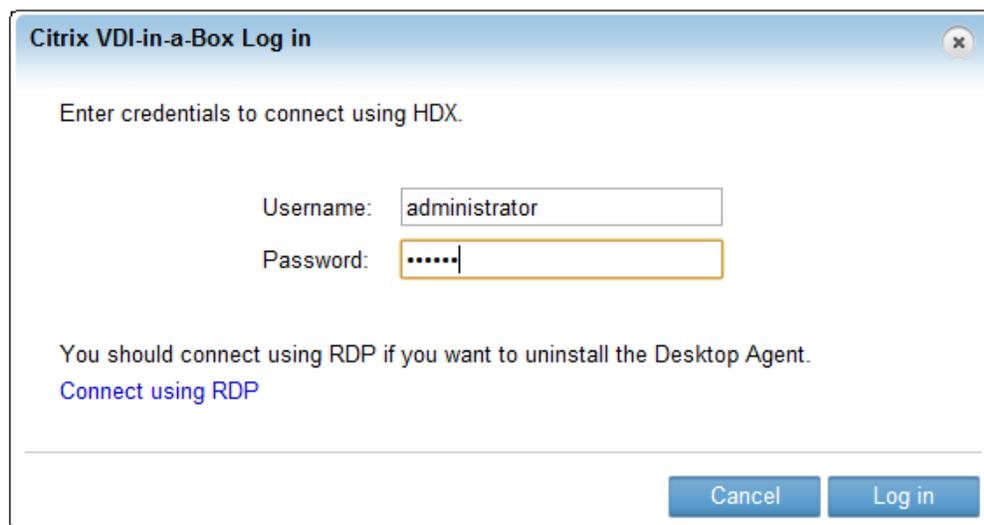
ドラフトイメージを編集するには

エージェントをインストールしたドラフトイメージを編集して、展開する仮想デスクトップに必要なアップデート、設定、パッチ、そのほかのアプリケーションを追加します。イメージからデスクトップを生成するために必要な前提条件を確認するためのチェックリストが表示されます。

1. [Edit Image] ページで、[Connect] をクリックします。



2. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、イメージの管理者特権を持つアカウントの資格情報を入力して [Log in] をクリックします。



3. 必要に応じてイメージを編集し、イメージからログオフします。
4. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

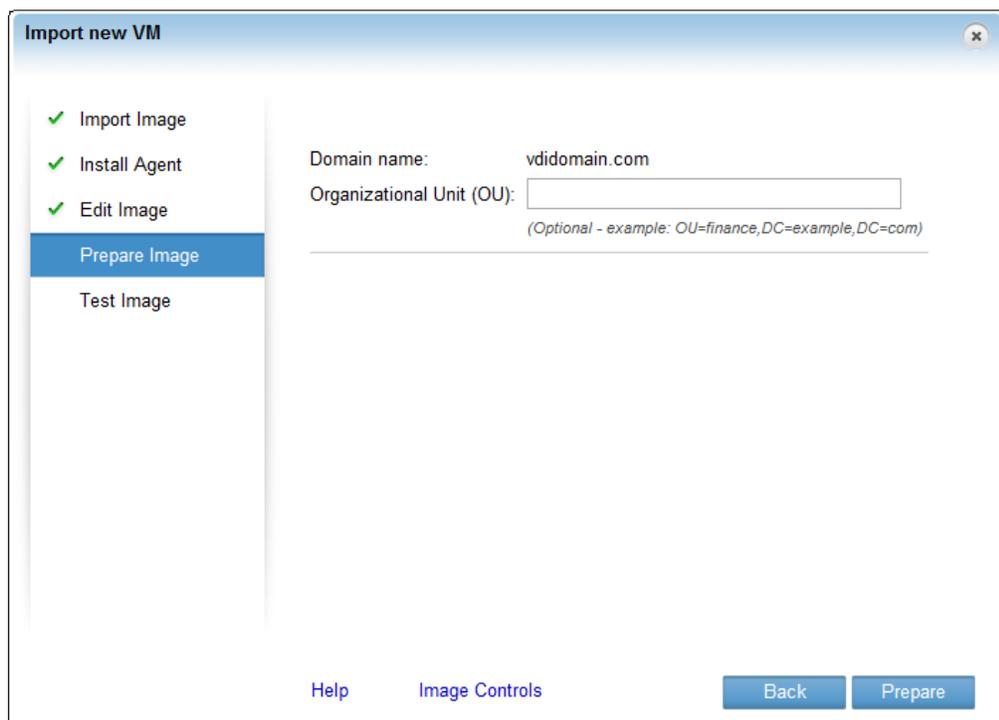
5. [Edit Image] ページで、[View] をクリックします。前提条件の一覧が質問形式で表示されます。

注：ここに表示される前提条件は、ハイパーバイザーとイメージのオペレーティングシステムによって異なります。

6. [Yes] をクリックして、各前提条件を満たしていることを確認します。
7. すべての前提条件を満たしていることを確認した後で、[Done] をクリックします。前提条件の一覧が閉じて、[Edit Image] ページに戻ります。
8. [Next] をクリックします。[Prepare Image] ページが開きます。

イメージの準備を行うには

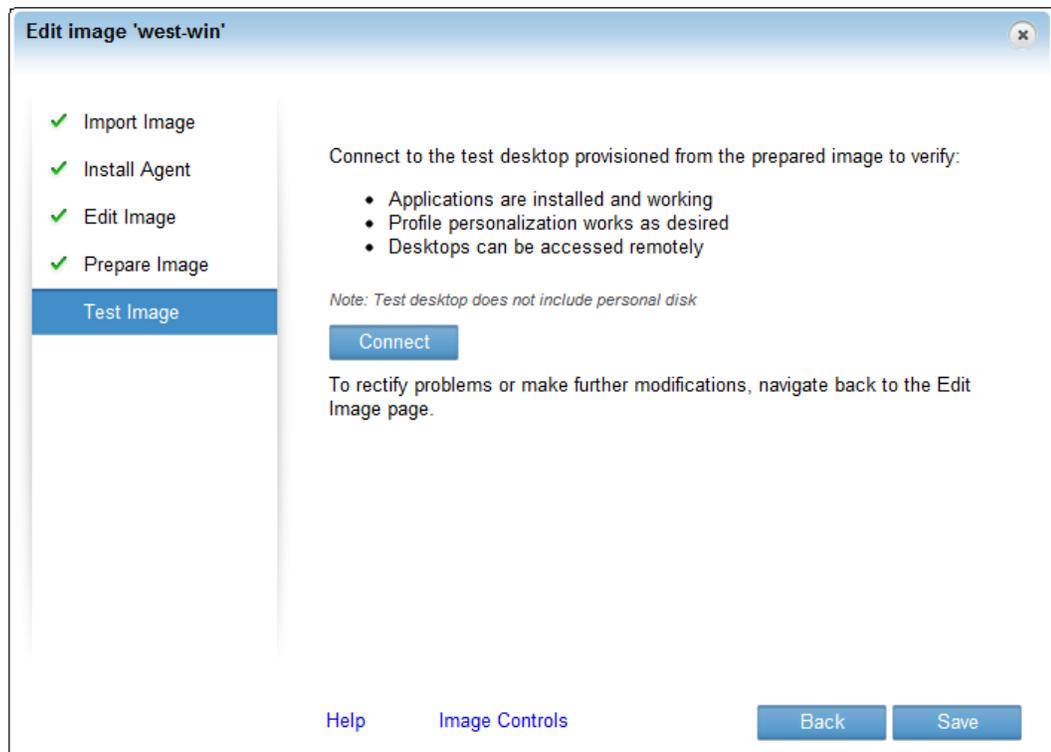
1. [Prepare Image] ページの [Domain name] ボックスの一覧で、ドメインまたはワークグループを選択します（選択可能な場合）。



2. 必要に応じて、[Organizational unit (OU)] ボックスに、イメージの適用先の組織単位を入力します。
3. [Prepare] をクリックします。[Confirm] メッセージが表示されます。
4. [Confirm] をクリックします。[Confirm] メッセージと [Prepare Image] ページが閉じます。進行状況を示す状態ページが開きます。準備されたイメージからテストデスクトップが作成され、[Test Image] ページが開きます。

準備したデスクトップイメージをテストするには

テストイメージを使用して、そのドラフトイメージから適切なデスクトップを生成できるかどうか、およびユーザーがこのデスクトップにHDX接続とRDP接続を確立できるかどうかを検証します。ドラフトイメージを保存すると、テストイメージおよびそのイメージに対する変更内容はすべて削除されます。



1. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。 [Connect to the draft image] ダイアログボックスが開きます。



2. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Citrix HDX] を選択し、[Connect] をクリックします。 [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスが開きます。
3. 資格情報を入力して、[Log in] をクリックします。 HDX接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
4. インストールされているアプリケーションが正常に動作すること、および必要なグループポリシーが適用されていることを確認します。
5. Active Directoryを使用して構成したグリッドでは、ドメインユーザーとしてログオンとログオフを行ってアクセスをテストします。
6. テストイメージからログオフします。 テストイメージが閉じます。
7. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
8. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。
9. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Microsoft RDP] を選択し、[Connect] をクリックします。 RDP接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
10. テストイメージにログオンし、RDP接続が正常に機能しているかどうかを確認して、ログオフします。 テストイメージが閉じます。
11. [Test Image] ページで [Save] をクリックします。 [Confirm] メッセージが表示されます。
12. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。 進行状況を示す状態ページが開きます。 Create a New Desktop Templateウィザードの [Template Information] ページが開きます。

公開イメージから最初のテンプレートを作成するには

更新日： 2012-10-09

ここでは、必要な仕様を満たす同一の仮想デスクトップを生成するためのテンプレートを作成します。テンプレートは、イメージとポリシーで構成されています。イメージには、デスクトップ上で実行されるオペレーティングシステムとアプリケーションが含まれます。イメージの作成について詳しくは、「[最初のWindowsイメージを作成する](#)」を参照してください。1つのイメージを複数のテンプレートで使用することができます。

重要： テンプレートを作成する前に、少なくとも1つのイメージの作成と公開を行う必要があります。

テンプレート作成中に設定するポリシーにより、いくつのデスクトップを作成するのか、どれだけのRAMを割り当てるのかなどの特性が定義されます。

テンプレートから生成されるデスクトップに一定のパターンの名前が付けられるように、コンピューター名の先頭（プレフィックス）および末尾（サフィックス）に特定の語を追加します。プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。サフィックスの上位桁に「0」を使用でき、4桁まで指定できます（「0001」など）。サフィックスにより生成される番号は、仮想デスクトップの作成ごとに増分されます。たとえば、プレフィックスとして「<name>」、サフィックスとして「0000」を設定し、仮想デスクトップを2つ作成すると、「<name>0001」および「<name>0002」という名前が使用されます。サフィックスの上位桁に「0」を使用しない場合、生成される名前にも「0」が使用されません。たとえば、サフィックスとして「1」を指定すると、「<name>1」、「<name>2」、「<name>3」などの名前が設定されます。

テンプレートでは、デスクトップを事前起動するためのオプションも選択できます。「事前起動デスクトップ」とは、電源が入り、ログオンプロンプトが表示された状態でユーザーのアクセスを待機するデスクトップを指します。事前起動デスクトップでは、ユーザーが仮想デスクトップの起動を待つ必要がありません。事前起動するデスクトップの数を指定すると、ユーザーがログオンするデスクトップの数に応じて、事前起動デスクトップの数が保持されます。たとえば、テンプレートで事前起動デスクトップ数として5を指定した場合、5つの仮想デスクトップが事前起動してユーザーを待機します。2人のユーザーが各自のデスクトップにログオンすると、新たに2台のデスクトップが事前起動され、指定した事前起動デスクトップ数が保持されます。テンプレートで指定した最大数に達するまで、この処理が継続されます。テンプレートの自動起動デスクトップ数を「0」に設定すると、そのテンプレートはシャットダウンし、ユーザーが接続できなくなります。

Webブラウザー上に [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPAddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1. [Create Desktop Templates from the Base Image] ページで、[Continue] をクリックします。Create a New Desktop Templateウィザードの [Template Information] ページが開きます。

The screenshot shows the 'Create a New Desktop Template' dialog box. The 'Template Information' tab is active. The fields are filled with the following values: Template name: Building A; Image name: west-win; Description: Pooled desktops for Building A; Computer name: Prefix: BuildA, Suffix: 0000; Memory (MB): 1536; Virtual CPUs: 1. The 'Connect these local devices to the VDI-in-a-Box desktop' section has checkboxes for Disk drives, Printers, Serial ports, Smart cards, and Other USB devices, all of which are checked. There is also a checkbox for 'Reset the activation timer (KMS clients)' which is unchecked. A 'Next' button is located at the bottom right of the dialog.

2. [Template Name] ボックスに、テンプレートの名前を入力します。
3. 使用可能なイメージの一覧から、このテンプレートに関連付けるイメージを選択します。
4. [Description] ボックスに、テンプレートの説明を入力します。
5. [Prefix] ボックスに、生成したイメージの名前に追加されるプレフィックスを入力します。
注：プレフィックスとして、英数字およびハイフン (-) を使用できます。
6. [Suffix] ボックスに、生成したイメージの名前に追加されるサフィックスを入力します。
注：プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。サフィックスとして、1~4文字の数字を使用できます。サフィックスの上位桁に「0」を使用することもできます（「0001」など）。
7. [Memory (MB)] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるメモリを選択します。
注：Windows Server 2008 R2のデスクトップには、少なくとも1536MBのメモリを割り当てることをお勧めします。
8. [Virtual CPUs] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるCPUの数を選択します。
9. ディスクドライブやプリンターなど、仮想デスクトップに接続するローカルデバイスを選択します。
10. 必要に応じて、HDX接続の表示色数を変更します。

11. キー管理サービス (KMS) のライセンス認証キーを持つ公開イメージでは、[Reset the activation time (KMS clients)] を選択することをお勧めします。
12. [Next] をクリックします。[Template Policies] ページが開きます。

The screenshot shows a dialog box titled "Create a New Desktop Template - Building A". On the left, there is a sidebar with two tabs: "Template Information" (marked with a green checkmark) and "Template Policies" (which is the active tab). The "Template Policies" section contains the following settings:

- Maximum desktops: 2
- Pre-started desktops: 1
- Template will provision: Pooled desktop, Personal desktop
- Refresh desktop: On logout (dropdown menu)
- Do not reassign desktops "On Hold" to new users
- Enable fast refresh of desktops
- Make this the default template

At the bottom of the dialog, there is a "Help" link on the left and "Back" and "Save" buttons on the right.

13. [Maximum desktops] ボックスに、このテンプレートで展開するデスクトップの最大数を入力します。
14. [Pre-started desktops] ボックスに、ユーザーが直ちにログオンできるように事前起動しておくデスクトップの数を入力します。ユーザーがテンプレートにアクセスできるように、自動起動デスクトップ数として1以上を指定します。テスト段階では、最大デスクトップ数として2、事前起動デスクトップ数として1を設定することをお勧めします。
15. [Refresh desktop] ボックスの一覧で、デスクトップの更新方法を選択します。ここでは、ユーザーのデスクトップを、テンプレートから生成した直後の状態に更新するタイミングを指定します。[On logout] を選択した場合、デバッグ上の理由からこれは管理者には適用されません。管理者は、デスクトップライフサイクルイベントをトリガーすることなくログオンやログオフを許可されます。
 - ・ On logout : ユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。
 - ・ Scheduled : 毎日、毎週、または毎月など、指定した日時にデスクトップが更新されます。使用中のデスクトップも更新するかどうかを指定することもできます。使用中のデスクトップを更新するオプションを選択しない場合は、指定した日時が経過した後にユーザーがログアウトした時点で更新されます。
 - ・ Scheduled or on logout : 指定した日時、およびユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。これはユーザーが長時間デスクトップにログオンする環境で役立ちます。

- ・ Manual : デスクトップの更新を手作業で行います。この設定により、特定のユーザーに無期限に割り当てられる「永続デスクトップ」が生成されます。永続デスクトップでは、ユーザーが追加したアプリケーションや変更した設定がログオフ後も永続的に保持されるため、通常のパーソナルコンピュータのように使用できます。

16. [Do not reassign desktops "On Hold" to new users] チェックボックスをオンにすると、デスクトップをユーザーが保持できるようになります。

注：このオプションは、デフォルトで有効になっています。

17. [Enable fast refresh of desktops] チェックボックスをオンにすると、ユーザーがログオフしたときにデスクトップが高速にリフレッシュされるようになります。

18. [Make this the default template] チェックボックスをオンにすると、テンプレートが割り当てられていないユーザーにこのテンプレートが使用されるようになります。

注：グリッドのデフォルトテンプレートが指定されていない場合、テンプレートが割り当てられていないユーザーの資格情報はログオン時に拒否されます。

19. [Save] をクリックします。

20. [Close] をクリックします。 [Assign Users to Desktops] ページが開きます。

テンプレートを編集するには

更新日：2012-08-15

テンプレートを編集することで、デスクトップの最大数や事前起動デスクトップの数などの設定を変更できます。

Webブラウザで、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインします。

1. vdiManager管理コンソールで、[Templates] タブをクリックします。
2. 編集するテンプレート名を選択します。
3. 必要に応じて設定を変更して、[Save] をクリックします。

注：[Save] は、[Template Policies] ページ上にあります。

ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て

更新日： 2012-08-30

テンプレートを作成したら、ユーザー、ユーザーグループ、およびIPアドレスにそのテンプレートを割り当てることができます。ユーザーとグループには、複数のテンプレートを割り当てることができます。キオスクなどのIPアドレスにテンプレートを割り当てると、そのキオスクにログオンするすべてのユーザーで同じデスクトップが使用されます。

テンプレートが割り当てられていないユーザーがログオンした場合は、デフォルトテンプレートが使用されます。ただし、デフォルトテンプレートを指定していない場合、そのユーザーの資格情報は拒否されます。

Webブラウザー上に [Assign Users to Desktops] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

ユーザーグループにテンプレートを割り当てるには

1. [Assign Users to Desktops] ページで、[Continue] をクリックします。[Users] ページが開きます。このページには、ユーザーグループ、ユーザー、およびIPアドレスの一覧が表示されます。
2. ユーザーグループの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

Group Name	Description	#	Templates
<input type="text"/>	<input type="text"/>		None

3. [Group Name] ボックスに、テンプレートを割り当てるグループの名前を入力します。ユーザーデータベースとしてActive Directoryが使用されている環境では、グループ名の最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたグループ名を選択するには、Enterキーを押します。
4. [Description] ボックスに、グループの説明を入力します。
5. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。[Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、[None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、テンプレート名が [None] に変わります。
6. [Save] をクリックします。グループが一覧に追加されます。
7. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のグループに割り当てます。

ユーザーにテンプレートを割り当てるには

1. ユーザーの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



User ID	First Name	Last Name	Group	# Templates
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	None

IP Addresses [Add](#) Save | Cancel

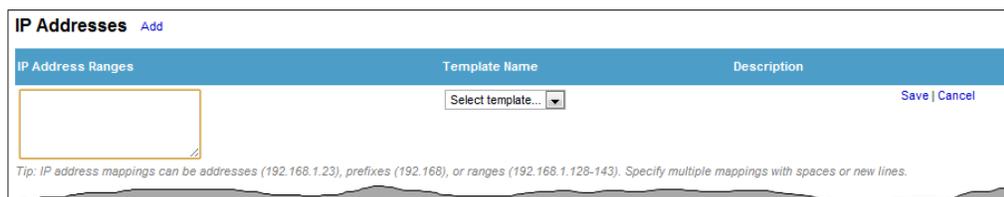
2. [User ID] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーのユーザーIDを入力します。ユーザーデータベースとしてActive Directoryが使用されている環境では、ユーザーIDの最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたIDを選択するには、Enterキーを押します。

注： [First Name] 、 [Last Name] 、 および [Group] は空欄でも構いません。そのユーザーの情報がActive Directoryに格納されている場合は、これらの情報が自動的に入力されます。

3. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。 [Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、 [None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、テンプレート名が [None] に変わります。
4. [Save] をクリックします。ユーザーが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のユーザーに割り当てます。

受信IPアドレスにテンプレートを割り当てるには

1. IPアドレスの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



IP Address Ranges	Template Name	Description
<input type="text"/>	Select template... ▼	

Tip: IP address mappings can be addresses (192.168.1.23), prefixes (192.168), or ranges (192.168.1.128-143). Specify multiple mappings with spaces or new lines.

2. [IP Address Ranges] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーデバイスのIPアドレスの範囲を入力します。個々のアドレス（「192.168.23.143」など）、プレフィックス（「192.168」など）、または範囲（「192.168.10.174-204」など）を指定できます。各エントリは改行またはスペースで区切ります。
3. [Templates Name] の一覧で、IPアドレスに割り当てるテンプレートを選択します。
4. [Save] をクリックします。IPアドレスが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、IPアドレスに別のテンプレートを割り当てます。

注：テンプレートをIPアドレスに割り当てたら、既存の割り当てを削除するまで再割り当てを行うことはできません。

テンプレートの割り当てを編集するには

1. vdiManager管理コンソールで、[Users] ページを選択します。
2. テンプレートを編集するユーザーグループ、ユーザー、またはIPアドレスにポインターを合わせて [Edit] をクリックします。
3. 必要に応じて編集し、[Save] をクリックします。

ユーザーとしての接続のテスト

更新日：2012-08-15

テンプレートを設定し、テンプレートからデスクトップを作成して、ユーザーに割り当てたら、ユーザーとしてデスクトップにログオンし、接続が正しく機能することを確認します。これを行うには、接続元のユーザーデバイスにCitrix Receiverの最新バージョンと、Java SE Runtime Environment (JRE) 6または7をインストールしておく必要があります。

注：JREは、VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを実行する場合のみ必要です。

ユーザーデバイスを準備するには

テスト用のユーザーデバイスを準備するには、HDXで接続できるようにCitrix Receiverをインストールします。Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、JRE 6または7もインストールします。

- ・ Citrix Receiverがインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からダウンロードしてインストールします。
- ・ ユーザーデバイスにJRE 6または7がインストールされていることを確認します。インストールされていない場合は、<https://www.java.com>から最新バージョンを入手します。

注：JREは、VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを実行するために必要です。

デスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「<https://<IPaddress>>/ (VDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレス)」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
4. [Citrix VDI-in-a-Box] ページの [ユーザー名] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [Password] ボックスにパスワードを入力し、[Log On] をクリックします。
6. 接続するデスクトップをクリックします。仮想デスクトップに接続されます。

WebブラウザからVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「`https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。使用するWebブラウザによっては、[Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開く場合があります。
4. [Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開いた場合は、[Open with] が選択され、その横の一覧に [Java(TM) Web Start Launcher (default)] が表示されていることを確認して、[OK] をクリックします。
5. [Citrix VDI-in-a-Box Client] ダイアログボックスにユーザーの資格情報を入力し、[Log On] をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

コマンドプロンプトからVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するユーザーデバイスによって異なる場合があります。

1. [コマンドプロンプト] ウィンドウを開きます。
2. 「`javaws https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」というコマンドを入力します。
3. Enterキーを押します。
4. [Log on] ダイアログボックスの [User name] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [Password] ボックスにパスワードを入力し、[Log On] をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

Microsoft Hyper-VでのWindows 7イメージの使用

更新日：2012-08-16

以下のトピックを参照して、Citrix VDI-in-a-Box環境をセットアップします。

- ・ [VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには](#)
- ・ [グリッドを作成して構成する](#)
- ・ [最初のWindowsイメージを作成する](#)
- ・ [公開イメージから最初のテンプレートを作成するには](#)
- ・ [テンプレートを編集するには](#)
- ・ [ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て](#)
- ・ [ユーザーとしての接続のテスト](#)

VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには

更新日： 2012-09-25

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) と呼ばれるVDI-in-a-Box仮想アプライアンスをCitrixのWebサイトからダウンロードして、Microsoft Hyper-Vにインポートします。

ダウンロードパッケージのVDI-in-a-Box_Hyper-V_v5_1_1.zipには、vdiManagerファイルであるvdiManager_Hyper-V_v5_1_1.exeが含まれています。vdiManagerを抽出するには、約2GBの空きディスクスペースが必要です。vdiManager_Hyper-V_v5_1_1.exeを実行すると、vdiManagerがインストールされ、VDI-in-a-Boxが正しく動作するようにMicrosoft Hyper-Vが構成されます。Hyper-Vマネージャーの役割が有効になっていない場合は、vdiManager_Hyper-V_v5_1_1.exeにより有効になります。

注： Microsoft Hyper-Vからアクセス可能な場所にダウンロードして抽出するようにしてください。

1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. My Citrixにログオンしていない場合は、ログオンします。
3. [Downloads] をクリックします。
4. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
5. ダウンロードの種類として、[Product Software] を選択します。
6. [Find] をクリックします。VDI-in-a-Box製品のページが開きます。
7. [VDI-in-a-Box 5.1.1] をクリックします。VDI-in-a-Box 5.1.1のページが開きます。
8. 「Appliances」セクションで、適切なハイパーバイザーの [Download] をクリックします。



ライセンス契約が表示されます。

9. ライセンス契約に同意します。 [Download Manager] ウィンドウが開きます。
10. [Download Now] をクリックします。
11. [Install] をクリックして、VDI-in-a-Box_Hyper-V_v5_1_1.zipを保存します。 ZIPファイルがダウンロードされます。
12. ZIPファイルから、vdiManager_Hyper-V_v5_1_1.exeを抽出します。

グリッドを作成して構成する

更新日： 2012-10-29

ここでは、VDI-in-a-Boxマネージャー（vdiManager）をハイパーバイザーにインポートしてから、VDI-in-a-Boxグリッドを構成します。

グリッドは、vdiManagerを実行しているサーバーをグループ化して負荷分散を可能にし、サーバー上の仮想マシンの高可用性を保証します。

また、WebブラウザーでJavaScriptとCookieを有効にしてください。

重要： 既存のvdiManagerが動作するHyper-VサーバーにvdiManagerをインポートしないでください。これを行うと、そのサーバー上のHyper-Vコネクタが既存のグリッドと非互換になり、グリッドが動作しなくなります。

注： VDI-in-a-Boxで指定したデータストア名を変更しないでください。データストア名を変更すると、デスクトップの生成やクリーンアップに失敗することがあります。

vdiManagerのHyper-Vへのインポート

Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-V Setupウィザードにより、次のソフトウェアがインストールされます。

- ・ Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-Vコネクタ

注： Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-Vコネクタは、VDI-in-a-Box_Hyper-V_v5_1_1.zipに含まれているものを使用してください。以前のバージョンのコネクタは、サポートされません。

- ・ Citrix VDI-in-a-Boxマネージャーアプライアンス

重要： Hyper-Vでは、仮想マシン（VDI-in-a-Boxマネージャーの仮想マシンも含まれます）を実行しているサーバーのディスクスペースが少なくなると、仮想マシンが自動的に一時停止します。一時停止した仮想マシンは、Paused-Critical状態になります。この問題を解決するには、サーバーの空きディスクスペースを増やしてください。

1. Hyper-Vサーバー上で、vdiManager_Hyper-V_v5_1_1.exeのアイコンをダブルクリックするか、コマンドプロンプトからこのファイルを実行します。Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-V Setupウィザードが起動します。
2. [Next] をクリックします。[Select Destination Location] ページが開きます。
3. デフォルトのインストール先を指定したまま、[Next] をクリックします。[Select Additional Tasks] ページが開きます。
4. [Create Citrix VDI-in-a-Box manager virtual appliance] が選択されている状態で、[Install] をクリックします。

注： [Enable Hyper-V Remote Administration] を選択すると、リモートデバイスから仮想デスクトップを管理できるようになります。

インストール処理が開始されます。インストールが完了すると、 [Welcome to Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-V] ページが開きます。

5. [Close] をクリックします。
6. [Finish] をクリックします。 インポート処理が終了すると、 vdiManagerはHyper-V マネージャー（または代替の管理コンソール）の仮想マシン一覧に「 vdiManager_timestamp」という名前が表示されます。

重要： ハイパーバイザーに複数のvdiManagerをインポートしないでください。 これを行うと、CPU、RAM、ディスク、およびネットワークが過度に消費され、システムが応答不能になることがあります。

初回セットアップ時にvdiManager管理コンソールを開くには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって多少異なる場合があります。

1. 仮想マシンの一覧でvdiManagerを選択し、 [Action] メニューの [Start] を選択します。 vdiManagerの状態が [Off] から [Running] に変化します。
2. vdiManagerのIPアドレスを取得します。これを行うには、仮想マシンの一覧で vdiManagerを選択し、 [Action] メニューの [Connect] をクリックします。 コマンドプロンプトのウィンドウが開き、 vdiManagerのIPアドレスが表示されます。
3. このIPアドレスを書き留めておき、コマンドプロンプトのウィンドウを閉じます。
4. WebブラウザーのURLボックスに「`https://<IPaddress>/admin/`」と入力し、Enterキーを押します。 Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
5. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。 さらに警告が表示される場合は、それらの警告も受け入れます。 [Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページが開きます。
6. [VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページの [ユーザー名] ボックスに、「`vdiadmin`」と入力します。
7. [パスワード] ボックスに「`kaviza`」と入力し、 [ログオン] をクリックします。 [Welcome] ページが開き、仮想デスクトップを生成するために必要な4つの手順が表示されます。

VDI-in-a-Box

Welcome!

Thank you for choosing VDI-in-a-Box. We want this to be a fast and pleasant experience. Below is a brief overview of the set up process. If you want background information on VDI-in-a-Box before you get started, go to support.citrix.com/vdi-in-a-box.

Overview

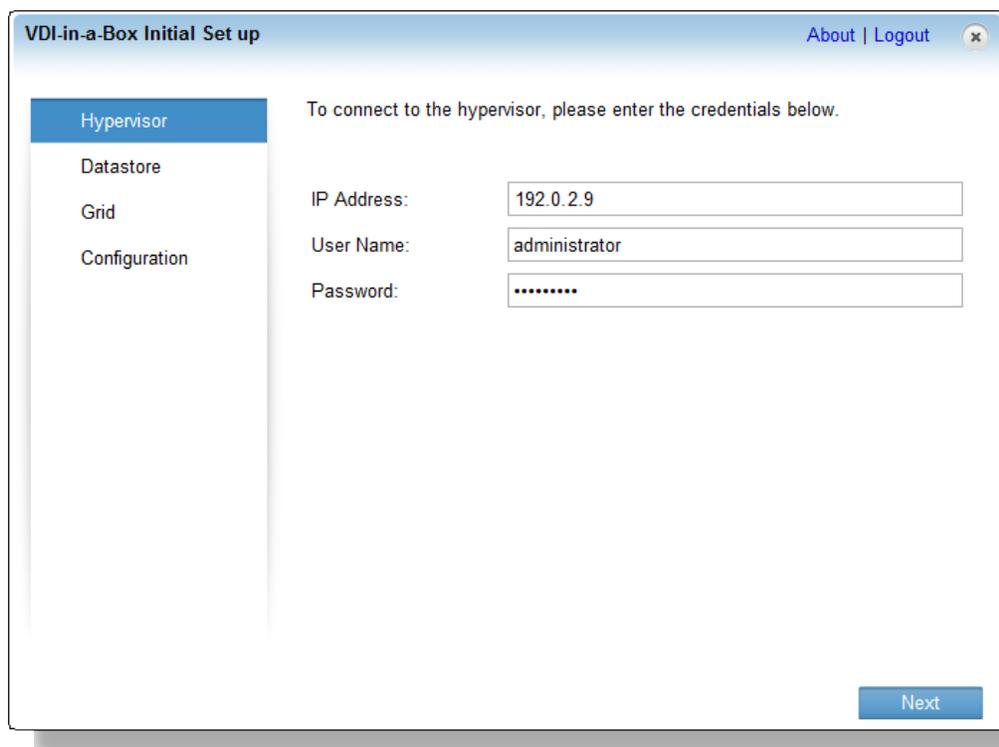
Below are the 4 steps you will need to complete in order to generate desktops for your users.

-  Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid
-  Generate a Base Desktop Image
-  Create Desktop Templates from the Base Image
-  Assign Users to Desktops

[Get Started](#)

ハイパーバイザーをセットアップするには

1. [Welcome] ページで、[Get Started] をクリックします。 [Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid] ページが開きます。
2. [Continue] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Hypervisor] ページが開きます。



The screenshot shows the 'VDI-in-a-Box Initial Set up' wizard window. The title bar includes 'About | Logout' and a close button. On the left, a sidebar menu has 'Hypervisor' selected, with other options: 'Datastore', 'Grid', and 'Configuration'. The main area contains the text: 'To connect to the hypervisor, please enter the credentials below.' Below this are three input fields: 'IP Address:' with the value '192.0.2.9', 'User Name:' with the value 'administrator', and 'Password:' with masked characters '.....'. A 'Next' button is located at the bottom right of the main area.

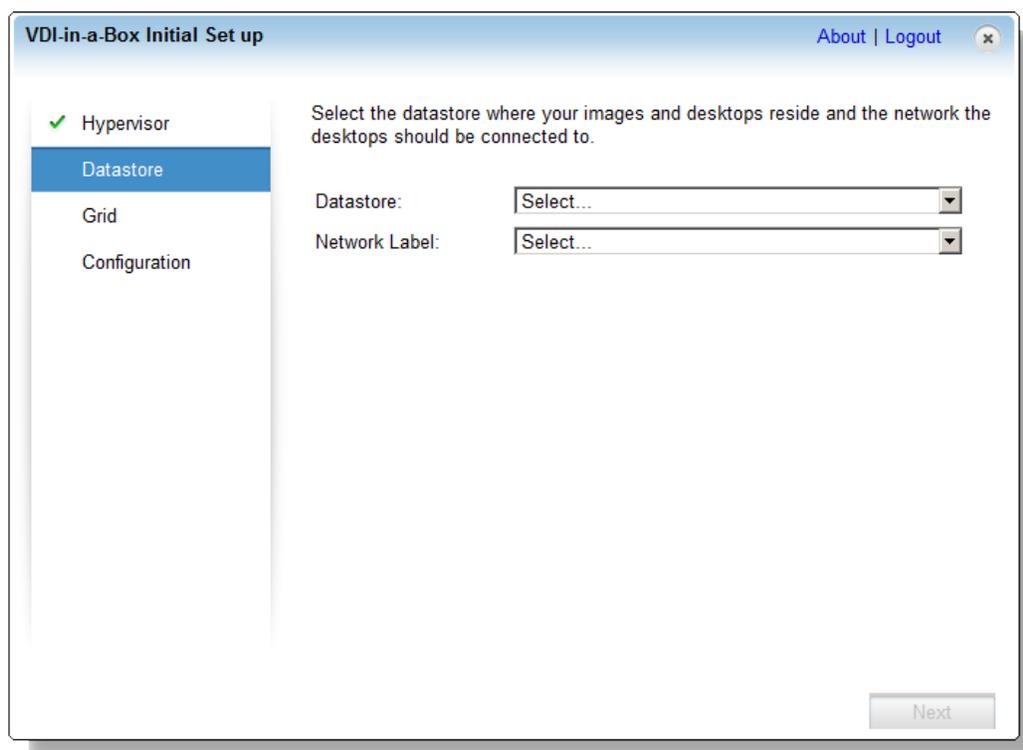
3. [IP Address] ボックスに、ハイパーバイザーを実行しているサーバーのIPアドレスを入力します。
4. [User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーアカウントは、管理者特権を持っている必要があります。
5. [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Datastore] ページが開きます。

データストアとネットワークラベルをセットアップするには

データストアには、デスクトップのイメージと仮想デスクトップが格納されます。

注：ESXiまたはHyper-Vを使用している場合は、VDI-in-a-Boxで指定したデータストア名を変更しないでください。データストア名を変更すると、デスクトップの生成やクリーンアップに失敗することがあります。

1. [Datastore] ページでは、データストアとネットワークラベルを選択します。



2. [Next] をクリックします。データストアの情報が保存され、VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページが開きます。ここでは、新規グリッドを作成したり、既存のグリッドを追加したりできます。

新規または既存のグリッドの選択

新規のVDI-in-a-Box環境をセットアップする場合は、新規のグリッドを作成します。新規のグリッドを作成するときは、VDI-in-a-Box仮想マシンにアクセスするユーザーとグループを格納しているデータベースに、そのグリッドを関連付ける必要があります。このデータベースとして、Active Directoryサーバー、またはローカルに格納されているワークグループと呼ばれるデータベースを使用できます。

既存のVDI-in-a-Box環境を拡張する場合は、既存のグリッドにこのVDI-in-a-Boxサーバーを追加します。

新規のグリッドを作成してデータベースに割り当てるには

1. [Grid] ページで、[Create a new VDI-in-a-Box grid] を選択し、[Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの[Configuration] ページが開きます。
2. [User Database] で、[VDI-in-a-Box workgroup] または [Microsoft Active Directory] を選択します。[Microsoft Active Directory] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。[VDI-in-a-Box workgroup] を選択した場合は、この情報を入力する必要はありません。

VDI-in-a-Box Initial Set up

About | Logout

✓ Hypervisor
✓ Datastore
✓ Grid
Configuration

User Database: VDI-in-a-Box workgroup Microsoft Active Directory

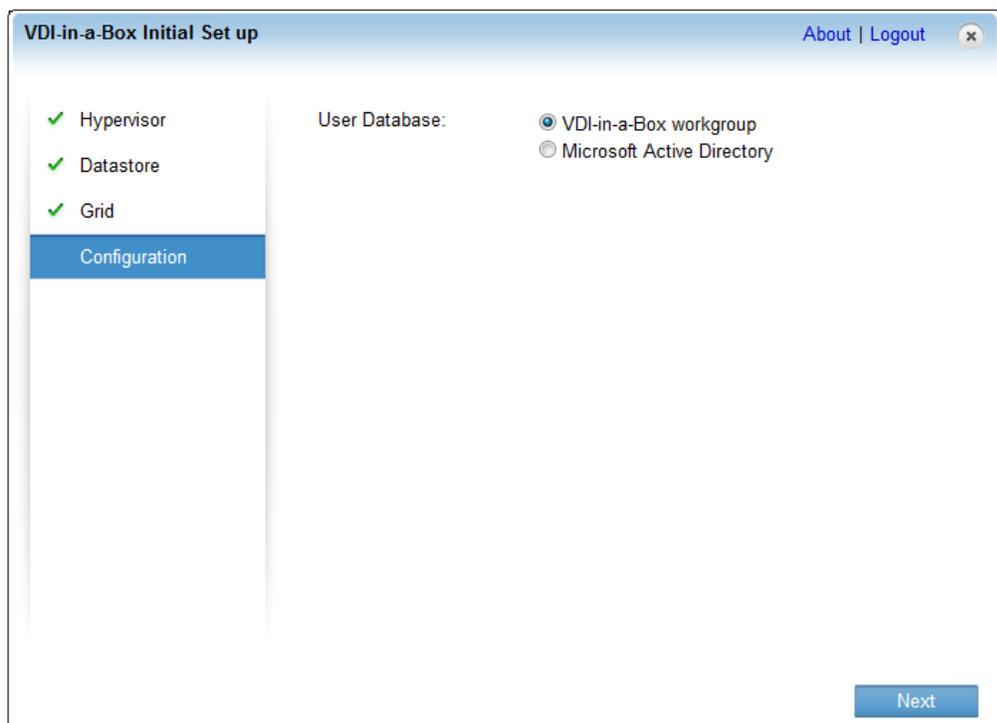
IP Address:
(Domain example: example.com)

Domain:

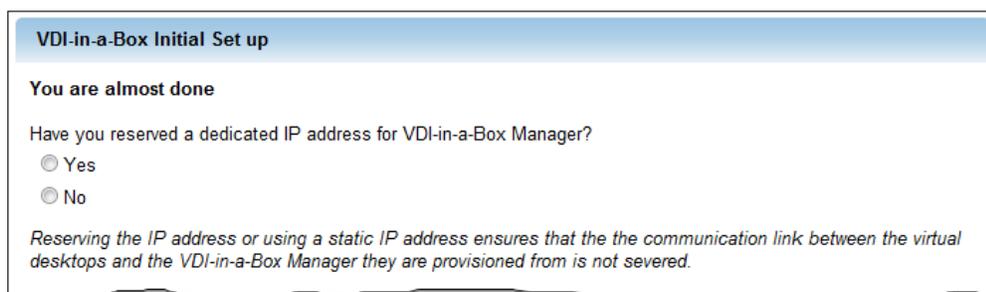
User Name:

Password:

Next



3. Active Directoryを選択した場合、[IP Address] ボックスに、データベースをホストするサーバーのIPアドレスを入力します。
4. Active Directoryを選択した場合、[Domain] ボックスにDNSドメインを入力します。
5. Active Directoryを選択した場合、[User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
6. [Next] をクリックします。「Have you reserved a dedicated IP address for VDI-in-a-Box Manager?」というメッセージが表示されます。



7. [Yes] または [No] を選択して、[Done] をクリックします。 [Generate a Base Desktop Image] ページが開きます。

既存のグリッドにサーバーを追加するには

1. VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページで、 [Join a VDI-in-a-Box server on an existing grid] を選択し、 [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Configuration] ページが開きます。
2. [Configuration] ページの [IP Address] ボックスに、既存のグリッドで動作している vdiManagerのIPアドレスを入力します。
3. [Configuration] ページの [User Name] および [Password] ボックスに、vdiManager管理コンソールのユーザー名とパスワードを入力します。
4. [Next] をクリックします。 これで、グリッドの構成手順が完了しました。

最初のWindowsイメージを作成する

更新日： 2012-08-30

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) をサーバーにインポートして、データストア、データベース、およびグリッドに関連付けたら、最初のWindowsイメージを作成します。

ハイパーバイザーの機能を使用して新しい仮想マシンを作成して、Windowsをインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

ここで作成する仮想マシンは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ 仮想マシン上でWindows XP Professional (32ビット)、Windows 7 Professional、またはEnterprise (32ビットまたは64ビット) が実行されている。
- ・ 仮想マシン上でリモートデスクトップ接続 (RDP) 機能が有効になっている。
- ・ 仮想マシンのネットワークインターフェイスカード (NIC) は1つだけで、Device 0に割り当てられている。
- ・ 仮想マシンのディスクイメージは1つだけである。
- ・ VDI-in-a-Boxにインポートする前に仮想マシンが起動しており、電源がオンの状態になっている。
- ・ 仮想マシンのスナップショットが作成されていない。
- ・ 仮想マシンに4GB以上のディスクの空き領域がある。

イメージのインポートの準備を行うには

VDI-in-a-Boxとは別に、以下の手順を完了する必要があります。詳しくは、各製造元のドキュメントを参照してください。

1. 有効なMicrosoftボリュームアクティベーションキーを使用して、仮想マシンのライセンス認証を行います。
2. 仮想マシンのローカルの管理者アカウントを有効にします。
3. 必要に応じて、仮想マシンをドメインに参加させます。

注：仮想マシンはワークグループのメンバーでも構いません。

4. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、ユーザーのリモート接続を有効にします。
5. すべてのネットワークのリモートデスクトップ接続を許可するように、ファイアウォール設定の [ファイルとプリンターの共有] を有効にします。詳しくは、使用するファイ

アウォールのドキュメントを参照してください。

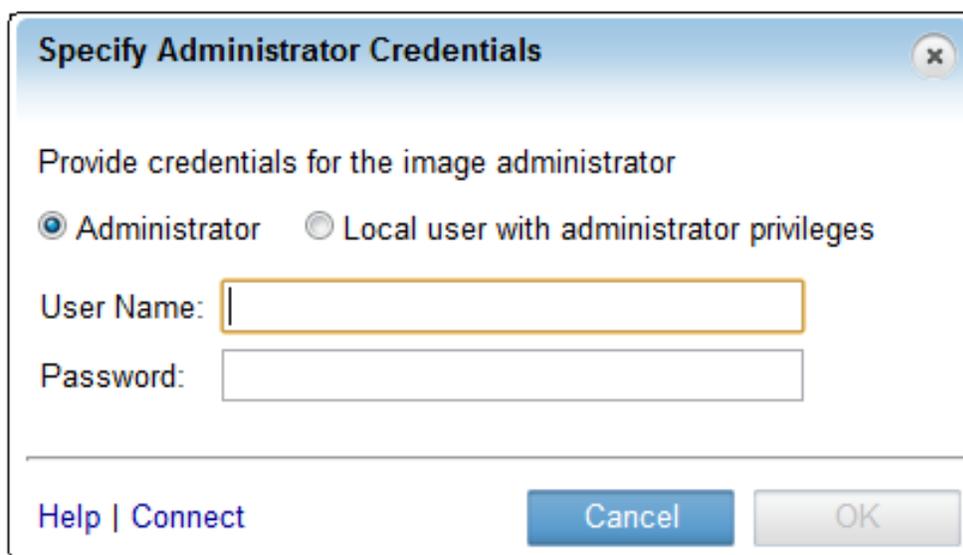
Windows仮想マシンをインポートするには

Webブラウザ上に [Generate a Base Desktop Image] ページが開いていない場合は、セットアップが完了したvdiManager (<https://<IPAddress>/admin/>) にログインしてこのページを開きます。

1. [Generate a Base Desktop Image] ページで、 [Continue] をクリックします。
2. [Import new VM] ページで、イメージとして使用する仮想マシンを選択します。

The screenshot shows the 'Import new VM' dialog box. On the left is a sidebar with the following menu items: 'Import Image' (highlighted in blue), 'Install Agent', 'Edit Image', 'Prepare Image', and 'Test Image'. The main content area has the following elements:
- Instructional text: 'Select the virtual machine you would like to import as a base desktop image. If the VM you would like to import shows up as "Not importable", select it to see why it cannot be imported.'
- A 'Select VM' list box containing 'nBase_Windows' (selected) and 'nWin2008R2'. A 'Refresh View' link is located to the right of the list.
- A 'Selected VM' text box containing 'nBase_Windows'.
- A 'New Image Name' text box containing 'west-win'.
- A 'Description' text box containing 'western range'.
- At the bottom left is a 'Help' link, and at the bottom right is an 'Import' button.

3. [New Image Name] ボックスに、インポートした仮想マシンの名前を入力します。
注：インポート元のイメージとは別の名前を指定してください。
4. [Description] ボックスに、仮想マシンの説明を入力し、 [Import] をクリックします。 [Specify Administrator Credentials] ダイアログボックスが開きます。



5. 管理者の資格情報を使用するか、管理者特権を持つローカルユーザーの資格情報を使用するかを選択します。

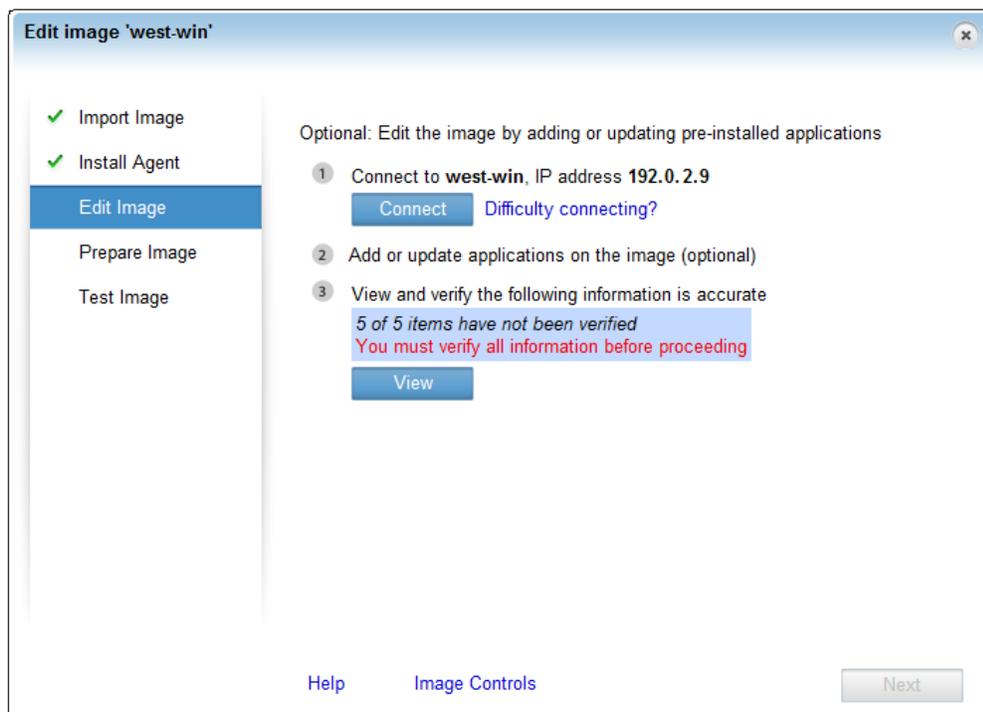
重要： 管理者特権を持つローカルユーザーの資格情報を使用する場合は、Microsoft Windowsのユーザーアカウント制御（UAC）を無効にする必要があります。詳しくは、[Microsoft社のTechNetライブラリ](#)を参照してください。

6. イメージの管理者特権を持つアカウントのユーザー名およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。インポートおよびDesktop Agentのインストールによるドラフトイメージの作成が開始され、進捗状況を示す状態ページが開きます。Import new VMウィザードの [Edit Image] ページが開きます。

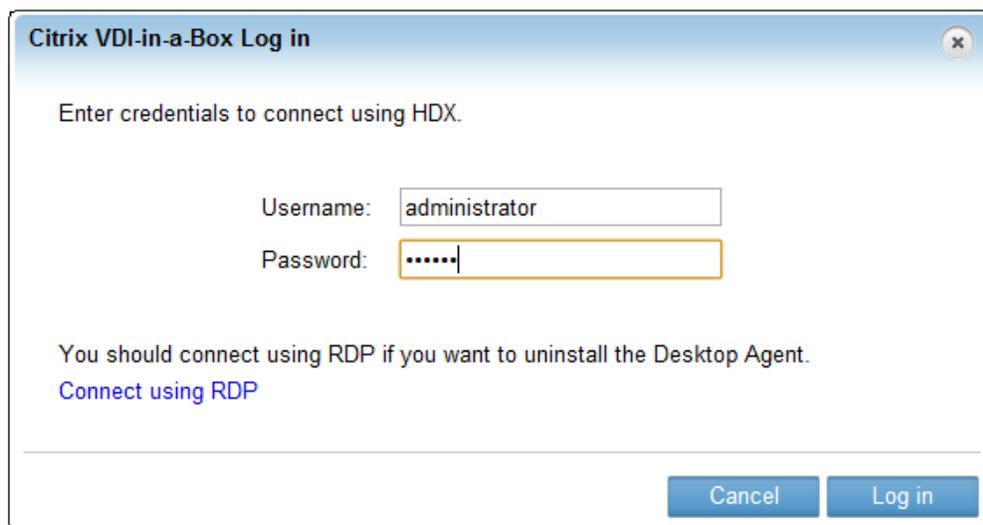
ドラフトイメージを編集するには

エージェントをインストールしたドラフトイメージを編集して、展開する仮想デスクトップに必要なアップデート、設定、パッチ、そのほかのアプリケーションを追加します。イメージからデスクトップを生成するために必要な前提条件を確認するためのチェックリストが表示されます。

1. [Edit Image] ページで、[Connect] をクリックします。



2. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、イメージの管理者特権を持つアカウントの資格情報を入力して [Log in] をクリックします。



3. 必要に応じてイメージを編集し、イメージからログオフします。
4. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

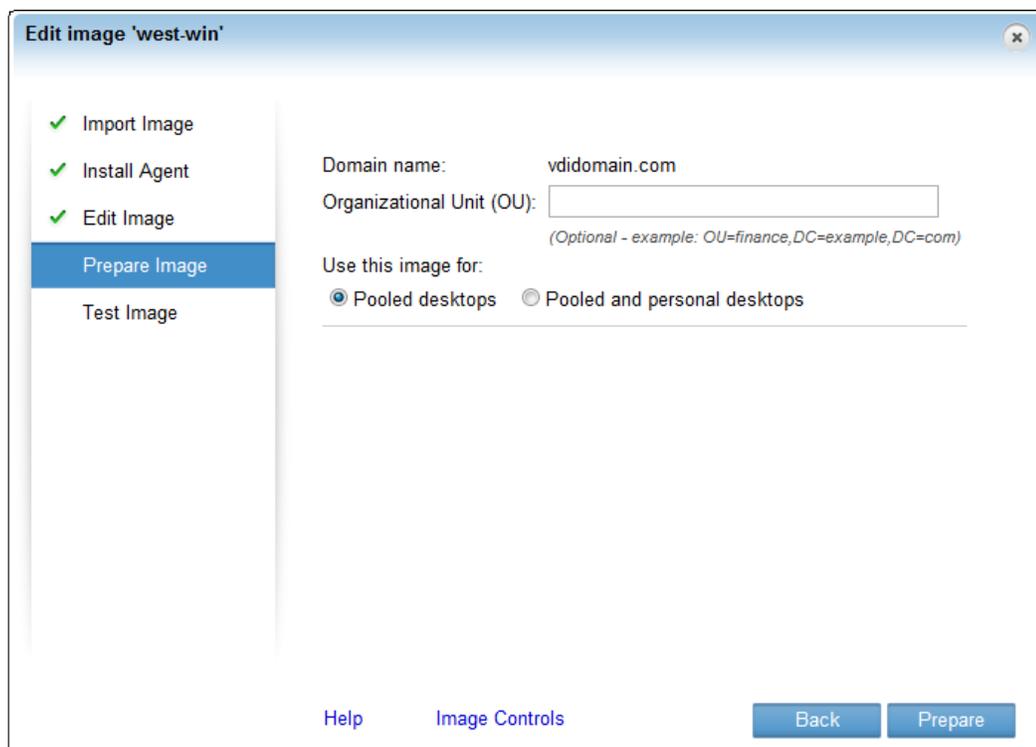
5. [Edit Image] ページで、[View] をクリックします。前提条件の一覧が質問形式で表示されます。

注：ここに表示される前提条件は、ハイパーバイザーとイメージのオペレーティングシステムによって異なります。

6. [Yes] をクリックして、各前提条件を満たしていることを確認します。
7. すべての前提条件を満たしていることを確認した後で、[Done] をクリックします。前提条件の一覧が閉じて、[Edit Image] ページに戻ります。
8. [Next] をクリックします。[Prepare Image] ページが開きます。

イメージの準備を行うには

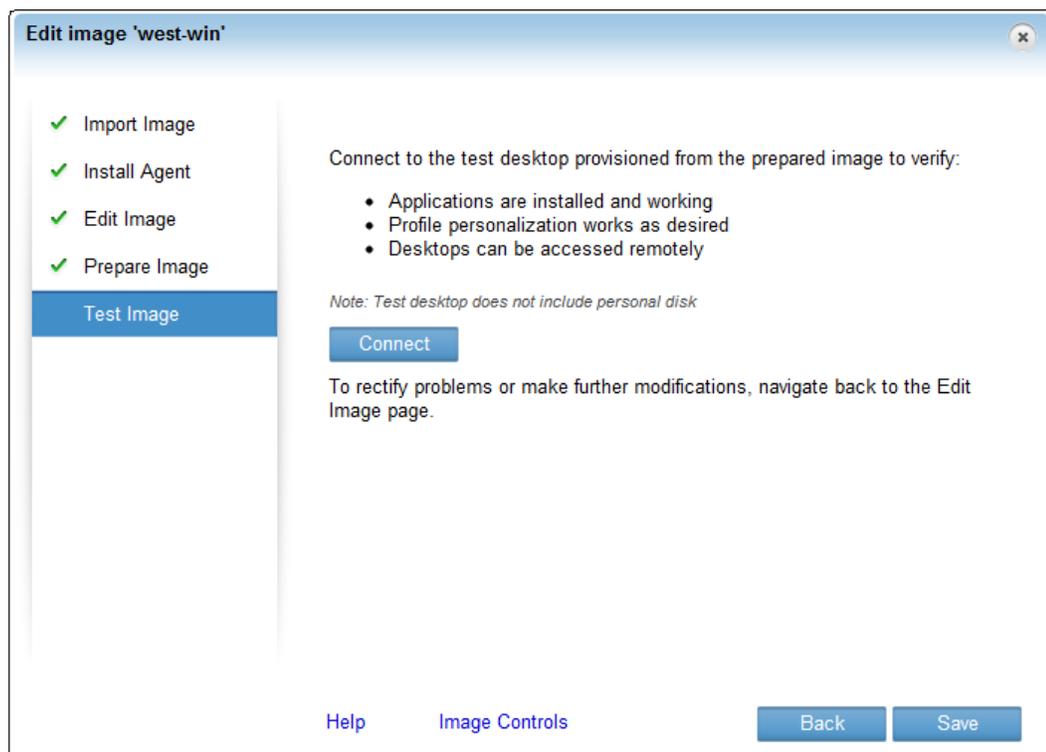
[Prepare Image] ページでは、イメージから作成するデスクトップとして、プールされるデスクトップまたはパーソナルデスクトップを選択します。プールされるデスクトップは単一のディスクで構成されるデスクトップで、このウィザードで作成する公開イメージから配信されます。パーソナルデスクトップは、公開イメージとPersonal vDiskを組み合わせた2つのディスクで構成されます。パーソナルデスクトップについて詳しくは、「[パーソナルデスクトップの管理](#)」を参照してください。パーソナルデスクトップ用に作成した公開イメージは、プールされるデスクトップの生成にも使用できます。ただし、プールされるデスクトップ専用のイメージを作成する場合は、[Pooled desktops] を選択することでPersonal vDisk関連の設定手順を省略できます。



1. [Prepare Image] ページの [Domain name] ボックスの一覧で、ドメインまたはワークグループを選択します（選択可能な場合）。
2. 必要に応じて、[Organizational unit (OU)] ボックスに、イメージの適用先の組織単位を入力します。
3. [Pooled desktops] または [Pooled and personal desktops] を選択します。
4. [Prepare] をクリックします。 [Confirm] メッセージが表示されます。
5. [Confirm] をクリックします。 [Confirm] メッセージと [Prepare Image] ページが閉じます。 進行状況を示す状態ページが開きます。 準備されたイメージからテストデスクトップが作成され、 [Test Image] ページが開きます。

準備したデスクトップイメージをテストするには

テストイメージを使用して、そのドラフトイメージから適切なデスクトップを生成できるかどうか、およびユーザーがこのデスクトップにHDX接続とRDP接続を確立できるかどうかを検証します。ドラフトイメージを保存すると、テストイメージおよびそのイメージに対する変更内容はすべて削除されます。



1. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。 [Connect to the draft image] ダイアログボックスが開きます。



2. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Citrix HDX] を選択し、[Connect] をクリックします。 [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスが開きます。
3. 資格情報を入力して、[Log in] をクリックします。 HDX接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
4. インストールされているアプリケーションが正常に動作すること、および必要なグループポリシーが適用されていることを確認します。
5. Active Directoryを使用して構成したグリッドでは、ドメインユーザーとしてログオンとログオフを行ってアクセスをテストします。
6. テストイメージからログオフします。 テストイメージが閉じます。
7. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
8. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。
9. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Microsoft RDP] を選択し、[Connect] をクリックします。 RDP接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
10. テストイメージにログオンし、RDP接続が正常に機能しているかどうかを確認して、ログオフします。 テストイメージが閉じます。
11. [Test Image] ページで [Save] をクリックします。 [Confirm] メッセージが表示されます。
12. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。 [Confirm] メッセージと [Test Image] ページが閉じます。 進行状況を示す状態ページが開きます。 [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開きます。

公開イメージから最初のテンプレートを作成するには

更新日： 2012-10-09

ここでは、必要な仕様を満たす同一の仮想デスクトップを生成するためのテンプレートを作成します。テンプレートは、イメージとポリシーで構成されています。イメージにはデスクトップ上で実行されるオペレーティングシステムとアプリケーションが含まれます。イメージの作成について詳しくは、「[最初のWindowsイメージを作成する](#)」を参照してください。1つのイメージを複数のテンプレートで使用することができます。

重要： テンプレートを作成する前に、少なくとも1つのイメージの作成と公開を行う必要があります。

テンプレート作成中に設定するポリシーにより、いくつのデスクトップを作成するのか、どれだけのRAMを割り当てるのかなどの特性が定義されます。

テンプレートから生成されるデスクトップに一定のパターンの名前が付けられるように、コンピューター名の先頭（プレフィックス）および末尾（サフィックス）に特定の語を追加します。プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。サフィックスの上位桁に「0」を使用でき、4桁まで指定できます（「0001」など）。サフィックスにより生成される番号は、仮想デスクトップの作成ごとに増分されます。たとえば、プレフィックスとして「<name>」、サフィックスとして「0000」を設定し、仮想デスクトップを2つ作成すると、「<name>0001」および「<name>0002」という名前が使用されます。サフィックスの上位桁に「0」を使用しない場合、生成される名前にも「0」が使用されません。たとえば、サフィックスとして「1」を指定すると、「<name>1」、「<name>2」、「<name>3」などの名前が設定されます。

テンプレートでは、デスクトップを事前起動するためのオプションも選択できます。「事前起動デスクトップ」とは、電源が入り、ログオンプロンプトが表示された状態でユーザーのアクセスを待機するデスクトップを指します。事前起動デスクトップでは、ユーザーが仮想デスクトップの起動を待つ必要がありません。事前起動するデスクトップの数を指定すると、ユーザーがログオンするデスクトップの数に応じて、事前起動デスクトップの数が保持されます。たとえば、テンプレートで事前起動デスクトップ数として5を指定した場合、5つの仮想デスクトップが事前起動してユーザーを待機します。2人のユーザーが各自のデスクトップにログオンすると、新たに2台のデスクトップが事前起動され、指定した事前起動デスクトップ数が保持されます。テンプレートで指定した最大数に達するまで、この処理が継続されます。テンプレートの自動起動デスクトップ数を「0」に設定すると、そのテンプレートはシャットダウンし、ユーザーが接続できなくなります。

Webブラウザー上に [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPAddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1. [Create Desktop Templates from the Base Image] ページで、[Continue] をクリックします。Create a New Desktop Templateウィザードの [Template Information] ページが開きます。

Create a New Desktop Template

Template Information

Template Policies

Template name: Building A

Image name: west-win View image details

Description: Personal desktops for Building A

Computer name: Prefix: BuildA Suffix: 0000
1-11 characters 0-4 digits

Memory (MB): 1536

Virtual CPUs: 1

Connect these local devices to the VDI-in-a-Box desktop

Disk drives Printers Serial ports

Smart cards Other USB devices

Color depth: True color (32 bit)

Reset the activation timer (KMS clients)

Help Next

2. [Template Name] ボックスに、テンプレートの名前を入力します。
3. 使用可能なイメージの一覧から、このテンプレートに関連付けるイメージを選択します。
4. [Description] ボックスに、テンプレートの説明を入力します。
5. [Prefix] ボックスに、生成したイメージの名前に追加されるプレフィックスを入力します。
注：プレフィックスとして、英数字およびハイフン (-) を使用できます。
6. [Suffix] ボックスに、生成したイメージの名前に追加されるサフィックスを入力します。
注：プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。サフィックスとして、1~4文字の数字を使用できます。サフィックスの上位桁に「0」を使用することもできます（「0001」など）。
7. [Memory (MB)] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるメモリを選択します。
注：Windows 7およびWindows Server 2008 R2のデスクトップには、少なくとも1536MBのメモリを割り当てることをお勧めします。Windows XPのデスクトップには、少なくとも512MBのメモリを割り当てる必要があります（1GB以上を推奨）。
8. [Virtual CPUs] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるCPUの数を選択します。
9. ディスクドライブやプリンターなど、仮想デスクトップに接続するローカルデバイスを選択します。
10. 必要に応じて、HDX接続の表示色数を変更します。

公開イメージから最初のテンプレートを作成するには

11. キー管理服务 (KMS) のライセンス認証キーを持つ公開イメージでは、[Reset the activation time (KMS clients)] を選択することをお勧めします。
12. [Next] をクリックします。[Template Policies] ページが開きます。

The screenshot shows the 'Create a New Desktop Template - Building A' dialog box with the 'Template Policies' tab selected. The 'Template Information' tab is also visible with a green checkmark. The 'Maximum desktops' field is set to 2, and 'Pre-started desktops' is set to 1. Under 'Template will provision:', 'Personal desktop' is selected with a radio button. The 'Personal disk size (GB) (application + personalization space)' is set to 4. A note below states: 'A personal desktop is refreshed only when its image is updated and a user logs out.' The 'Make this the default template' checkbox is unchecked. At the bottom, there is a 'Help' link and 'Back' and 'Save' buttons.

The screenshot shows the 'Create a New Desktop Template - Building A' dialog box with the 'Template Policies' tab selected. The 'Template Information' tab is also visible with a green checkmark. The 'Maximum desktops' field is set to 2, and 'Pre-started desktops' is set to 1. Under 'Template will provision:', 'Pooled desktop' is selected with a radio button. The 'Refresh desktop:' dropdown menu is set to 'On logout'. Two checkboxes are checked: 'Do not reassign desktops "On Hold" to new users' and 'Enable fast refresh of desktops'. The 'Make this the default template' checkbox is unchecked. At the bottom, there is a 'Help' link and 'Back' and 'Save' buttons.

13. [Maximum desktops] ボックスに、このテンプレートで展開するデスクトップの最大数を入力します。
14. [Pre-started desktops] ボックスに、ユーザーが直ちにログオンできるように事前起動しておくデスクトップの数を入力します。ユーザーがテンプレートにアクセスできるように、自動起動デスクトップ数として1以上を指定します。

注：テスト段階では、最大デスクトップ数として2、事前起動デスクトップ数として1を設定することをお勧めします。

15. [Make this the default template] チェックボックスをオンにすると、テンプレートが割り当てられていないユーザーにこのイメージが使用されるようになります。

注：グリッドのデフォルトテンプレートが指定されていない場合、テンプレートが割り当てられていないユーザーの資格情報はログオン時に拒否されます。

16. テンプレートの種類として、[Pooled Desktop] または [Personal Desktop] を選択します。これらの種類では、異なる情報が必要です。
17. [Pooled Desktop] を選択した場合は、[Refresh desktops] ボックスの一覧で、デスクトップの更新方法を選択します。ここでは、ユーザーのデスクトップを、テンプレートから生成した直後の状態に更新するタイミングを指定します。[On logout] を選択した場合、デバッグ上の理由からこれは管理者には適用されません。管理者は、デスクトップライフサイクルイベントをトリガーすることなくログオンやログオフを許可されます。

- ・ On logout : ユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。
- ・ Scheduled : 毎日、毎週、または毎月など、指定した日時にデスクトップが更新されます。使用中のデスクトップも更新するかどうかを指定することもできます。使用中のデスクトップを更新するオプションを選択しない場合は、指定した日時が経過した後にユーザーがログアウトした時点で更新されます。
- ・ Scheduled or on logout : 指定した日時、およびユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。これはユーザーが長時間デスクトップにログオンする環境で役立ちます。
- ・ Manual : デスクトップの更新を手作業で行います。この設定により、特定のユーザーに無期限に割り当てられる「永続デスクトップ」が生成されます。永続デスクトップでは、ユーザーが追加したアプリケーションや変更した設定がログオフ後も永続的に保持されるため、通常のパーソナルコンピューターのように使用できます。

18. [Pooled Desktop] を選択した場合は、ユーザーが保持しているデスクトップがほかのユーザーに割り当てられないように [Do not reassign desktops "On Hold" to new users] を選択します。

注：このオプションは、デフォルトで有効になっています。

19. [Pooled Desktop] を選択した場合は、[Enable fast refresh of desktops] チェックボックスをオンにすると、ユーザーがログオフしたときにデスクトップが高速にリフレッシュされるようになります。

20. [Personal Desktop] を選択した場合は、パーソナルデスクトップのディスクサイズを選択します。
21. [Save] をクリックします。
22. [Close] をクリックします。事前起動として指定した数のデスクトップが起動し、[Assign Users to Desktops] ページが開きます。

テンプレートを編集するには

更新日：2011-10-18

テンプレートを編集することで、デスクトップの最大数や事前起動デスクトップの数などの設定を変更できます。

Webブラウザで、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインします。

1. VDI-in-a-Boxコンソールで、[Templates] タブをクリックします。
2. 編集するテンプレート名を選択します。
3. 必要に応じて設定を変更して、[Save] をクリックします。

重要： [Save] は、[Template Policies] ページ上にあります。

ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て

更新日： 2012-08-29

テンプレートを作成したら、ユーザー、ユーザーグループ、およびIPアドレスにそのテンプレートを割り当てることができます。ユーザーとグループには、複数のテンプレートを割り当てることができます。キオスクなどのIPアドレスにテンプレートを割り当てると、そのキオスクにログオンするすべてのユーザーで同じデスクトップが使用されます。

テンプレートが割り当てられていないユーザーがログオンした場合は、デフォルトテンプレートが使用されます。ただし、デフォルトテンプレートを指定していない場合、そのユーザーの資格情報は拒否されます。

Webブラウザー上に [Assign Users to Desktops] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

ユーザーグループにテンプレートを割り当てるには

1. [Assign Users to Desktops] ページで、[Continue] をクリックします。[Users] ページが開きます。このページには、ユーザーグループ、ユーザー、およびIPアドレスの一覧が表示されます。
2. ユーザーグループの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

Group Name	Description	#	Templates
<input type="text"/>	<input type="text"/>		None

Save | Cancel

Users [Add](#)

3. [Group Name] ボックスに、テンプレートを割り当てるグループの名前を入力します。ユーザーデータベースとしてActive Directoryが使用されている環境では、グループ名の最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたグループ名を選択するには、Enterキーを押します。
4. [Description] ボックスに、グループの説明を入力します。
5. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。[Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、[None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、テンプレート名が [None] に変わります。
6. [Save] をクリックします。グループが一覧に追加されます。
7. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のグループに割り当てます。

ユーザーにテンプレートを割り当てるには

1. ユーザーの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



The screenshot shows a web interface for managing users. At the top, there is a header 'Users' with an 'Add' link. Below it is a table with the following columns: 'User ID', 'First Name', 'Last Name', 'Group', and '# Templates'. The 'User ID' field is highlighted with a yellow border. Below the table, there is a 'Save | Cancel' button. At the bottom of the screenshot, there is a link for 'IP Addresses' with an 'Add' link.

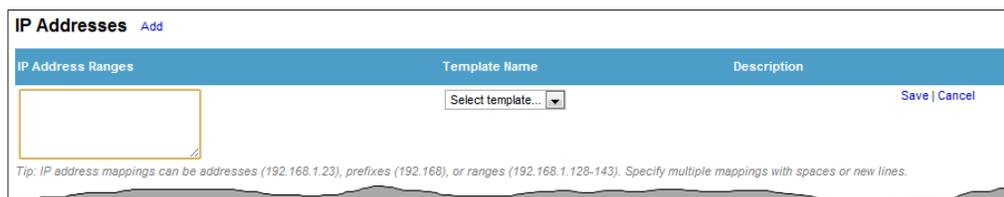
2. [User ID] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーのユーザーIDを入力します。ユーザーデータベースとしてActive Directoryが使用されている環境では、ユーザーIDの最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたIDを選択するには、Enterキーを押します。

注： [First Name]、[Last Name]、および [Group] は空欄でも構いません。そのユーザーの情報がActive Directoryに格納されている場合は、これらの情報が自動的に入力されます。

3. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。 [Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、 [None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、テンプレート名が [None] に変わります。
4. [Save] をクリックします。ユーザーが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のユーザーに割り当てます。

受信IPアドレスにテンプレートを割り当てるには

1. IPアドレスの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



The screenshot shows a web interface titled "IP Addresses" with an "Add" button. Below the title is a table with three columns: "IP Address Ranges", "Template Name", and "Description". The "IP Address Ranges" column contains a large empty text input box. The "Template Name" column contains a dropdown menu labeled "Select template...". The "Description" column is empty. At the bottom right of the form, there are "Save" and "Cancel" buttons. Below the form, a tip reads: "Tip: IP address mappings can be addresses (192.168.1.23), prefixes (192.168), or ranges (192.168.1.128-143). Specify multiple mappings with spaces or new lines."

2. [IP Address Ranges] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーデバイスのIPアドレスの範囲を入力します。個々のアドレス（「192.168.23.143」など）、プレフィックス（「192.168」など）、または範囲（「192.168.10.174-204」など）を指定できます。各エントリは改行またはスペースで区切ります。
3. テンプレートの一覧で、IPアドレスに割り当てるテンプレートを選択します。
4. [Save] をクリックします。IPアドレスが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、IPアドレスに別のテンプレートを割り当てます。

注：テンプレートをIPアドレスに割り当てたら、既存の割り当てを削除するまで再割り当てを行うことはできません。

テンプレートの割り当てを編集するには

1. vdiManager管理コンソールで、[Users] ページを選択します。
2. テンプレートを編集するユーザーグループ、ユーザー、またはIPアドレスにポインターを合わせて [Edit] をクリックします。
3. 必要に応じて編集し、[Save] をクリックします。

ユーザーとしての接続のテスト

更新日：2012-10-08

テンプレートを設定し、テンプレートからデスクトップを作成して、ユーザーに割り当てたら、ユーザーとしてデスクトップにログオンし、接続が正しく機能することを確認します。これを行うには、Citrix Receiverの最新バージョンをインストールしておく必要があります。Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、JRE（Java Runtime Environment）6または7もインストールします。

ユーザーデバイスを準備するには

テスト用のユーザーデバイスを準備するには、HDXで接続できるようにCitrix Receiverをインストールします。

- ・ Citrix Receiverがインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からWebサイトの指示に従ってダウンロードします。
- ・ Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、ユーザーデバイスにJRE 6または7がインストールされているかを確認します。必要な場合は、<https://www.java.com>からWebサイトの指示に従って、最新バージョンを入手します。

デスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって多少異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「<https://<IPaddress>/>（VDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレス）」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
4. [Citrix VDI-in-a-Box] ページの [ユーザー名] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [パスワード] ボックスにパスワードを入力し、[ログオン] をクリックします。
6. 接続するデスクトップをクリックします。仮想デスクトップに接続されます。

WebブラウザからVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「`https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。使用するWebブラウザによっては、「Opening vdiclient.jnlp」ダイアログボックスが開く場合があります。
4. 「Opening vdiclient.jnlp」ダイアログボックスが開いた場合は、「Open with」が選択され、その横の一覧に「Java(TM) Web Start Launcher (default)」が表示されていることを確認して、「OK」をクリックします。
5. 「Citrix VDI-in-a-Box Client」ダイアログボックスにユーザーの資格情報を入力し、「Log On」をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、「Select a Desktop」ダイアログボックスが開きます。
6. 「Connect」をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

コマンドプロンプトからVDI-in-a-Box Java デスクトップクライアントを使用してデスクトッ プに接続するには

以下の手順は、使用するユーザーデバイスによって異なる場合があります。

1. 「コマンドプロンプト」ウィンドウを開きます。
2. 「`javaws https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」というコマンドを入力します。
3. Enterキーを押します。
4. 「Log on」ダイアログボックスの「User name」ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. 「Password」ボックスにパスワードを入力し、「Log On」をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、「Select a Desktop」ダイアログボックスが開きます。
6. 「Connect」をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

Microsoft Hyper-VでのWindows XP イメージの使用

更新日： 2012-08-15

以下のトピックを参照して、Citrix VDI-in-a-Box環境をセットアップします。

- ・ [VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには](#)
- ・ [グリッドを作成して構成する](#)
- ・ [最初のWindowsイメージを作成する](#)
- ・ [公開イメージから最初のテンプレートを作成するには](#)
- ・ [テンプレートを編集するには](#)
- ・ [ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て](#)
- ・ [ユーザーとしての接続のテスト](#)

VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには

更新日： 2012-09-25

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) と呼ばれるVDI-in-a-Box仮想アプライアンスをCitrixのWebサイトからダウンロードして、Microsoft Hyper-Vにインポートします。

ダウンロードパッケージのVDI-in-a-Box_Hyper-V_v5_1_1.zipには、vdiManagerファイルであるvdiManager_Hyper-V_v5_1_1.exeが含まれています。vdiManagerを抽出するには、約2GBの空きディスクスペースが必要です。vdiManager_Hyper-V_v5_1_1.exeを実行すると、vdiManagerがインストールされ、VDI-in-a-Boxが正しく動作するようにMicrosoft Hyper-Vが構成されます。Hyper-Vマネージャーの役割が有効になっていない場合は、vdiManager_Hyper-V_v5_1_1.exeにより有効になります。

注：Microsoft Hyper-Vからアクセス可能な場所にダウンロードして抽出するようにしてください。

1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. My Citrixにログオンしていない場合は、ログオンします。
3. [Downloads] をクリックします。
4. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
5. ダウンロードの種類として、[Product Software] を選択します。
6. [Find] をクリックします。VDI-in-a-Box製品のページが開きます。
7. [VDI-in-a-Box 5.1.1] をクリックします。VDI-in-a-Box 5.1.1のページが開きます。
8. 「Appliances」セクションで、適切なハイパーバイザーの [Download] をクリックします。



ライセンス契約が表示されます。

9. ライセンス契約に同意します。 [Download Manager] ウィンドウが開きます。
10. [Download Now] をクリックします。
11. [Install] をクリックして、VDI-in-a-Box_Hyper-V_v5_1_1.zipを保存します。 ZIPファイルがダウンロードされます。
12. ZIPファイルから、vdiManager_Hyper-V_v5_1_1.exeを抽出します。

グリッドを作成して構成する

更新日：2012-10-29

ここでは、VDI-in-a-Boxマネージャー（vdiManager）をハイパーバイザーにインポートしてから、VDI-in-a-Boxグリッドを構成します。

グリッドは、vdiManagerを実行しているサーバーをグループ化して負荷分散を可能にし、サーバー上の仮想マシンの高可用性を保証します。

また、WebブラウザーでJavaScriptとCookieを有効にしてください。

注：VDI-in-a-Boxで指定したデータストア名を変更しないでください。データストア名を変更すると、デスクトップの生成やクリーンアップに失敗することがあります。

vdiManagerをHyper-Vにインポートするには

Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-V Setupウィザードにより、次のソフトウェアがインストールされます。

- ・ Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-Vコネクタ

注：Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-Vコネクタは、VDI-in-a-Box_Hyper-V_v5_1_1.zipに含まれているものを使用してください。以前のバージョンのコネクタは、サポートされません。

- ・ Citrix VDI-in-a-Boxマネージャーアプライアンス

重要：Hyper-Vでは、仮想マシン（VDI-in-a-Boxマネージャーの仮想マシンも含まれます）を実行しているサーバーのディスクスペースが少なくなると、仮想マシンが自動的に一時停止します。一時停止した仮想マシンは、Paused-Critical状態になります。この問題を解決するには、サーバーの空きディスクスペースを増やしてください。

1. Hyper-Vサーバー上で、vdiManager_Hyper-V_v5_1_1.exeのアイコンをダブルクリックするか、コマンドプロンプトからこのファイルを実行します。Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-V Setupウィザードが起動します。
2. [Next] をクリックします。[Select Destination Location] ページが開きます。
3. デフォルトのインストール先を指定したまま、[Next] をクリックします。[Select Additional Tasks] ページが開きます。
4. [Create Citrix VDI-in-a-Box manager virtual appliance] が選択されている状態で、[Install] をクリックします。

注： [Enable Hyper-V Remote Administration] を選択すると、リモートデバイスから仮想デスクトップを管理できるようになります。

インストール処理が開始されます。インストールが完了すると、 [Welcome to Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-V] ページが開きます。

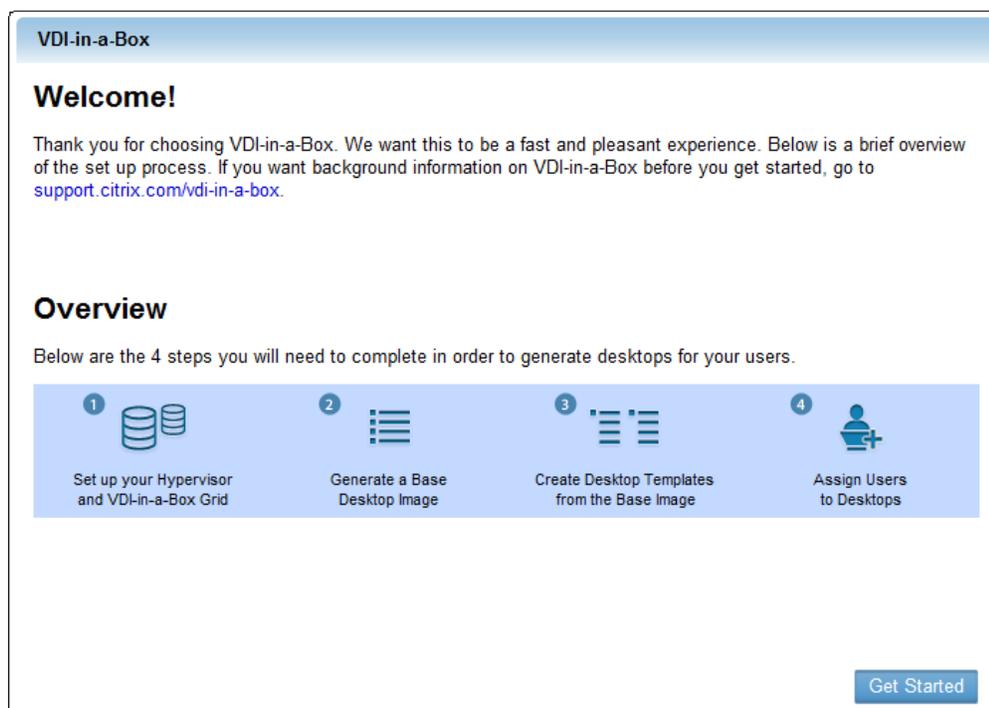
5. [閉じる] をクリックします。
6. [完了] をクリックします。 インポート処理が終了すると、vdiManagerはHyper-Vマネージャー（または代替の管理コンソール）の仮想マシン一覧に「vdiManager_timestamp」という名前が表示されます。

重要： ハイパーバイザーに複数のvdiManagerをインポートしないでください。これを行うと、CPU、RAM、ディスク、およびネットワークが過度に消費され、システムが応答不能になることがあります。

初回セットアップ時にvdiManager管理コンソールを開くには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって多少異なる場合があります。

1. 仮想マシンの一覧でvdiManagerを右クリックし、 [Start] をクリックします。vdiManagerの状態が [Off] から [Running] に変化します。
2. vdiManagerのIPアドレスを取得します。これを行うには、仮想マシンの一覧でvdiManagerを右クリックし、 [Connect] をクリックします。コマンドプロンプトのウィンドウが開き、vdiManagerのIPアドレスが表示されます。
3. このIPアドレスを書き留めておき、コマンドプロンプトのウィンドウを閉じます。
4. WebブラウザーのURLボックスに「`https://<IPaddress>/admin/`」と入力し、Enterキーを押します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
5. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。さらに警告が表示される場合は、それらの警告も受け入れます。 [VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページが開きます。
6. [VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページの [ユーザー名] ボックスに、「`vdiadmin`」と入力します。
7. [パスワード] ボックスに「`kaviza`」と入力し、 [ログオン] をクリックします。 [Welcome] ページが開き、仮想デスクトップを生成するために必要な4つの手順が表示されます。



8.

ハイパーバイザーをセットアップするには

1. [Welcome] ページで、[Get Started] をクリックします。[Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid] ページが開きます。
2. [Continue] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Hypervisor] ページが開きます。
3. [IP Address] ボックスに、ハイパーバイザーを実行しているサーバーのIPアドレスを入力します。
4. [User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーアカウントは、管理者特権を持っている必要があります。
5. [Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Datastore] ページが開きます。

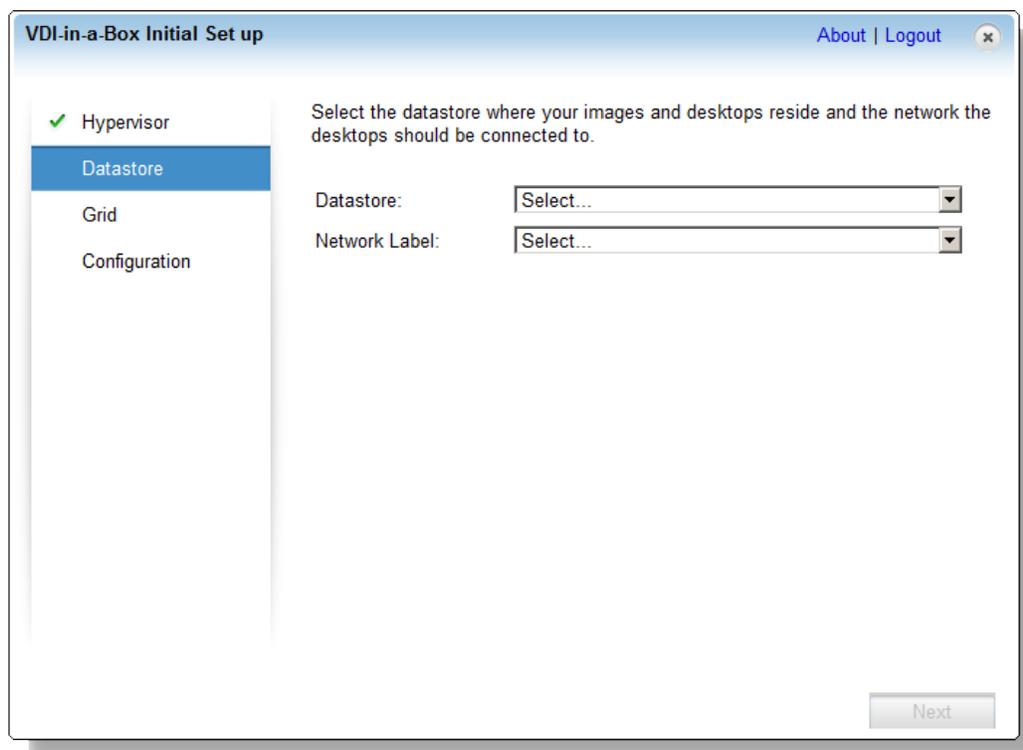
データストアとネットワークラベルをセットアップするには

データストアには、デスクトップのイメージと仮想デスクトップが格納されます。

注：ESXiまたはHyper-Vを使用している場合は、VDI-in-a-Boxで指定したデータストア名を変更しないでください。データストア名を変更すると、デスクトップの生成やクリー

ンアップに失敗することがあります。

1. [Datastore] ページでは、データストアとネットワークラベルを選択します。



2. [Next] をクリックします。データストアの情報が保存され、VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページが開きます。ここでは、新規グリッドを作成したり、既存のグリッドを追加したりできます。

新規または既存のグリッドの選択

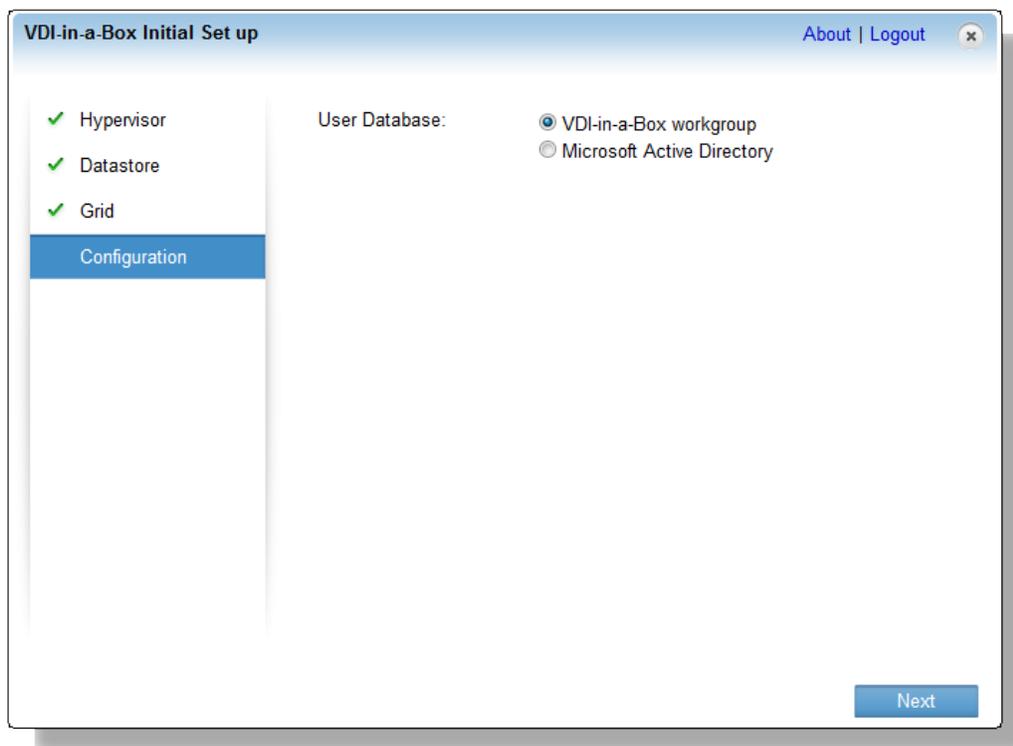
新規のVDI-in-a-Box環境をセットアップする場合は、新規のグリッドを作成します。新規のグリッドを作成するときは、VDI-in-a-Box仮想マシンにアクセスするユーザーとグループを格納しているデータベースに、そのグリッドを関連付ける必要があります。このデータベースとして、Active Directoryサーバー、またはローカルに格納されているワークグループと呼ばれるデータベースを使用できます。

既存のVDI-in-a-Box環境を拡張する場合は、既存のグリッドにこのVDI-in-a-Boxサーバーを追加します。

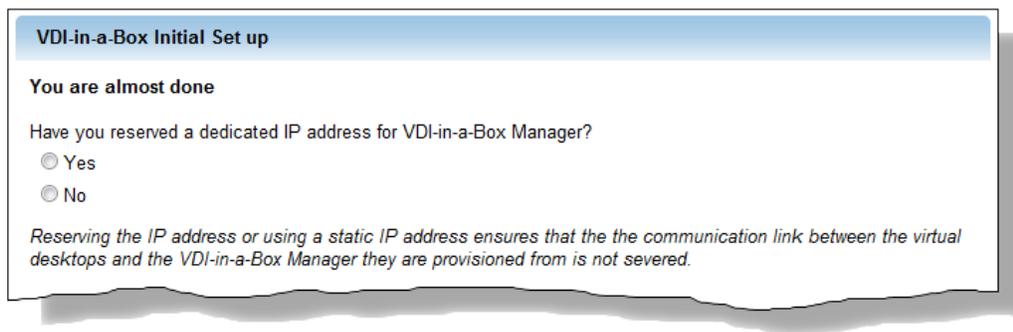
新規のグリッドを作成してデータベースに割り当てるには

1. [Grid] ページで、[Create a new VDI-in-a-Box grid] を選択し、[Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの[Configuration] ページが開きます。
2. [User Database] で、[VDI-in-a-Box workgroup] または [Microsoft Active Directory] を選択します。[Microsoft Active Directory] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。[VDI-in-a-Box workgroup] を選択した場合は、この情報を入力する必要はありません。

The screenshot shows the 'VDI-in-a-Box Initial Set up' wizard window. On the left, a sidebar lists 'Hypervisor', 'Datastore', and 'Grid' with green checkmarks, and 'Configuration' is highlighted in blue. The main area is titled 'User Database:' and contains two radio buttons: 'VDI-in-a-Box workgroup' (unselected) and 'Microsoft Active Directory' (selected). Below these are input fields for 'IP Address' (192.0.2.9), 'Domain' (<domain.com>), 'User Name' (administrator), and 'Password' (masked with dots). A 'Next' button is located at the bottom right.



3. Active Directoryを選択した場合、[IP Address] ボックスに、データベースをホストするサーバーのIPアドレスを入力します。
4. Active Directoryを選択した場合、[Domain] ボックスにDNSドメインを入力します。
5. Active Directoryを選択した場合、[User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
6. [Next] をクリックします。「Have you reserved a dedicated IP address for VDI-in-a-Box Manager?」というメッセージが表示されます。



7. [Yes] または [No] を選択して、[Done] をクリックします。 [Generate a Base Desktop Image] ページが開きます。

既存のグリッドにサーバーを追加するには

1. VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページで、 [Join a VDI-in-a-Box server on an existing grid] を選択し、 [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Configuration] ページが開きます。
2. [Configuration] ページの [IP Address] ボックスに、既存のグリッドで動作している vdiManagerのIPアドレスを入力します。
3. [Configuration] ページの [User Name] および [Password] ボックスに、vdiManager管理コンソールのユーザー名とパスワードを入力します。
4. [Next] をクリックします。 これで、グリッドの構成手順が完了しました。

最初のWindowsイメージを作成する

更新日：2012-08-30

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) をサーバーにインポートして、データストア、データベース、およびグリッドに関連付けたら、最初のWindowsイメージを作成します。

ハイパーバイザーの機能を使用して新しい仮想マシンを作成して、Windowsをインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

ここで作成する仮想マシンは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ 仮想マシン上でWindows XP Professional (32ビット)、Windows 7 Professional、またはEnterprise (32ビットまたは64ビット) が実行されている。
- ・ 仮想マシン上でリモートデスクトップ接続 (RDP) 機能が有効になっている。
- ・ 仮想マシンのネットワークインターフェイスカード (NIC) は1つだけで、Device 0に割り当てられている。
- ・ 仮想マシンのディスクイメージは1つだけである。
- ・ VDI-in-a-Boxにインポートする前に仮想マシンが起動しており、電源がオンの状態になっている。
- ・ 仮想マシンのスナップショットが作成されていない。
- ・ 仮想マシンに4GB以上のディスクの空き領域がある。

イメージのインポートの準備を行うには

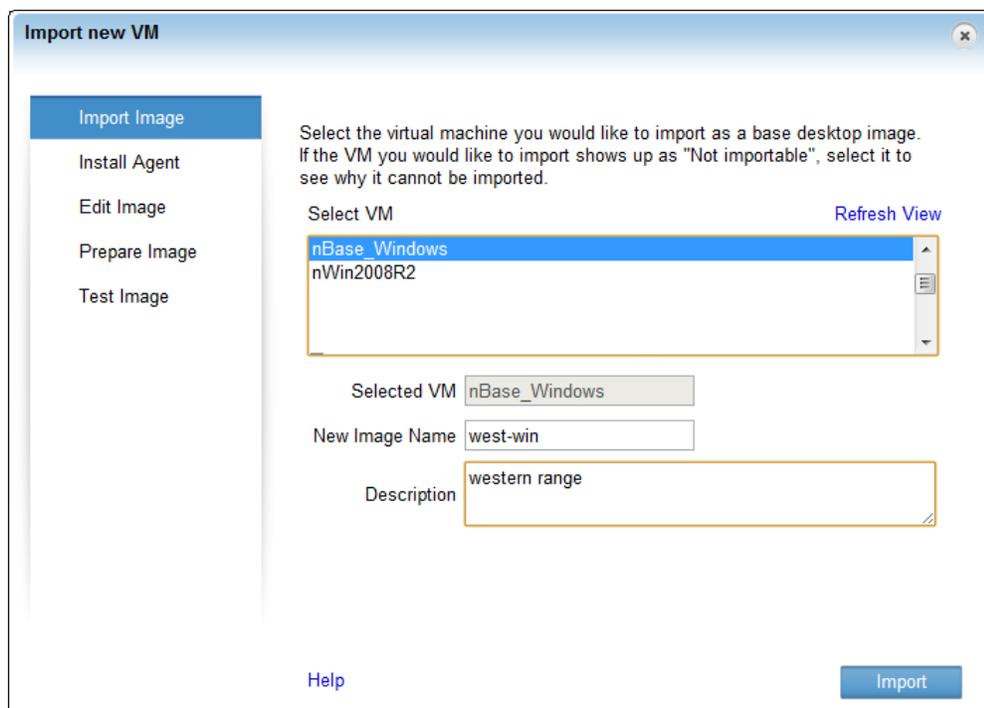
VDI-in-a-Boxとは別に、以下の手順を完了する必要があります。詳しくは、各製造元のドキュメントを参照してください。

1. 必要に応じて、仮想マシンをドメインに参加させます。
注：仮想マシンはワークグループのメンバーでも構いません。
2. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、ユーザーのリモート接続を有効にします。
3. すべてのネットワークのリモートデスクトップ接続を許可するように、ファイアウォール設定の [ファイルとプリンターの共有] を有効にします。詳しくは、使用するファイアウォールのドキュメントを参照してください。

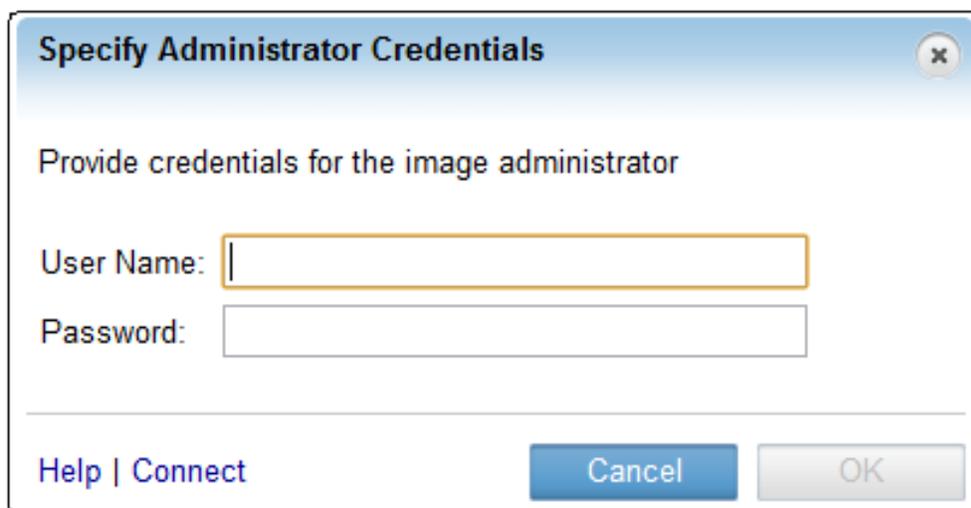
Windows仮想マシンをインポートするには

Webブラウザー上に [Generate a Base Desktop Image] ページが開いていない場合は、セットアップが完了したvdiManager (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1. [Generate a Base Desktop Image] ページで、 [Continue] をクリックします。
2. [Import new VM] ページで、イメージとして使用する仮想マシンを選択します。



3. [New Image Name] ボックスに、インポートした仮想マシンの名前を入力します。インポート元のイメージとは別の名前を指定してください。
4. [Description] ボックスに、仮想マシンの説明を入力し、 [Import] をクリックします。 [Specify Administrator Credentials] ダイアログボックスが開きます。

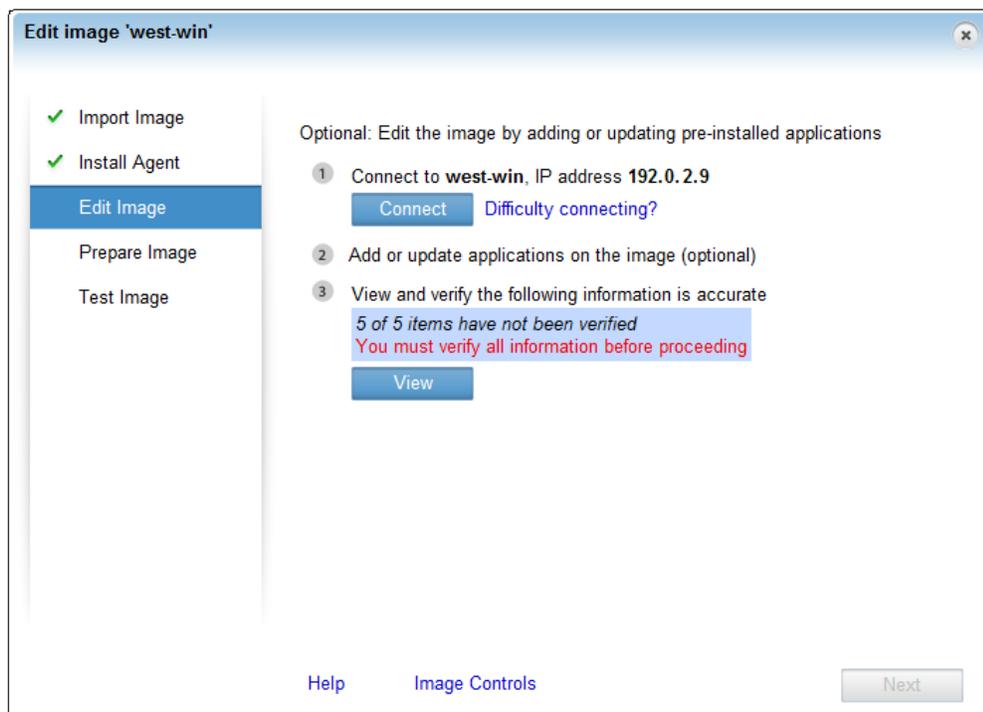


5. イメージの管理者特権を持つアカウントのユーザー名およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。インポートおよびDesktop Agentのインストールによるドラフトイメージの作成が開始され、進捗状況を示す状態ページが開きます。Import new VMウィザードの[Edit Image] ページが開きます。

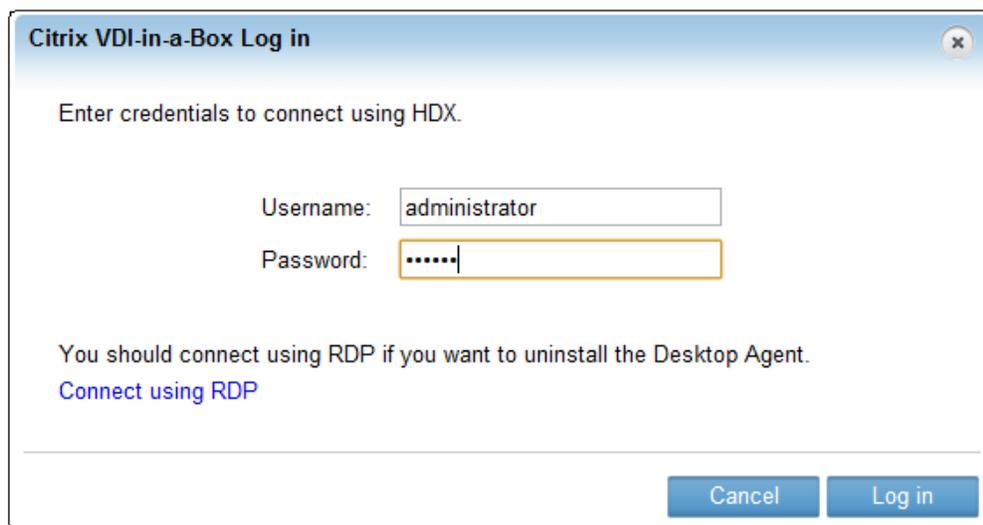
ドラフトイメージを編集するには

エージェントをインストールしたドラフトイメージを編集して、展開する仮想デスクトップに必要なアップデート、設定、パッチ、そのほかのアプリケーションを追加します。イメージからデスクトップを生成するために必要な前提条件を確認するためのチェックリストが表示されます。

1. [Edit Image] ページで、[Connect] をクリックします。



2. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、イメージの管理者特権を持つアカウントの資格情報を入力して [Log in] をクリックします。



3. 必要に応じてイメージを編集し、イメージからログオフします。
4. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

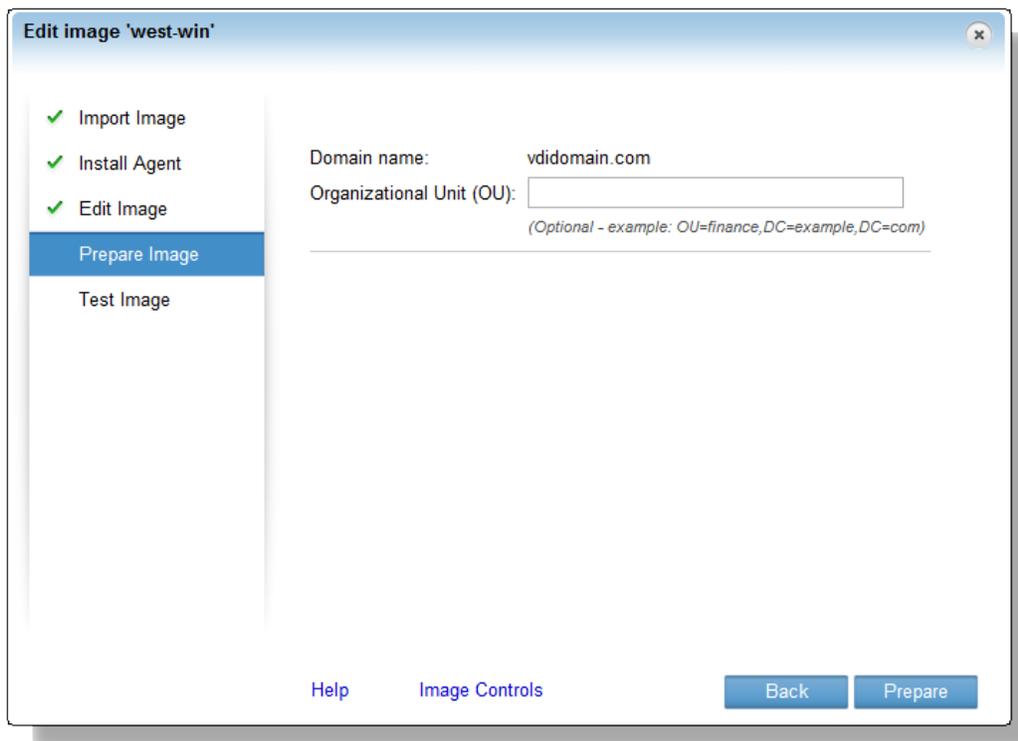
5. [Edit Image] ページで、[View] をクリックします。前提条件の一覧が質問形式で表示されます。

注：ここに表示される前提条件は、ハイパーバイザーとイメージのオペレーティングシステムによって異なります。

6. [Yes] をクリックして、各前提条件を満たしていることを確認します。
7. すべての前提条件を満たしていることを確認した後で、[Done] をクリックします。前提条件の一覧が閉じて、[Edit Image] ページに戻ります。
8. [Next] をクリックします。[Prepare Image] ページが開きます。

イメージの準備を行うには

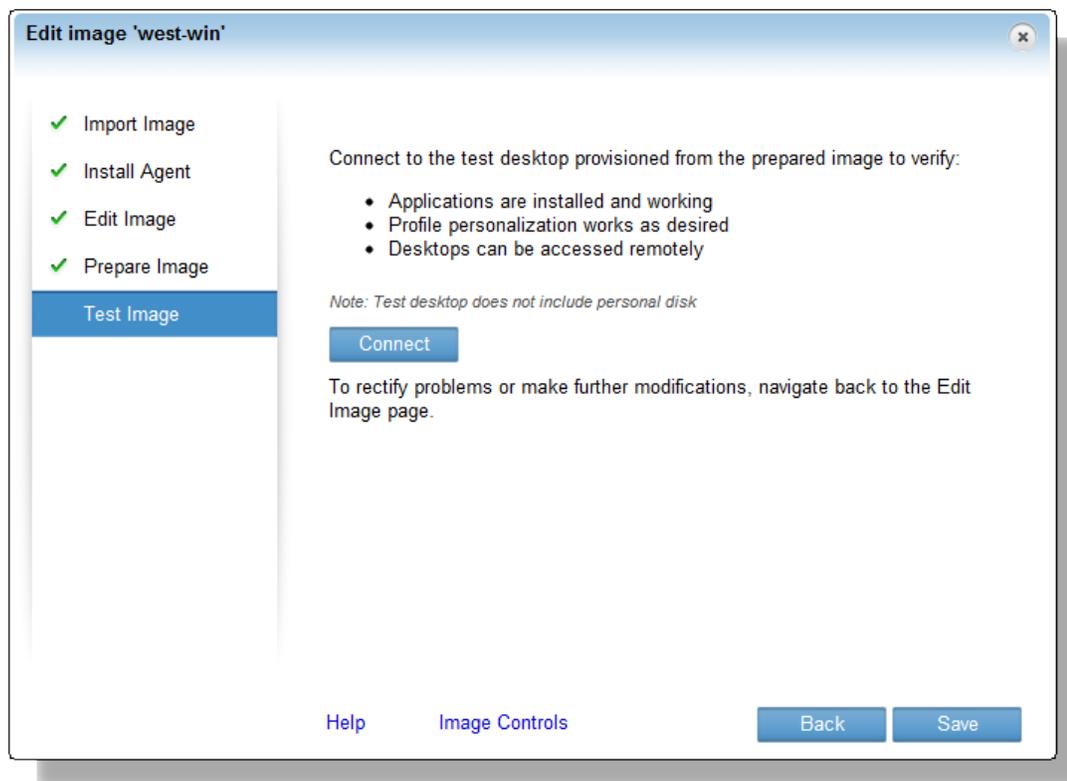
1. [Prepare Image] ページの [Domain name] ボックスで、ドメインを選択します。



2. 必要に応じて、[Organizational unit (OU)] ボックスに、イメージの適用先の組織単位を入力します。
3. [Prepare] をクリックします。[Confirm] メッセージが表示されます。
4. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。[Confirm] メッセージと [Prepare Image] ページが閉じます。進行状況を示す状態ページが開きます。準備されたイメージからテストデスクトップが作成され、[Test Image] ページが開きます。

準備したデスクトップイメージをテストするには

テストイメージを使用して、そのドラフトイメージから適切なデスクトップを生成できるかどうか、およびユーザーがこのデスクトップにHDX接続とRDP接続を確立できるかどうかを検証します。ドラフトイメージを保存すると、テストイメージおよびそのイメージに対する変更内容はすべて削除されます。



1. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。 [Connect to the draft image] ダイアログボックスが開きます。



2. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Citrix HDX] を選択し、[Connect] をクリックします。 [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスが開きます。
3. 資格情報を入力して、[Log in] をクリックします。 HDX接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
4. インストールされているアプリケーションが正常に動作すること、および必要なグループポリシーが適用されていることを確認します。
5. Active Directoryを使用して構成したグリッドでは、ドメインユーザーとしてログオンとログオフを行ってアクセスをテストします。
6. テストイメージからログオフします。 テストイメージが閉じます。
7. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
8. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。
9. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Microsoft RDP] を選択し、[Connect] をクリックします。 RDP接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
10. テストイメージにログオンし、RDP接続が正常に機能しているかどうかを確認して、ログオフします。 テストイメージが閉じます。
11. [Test Image] ページで [Save] をクリックします。 [Confirm] メッセージが表示されます。
12. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。 [Confirm] メッセージと [Test Image] ページが閉じます。 進行状況を示す状態ページが開きます。 [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開きます。

公開イメージから最初のテンプレートを作成するには

更新日： 2012-10-09

ここでは、必要な仕様を満たす同一の仮想デスクトップを生成するためのテンプレートを作成します。テンプレートは、イメージとポリシーで構成されています。イメージにはデスクトップ上で実行されるオペレーティングシステムとアプリケーションが含まれます。イメージの作成について詳しくは、「[最初のWindowsイメージを作成する](#)」を参照してください。

重要： テンプレートを作成する前に、少なくとも1つのイメージの作成と公開を行う必要があります。

テンプレート作成中に設定するポリシーにより、いくつのデスクトップを作成するのか、どれだけのRAMを割り当てるのかなどの特性が定義されます。

テンプレートから生成されるデスクトップに一定のパターンの名前が付けられるように、コンピューター名の先頭（プレフィックス）および末尾（サフィックス）に特定の語を追加します。プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。サフィックスには、最大で4文字の数字を設定できます。サフィックスの上位桁に「0」を使用することもできます（「0001」など）。サフィックスにより生成される番号は、仮想デスクトップの作成ごとに増分されます。たとえば、プレフィックスとして「<name>」、サフィックスとして「0000」を設定し、仮想デスクトップを2つ作成すると、「<name>0001」および「<name>0002」という名前が使用されます。サフィックスの上位桁に「0」を使用しない場合、生成される名前にも「0」が使用されません。たとえば、サフィックスとして「1」を指定すると、「<name>1」、「<name>2」、「<name>3」などの名前が設定されます。

テンプレートでは、デスクトップを事前起動するためのオプションも選択できます。「事前起動デスクトップ」とは、電源が入り、ログオンプロンプトが表示された状態でユーザーのアクセスを待機するデスクトップを指します。事前起動デスクトップでは、ユーザーが仮想デスクトップの起動を待つ必要がありません。事前起動するデスクトップの数を指定すると、ユーザーがログオンするデスクトップの数に応じて、事前起動デスクトップの数が保持されます。たとえば、テンプレートで事前起動デスクトップ数として5を指定した場合、5つの仮想デスクトップが事前起動してユーザーを待機します。2人のユーザーが各自のデスクトップにログオンすると、新たに2台のデスクトップが事前起動され、指定した事前起動デスクトップ数が保持されます。テンプレートで指定した最大数に達するまで、この処理が継続されます。テンプレートの自動起動デスクトップ数を「0」に設定すると、そのテンプレートはシャットダウンし、ユーザーが接続できなくなります。

注： Windows XPを実行するイメージでは、テンプレートによりプールデスクトップだけがプロビジョニングされます。

Webブラウザー上に [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1. [Create Desktop Templates from the Base Image] ページで、[Continue] をクリックします。Create a New Desktop Templateウィザードの [Template

Information] ページが開きます。

Template name: Building A

Image name: west-win View image details

Description: Pooled desktops for Building A

Computer name: Prefix: BuildA Suffix: 0000
1-11 characters 0-4 digits

Memory (MB): 512

Virtual CPUs: 1

Connect these local devices to the VDI-in-a-Box desktop

Disk drives Printers Serial ports

Smart cards Other USB devices

Color depth: True color (32 bit)

Help Next

2. [Template Name] ボックスに、テンプレートの名前を入力します。
3. 使用可能なイメージの一覧から、このテンプレートに関連付けるイメージを選択します。
4. [Description] ボックスに、テンプレートの説明を入力します。
5. [Prefix] ボックスに、生成したイメージの名前に追加されるプレフィックスを入力します。

注：プレフィックスとして、英数字およびハイフン (-) を使用できます。

6. [Suffix] ボックスに、生成したイメージの名前に追加されるサフィックスを入力します。

注：プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。サフィックスとして、1~4文字の数字を使用できます。サフィックスの上位桁に「0」を使用することもできます（「0001」など）。

7. [Memory (MB)] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるメモリを選択します。

注：Windows 7およびWindows Server 2008 R2のデスクトップには、少なくとも1536MBのメモリを割り当てることをお勧めします。Windows XPのデスクトップには、少なくとも512MBのメモリを割り当てる必要があります（1GB以上を推奨）。

8. [Virtual CPUs] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるCPUの数を選択します。
9. ディスクドライブやプリンターなど、仮想デスクトップに接続するローカルデバイスを選択します。

- 必要に応じて、HDX接続の表示色数を変更します。
- [Next] をクリックします。 [Template Policies] ページが開きます。

The screenshot shows a dialog box titled "Create a New Desktop Template - Building A". It has two tabs: "Template Information" (with a green checkmark) and "Template Policies" (which is selected). The "Template Policies" section contains the following settings:

- Maximum desktops: 2
- Pre-started desktops: 1
- Template will provision: Pooled desktop, Personal desktop
- Refresh desktop: On logout (dropdown menu)
- Do not reassign desktops "On Hold" to new users
- Enable fast refresh of desktops
- Make this the default template

At the bottom, there is a "Help" link and two buttons: "Back" and "Save".

- [Maximum desktops] ボックスに、このテンプレートで展開するデスクトップの最大数を入力します。
- [Pre-started desktops] ボックスに、ユーザーが直ちにログオンできるように事前起動しておくデスクトップの数を入力します。ユーザーがテンプレートにアクセスできるように、自動起動デスクトップ数として1以上を指定します。

注：テスト段階では、最大デスクトップ数として2、事前起動デスクトップ数として1を設定することをお勧めします。

- [Refresh desktops] ボックスの一覧で、デスクトップの更新方法を選択します。ここでは、ユーザーのデスクトップを、テンプレートから生成した直後の状態に更新するタイミングを指定します。 [On logout] を選択した場合、デバッグ上の理由からこれは管理者には適用されません。管理者は、デスクトップライフサイクルイベントをトリガーすることなくログオンやログオフを許可されます。

- On logout : ユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。
- Scheduled : 毎日、毎週、または毎月など、指定した日時にデスクトップが更新されます。使用中のデスクトップも更新するかどうかを指定することもできます。使用中のデスクトップを更新するオプションを選択しない場合は、指定した日時が経過した後にユーザーがログアウトした時点で更新されます。
- Scheduled or on logout : 指定した日時、およびユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。これはユーザーが長時間デスクトップにログオンする

環境で役立ちます。

- ・ Manual : デスクトップの更新を手作業で行います。この設定により、特定のユーザーに無期限に割り当てられる「永続デスクトップ」が生成されます。永続デスクトップでは、ユーザーが追加したアプリケーションや変更した設定がログオフ後も永続的に保持されるため、通常のパーソナルコンピュータのように使用できます。
15. [Do not reassign desktops "On Hold" to new users] チェックボックスをオンにすると、デスクトップをユーザーが保持できるようになります。このオプションは、デフォルトで有効になっています。
 16. [Enable fast refresh of desktops] チェックボックスをオンにすると、ユーザーがログオフしたときにデスクトップが高速にリフレッシュされるようになります。

注：グリッドのデフォルトテンプレートが指定されていない場合、テンプレートが割り当てられていないユーザーの資格情報はログオン時に拒否されます。
 17. [Make this the default template] チェックボックスをオンにすると、テンプレートが割り当てられていないユーザーにこのイメージが使用されるようになります。
 18. [Save] をクリックします。
 19. [Close] をクリックします。事前起動として指定した数のデスクトップが起動し、[Assign Users to Desktops] ページが開きます。

テンプレートを編集するには

更新日：2011-10-18

テンプレートを編集することで、デスクトップの最大数や事前起動デスクトップの数などの設定を変更できます。

Webブラウザで、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインします。

1. VDI-in-a-Boxコンソールで、[Templates] タブをクリックします。
2. 編集するテンプレート名を選択します。
3. 必要に応じて設定を変更して、[Save] をクリックします。

重要： [Save] は、[Template Policies] ページ上にあります。

ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て

更新日： 2012-08-29

テンプレートを作成したら、ユーザー、ユーザーグループ、およびIPアドレスにそのテンプレートを割り当てることができます。ユーザーとグループには、複数のテンプレートを割り当てることができます。キオスクなどのIPアドレスにテンプレートを割り当てると、そのキオスクにログオンするすべてのユーザーで同じデスクトップが使用されます。

テンプレートが割り当てられていないユーザーがログオンした場合は、デフォルトテンプレートが使用されます。ただし、デフォルトテンプレートを指定していない場合、そのユーザーの資格情報は拒否されます。

Webブラウザー上に [Assign Users to Desktops] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

ユーザーグループにテンプレートを割り当てるには

1. [Assign Users to Desktops] ページで、[Continue] をクリックします。[Users] ページが開きます。このページには、ユーザーグループ、ユーザー、およびIPアドレスの一覧が表示されます。
2. ユーザーグループの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

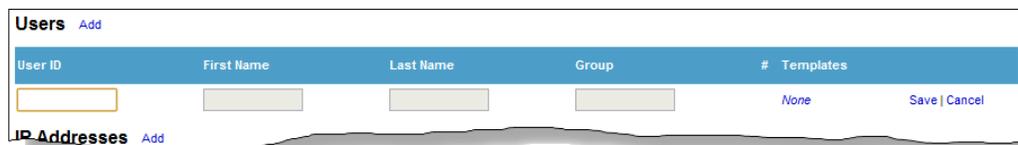
Group Name	Description	#	Templates
<input type="text"/>	<input type="text"/>		None

Users [Add](#) Save | Cancel

3. [Group Name] ボックスに、テンプレートを割り当てるグループの名前を入力します。ユーザーデータベースとしてActive Directoryが使用されている環境では、グループ名の最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたグループ名を選択するには、Enterキーを押します。
4. [Description] ボックスに、グループの説明を入力します。
5. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。[Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、[None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、テンプレート名が [None] に変わります。
6. [Save] をクリックします。グループが一覧に追加されます。
7. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のグループに割り当てます。

ユーザーにテンプレートを割り当てるには

1. ユーザーの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



The screenshot shows a web interface for managing users. At the top, there is a header 'Users' with an 'Add' link. Below it is a table with the following columns: 'User ID', 'First Name', 'Last Name', 'Group', and '# Templates'. The 'User ID' column has an input field. The 'First Name', 'Last Name', and 'Group' columns have empty input fields. The '# Templates' column contains the text 'None'. To the right of the table, there are 'Save | Cancel' buttons. Below the table, there is a link for 'IP Addresses' with an 'Add' link.

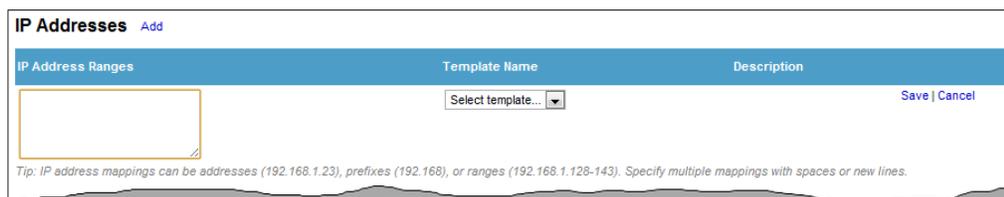
2. [User ID] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーのユーザーIDを入力します。ユーザーデータベースとしてActive Directoryが使用されている環境では、ユーザーIDの最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたIDを選択するには、Enterキーを押します。

注： [First Name]、[Last Name]、および [Group] は空欄でも構いません。そのユーザーの情報がActive Directoryに格納されている場合は、これらの情報が自動的に入力されます。

3. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。 [Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、 [None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、テンプレート名が [None] に変わります。
4. [Save] をクリックします。ユーザーが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のユーザーに割り当てます。

受信IPアドレスにテンプレートを割り当てるには

1. IPアドレスの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



IP Address Ranges	Template Name	Description
<input type="text"/>	Select template... ▼	

Tip: IP address mappings can be addresses (192.168.1.23), prefixes (192.168), or ranges (192.168.1.128-143). Specify multiple mappings with spaces or new lines.

2. [IP Address Ranges] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーデバイスのIPアドレスの範囲を入力します。個々のアドレス（「192.168.23.143」など）、プレフィックス（「192.168」など）、または範囲（「192.168.10.174-204」など）を指定できます。各エントリは改行またはスペースで区切ります。
3. テンプレートの一覧で、IPアドレスに割り当てるテンプレートを選択します。
4. [Save] をクリックします。IPアドレスが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、IPアドレスに別のテンプレートを割り当てます。

注：テンプレートをIPアドレスに割り当てたら、既存の割り当てを削除するまで再割り当てを行うことはできません。

テンプレートの割り当てを編集するには

1. vdiManager管理コンソールで、[Users] ページを選択します。
2. テンプレートを編集するユーザーグループ、ユーザー、またはIPアドレスにポインターを合わせて [Edit] をクリックします。
3. 必要に応じて編集し、[Save] をクリックします。

ユーザーとしての接続のテスト

更新日：2012-10-08

テンプレートを設定し、テンプレートからデスクトップを作成して、ユーザーに割り当てたら、ユーザーとしてデスクトップにログオンし、接続が正しく機能することを確認します。これを行うには、Citrix Receiverの最新バージョンをインストールしておく必要があります。Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、JRE（Java Runtime Environment）6または7もインストールします。

ユーザーデバイスを準備するには

テスト用のユーザーデバイスを準備するには、HDXで接続できるようにCitrix Receiverをインストールします。

- ・ Citrix Receiverがインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からWebサイトの指示に従ってダウンロードします。
- ・ Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、ユーザーデバイスにJRE 6または7がインストールされているかを確認します。必要な場合は、<https://www.java.com>からWebサイトの指示に従って、最新バージョンを入手します。

デスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって多少異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「<https://<IPaddress>/>（VDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレス）」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
4. [Citrix VDI-in-a-Box] ページの [ユーザー名] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [パスワード] ボックスにパスワードを入力し、[ログオン] をクリックします。
6. 接続するデスクトップをクリックします。仮想デスクトップに接続されます。

WebブラウザからVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「`https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。使用するWebブラウザによっては、[Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開く場合があります。
4. [Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開いた場合は、[Open with] が選択され、その横の一覧に [Java(TM) Web Start Launcher (default)] が表示されていることを確認して、[OK] をクリックします。
5. [Citrix VDI-in-a-Box Client] ダイアログボックスにユーザーの資格情報を入力し、[Log On] をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

コマンドプロンプトからVDI-in-a-Box Java デスクトップクライアントを使用してデスクトッ プに接続するには

以下の手順は、使用するユーザーデバイスによって異なる場合があります。

1. [コマンドプロンプト] ウィンドウを開きます。
2. 「`javaws https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」というコマンドを入力します。
3. Enterキーを押します。
4. [Log on] ダイアログボックスの [User name] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [Password] ボックスにパスワードを入力し、[Log On] をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

Microsoft Hyper-VでのWindows Server 2008 R2イメージの使用

更新日： 2012-08-20

以下のトピックを参照して、Citrix VDI-in-a-Box環境をセットアップします。

- ・ [VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには](#)
- ・ [グリッドを作成して構成する](#)
- ・ [最初のWindowsイメージを作成する](#)
- ・ [公開イメージから最初のテンプレートを作成するには](#)
- ・ [テンプレートを編集するには](#)
- ・ [ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て](#)
- ・ [ユーザーとしての接続のテスト](#)

VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには

更新日： 2012-09-25

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) と呼ばれるVDI-in-a-Box仮想アプライアンスをCitrixのWebサイトからダウンロードして、Microsoft Hyper-Vにインポートします。

ダウンロードパッケージのVDI-in-a-Box_Hyper-V_v5_1_1.zipには、vdiManagerファイルであるvdiManager_Hyper-V_v5_1_1.exeが含まれています。vdiManagerを抽出するには、約2GBの空きディスクスペースが必要です。vdiManager_Hyper-V_v5_1_1.exeを実行すると、vdiManagerがインストールされ、VDI-in-a-Boxが正しく動作するようにMicrosoft Hyper-Vが構成されます。Hyper-Vマネージャーの役割が有効になっていない場合は、vdiManager_Hyper-V_v5_1_1.exeにより有効になります。

注：Microsoft Hyper-Vからアクセス可能な場所にダウンロードして抽出するようにしてください。

1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. My Citrixにログオンしていない場合は、ログオンします。
3. [Downloads] をクリックします。
4. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
5. ダウンロードの種類として、[Product Software] を選択します。
6. [Find] をクリックします。VDI-in-a-Box製品のページが開きます。
7. [VDI-in-a-Box 5.1.1] をクリックします。VDI-in-a-Box 5.1.1のページが開きます。
8. 「Appliances」セクションで、適切なハイパーバイザーの [Download] をクリックします。



ライセンス契約が表示されます。

9. ライセンス契約に同意します。 [Download Manager] ウィンドウが開きます。
10. [Download Now] をクリックします。
11. [Install] をクリックして、VDI-in-a-Box_Hyper-V_v5_1_1.zipを保存します。 ZIPファイルがダウンロードされます。
12. ZIPファイルから、vdiManager_Hyper-V_v5_1_1.exeを抽出します。

グリッドを作成して構成する

更新日： 2012-10-29

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) がハイパーバイザーにインポートされ、管理コンソールで利用可能になったら、VDI-in-a-Boxグリッドを構成します。

グリッドは、vdiManagerを実行しているサーバーをグループ化して負荷分散を可能にし、サーバー上の仮想マシンの高可用性を保証します。

また、WebブラウザーでJavaScriptとCookieを有効にしてください。

重要： 既存のvdiManagerが動作するHyper-VサーバーにvdiManagerをインポートしないでください。これを行うと、そのサーバー上のHyper-Vコネクタが既存のグリッドと非互換になり、グリッドが動作しなくなります。

vdiManagerをHyper-Vにインポートするには

Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-V Setupウィザードにより、次のソフトウェアがインストールされます。

- ・ Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-Vコネクタ

注： Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-Vコネクタは、VDI-in-a-Box_Hyper-V_v5_1_1.zipに含まれているものを使用してください。以前のバージョンのコネクタは、サポートされません。

- ・ Citrix VDI-in-a-Boxマネージャーアプライアンス

重要： Hyper-Vでは、仮想マシン (VDI-in-a-Boxマネージャーの仮想マシンも含まれます) を実行しているサーバーのディスクスペースが少なくなると、仮想マシンが自動的に一時停止します。一時停止した仮想マシンは、Paused-Critical状態になります。この問題を解決するには、サーバーの空きディスクスペースを増やしてください。

1. Hyper-Vサーバー上で、vdiManager_Hyper-V_v5_1_1.exeのアイコンをダブルクリックするか、コマンドプロンプトからこのファイルを実行します。Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-V Setupウィザードが起動します。
2. [次へ] をクリックします。[Select Destination Location] ページが開きます。
3. デフォルトのインストール先を指定したまま、[Next] をクリックします。[Select Additional Tasks] ページが開きます。
4. [Create Citrix VDI-in-a-Box manager virtual appliance] が選択されている状態で、[Install] をクリックします。

注： [Enable Hyper-V Remote Administration] を選択すると、リモートデバイスから仮想デスクトップを管理できるようになります。

インストール処理が開始されます。インストールが完了すると、 [Welcome to Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-V] ページが開きます。

5. [閉じる] をクリックします。
6. [完了] をクリックします。 インポート処理が終了すると、vdiManagerはHyper-Vマネージャー（または代替の管理コンソール）の仮想マシン一覧に「vdiManager_timestamp」という名前が表示されます。

注： ハイパーバイザーに複数のvdiManagerをインポートしないでください。これを行うと、CPU、RAM、ディスク、およびネットワークが過度に消費され、システムが応答不能になることがあります。

初回セットアップ時にvdiManager管理コンソールを開くには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって多少異なる場合があります。

1. 仮想マシンの一覧でvdiManagerを選択し、 [Action] メニューの [Start] を選択します。 vdiManagerの状態が [Off] から [Running] に変化します。
2. vdiManagerのIPアドレスを取得します。これを行うには、仮想マシンの一覧でvdiManagerを選択し、 [Action] メニューの [Connect] をクリックします。 コマンドプロンプトのウィンドウが開き、vdiManagerのIPアドレスが表示されます。
3. このIPアドレスを書き留めておき、コマンドプロンプトのウィンドウを閉じます。
4. WebブラウザーのURLボックスに「`https://<IPaddress>/admin/`」と入力し、Enterキーを押します。 Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
5. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。 さらに警告が表示される場合は、それらの警告も受け入れます。 [Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページが開きます。
6. [VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページの [ユーザー名] ボックスに、「`vdiadmin`」と入力します。
7. [パスワード] ボックスに「`kaviza`」と入力し、 [ログオン] をクリックします。 [Welcome] ページが開き、仮想デスクトップの生成を完了するために必要な4つの手順が表示されます。

VDI-in-a-Box

Welcome!

Thank you for choosing VDI-in-a-Box. We want this to be a fast and pleasant experience. Below is a brief overview of the set up process. If you want background information on VDI-in-a-Box before you get started, go to support.citrix.com/vdi-in-a-box.

Overview

Below are the 4 steps you will need to complete in order to generate desktops for your users.

- 
Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid
- 
Generate a Base Desktop Image
- 
Create Desktop Templates from the Base Image
- 
Assign Users to Desktops

[Get Started](#)

ハイパーバイザーをセットアップするには

1. [Welcome] ページで、[Get Started] をクリックします。 [Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid] ページが開きます。
2. [Continue] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Hypervisor] ページが開きます。

The screenshot shows the 'VDI-in-a-Box Initial Set up' window. On the left is a navigation pane with 'Hypervisor' selected. The main area contains the text 'To connect to the hypervisor, please enter the credentials below.' and three input fields: 'IP Address' with '192.0.2.9', 'User Name' with 'administrator', and 'Password' with masked characters. A 'Next' button is at the bottom right.

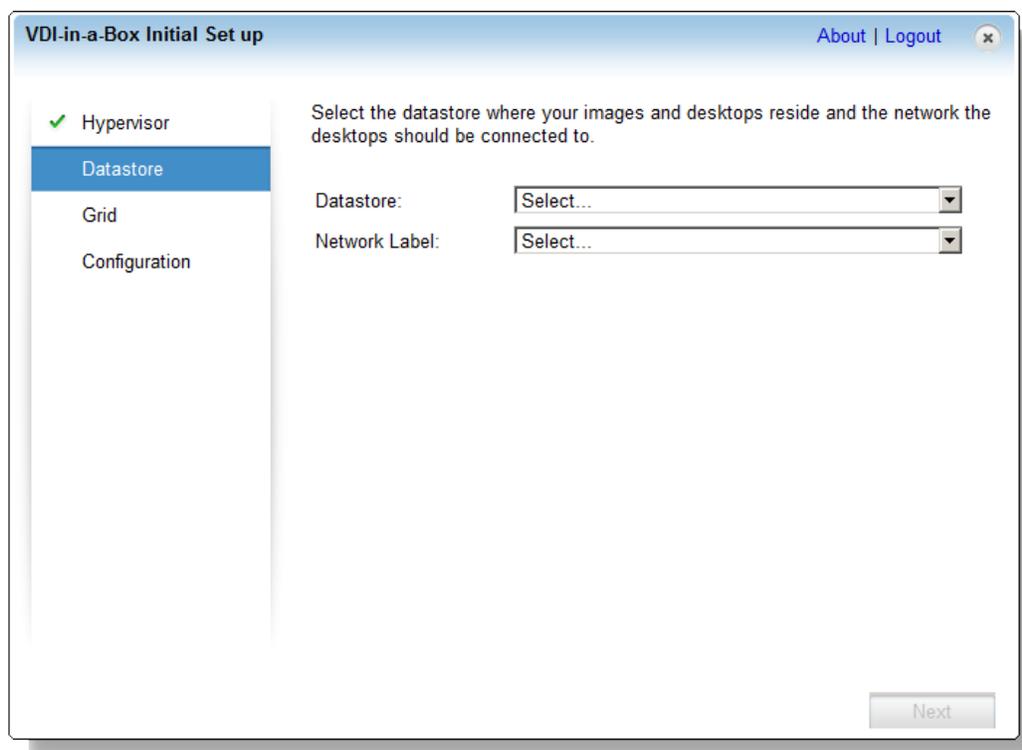
3. [IP Address] ボックスに、ハイパーバイザーを実行しているサーバーのIPアドレスを入力します。
4. [User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーアカウントは、管理者特権を持っている必要があります。
5. [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Datastore] ページが開きます。

データストアとネットワークラベルをセットアップするには

データストアには、デスクトップのイメージと仮想デスクトップが格納されます。

注：VDI-in-a-Boxで指定したデータストア名を変更しないでください。データストア名を変更すると、デスクトップの生成やクリーンアップに失敗することがあります。

1. [Datastore] ページでは、データストアとネットワークラベルを選択します。



2. [Next] をクリックします。データストアの情報が保存され、VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページが開きます。ここでは、新規グリッドを作成したり、既存のグリッドを追加したりできます。

新規または既存のグリッドの選択

新規のVDI-in-a-Box環境をセットアップする場合は、新規のグリッドを作成します。新規のグリッドを作成するときは、VDI-in-a-Box仮想マシンにアクセスするユーザーとグループを格納しているデータベースに、そのグリッドを関連付ける必要があります。このデータベースとして、Active Directoryサーバー、またはローカルに格納されているワークグループと呼ばれるデータベースを使用できます。

既存のVDI-in-a-Box環境を拡張する場合は、既存のグリッドにこのVDI-in-a-Boxサーバーを追加します。

新規のグリッドを作成してデータベースに割り当てるには

1. [Grid] ページで、[Create a new VDI-in-a-Box grid] を選択し、[Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの[Configuration] ページが開きます。
2. [User Database] で、[VDI-in-a-Box workgroup] または [Microsoft Active Directory] を選択します。[Microsoft Active Directory] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。[VDI-in-a-Box workgroup] を選択した場合は、この情報を入力する必要はありません。

VDI-in-a-Box Initial Set up

About | Logout

✓ Hypervisor
✓ Datastore
✓ Grid
Configuration

User Database: VDI-in-a-Box workgroup
 Microsoft Active Directory

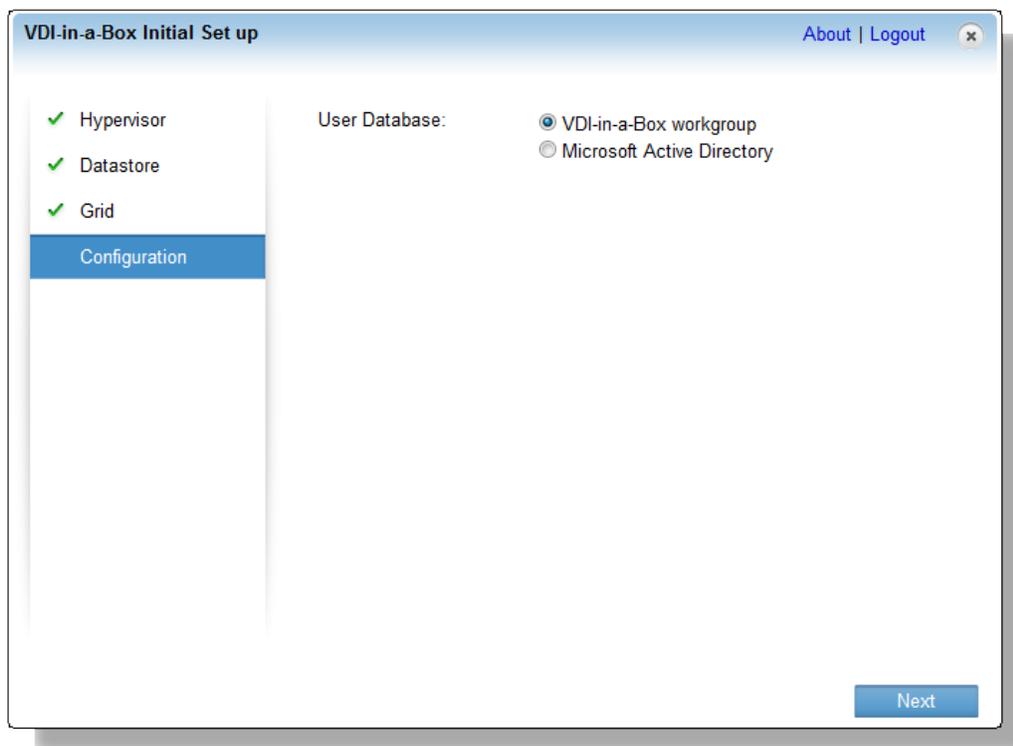
IP Address: 192.0.2.9
(Domain example: example.com)

Domain: <domain.com>

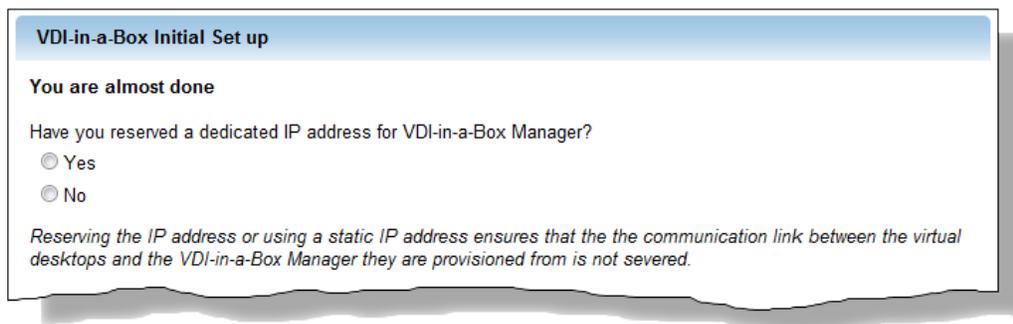
User Name: administrator

Password:

Next



3. Active Directoryを選択した場合、[IP Address] ボックスに、データベースをホストするサーバーのIPアドレスを入力します。
4. Active Directoryを選択した場合、[Domain] ボックスにDNSドメインを入力します。
5. Active Directoryを選択した場合、[User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
6. [Next] をクリックします。「Have you reserved a dedicated IP address for VDI-in-a-Box Manager?」というメッセージが表示されます。



7. [Yes] または [No] を選択して、[Done] をクリックします。 [Generate a Base Desktop Image] ページが開きます。

既存のグリッドにサーバーを追加するには

1. VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページで、 [Join a VDI-in-a-Box server on an existing grid] を選択し、 [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Configuration] ページが開きます。
2. [Configuration] ページの [IP Address] ボックスに、既存のグリッドで動作している vdiManagerのIPアドレスを入力します。
3. [Configuration] ページの [User Name] および [Password] ボックスに、vdiManager管理コンソールのユーザー名とパスワードを入力します。
4. [Next] をクリックします。これで、グリッドの構成手順が完了しました。

最初のWindowsイメージを作成する

更新日： 2012-08-30

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) をサーバーにインポートして、データストア、データベース、およびグリッドに関連付けたら、最初のWindowsイメージを作成します。

ハイパーバイザーの機能を使用して新しい仮想マシンを作成して、Windowsをインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

ここで作成する仮想マシンは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ 仮想マシン上でWindows Server 2008 R2, Enterprise Editionが実行されている。
- ・ 仮想マシン上でリモートデスクトップ接続 (RDP) 機能が有効になっている。
- ・ 仮想マシンのネットワークインターフェイスカード (NIC) は1つだけで、Device 0に割り当てられている。
- ・ 仮想マシンのディスクイメージは1つだけである。
- ・ VDI-in-a-Boxにインポートする前に仮想マシンが起動しており、電源がオンの状態になっている。
- ・ 仮想マシンのスナップショットが作成されていない。
- ・ 仮想マシンに4GB以上のディスクの空き領域がある。

イメージのインポートの準備を行うには

VDI-in-a-Boxとは別に、以下の手順を完了する必要があります。詳しくは、各製造元のドキュメントを参照してください。

1. 有効なMicrosoftボリュームアクティベーションキーを使用して、仮想マシンのライセンス認証を行います。
2. 仮想マシンのローカルの管理者アカウントを有効にします。
3. 必要に応じて、仮想マシンをドメインに参加させます。

注：仮想マシンはワークグループのメンバーでも構いません。

4. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、ユーザーのリモート接続を有効にします。
5. すべてのネットワークのリモートデスクトップ接続を許可するように、ファイアウォール設定の [ファイルとプリンターの共有] を有効にします。詳しくは、使用するファイアウォールのドキュメントを参照してください。

Windows仮想マシンをインポートするには

Webブラウザ上に [Generate a Base Desktop Image] ページが開いていない場合は、セットアップが完了したvdiManager (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1. [Generate a Base Desktop Image] ページで、 [Continue] をクリックします。
2. [Import new VM] ページで、イメージとして使用する仮想マシンを選択します。

Import new VM

Import Image
Install Agent
Edit Image
Prepare Image
Test Image

Select the virtual machine you would like to import as a base desktop image. If the VM you would like to import shows up as "Not importable", select it to see why it cannot be imported.

Select VM Refresh View

nBase_Windows
nWin2008R2

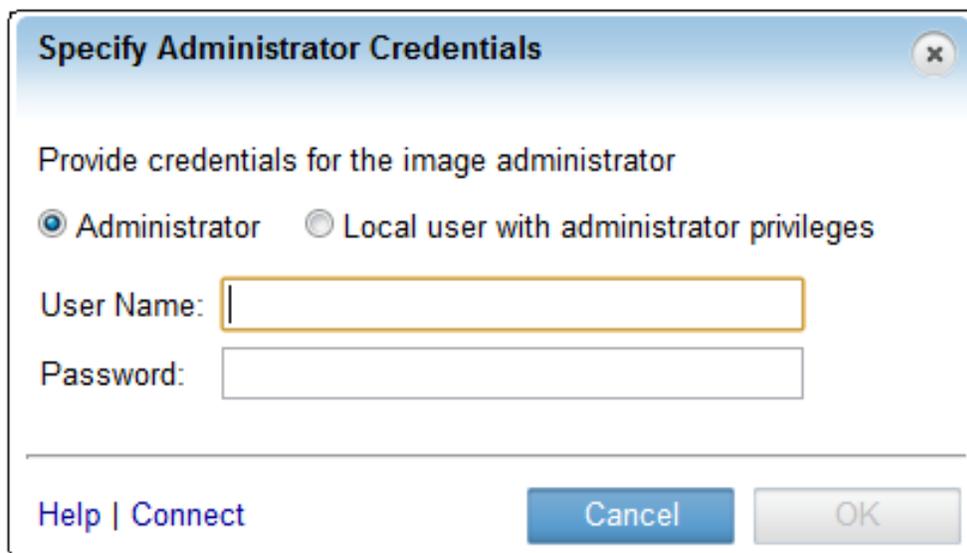
Selected VM nwa-Win2008R2

New Image Name west-win

Description western range

Help Import

3. [New Image Name] ボックスに、インポートした仮想マシンの名前を入力します。
注：インポート元のイメージとは別の名前を指定してください。
4. [Description] ボックスに、仮想マシンの説明を入力し、 [Import] をクリックします。 [Specify Administrator Credentials] ダイアログボックスが開きます。



5. 管理者の資格情報を使用するか、管理者特権を持つローカルユーザーの資格情報を使用するかを選択します。

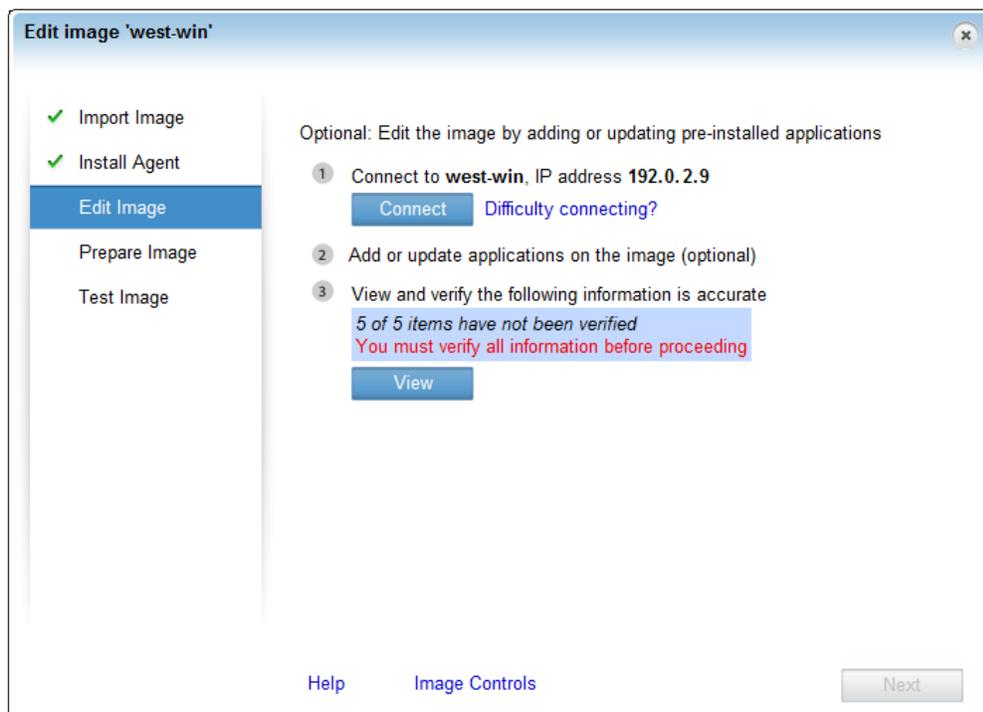
注：管理者特権を持つローカルユーザーの資格情報を使用する場合は、Microsoft Windowsのユーザーアカウント制御（UAC）を無効にする必要があります。詳しくは、[Microsoft社のTechNetライブラリ](#)を参照してください。

6. イメージの管理者特権を持つアカウントのユーザー名およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。インポートおよびDesktop Agentのインストールによるドラフトイメージの作成が開始され、進捗状況を示す状態ページが開きます。Import new VMウィザードの [Edit Image] ページが開きます。

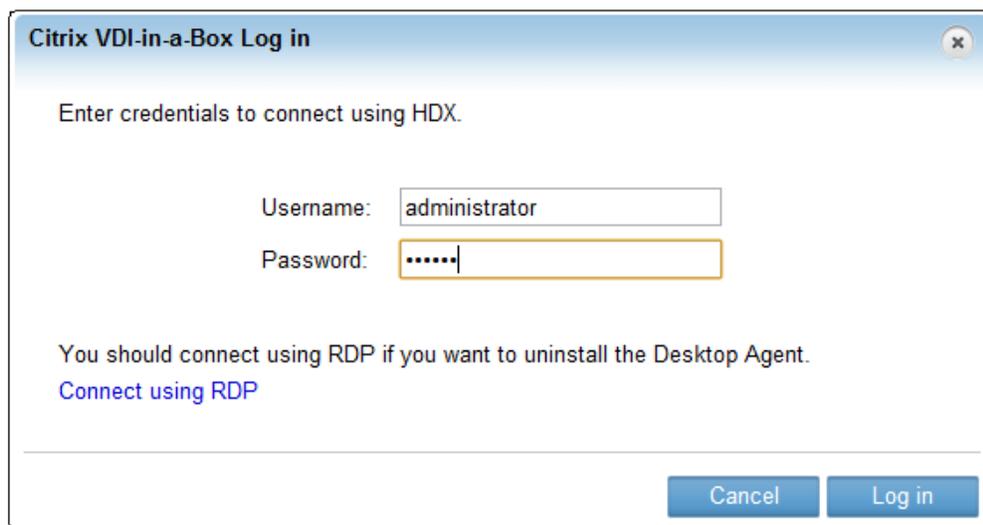
ドラフトイメージを編集するには

エージェントをインストールしたドラフトイメージを編集して、展開する仮想デスクトップに必要なアップデート、設定、パッチ、そのほかのアプリケーションを追加します。イメージからデスクトップを生成するために必要な前提条件を確認するためのチェックリストが表示されます。

1. [Edit Image] ページで、[Connect] をクリックします。



2. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、イメージの管理者特権を持つアカウントの資格情報を入力して [Log in] をクリックします。



3. 必要に応じてイメージを編集し、イメージからログオフします。
4. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

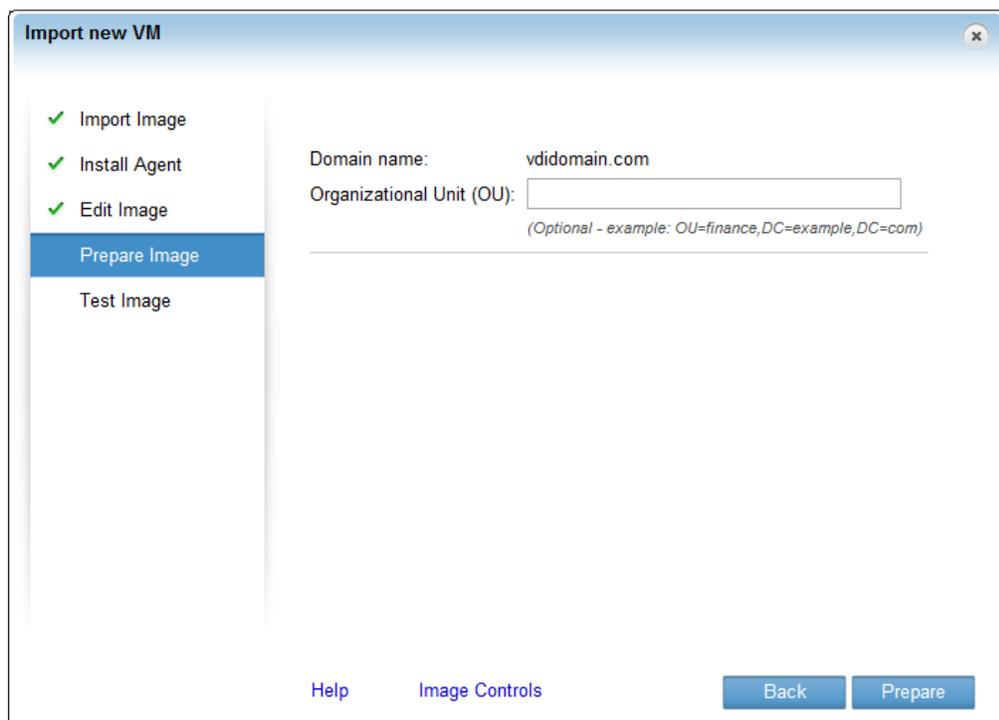
5. [Edit Image] ページで、[View] をクリックします。前提条件の一覧が質問形式で表示されます。

注：ここに表示される前提条件は、ハイパーバイザーとイメージのオペレーティングシステムによって異なります。

6. [Yes] をクリックして、各前提条件を満たしていることを確認します。
7. すべての前提条件を満たしていることを確認した後で、[Done] をクリックします。前提条件の一覧が閉じて、[Edit Image] ページに戻ります。
8. [Next] をクリックします。[Prepare Image] ページが開きます。

イメージの準備を行うには

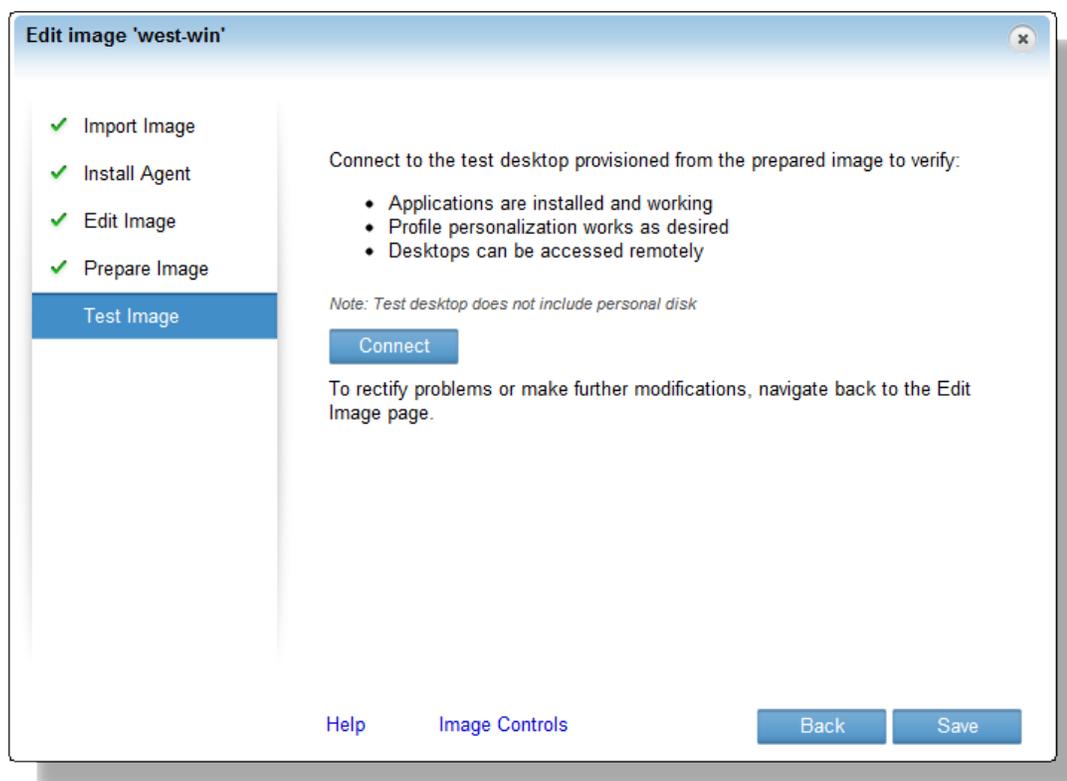
1. [Prepare Image] ページの [Domain name] ボックスの一覧で、ドメインまたはワークグループを選択します（選択可能な場合）。



2. 必要に応じて、[Organizational unit (OU)] ボックスに、イメージの適用先の組織単位を入力します。
3. [Prepare] をクリックします。[Confirm] メッセージが表示されます。
4. [Confirm] をクリックします。[Confirm] メッセージと [Prepare Image] ページが閉じます。進行状況を示す状態ページが開きます。準備されたイメージからテストデスクトップが作成され、[Test Image] ページが開きます。

準備したデスクトップイメージをテストするには

テストイメージを使用して、そのドラフトイメージから適切なデスクトップを生成できるかどうか、およびユーザーがこのデスクトップにHDX接続とRDP接続を確立できるかどうかを検証します。ドラフトイメージを保存すると、テストイメージおよびそのイメージに対する変更内容はすべて削除されます。



1. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。 [Connect to the draft image] ダイアログボックスが開きます。



2. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Citrix HDX] を選択し、[Connect] をクリックします。 [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスが開きます。
3. 資格情報を入力して、[Log in] をクリックします。 HDX接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
4. インストールされているアプリケーションが正常に動作すること、および必要なグループポリシーが適用されていることを確認します。
5. Active Directoryを使用して構成したグリッドでは、ドメインユーザーとしてログオンとログオフを行ってアクセスをテストします。
6. テストイメージからログオフします。 テストイメージが閉じます。
7. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
8. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。
9. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Microsoft RDP] を選択し、[Connect] をクリックします。 RDP接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
10. テストイメージにログオンし、RDP接続が正常に機能しているかどうかを確認して、ログオフします。 テストイメージが閉じます。
11. [Test Image] ページで [Save] をクリックします。 [Confirm] メッセージが表示されます。
12. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。 進行状況を示す状態ページが開きます。 Create a New Desktop Templateウィザードの [Template Information] ページが開きます。

公開イメージから最初のテンプレートを作成するには

更新日： 2012-10-09

ここでは、必要な仕様を満たす同一の仮想デスクトップを生成するためのテンプレートを作成します。テンプレートは、イメージとポリシーで構成されています。イメージにはデスクトップ上で実行されるオペレーティングシステムとアプリケーションが含まれます。イメージの作成について詳しくは、「[最初のWindowsイメージを作成する](#)」を参照してください。1つのイメージを複数のテンプレートで使用することができます。

重要： テンプレートを作成する前に、少なくとも1つのイメージの作成と公開を行う必要があります。

テンプレート作成中に設定するポリシーにより、いくつのデスクトップを作成するのか、どれだけのRAMを割り当てるのかなどの特性が定義されます。

テンプレートから生成されるデスクトップに一定のパターンの名前が付けられるように、コンピューター名の先頭（プレフィックス）および末尾（サフィックス）に特定の語を追加します。プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。サフィックスの上位桁に「0」を使用でき、4桁まで指定できます（「0001」など）。サフィックスにより生成される番号は、仮想デスクトップの作成ごとに増分されます。たとえば、プレフィックスとして「<name>」、サフィックスとして「0000」を設定し、仮想デスクトップを2つ作成すると、「<name>0001」および「<name>0002」という名前が使用されます。サフィックスの上位桁に「0」を使用しない場合、生成される名前にも「0」が使用されません。たとえば、サフィックスとして「1」を指定すると、「<name>1」、「<name>2」、「<name>3」などの名前が設定されます。

テンプレートでは、デスクトップを事前起動するためのオプションも選択できます。「事前起動デスクトップ」とは、電源が入り、ログオンプロンプトが表示された状態でユーザーのアクセスを待機するデスクトップを指します。事前起動デスクトップでは、ユーザーが仮想デスクトップの起動を待つ必要がありません。事前起動するデスクトップの数を指定すると、ユーザーがログオンするデスクトップの数に応じて、事前起動デスクトップの数が保持されます。たとえば、テンプレートで事前起動デスクトップ数として5を指定した場合、5つの仮想デスクトップが事前起動してユーザーを待機します。2人のユーザーが各自のデスクトップにログオンすると、新たに2台のデスクトップが事前起動され、指定した事前起動デスクトップ数が保持されます。テンプレートで指定した最大数に達するまで、この処理が継続されます。テンプレートの自動起動デスクトップ数を「0」に設定すると、そのテンプレートはシャットダウンし、ユーザーが接続できなくなります。

注： Windows XPを実行するイメージでは、テンプレートによりプールデスクトップだけがプロビジョニングされます。

Webブラウザー上に [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1. [Create Desktop Templates from the Base Image] ページで、[Continue] をクリックします。Create a New Desktop Templateウィザードの [Template

Information] ページが開きます。

The screenshot shows the 'Create a New Desktop Template' dialog box. The 'Template Information' tab is active. The fields are filled with the following values: Template name: Building A; Image name: west-win; Description: Pooled desktops for Building A; Computer name: Prefix: BuildA, Suffix: 0000; Memory (MB): 1536; Virtual CPUs: 1. There are also checkboxes for connecting local devices (Disk drives, Printers, Serial ports, Smart cards, Other USB devices) and a checkbox for 'Reset the activation timer (KMS clients)'. A 'Next' button is at the bottom right.

2. [Template Name] ボックスに、テンプレートの名前を入力します。
3. 使用可能なイメージの一覧から、このテンプレートに関連付けるイメージを選択します。
4. [Description] ボックスに、テンプレートの説明を入力します。
5. [Prefix] ボックスに、生成したイメージの名前に追加されるプレフィックスを入力します。

注：プレフィックスとして、英数字およびハイフン (-) を使用できます。

6. [Suffix] ボックスに、生成したイメージの名前に追加されるサフィックスを入力します。

注：プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。サフィックスとして、1~4文字の数字を使用できます。サフィックスの上位桁に「0」を使用することもできます（「0001」など）。

7. [Memory (MB)] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるメモリを選択します。

注：Windows 7およびWindows Server 2008 R2のデスクトップには、少なくとも1536MBのメモリを割り当てることをお勧めします。Windows XPのデスクトップには、少なくとも512MBのメモリを割り当てる必要があります（1GB以上を推奨）。

8. [Virtual CPUs] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるCPUの数を選択します。

9. ディスクドライブやプリンターなど、仮想デスクトップに接続するローカルデバイスを選択します。

- 必要に応じて、HDX接続の表示色数を変更します。
- キー管理服务 (KMS) のライセンス認証キーを持つ公開イメージでは、[Reset the activation time (KMS clients)] を選択することをお勧めします。
- [Next] をクリックします。 [Template Policies] ページが開きます。

The screenshot shows a dialog box titled "Create a New Desktop Template - Building A". On the left, there is a sidebar with two tabs: "Template Information" (with a green checkmark) and "Template Policies" (which is selected and highlighted in blue). The main area contains the following settings:

- Maximum desktops: 2
- Pre-started desktops: 1
- Template will provision: Pooled desktop, Personal desktop
- Refresh desktop: On logout (dropdown menu)
- Do not reassign desktops "On Hold" to new users
- Enable fast refresh of desktops
- Make this the default template

At the bottom, there are three buttons: "Help" (text link), "Back", and "Save".

- [Maximum desktops] ボックスに、このテンプレートで展開するデスクトップの最大数を入力します。
- [Pre-started desktops] ボックスに、ユーザーが直ちにログオンできるように事前起動しておくデスクトップの数を入力します。ユーザーがテンプレートにアクセスできるように、自動起動デスクトップ数として1以上を指定します。テスト段階では、最大デスクトップ数として2、事前起動デスクトップ数として1を設定することをお勧めします。
- [Refresh desktop] ボックスの一覧で、デスクトップの更新方法を選択します。ここでは、ユーザーのデスクトップを、テンプレートから生成した直後の状態に更新するタイミングを指定します。[On logout] を選択した場合、デバッグ上の理由からこれは管理者には適用されません。管理者は、デスクトップライフサイクルイベントをトリガーすることなくログオンやログオフを許可されます。
 - On logout : ユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。
 - Scheduled : 毎日、毎週、または毎月など、指定した日時にデスクトップが更新されます。使用中のデスクトップも更新するかどうかを指定することもできます。使用中のデスクトップを更新するオプションを選択しない場合は、指定した日時が経過した後にユーザーがログアウトした時点で更新されます。

- ・ Scheduled or on logout : 指定した日時、およびユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。これはユーザーが長時間デスクトップにログオンする環境で役立ちます。
 - ・ Manual : デスクトップの更新を手作業で行います。この設定により、特定のユーザーに無期限に割り当てられる「永続デスクトップ」が生成されます。永続デスクトップでは、ユーザーが追加したアプリケーションや変更した設定がログオフ後も永続的に保持されるため、通常のパーソナルコンピューターのように使用できます。
16. [Do not reassign desktops "On Hold" to new users] チェックボックスをオンにすると、デスクトップをユーザーが保持できるようになります。

注 : このオプションは、デフォルトで有効になっています。
 17. [Enable fast refresh of desktops] チェックボックスをオンにすると、ユーザーがログオフしたときにデスクトップが高速にリフレッシュされるようになります。
 18. [Make this the default template] チェックボックスをオンにすると、テンプレートが割り当てられていないユーザーにこのテンプレートが使用されるようになります。

注 : グリッドのデフォルトテンプレートが指定されていない場合、テンプレートが割り当てられていないユーザーの資格情報はログオン時に拒否されます。
 19. [Save] をクリックします。
 20. [Close] をクリックします。

テンプレートを編集するには

更新日：2012-08-15

テンプレートを編集することで、デスクトップの最大数や事前起動デスクトップの数などの設定を変更できます。

Webブラウザで、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインします。

1. vdiManager管理コンソールで、[Templates] タブをクリックします。
2. 編集するテンプレート名を選択します。
3. 必要に応じて設定を変更して、[Save] をクリックします。

注：[Save] は、[Template Policies] ページ上にあります。

ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て

更新日： 2012-08-29

テンプレートを作成したら、ユーザー、ユーザーグループ、およびIPアドレスにそのテンプレートを割り当てることができます。ユーザーとグループには、複数のテンプレートを割り当てることができます。キオスクなどのIPアドレスにテンプレートを割り当てると、そのキオスクにログオンするすべてのユーザーで同じデスクトップが使用されます。

テンプレートが割り当てられていないユーザーがログオンした場合は、デフォルトテンプレートが使用されます。ただし、デフォルトテンプレートを指定していない場合、そのユーザーの資格情報は拒否されます。

Webブラウザー上に [Assign Users to Desktops] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

ユーザーグループにテンプレートを割り当てるには

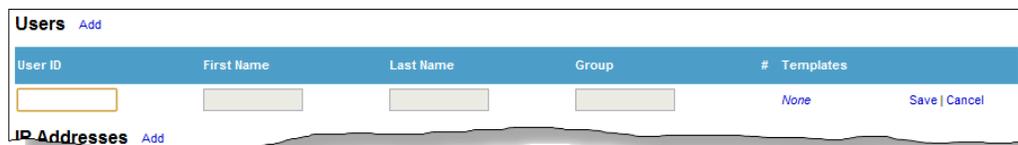
1. [Assign Users to Desktops] ページで、[Continue] をクリックします。[Users] ページが開きます。このページには、ユーザーグループ、ユーザー、およびIPアドレスの一覧が表示されます。
2. ユーザーグループの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

Group Name	Description	#	Templates
<input type="text"/>	<input type="text"/>		None

3. [Group Name] ボックスに、テンプレートを割り当てるグループの名前を入力します。ユーザーデータベースとしてActive Directoryが使用されている環境では、グループ名の最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたグループ名を選択するには、Enterキーを押します。
4. [Description] ボックスに、グループの説明を入力します。
5. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。[Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、[None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、テンプレート名が [None] に変わります。
6. [Save] をクリックします。グループが一覧に追加されます。
7. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のグループに割り当てます。

ユーザーにテンプレートを割り当てるには

1. ユーザーの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



The screenshot shows a web interface for managing users. At the top, there is a header 'Users' with an 'Add' link. Below it is a table with the following columns: 'User ID', 'First Name', 'Last Name', 'Group', and '# Templates'. The 'User ID' column has an input field. The 'First Name' and 'Last Name' columns have input fields. The 'Group' column has an input field. The '# Templates' column contains the text 'None'. To the right of the table, there are 'Save | Cancel' buttons. Below the table, there is a link for 'IP Addresses' with an 'Add' link.

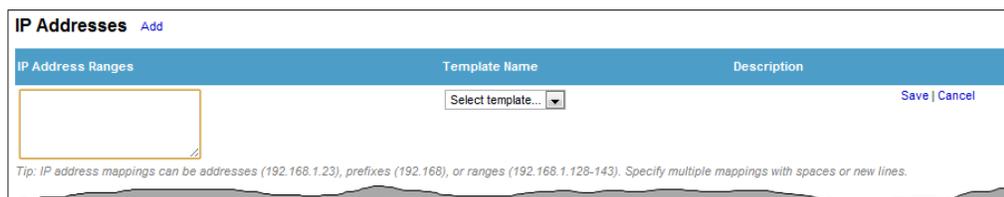
2. [User ID] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーのユーザーIDを入力します。ユーザーデータベースとしてActive Directoryが使用されている環境では、ユーザーIDの最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたIDを選択するには、Enterキーを押します。

注： [First Name]、[Last Name]、および [Group] は空欄でも構いません。そのユーザーの情報がActive Directoryに格納されている場合は、これらの情報が自動的に入力されます。

3. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。 [Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、 [None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、テンプレート名が [None] に変わります。
4. [Save] をクリックします。ユーザーが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のユーザーに割り当てます。

受信IPアドレスにテンプレートを割り当てるには

1. IPアドレスの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



The screenshot shows a web interface titled "IP Addresses" with an "Add" button. Below the title is a table with three columns: "IP Address Ranges", "Template Name", and "Description". The "IP Address Ranges" column contains a large empty text input box. The "Template Name" column contains a dropdown menu labeled "Select template...". The "Description" column is empty. At the bottom right of the form are "Save" and "Cancel" buttons. Below the form, a tip reads: "Tip: IP address mappings can be addresses (192.168.1.23), prefixes (192.168), or ranges (192.168.1.128-143). Specify multiple mappings with spaces or new lines."

2. [IP Address Ranges] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーデバイスのIPアドレスの範囲を入力します。個々のアドレス（「192.168.23.143」など）、プレフィックス（「192.168」など）、または範囲（「192.168.10.174-204」など）を指定できます。各エントリは改行またはスペースで区切ります。
3. テンプレートの一覧で、IPアドレスに割り当てるテンプレートを選択します。
4. [Save] をクリックします。IPアドレスが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、IPアドレスに別のテンプレートを割り当てます。

注：テンプレートをIPアドレスに割り当てたら、既存の割り当てを削除するまで再割り当てを行うことはできません。

テンプレートの割り当てを編集するには

1. vdiManager管理コンソールで、[Users] ページを選択します。
2. テンプレートを編集するユーザーグループ、ユーザー、またはIPアドレスにポインターを合わせて [Edit] をクリックします。
3. 必要に応じて編集し、[Save] をクリックします。

ユーザーとしての接続のテスト

更新日：2012-10-08

テンプレートを設定し、テンプレートからデスクトップを作成して、ユーザーに割り当てたら、ユーザーとしてデスクトップにログオンし、接続が正しく機能することを確認します。これを行うには、Citrix Receiverの最新バージョンをインストールしておく必要があります。Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、JRE（Java Runtime Environment）6または7もインストールします。

ユーザーデバイスを準備するには

テスト用のユーザーデバイスを準備するには、HDXで接続できるようにCitrix Receiverをインストールします。

- ・ Citrix Receiverがインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からWebサイトの指示に従ってダウンロードします。
- ・ Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、ユーザーデバイスにJRE 6または7がインストールされているかを確認します。必要な場合は、<https://www.java.com>からWebサイトの指示に従って、最新バージョンを入手します。

デスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって多少異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「<https://<IPaddress>/>（VDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレス）」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
4. [Citrix VDI-in-a-Box] ページの [ユーザー名] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [パスワード] ボックスにパスワードを入力し、[ログオン] をクリックします。
6. 接続するデスクトップをクリックします。仮想デスクトップに接続されます。

WebブラウザからVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「`https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。使用するWebブラウザによっては、「Opening vdiclient.jnlp」ダイアログボックスが開く場合があります。
4. 「Opening vdiclient.jnlp」ダイアログボックスが開いた場合は、「Open with」が選択され、その横の一覧に「Java(TM) Web Start Launcher (default)」が表示されていることを確認して、「OK」をクリックします。
5. 「Citrix VDI-in-a-Box Client」ダイアログボックスにユーザーの資格情報を入力し、「Log On」をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、「Select a Desktop」ダイアログボックスが開きます。
6. 「Connect」をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

コマンドプロンプトからVDI-in-a-Box Java デスクトップクライアントを使用してデスクトッ プに接続するには

以下の手順は、使用するユーザーデバイスによって異なる場合があります。

1. 「コマンドプロンプト」ウィンドウを開きます。
2. 「`javaws https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」というコマンドを入力します。
3. Enterキーを押します。
4. 「Log on」ダイアログボックスの「User name」ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. 「Password」ボックスにパスワードを入力し、「Log On」をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、「Select a Desktop」ダイアログボックスが開きます。
6. 「Connect」をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

VMware ESXiでのWindows 7イメージの使用

更新日： 2012-08-17

以下のトピックを参照して、Citrix VDI-in-a-Box環境をセットアップします。

- ・ [VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには](#)
- ・ [グリッドを作成して構成する](#)
- ・ [最初のWindowsイメージを作成する](#)
- ・ [公開イメージから最初のテンプレートを作成するには](#)
- ・ [テンプレートを編集するには](#)
- ・ [ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て](#)
- ・ [ユーザーとしての接続のテスト](#)

VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには

更新日： 2012-09-25

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) と呼ばれるVDI-in-a-Box仮想アプライアンスをCitrixのWebサイトからダウンロードして、VMware ESXiにインポートします。

ダウンロードパッケージのVDI-in-a-Box_ESX_v5_1_1.zipには、vdiManagerファイルであるvdiManager_ESX_v5_1_1.ovaが含まれています。vdiManagerを抽出するには、約2GBの空きディスクスペースが必要です。

注：VMware VSphereクライアントからアクセス可能な場所にダウンロードして抽出するようにしてください。

1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. My Citrixにログオンしていない場合は、ログオンします。
3. [Downloads] をクリックします。
4. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
5. ダウンロードの種類として、[Product Software] を選択します。
6. [Find] をクリックします。VDI-in-a-Box製品のページが開きます。
7. [VDI-in-a-Box 5.1.1] をクリックします。VDI-in-a-Box 5.1.1のページが開きます。
8. 「Appliances」セクションで、適切なハイパーバイザーの [Download] をクリックします。



ライセンス契約が表示されます。

9. ライセンス契約に同意します。 [Download Manager] ウィンドウが開きます。
10. [Download Now] をクリックします。
11. [Install] をクリックして、VDI-in-a-Box_ESX_v5_1_1.zipを保存します。 ZIPファイルがダウンロードされます。
12. ZIPファイルから、vdiManager_ESX_v5_1_1.ovaを抽出します。

vdiManagerをインポートするには

vdiManager_ESX_v5_1_1.ovaを抽出したら、このvdiManagerファイルをVMware vSphereクライアントを使用してVMware ESXi上にインポートします。 VSphereクライアントを使用したインポートについては、<http://www.vmware.com/>を参照してください。 インポート処理が終了すると、vdiManagerはvSphereクライアント管理コンソール内に仮想マシンとして表示されます。

重要： ハイパーバイザーに複数のvdiManagerをインポートしないでください。 これを行うと、CPU、RAM、ディスク、およびネットワークが過度に消費され、システムが応答不能になることがあります。

グリッドを作成して構成する

更新日：2012-10-29

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) がハイパーバイザーにインポートされ、管理コンソールで利用可能になったら、VDI-in-a-Boxグリッドを構成します。

グリッドは、vdiManagerを実行しているサーバーをグループ化して負荷分散を可能にし、サーバー上の仮想マシンの高可用性を保証します。

また、WebブラウザーでJavaScriptとCookieを有効にしてください。

初回セットアップ時にvdiManager管理コンソールを開くには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって多少異なる場合があります。

1. ハイパーバイザー上でvdiManagerが起動しており、電源がオンの状態であることを確認します。

注：vdiManager仮想アプライアンスのIPアドレスを書き留めていない場合は、書き留めます。
2. WebブラウザーのURLボックスに「**https://<IPaddress>/admin/**」と入力し、Enterキーを押します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。さらに警告が表示される場合は、それらの警告も受け入れます。[Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページが開きます。
4. [Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページの [ユーザー名] ボックスに、「**vdiadmin**」と入力します。
5. [パスワード] ボックスに「**kaviza**」と入力し、[ログオン] をクリックします。[Welcome] ページが開き、仮想デスクトップを生成するために必要な4つの手順が表示されます。

VDI-in-a-Box

Welcome!

Thank you for choosing VDI-in-a-Box. We want this to be a fast and pleasant experience. Below is a brief overview of the set up process. If you want background information on VDI-in-a-Box before you get started, go to support.citrix.com/vdi-in-a-box.

Overview

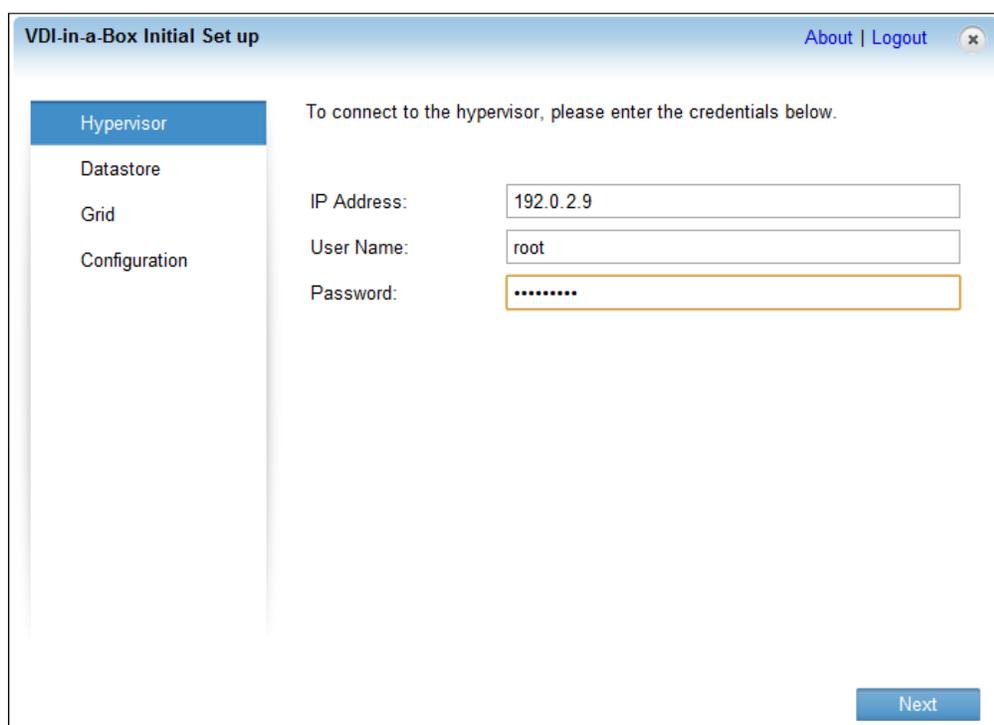
Below are the 4 steps you will need to complete in order to generate desktops for your users.

- 
Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid
- 
Generate a Base Desktop Image
- 
Create Desktop Templates from the Base Image
- 
Assign Users to Desktops

[Get Started](#)

ハイパーバイザーをセットアップするには

1. [Welcome] ページで、[Get Started] をクリックします。 [Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid] ページが開きます。
2. [Continue] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Hypervisor] ページが開きます。



The screenshot shows the 'VDI-in-a-Box Initial Set up' wizard window. The title bar includes 'About | Logout' and a close button. On the left, a sidebar menu has 'Hypervisor' selected, with other options 'Datastore', 'Grid', and 'Configuration'. The main area contains the text 'To connect to the hypervisor, please enter the credentials below.' and three input fields: 'IP Address' with the value '192.0.2.9', 'User Name' with the value 'root', and 'Password' with masked characters '.....'. A 'Next' button is located at the bottom right.

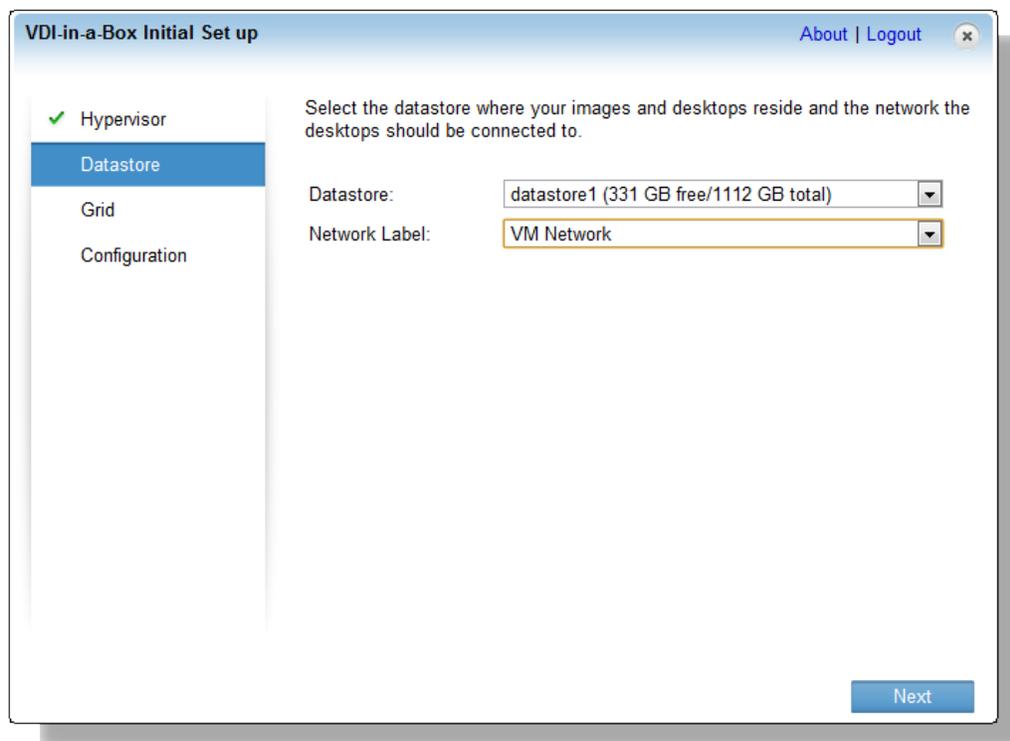
3. [IP Address] ボックスに、ハイパーバイザーを実行しているサーバーのIPアドレスを入力します。
4. [User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーアカウントは、root特権を持っている必要があります。
5. [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Datastore] ページが開きます。

データストアとネットワークラベルをセットアップするには

データストアには、デスクトップのイメージと仮想デスクトップが格納されます。

注： VDI-in-a-Boxで指定したデータストア名を変更しないでください。データストア名を変更すると、デスクトップの生成やクリーンアップに失敗することがあります。

1. [Datastore] ページでは、データストアとネットワークラベルを選択します。



2. [Next] をクリックします。データストアの情報が保存され、VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページが開きます。ここでは、新規グリッドを作成したり、既存のグリッドを追加したりできます。

新規または既存のグリッドの選択

新規のVDI-in-a-Box環境をセットアップする場合は、新規のグリッドを作成します。新規のグリッドを作成するときは、VDI-in-a-Box仮想マシンにアクセスするユーザーとグループを格納しているデータベースに、そのグリッドを関連付ける必要があります。このデータベースとして、Active Directoryサーバー、またはローカルに格納されているワークグループと呼ばれるデータベースを使用できます。

既存のVDI-in-a-Box環境を拡張する場合は、既存のグリッドにこのVDI-in-a-Boxサーバーを追加します。

新規のグリッドを作成してデータベースに割り当てるには

1. [Grid] ページで、[Create a new VDI-in-a-Box grid] を選択し、[Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの[Configuration] ページが開きます。
2. [User Database] で、[VDI-in-a-Box workgroup] または [Microsoft Active Directory] を選択します。[Microsoft Active Directory] を選択した場合、追加情報を入力する必要があります。[VDI-in-a-Box workgroup] を選択した場合は、この情報を入力する必要はありません。

VDI-in-a-Box Initial Set up

About | Logout

- ✓ Hypervisor
- ✓ Datastore
- ✓ Grid
- Configuration**

User Database:

- VDI-in-a-Box workgroup
- Microsoft Active Directory

IP Address: 198.51.100.2
(Domain example: example.com)

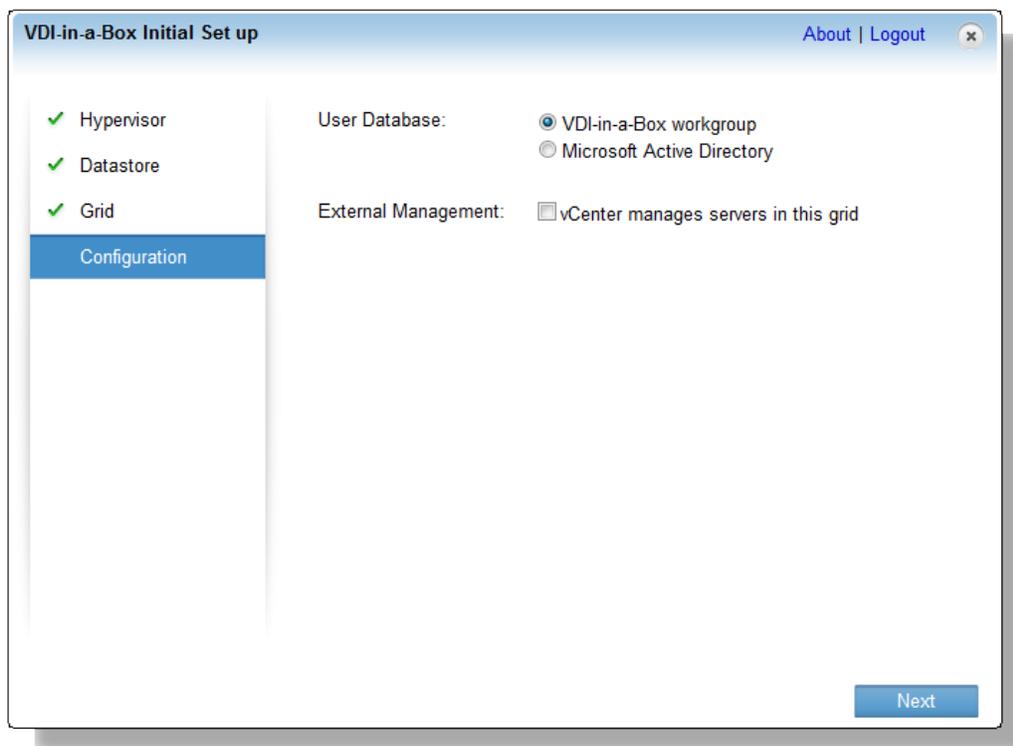
Domain: <domain.com>

User Name: administrator

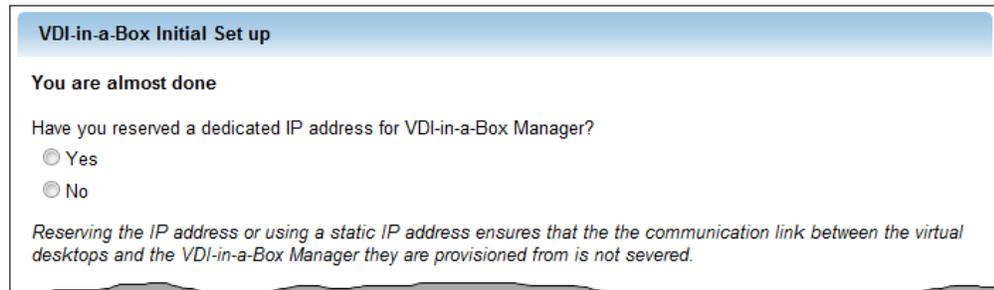
Password:

External Management: vCenter manages servers in this grid

Next



3. Active Directoryを選択した場合、 [IP Address] ボックスに、データベースをホストするサーバーのIPアドレスを入力します。
4. Active Directoryを選択した場合、 [Domain] ボックスにDNSドメインを入力します。
5. Active Directoryを選択した場合、 [User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
6. VMware vCenterでグリッド内のサーバーを管理する場合は、 [vCenter manages servers in this grid] を選択します。 [vCenter manages servers in this grid] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。
7. [vCenter manages servers in this grid] を選択した場合、 [IP Address] ボックスに、vCenterを実行するサーバーのIPアドレスを入力します。
8. [vCenter manages servers in this grid] を選択した場合、 [User Name] および [Password] ボックスに、vCenterのユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
9. [Next] をクリックします。「Have you reserved your VDI-in-a-Box Manager's IP address?」という質問が表示されます。



10. [Yes] または [No] を選択して、[Done] をクリックします。 [Generate a Base Desktop Image] ページが開きます。

既存のグリッドにサーバーを追加するには

1. VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページで、 [Join this VDI-in-a-Box server to an existing grid] を選択し、 [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Database] ページが開きます。
2. [Configuration] ページの [IP Address] ボックスに、既存のグリッドで動作している vdiManagerのIPアドレスを入力します。
3. [Configuration] ページの [User Name] および [Password] ボックスに、vdiManager管理コンソールのユーザー名とパスワードを入力します。
4. [Next] をクリックします。これで、グリッドの構成手順が完了しました。

最初のWindowsイメージを作成する

更新日： 2012-08-30

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) をサーバーにインポートして、データストア、データベース、およびグリッドに関連付けたら、最初のWindowsイメージを作成します。

ハイパーバイザーの機能を使用して新しい仮想マシンを作成して、Windowsをインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

ここで作成する仮想マシンは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ 仮想マシン上でWindows XP Professional (32ビット)、Windows 7 ProfessionalまたはEnterprise (32ビットまたは64ビット)、またはWindows Server 2008 R2, Enterprise Editionが実行されている。
- ・ 仮想マシン上でリモートデスクトップ接続 (RDP) 機能が有効になっている。
- ・ 仮想マシンのディスクイメージは1つだけである。
- ・ VDI-in-a-Boxにインポートする前に仮想マシンが起動しており、電源がオンの状態になっている。
- ・ 仮想マシンに4GB以上のディスクの空き領域がある。

イメージのインポートの準備を行うには

VDI-in-a-Boxとは別に、以下の手順を完了する必要があります。詳しくは、各製造元のドキュメントを参照してください。

1. 有効なMicrosoftボリュームアクティベーションキーを使用して、仮想マシンのライセンス認証を行います。
2. 仮想マシンのローカルの管理者アカウントを有効にします。
3. ハイパーバイザーの管理ツールを仮想マシンにインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。
4. 必要に応じて、仮想マシンをドメインに参加させます。

注：仮想マシンはワークグループのメンバーでも構いません。

5. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、ユーザーのリモート接続を有効にします。
6. リモートエージェントのインストールを許可するように、ファイアウォール設定の [ファイルとプリンターの共有] を有効にします。詳しくは、使用するファイアウォールのド

キュメントを参照してください。

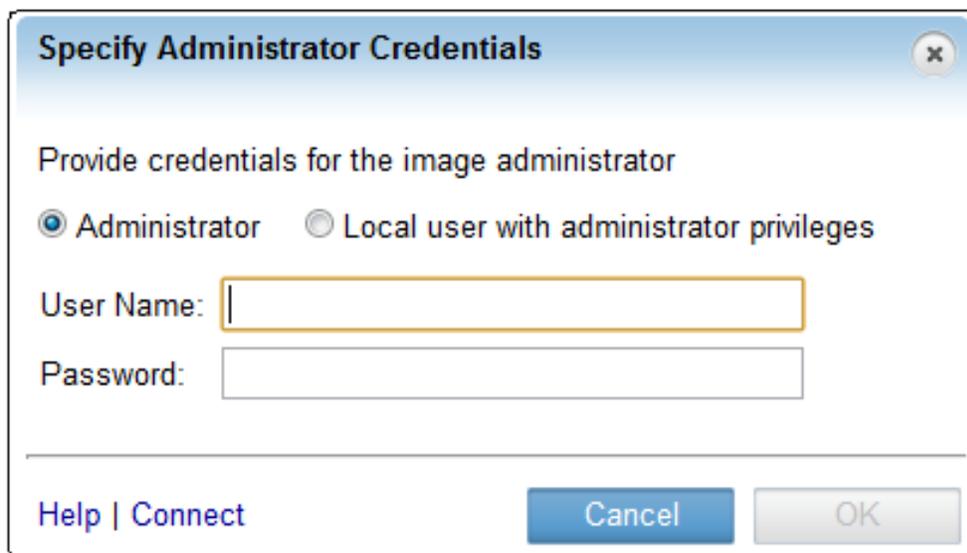
Windows仮想マシンをインポートするには

Webブラウザ上に [Generate a Base Desktop Image] ページが開いていない場合は、セットアップが完了したvdiManager (<https://<IPAddress>/admin/>) にログインしてこのページを開きます。

1. [Generate a Base Desktop Image] ページで、 [Continue] をクリックします。
2. [Import new VM] ページで、イメージとして使用する仮想マシンを選択します。

The screenshot shows the 'Import new VM' dialog box. On the left is a sidebar with the following menu items: 'Import Image' (highlighted in blue), 'Install Agent', 'Edit Image', 'Prepare Image', and 'Test Image'. The main content area has the following elements:
- Instructional text: 'Select the virtual machine you would like to import as a base desktop image. If the VM you would like to import shows up as "Not importable", select it to see why it cannot be imported.'
- 'Select VM' label and a list box containing 'nBase_Windows' (selected) and 'nWin2008R2'. A 'Refresh View' link is to the right of the list.
- 'Selected VM' text box containing 'nBase_Windows'.
- 'New Image Name' text box containing 'west-win'.
- 'Description' text box containing 'western range'.
- At the bottom left is a 'Help' link, and at the bottom right is an 'Import' button.

3. [New Image Name] ボックスに、インポートした仮想マシンの名前を入力します。
注：インポート元のイメージとは別の名前を指定してください。
4. [Description] ボックスに、仮想マシンの説明を入力し、 [Import] をクリックします。 [Specify Administrator Credentials] ダイアログボックスが開きます。



5. 管理者の資格情報を使用するか、管理者特権を持つローカルユーザーの資格情報を使用するかを選択します。

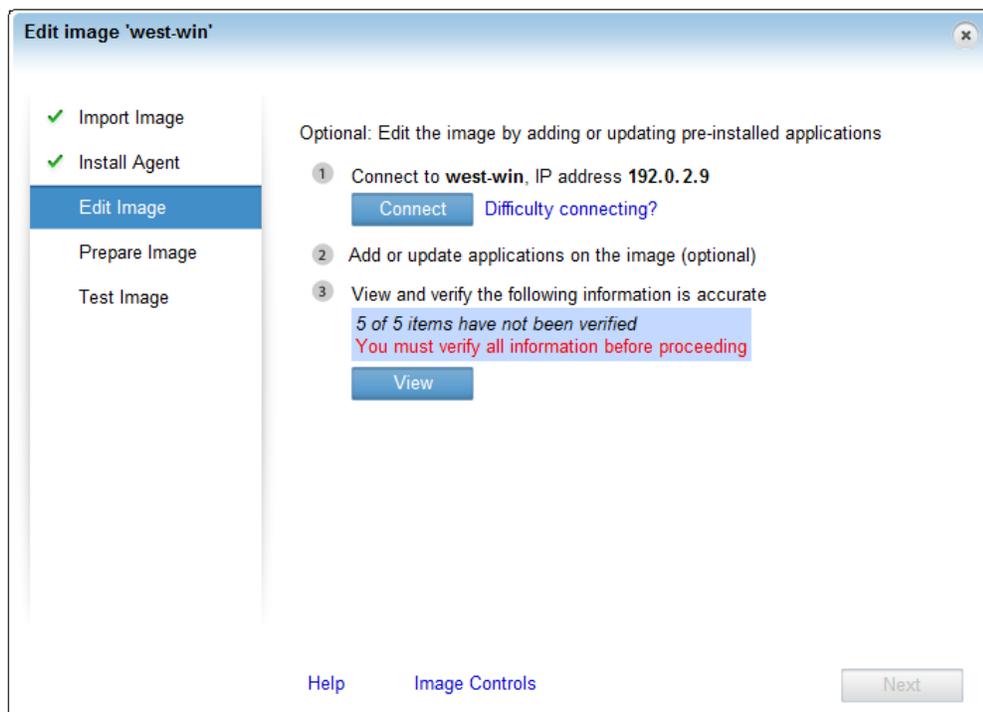
重要： 管理者特権を持つローカルユーザーの資格情報を使用する場合は、Microsoft Windowsのユーザーアカウント制御（UAC）を無効にする必要があります。詳しくは、[Microsoft社のTechNetライブラリ](#)を参照してください。

6. イメージの管理者特権を持つアカウントのユーザー名およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。インポートおよびDesktop Agentのインストールによるドラフトイメージの作成が開始され、進捗状況を示す状態ページが開きます。Import new VMウィザードの [Edit Image] ページが開きます。

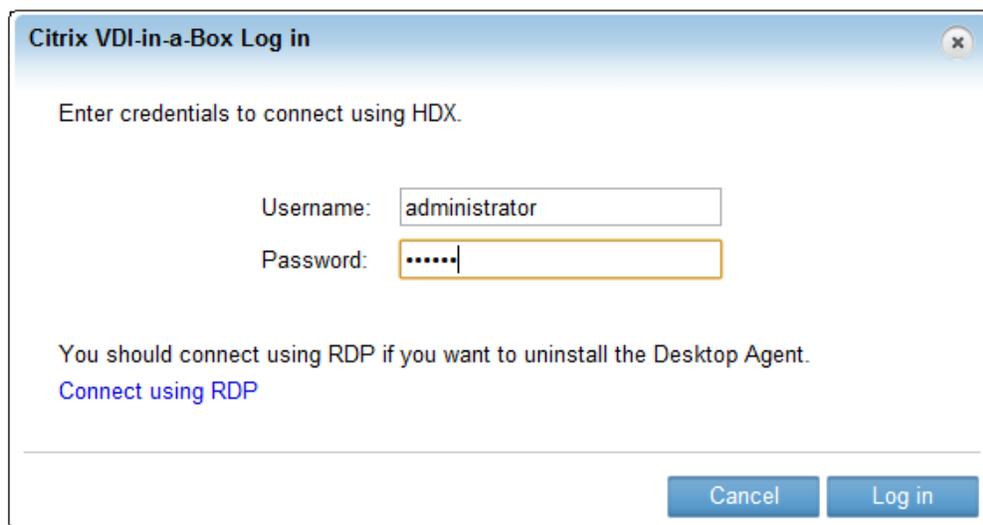
ドラフトイメージを編集するには

エージェントをインストールしたドラフトイメージを編集して、展開する仮想デスクトップに必要なアップデート、設定、パッチ、そのほかのアプリケーションを追加します。イメージからデスクトップを生成するために必要な前提条件を確認するためのチェックリストが表示されます。

1. [Edit Image] ページで、[Connect] をクリックします。



2. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、イメージの管理者特権を持つアカウントの資格情報を入力して [Log in] をクリックします。



3. 必要に応じてイメージを編集し、イメージからログオフします。
4. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

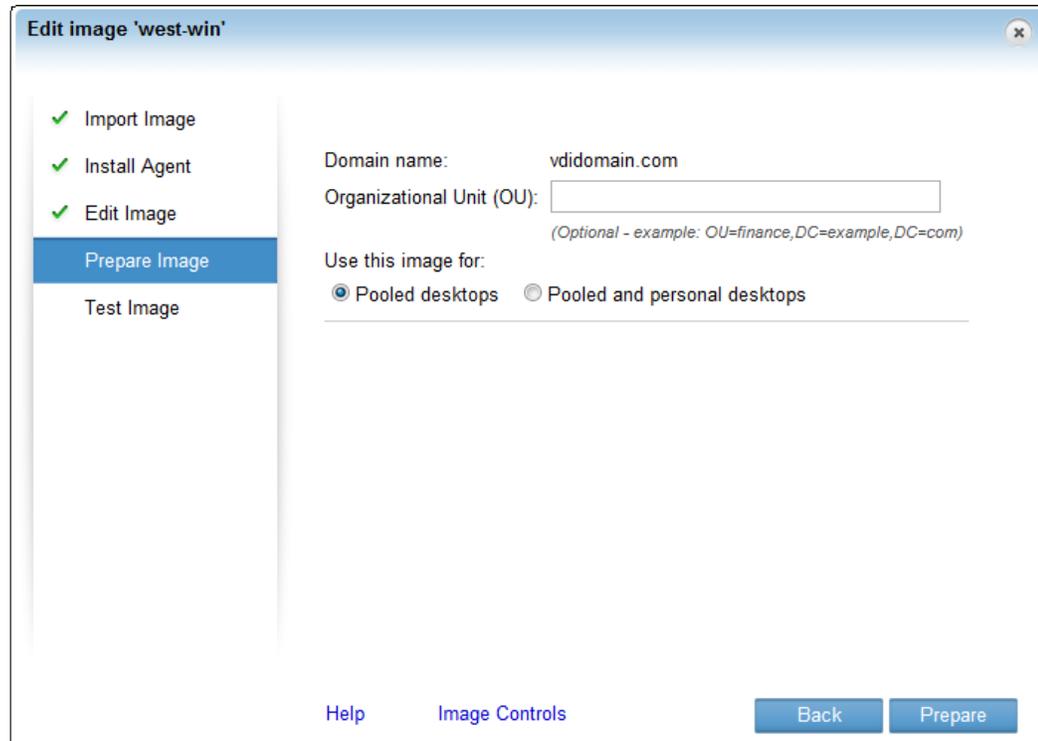
5. [Edit Image] ページで、[View] をクリックします。前提条件の一覧が質問形式で表示されます。

注：ここに表示される前提条件は、ハイパーバイザーとイメージのオペレーティングシステムによって異なります。

6. [Yes] をクリックして、各前提条件を満たしていることを確認します。
7. すべての前提条件を満たしていることを確認した後で、[Done] をクリックします。前提条件の一覧が閉じて、[Edit Image] ページに戻ります。
8. [Next] をクリックします。[Prepare Image] ページが開きます。

イメージの準備を行うには

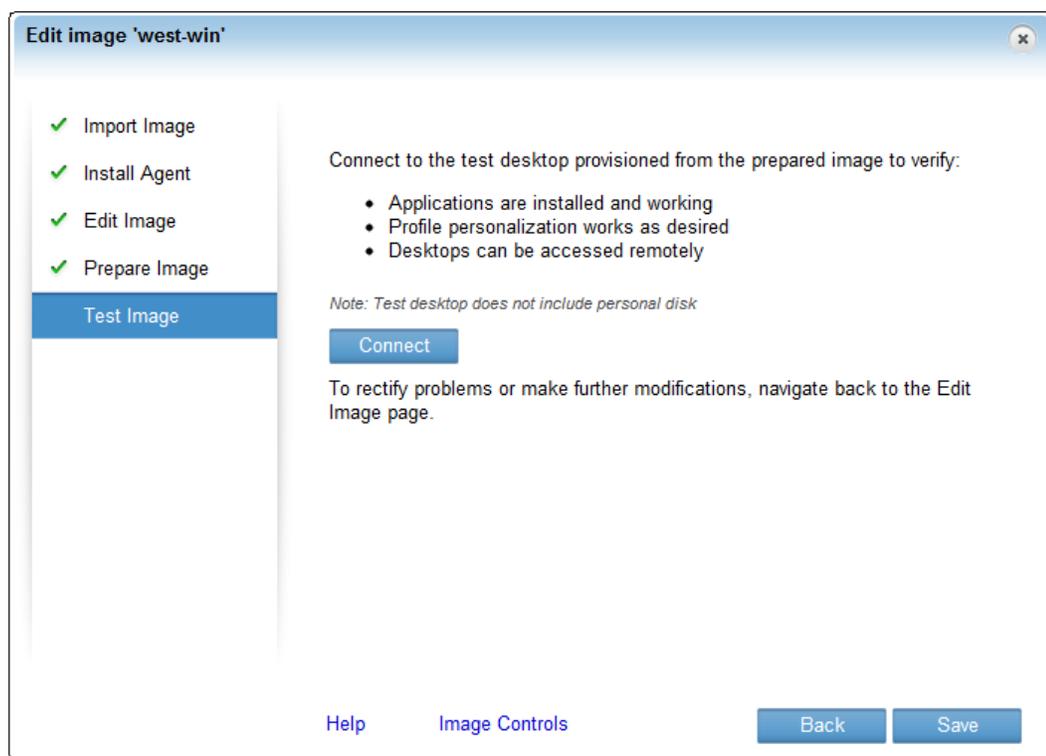
[Prepare Image] ページでは、イメージから作成するデスクトップとして、プールされるデスクトップまたはパーソナルデスクトップを選択します。プールされるデスクトップは単一のディスクで構成されるデスクトップで、このウィザードで作成する公開イメージから配信されます。パーソナルデスクトップは、公開イメージとPersonal vDiskを組み合わせた2つのディスクで構成されます。パーソナルデスクトップについて詳しくは、「[パーソナルデスクトップの管理](#)」を参照してください。パーソナルデスクトップ用に作成した公開イメージは、プールされるデスクトップの生成にも使用できます。ただし、プールされるデスクトップ専用のイメージを作成する場合は、[Pooled desktops] を選択することでPersonal vDisk関連の設定手順を省略できます。



1. [Prepare Image] ページの [Domain name] ボックスの一覧で、ドメインまたはワークグループを選択します（選択可能な場合）。
2. 必要に応じて、[Organizational unit (OU)] ボックスに、イメージの適用先の組織単位を入力します。
3. [Pooled desktops] または [Pooled and personal desktops] を選択します。
4. [Prepare] をクリックします。 [Confirm] メッセージが表示されます。
5. [Confirm] をクリックします。 [Confirm] メッセージと [Prepare Image] ページが閉じます。 進行状況を示す状態ページが開きます。 準備されたイメージからテストデスクトップが作成され、 [Test Image] ページが開きます。

準備したデスクトップイメージをテストするには

テストイメージを使用して、そのドラフトイメージから適切なデスクトップを生成できるかどうか、およびユーザーがこのデスクトップにHDX接続とRDP接続を確立できるかどうかを検証します。ドラフトイメージを保存すると、テストイメージおよびそのイメージに対する変更内容はすべて削除されます。



1. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。 [Connect to the draft image] ダイアログボックスが開きます。



2. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Citrix HDX] を選択し、[Connect] をクリックします。 [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスが開きます。
3. 資格情報を入力して、[Log in] をクリックします。 HDX接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
4. インストールされているアプリケーションが正常に動作すること、および必要なグループポリシーが適用されていることを確認します。
5. Active Directoryを使用して構成したグリッドでは、ドメインユーザーとしてログオンとログオフを行ってアクセスをテストします。
6. テストイメージからログオフします。 テストイメージが閉じます。
7. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
8. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。
9. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Microsoft RDP] を選択し、[Connect] をクリックします。 RDP接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
10. テストイメージにログオンし、RDP接続が正常に機能しているかどうかを確認して、ログオフします。 テストイメージが閉じます。
11. [Test Image] ページで [Save] をクリックします。 [Confirm] メッセージが表示されます。
12. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。 [Confirm] メッセージと [Test Image] ページが閉じます。 進行状況を示す状態ページが開きます。 [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開きます。

公開イメージから最初のテンプレートを作成するには

更新日： 2012-10-09

ここでは、必要な仕様を満たす同一の仮想デスクトップを生成するためのテンプレートを作成します。テンプレートは、イメージとポリシーで構成されています。イメージにはデスクトップ上で実行されるオペレーティングシステムとアプリケーションが含まれます。イメージの作成について詳しくは、「[最初のWindowsイメージを作成する](#)」を参照してください。1つのイメージを複数のテンプレートで使用することができます。

重要： テンプレートを作成する前に、少なくとも1つのイメージの作成と公開を行う必要があります。

テンプレート作成中に設定するポリシーにより、いくつかのデスクトップを作成するのか、CPUにどれだけのRAMを割り当てるのかなどの特性が定義されます。

テンプレートから生成されるデスクトップに一定のパターンの名前が付けられるように、コンピューター名の先頭（プレフィックス）および末尾（サフィックス）に特定の語を追加します。プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。サフィックスの上位桁に「0」を使用でき、4桁まで指定できます（「0001」など）。サフィックスにより生成される番号は、仮想デスクトップの作成ごとに増分されます。たとえば、プレフィックスとして「<name>」、サフィックスとして「0000」を設定し、仮想デスクトップを2つ作成すると、「<name>0001」および「<name>0002」という名前が使用されます。サフィックスの上位桁に「0」を使用しない場合、生成される名前にも「0」が使用されません。たとえば、サフィックスとして「1」を指定すると、「<name>1」、「<name>2」、「<name>3」などの名前が設定されます。

テンプレートでは、デスクトップを事前起動するためのオプションも選択できます。「事前起動デスクトップ」とは、電源が入り、ログオンプロンプトが表示された状態でユーザーのアクセスを待機するデスクトップを指します。事前起動デスクトップでは、ユーザーが仮想デスクトップの起動を待つ必要がありません。事前起動するデスクトップの数を指定すると、ユーザーがログオンするデスクトップの数に応じて、事前起動デスクトップの数が保持されます。たとえば、テンプレートで事前起動デスクトップ数として5を指定した場合、5つの仮想デスクトップが事前起動してユーザーを待機します。2人のユーザーが各自のデスクトップにログオンすると、新たに2台のデスクトップが事前起動され、指定した事前起動デスクトップ数が保持されます。テンプレートで指定した最大数に達するまで、この処理が継続されます。テンプレートの自動起動デスクトップ数を「0」に設定すると、そのテンプレートはシャットダウンし、ユーザーが接続できなくなります。

Webブラウザー上に [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1. [Create Desktop Templates from the Base Image] ページで、[Continue] をクリックします。Create a New Desktop Templateウィザードの [Template Information] ページが開きます。

Template name: Building A

Image name: west-win View image details

Description: Personal desktops for Building A

Computer name: Prefix: BuildA Suffix: 0000
1-11 characters 0-4 digits

Memory (MB): 1536

Virtual CPUs: 1

Connect these local devices to the VDI-in-a-Box desktop

Disk drives Printers Serial ports

Smart cards Other USB devices

Color depth: True color (32 bit)

Reset the activation timer (KMS clients)

Help Next

2. [Template Name] ボックスに、テンプレートの名前を入力します。
3. 使用可能なイメージの一覧から、このテンプレートに関連付けるイメージを選択します。
4. [Description] ボックスに、テンプレートの説明を入力します。
5. [Prefix] ボックスに、生成したイメージの名前に追加されるプレフィックスを入力します。
注：プレフィックスとして、英数字およびハイフン (-) を使用できます。
6. [Suffix] ボックスに、生成したイメージの名前に追加されるサフィックスを入力します。
注：プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。サフィックスとして、1~4文字の数字を使用できます。サフィックスの上位桁に「0」を使用することもできます（「0001」など）。
7. [Memory (MB)] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるメモリを選択します。
注：Windows 7およびWindows Server 2008 R2のデスクトップには、少なくとも1536MBのメモリを割り当てることをお勧めします。Windows XPのデスクトップには、少なくとも512MBのメモリを割り当てる必要があります（1GB以上を推奨）。
8. [Virtual CPUs] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるCPUの数を選択します。
9. ディスクドライブやプリンターなど、仮想デスクトップに接続するローカルデバイスを選択します。
10. 必要に応じて、HDX接続の表示色数を変更します。

公開イメージから最初のテンプレートを作成するには

11. キー管理服务 (KMS) のライセンス認証キーを持つ公開イメージでは、[Reset the activation time (KMS clients)] を選択することをお勧めします。
12. [Next] をクリックします。[Template Policies] ページが開きます。

The screenshot shows the 'Create a New Desktop Template - Building A' dialog box with the 'Template Policies' tab selected. The 'Template Information' tab is also visible with a green checkmark. The 'Maximum desktops' field is set to 2, and 'Pre-started desktops' is set to 1. Under 'Template will provision:', 'Personal desktop' is selected with a radio button. The 'Personal disk size (GB) (application + personalization space)' is set to 4. A note below states: 'A personal desktop is refreshed only when its image is updated and a user logs out.' There is an unchecked checkbox for 'Make this the default template'. At the bottom, there is a 'Help' link and 'Back' and 'Save' buttons.

The screenshot shows the 'Create a New Desktop Template - Building A' dialog box with the 'Template Policies' tab selected. The 'Template Information' tab is also visible with a green checkmark. The 'Maximum desktops' field is set to 2, and 'Pre-started desktops' is set to 1. Under 'Template will provision:', 'Pooled desktop' is selected with a radio button. The 'Refresh desktop' dropdown menu is set to 'On logout'. There are two checked checkboxes: 'Do not reassign desktops "On Hold" to new users' and 'Enable fast refresh of desktops'. There is an unchecked checkbox for 'Make this the default template'. At the bottom, there is a 'Help' link and 'Back' and 'Save' buttons.

13. [Maximum desktops] ボックスに、このテンプレートで展開するデスクトップの最大数を入力します。
14. [Pre-started desktops] ボックスに、ユーザーが直ちにログオンできるように事前起動しておくデスクトップの数を入力します。ユーザーがテンプレートにアクセスできるように、自動起動デスクトップ数として1以上を指定します。

注：テスト段階では、最大デスクトップ数として2、事前起動デスクトップ数として1を設定することをお勧めします。

15. [Make this the default template] チェックボックスをオンにすると、テンプレートが割り当てられていないユーザーにこのイメージが使用されるようになります。

注：グリッドのデフォルトテンプレートが指定されていない場合、テンプレートが割り当てられていないユーザーの資格情報はログオン時に拒否されます。

16. テンプレートの種類として、[Pooled Desktop] または [Personal Desktop] を選択します。これらの種類では、異なる情報が必要です。
17. [Pooled Desktop] を選択した場合は、[Refresh desktop] ボックスの一覧で、デスクトップの更新方法を選択します。ここでは、ユーザーのデスクトップを、テンプレートから生成した直後の状態に更新するタイミングを指定します。[On logout] を選択した場合、デバッグ上の理由からこれは管理者には適用されません。管理者は、デスクトップライフサイクルイベントをトリガーすることなくログオンやログオフを許可されます。

- ・ On logout : ユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。
- ・ Scheduled : 毎日、毎週、または毎月など、指定した日時にデスクトップが更新されます。使用中のデスクトップも更新するかどうかを指定することもできます。使用中のデスクトップを更新するオプションを選択しない場合は、指定した日時が経過した後にユーザーがログアウトした時点で更新されます。
- ・ Scheduled or on logout : 指定した日時、およびユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。これはユーザーが長時間デスクトップにログオンする環境で役立ちます。
- ・ Manual : デスクトップの更新を手作業で行います。この設定により、特定のユーザーに無期限に割り当てられる「永続デスクトップ」が生成されます。永続デスクトップでは、ユーザーが追加したアプリケーションや変更した設定がログオフ後も永続的に保持されるため、通常のパーソナルコンピューターのように使用できます。

18. [Pooled Desktop] を選択した場合は、ユーザーが保持しているデスクトップがほかのユーザーに割り当てられないように [Do not reassign desktops "On Hold" to new users] を選択します。

注：このオプションは、デフォルトで有効になっています。

19. [Pooled Desktop] を選択した場合は、[Enable fast refresh of desktops] チェックボックスをオンにすると、ユーザーがログオフしたときにデスクトップが高速にリフレッシュされるようになります。

20. [Personal Desktop] を選択した場合は、パーソナルデスクトップのディスクサイズを選択します。
21. [Save] をクリックします。
22. [Close] をクリックします。事前起動として指定した数のデスクトップが起動し、[Assign Users to Desktops] ページが開きます。

テンプレートを編集するには

更新日：2011-10-18

テンプレートを編集することで、デスクトップの最大数や事前起動デスクトップの数などの設定を変更できます。

Webブラウザで、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインします。

1. VDI-in-a-Boxコンソールで、[Templates] タブをクリックします。
2. 編集するテンプレート名を選択します。
3. 必要に応じて設定を変更して、[Save] をクリックします。

重要： [Save] は、[Template Policies] ページ上にあります。

ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て

更新日： 2012-08-29

テンプレートを作成したら、ユーザー、ユーザーグループ、およびIPアドレスにそのテンプレートを割り当てることができます。ユーザーとグループには、複数のテンプレートを割り当てることができます。キオスクなどのIPアドレスにテンプレートを割り当てると、そのキオスクにログオンするすべてのユーザーで同じデスクトップが使用されます。

テンプレートが割り当てられていないユーザーがログオンした場合は、デフォルトテンプレートが使用されます。ただし、デフォルトテンプレートを指定していない場合、そのユーザーの資格情報は拒否されます。

Webブラウザー上に [Assign Users to Desktops] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

ユーザーグループにテンプレートを割り当てるには

1. [Assign Users to Desktops] ページで、[Continue] をクリックします。[Users] ページが開きます。このページには、ユーザーグループ、ユーザー、およびIPアドレスの一覧が表示されます。
2. ユーザーグループの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

Group Name	Description	#	Templates
<input type="text"/>	<input type="text"/>		None

Save | Cancel

Users [Add](#)

3. [Group Name] ボックスに、テンプレートを割り当てるグループの名前を入力します。ユーザーデータベースとしてActive Directoryが使用されている環境では、グループ名の最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたグループ名を選択するには、Enterキーを押します。
4. [Description] ボックスに、グループの説明を入力します。
5. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。[Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、[None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、テンプレート名が [None] に変わります。
6. [Save] をクリックします。グループが一覧に追加されます。
7. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のグループに割り当てます。

ユーザーにテンプレートを割り当てるには

1. ユーザーの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



The screenshot shows a web interface for managing users. At the top, there is a header 'Users' with an 'Add' link. Below it is a table with the following columns: 'User ID', 'First Name', 'Last Name', 'Group', and '# Templates'. The 'User ID' column has an input field. The 'First Name' and 'Last Name' columns have input fields. The 'Group' column has an input field. The '# Templates' column contains the text 'None'. To the right of the table, there are 'Save | Cancel' buttons. Below the table, there is a link for 'IP Addresses' with an 'Add' link.

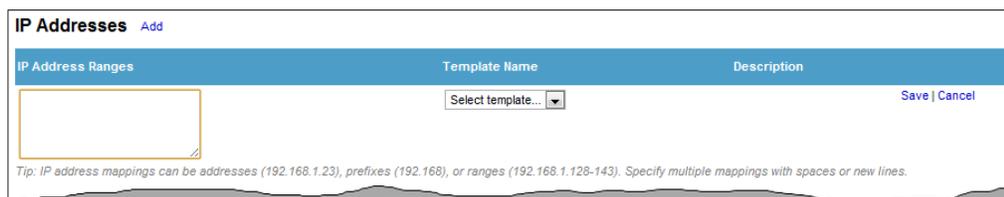
2. [User ID] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーのユーザーIDを入力します。ユーザーデータベースとしてActive Directoryが使用されている環境では、ユーザーIDの最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたIDを選択するには、Enterキーを押します。

注： [First Name]、[Last Name]、および [Group] は空欄でも構いません。そのユーザーの情報がActive Directoryに格納されている場合は、これらの情報が自動的に入力されます。

3. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。 [Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、 [None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、テンプレート名が [None] に変わります。
4. [Save] をクリックします。ユーザーが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のユーザーに割り当てます。

受信IPアドレスにテンプレートを割り当てるには

1. IPアドレスの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



IP Address Ranges	Template Name	Description
<input type="text"/>	Select template... ▼	

Tip: IP address mappings can be addresses (192.168.1.23), prefixes (192.168), or ranges (192.168.1.128-143). Specify multiple mappings with spaces or new lines.

2. [IP Address Ranges] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーデバイスのIPアドレスの範囲を入力します。個々のアドレス（「192.168.23.143」など）、プレフィックス（「192.168」など）、または範囲（「192.168.10.174-204」など）を指定できます。各エントリは改行またはスペースで区切ります。
3. テンプレートの一覧で、IPアドレスに割り当てるテンプレートを選択します。
4. [Save] をクリックします。IPアドレスが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、IPアドレスに別のテンプレートを割り当てます。

注：テンプレートをIPアドレスに割り当てたら、既存の割り当てを削除するまで再割り当てを行うことはできません。

テンプレートの割り当てを編集するには

1. vdiManager管理コンソールで、[Users] ページを選択します。
2. テンプレートを編集するユーザーグループ、ユーザー、またはIPアドレスにポインターを合わせて [Edit] をクリックします。
3. 必要に応じて編集し、[Save] をクリックします。

ユーザーとしての接続のテスト

更新日：2012-10-08

テンプレートを設定し、テンプレートからデスクトップを作成して、ユーザーに割り当てたら、ユーザーとしてデスクトップにログオンし、接続が正しく機能することを確認します。これを行うには、Citrix Receiverの最新バージョンをインストールしておく必要があります。Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、JRE（Java Runtime Environment）6または7もインストールします。

ユーザーデバイスを準備するには

テスト用のユーザーデバイスを準備するには、HDXで接続できるようにCitrix Receiverをインストールします。

- ・ Citrix Receiverがインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からWebサイトの指示に従ってダウンロードします。
- ・ Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、ユーザーデバイスにJRE 6または7がインストールされているかを確認します。必要な場合は、<https://www.java.com>からWebサイトの指示に従って、最新バージョンを入手します。

デスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって多少異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「<https://<IPaddress>/>（VDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレス）」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
4. [Citrix VDI-in-a-Box] ページの [ユーザー名] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [パスワード] ボックスにパスワードを入力し、[ログオン] をクリックします。
6. 接続するデスクトップをクリックします。仮想デスクトップに接続されます。

WebブラウザからVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「`https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。使用するWebブラウザによっては、「Opening vdiclient.jnlp」ダイアログボックスが開く場合があります。
4. 「Opening vdiclient.jnlp」ダイアログボックスが開いた場合は、「Open with」が選択され、その横の一覧に「Java(TM) Web Start Launcher (default)」が表示されていることを確認して、「OK」をクリックします。
5. 「Citrix VDI-in-a-Box Client」ダイアログボックスにユーザーの資格情報を入力し、「Log On」をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、「Select a Desktop」ダイアログボックスが開きます。
6. 「Connect」をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

コマンドプロンプトからVDI-in-a-Box Java デスクトップクライアントを使用してデスクトッ プに接続するには

以下の手順は、使用するユーザーデバイスによって異なる場合があります。

1. 「コマンドプロンプト」ウィンドウを開きます。
2. 「`javaws https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」というコマンドを入力します。
3. Enterキーを押します。
4. 「Log on」ダイアログボックスの「User name」ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. 「Password」ボックスにパスワードを入力し、「Log On」をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、「Select a Desktop」ダイアログボックスが開きます。
6. 「Connect」をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

VMware ESXiでのWindows XPイメージの使用

更新日： 2012-08-17

以下のトピックを参照して、Citrix VDI-in-a-Box環境をセットアップします。

- ・ [VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには](#)
- ・ [グリッドを作成して構成する](#)
- ・ [最初のWindowsイメージを作成する](#)
- ・ [公開イメージから最初のテンプレートを作成するには](#)
- ・ [テンプレートを編集するには](#)
- ・ [ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て](#)
- ・ [ユーザーとしての接続のテスト](#)

VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには

更新日： 2012-09-25

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) と呼ばれるVDI-in-a-Box仮想アプライアンスをCitrixのWebサイトからダウンロードして、VMware ESXiにインポートします。

ダウンロードパッケージのVDI-in-a-Box_ESX_v5_1_1.zipには、vdiManagerファイルであるvdiManager_ESX_v5_1_1.ovaが含まれています。vdiManagerを抽出するには、約2GBの空きディスクスペースが必要です。

注：VMware VSphereクライアントからアクセス可能な場所にダウンロードして抽出するようにしてください。

1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. My Citrixにログオンしていない場合は、ログオンします。
3. [Downloads] をクリックします。
4. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
5. ダウンロードの種類として、[Product Software] を選択します。
6. [Find] をクリックします。VDI-in-a-Box製品のページが開きます。
7. [VDI-in-a-Box 5.1.1] をクリックします。VDI-in-a-Box 5.1.1のページが開きます。
8. 「Appliances」セクションで、適切なハイパーバイザーの [Download] をクリックします。



ライセンス契約が表示されます。

9. ライセンス契約に同意します。 [Download Manager] ウィンドウが開きます。
10. [Download Now] をクリックします。
11. [Install] をクリックして、VDI-in-a-Box_ESX_v5_1_1.zipを保存します。 ZIPファイルがダウンロードされます。
12. ZIPファイルから、vdiManager_ESX_v5_1_1.ovaを抽出します。

vdiManagerをインポートするには

vdiManager_ESX_v5_1_1.ovaを抽出したら、このvdiManagerファイルをVMware vSphereクライアントを使用してVMware ESXi上にインポートします。 VSphereクライアントを使用したインポートについては、<http://www.vmware.com/>を参照してください。 インポート処理が終了すると、vdiManagerはvSphereクライアント管理コンソール内に仮想マシンとして表示されます。

重要： ハイパーバイザーに複数のvdiManagerをインポートしないでください。 これを行うと、CPU、RAM、ディスク、およびネットワークが過度に消費され、システムが応答不能になることがあります。

グリッドを作成して構成する

更新日：2012-10-29

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) がハイパーバイザーにインポートされ、管理コンソールで利用可能になったら、VDI-in-a-Boxグリッドを構成します。

グリッドは、vdiManagerを実行しているサーバーをグループ化して負荷分散を可能にし、サーバー上の仮想マシンの高可用性を保証します。

また、WebブラウザーでJavaScriptとCookieを有効にしてください。

注：VDI-in-a-Boxで指定したデータストア名を変更しないでください。データストア名を変更すると、デスクトップの生成やクリーンアップに失敗することがあります。

初回セットアップ時にvdiManager管理コンソールを開くには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって多少異なる場合があります。

1. ハイパーバイザー上でvdiManagerが起動しており、電源がオンの状態であることを確認します。

注：vdiManager仮想アプライアンスのIPアドレスを書き留めていない場合は、書き留めます。

2. WebブラウザーのURLボックスに「`https://<IPaddress>/admin/`」と入力し、Enterキーを押します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。さらに警告が表示される場合は、それらの警告も受け入れます。[Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページが開きます。
4. [Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページの [ユーザー名] ボックスに、「`vdiadmin`」と入力します。
5. [パスワード] ボックスに「`kaviza`」と入力し、[ログオン] をクリックします。[Welcome] ページが開き、仮想デスクトップを生成するために必要な4つの手順が表示されます。

VDI-in-a-Box

Welcome!

Thank you for choosing VDI-in-a-Box. We want this to be a fast and pleasant experience. Below is a brief overview of the set up process. If you want background information on VDI-in-a-Box before you get started, go to support.citrix.com/vdi-in-a-box.

Overview

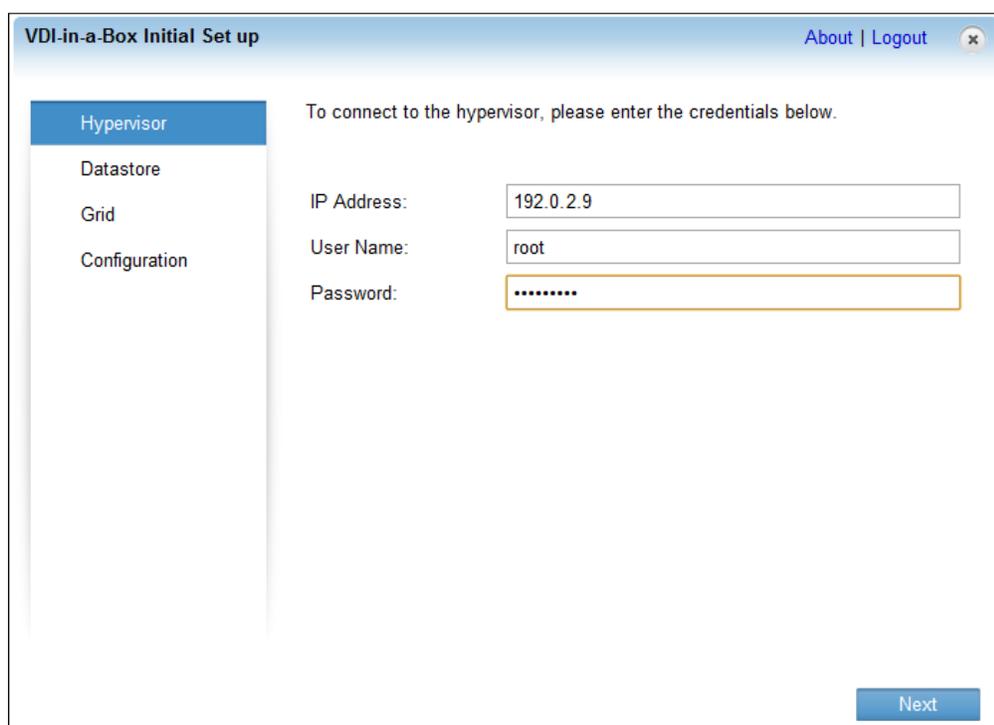
Below are the 4 steps you will need to complete in order to generate desktops for your users.

- 
Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid
- 
Generate a Base Desktop Image
- 
Create Desktop Templates from the Base Image
- 
Assign Users to Desktops

[Get Started](#)

ハイパーバイザーをセットアップするには

1. [Welcome] ページで、[Get Started] をクリックします。 [Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid] ページが開きます。
2. [Continue] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Hypervisor] ページが開きます。



The screenshot shows the 'VDI-in-a-Box Initial Set up' wizard window. The title bar includes 'About | Logout' and a close button. On the left, a sidebar menu has 'Hypervisor' selected, with other options 'Datastore', 'Grid', and 'Configuration'. The main area contains the instruction: 'To connect to the hypervisor, please enter the credentials below.' Below this are three input fields: 'IP Address:' with the value '192.0.2.9', 'User Name:' with the value 'root', and 'Password:' with masked characters '.....'. A blue 'Next' button is located at the bottom right of the form area.

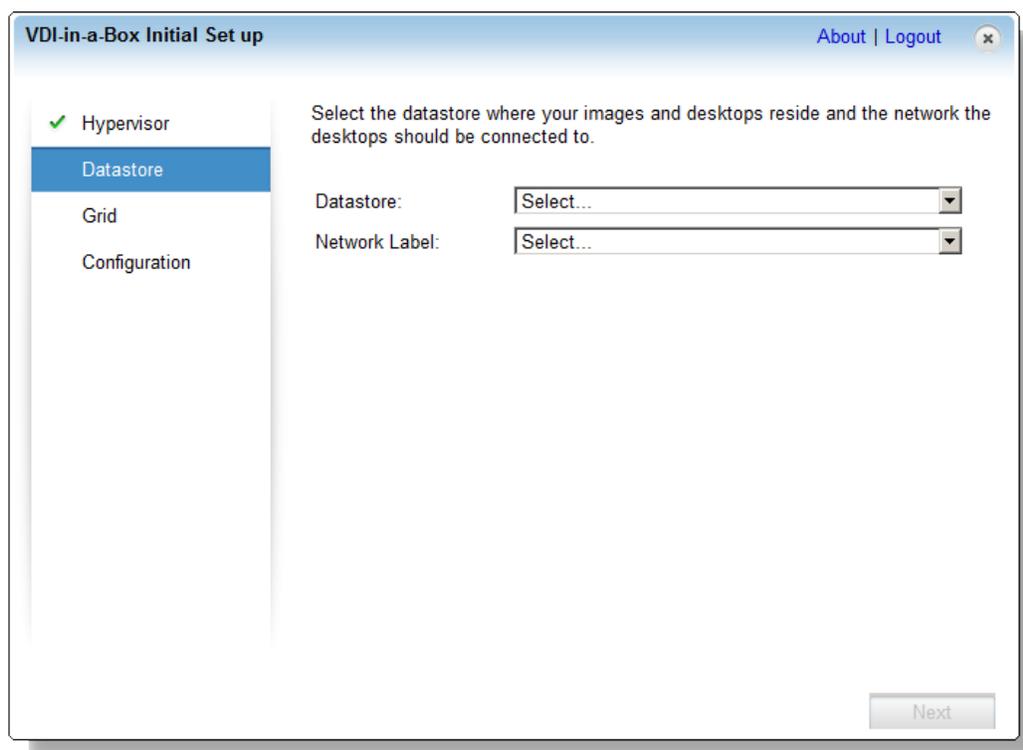
3. [IP Address] ボックスに、ハイパーバイザーを実行しているサーバーのIPアドレスを入力します。
4. [User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーアカウントは、root特権を持っている必要があります。
5. [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Datastore] ページが開きます。

データストアとネットワークラベルをセットアップするには

データストアには、デスクトップのイメージと仮想デスクトップが格納されます。

注： ESXiまたはHyper-Vを使用している場合は、VDI-in-a-Boxで指定したデータストア名を変更しないでください。データストア名を変更すると、デスクトップの生成やクリーンアップに失敗することがあります。

1. [Datastore] ページでは、データストアとネットワークラベルを選択します。



2. [Next] をクリックします。データストアの情報が保存され、VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページが開きます。ここでは、新規グリッドを作成したり、既存のグリッドを追加したりできます。

新規または既存のグリッドの選択

新規のVDI-in-a-Box環境をセットアップする場合は、新規のグリッドを作成します。新規のグリッドを作成するときは、VDI-in-a-Box仮想マシンにアクセスするユーザーとグループを格納しているデータベースに、そのグリッドを関連付ける必要があります。このデータベースとして、Active Directoryサーバー、またはローカルに格納されているワークグループと呼ばれるデータベースを使用できます。

既存のVDI-in-a-Box環境を拡張する場合は、既存のグリッドにこのVDI-in-a-Boxサーバーを追加します。

新規のグリッドを作成してデータベースに割り当てるには

1. [Grid] ページで、[Create a new VDI-in-a-Box grid] を選択し、[Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの[Configuration] ページが開きます。
2. [User Database] で、[VDI-in-a-Box workgroup] または [Microsoft Active Directory] を選択します。[Microsoft Active Directory] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。[VDI-in-a-Box workgroup] を選択した場合は、この情報を入力する必要はありません。

VDI-in-a-Box Initial Set up

About | Logout

- ✓ Hypervisor
- ✓ Datastore
- ✓ Grid
- Configuration

User Database:

VDI-in-a-Box workgroup

Microsoft Active Directory

IP Address: 198.51.100.2
(Domain example: example.com)

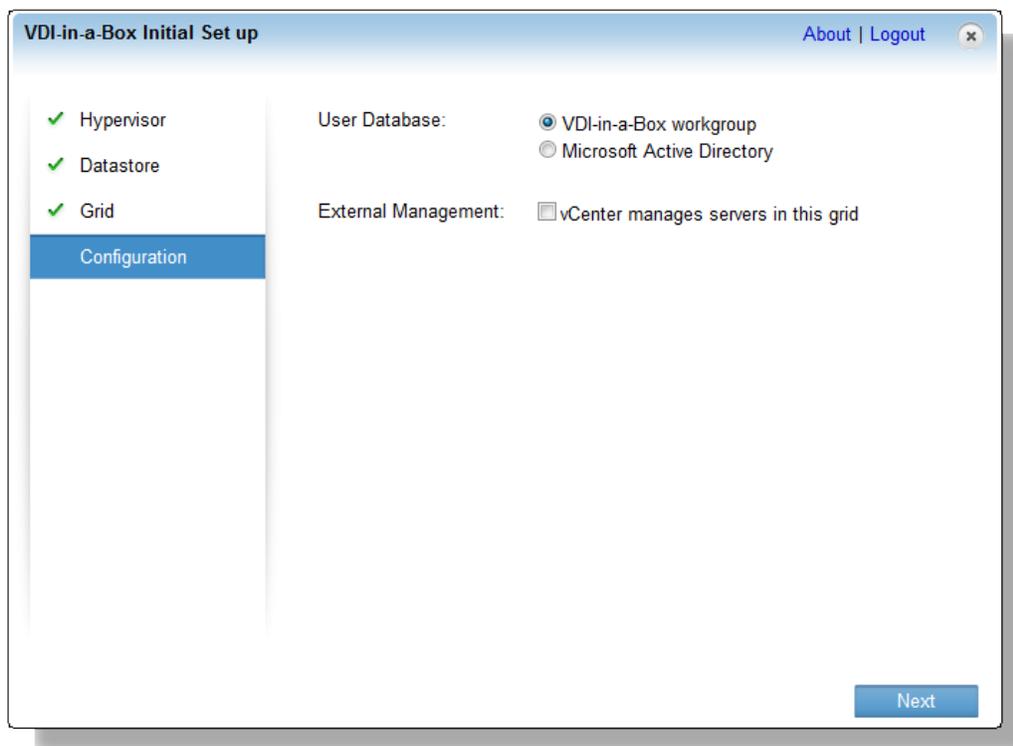
Domain: <domain.com>

User Name: administrator

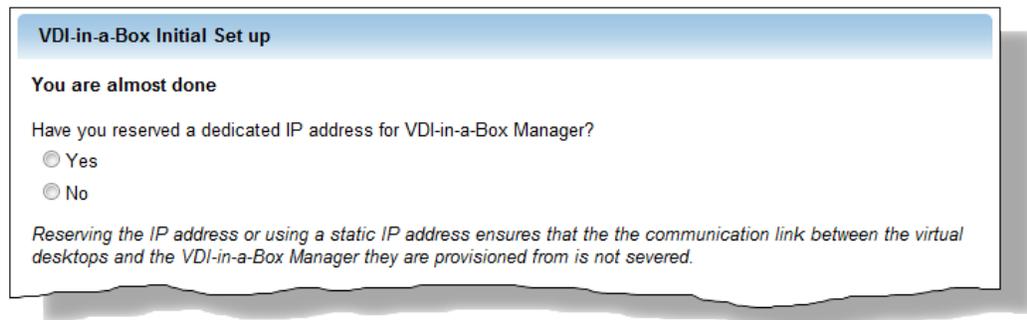
Password:

External Management: vCenter manages servers in this grid

Next



3. Active Directoryを選択した場合、[IP Address] ボックスに、データベースをホストするサーバーのIPアドレスを入力します。
4. Active Directoryを選択した場合、[Domain] ボックスにDNSドメインを入力します。
5. Active Directoryを選択した場合、[User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
6. VMware vCenterでグリッド内のサーバーを管理する場合は、[vCenter manages servers in this grid] を選択します。[vCenter manages servers in this grid] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。
7. [vCenter manages servers in this grid] を選択した場合、[IP Address] ボックスに、vCenterを実行するサーバーのIPアドレスを入力します。
8. [vCenter manages servers in this grid] を選択した場合、[User Name] および [Password] ボックスに、vCenterのユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
9. [Next] をクリックします。「Have you reserved your VDI-in-a-Box Manager's IP address?」という質問が表示されます。



10. [Yes] または [No] を選択して、[Done] をクリックします。 [Generate a Base Desktop Image] ページが開きます。

既存のグリッドにサーバーを追加するには

1. VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページで、 [Join a VDI-in-a-Box server on an existing grid] を選択し、 [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Database] ページが開きます。
2. [Database] ページの [IP Address] ボックスに、既存のグリッドで動作している vdiManagerのIPアドレスを入力します。
3. [Database] ページの [User Name] および [Password] ボックスに、VDI-in-a-Boxコンソールのユーザー名とパスワードを入力します。
4. [Next] をクリックします。 これで、グリッドの構成手順が完了しました。

最初のWindowsイメージを作成する

更新日：2012-08-30

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) をサーバーにインポートして、データストア、データベース、およびグリッドに関連付けたら、最初のWindowsイメージを作成します。

ハイパーバイザーの機能を使用して新しい仮想マシンを作成して、Windowsをインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

ここで作成する仮想マシンは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ 仮想マシン上でWindows XP Professional (32ビット)、Windows 7 ProfessionalまたはEnterprise (32ビットまたは64ビット)、またはWindows Server 2008 R2, Enterprise Editionが実行されている。
- ・ 仮想マシン上でリモートデスクトップ接続 (RDP) 機能が有効になっている。
- ・ 仮想マシンのディスクイメージは1つだけである。
- ・ VDI-in-a-Boxにインポートする前に仮想マシンが起動しており、電源がオンの状態になっている。
- ・ 仮想マシンに4GB以上のディスクの空き領域がある。

イメージのインポートの準備を行うには

VDI-in-a-Boxとは別に、以下の手順を完了する必要があります。詳しくは、各製造元のドキュメントを参照してください。

1. ハイパーバイザーの管理ツールを仮想マシンにインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。
2. 必要に応じて、仮想マシンをドメインに参加させます。

注：仮想マシンはワークグループのメンバーでも構いません。

3. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、ユーザーのリモート接続を有効にします。
4. すべてのネットワークのリモートデスクトップ接続を許可するように、ファイアウォール設定の [ファイルとプリンターの共有] を有効にします。詳しくは、使用するファイアウォールのドキュメントを参照してください。
5. [マイコンピュータ] フォルダーで [フォルダオプション] ダイアログボックスを開き、[表示] タブの [詳細設定] の一覧で、[簡易ファイルの共有を使用する] チェックボックスをオフにします。

Windows仮想マシンをインポートするには

Webブラウザ上に [Generate a Base Desktop Image] ページが開いていない場合は、セットアップが完了したvdiManager (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1. [Generate a Base Desktop Image] ページで、 [Continue] をクリックします。
2. [Import new VM] ページで、イメージとして使用する仮想マシンを選択します。

Import new VM

Import Image
Install Agent
Edit Image
Prepare Image
Test Image

Select the virtual machine you would like to import as a base desktop image. If the VM you would like to import shows up as "Not importable", select it to see why it cannot be imported.

Select VM Refresh View

nBase_Windows
nWin2008R2

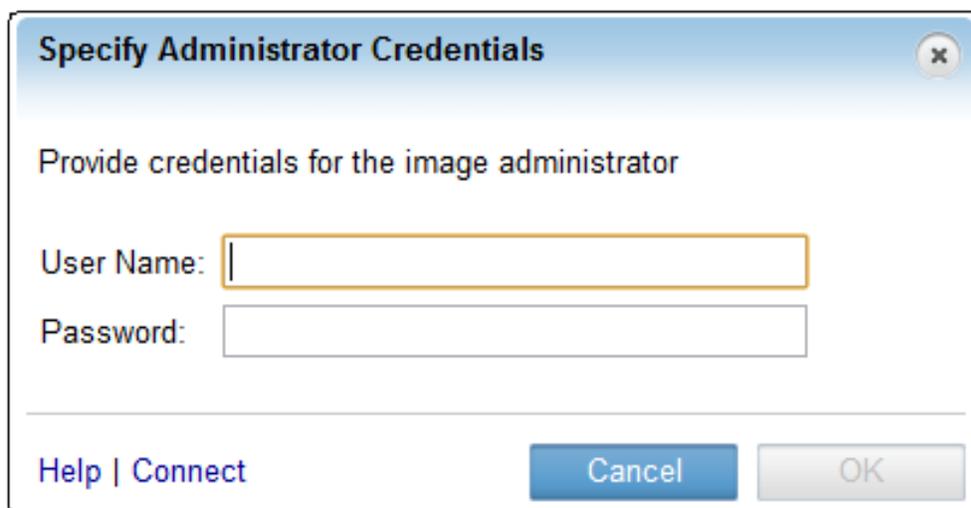
Selected VM nBase_Windows

New Image Name west-win

Description western range

Help Import

3. [New Image Name] ボックスに、インポートした仮想マシンの名前を入力します。
注：インポート元のイメージとは別の名前を指定してください。
4. [Description] ボックスに、仮想マシンの説明を入力し、 [Import] をクリックします。 [Specify Administrator Credentials] ダイアログボックスが開きます。

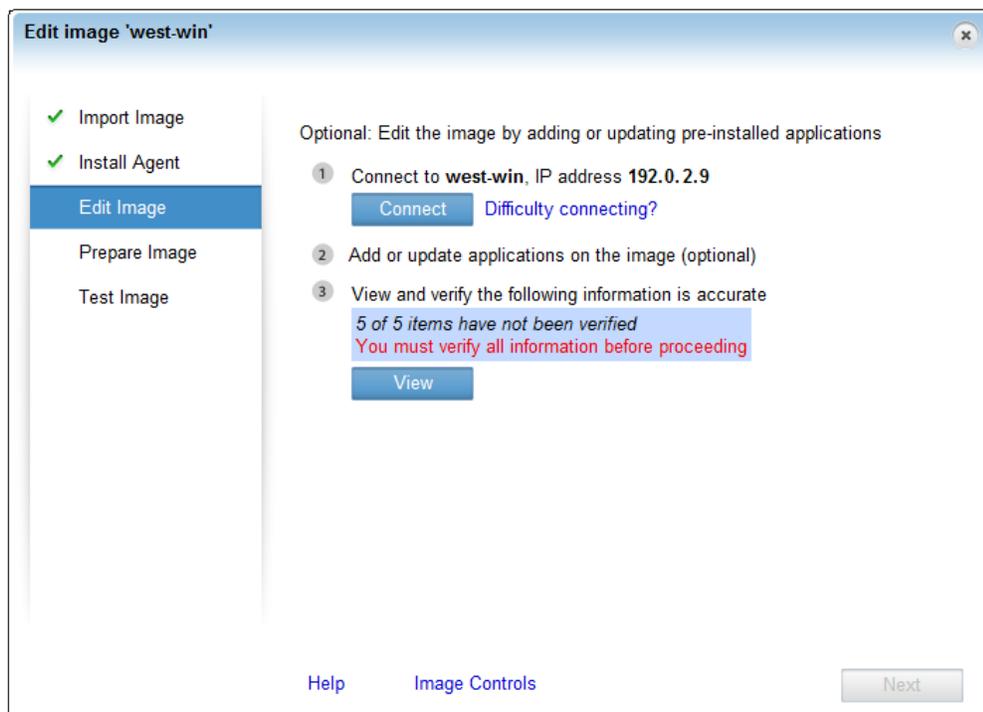


5. イメージの管理者特権を持つアカウントのユーザー名およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。インポートおよびDesktop Agentのインストールによるドラフトイメージの作成が開始され、進捗状況を示す状態ページが開きます。Import new VMウィザードの[Edit Image] ページが開きます。

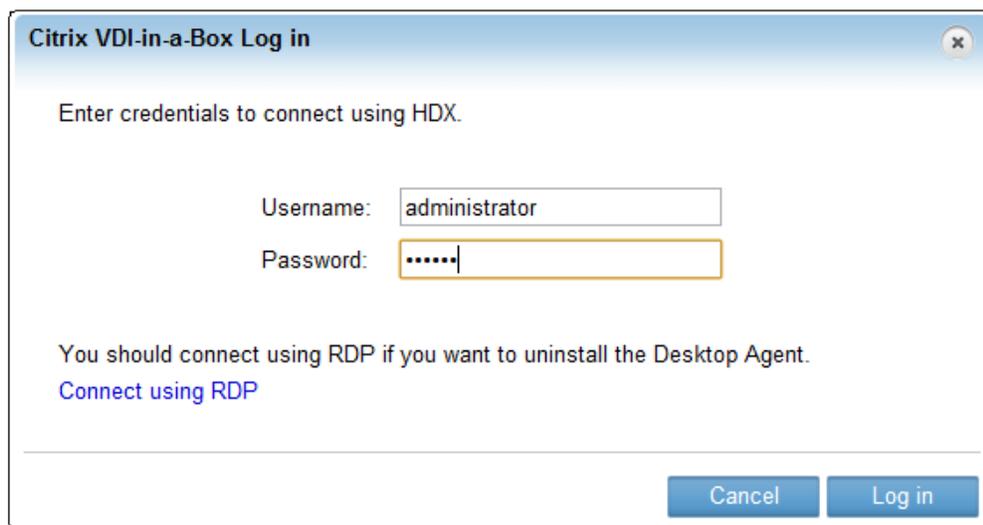
ドラフトイメージを編集するには

エージェントをインストールしたドラフトイメージを編集して、展開する仮想デスクトップに必要なアップデート、設定、パッチ、そのほかのアプリケーションを追加します。イメージからデスクトップを生成するために必要な前提条件を確認するためのチェックリストが表示されます。

1. [Edit Image] ページで、[Connect] をクリックします。



2. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、イメージの管理者特権を持つアカウントの資格情報を入力して [Log in] をクリックします。



3. 必要に応じてイメージを編集し、イメージからログオフします。
4. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

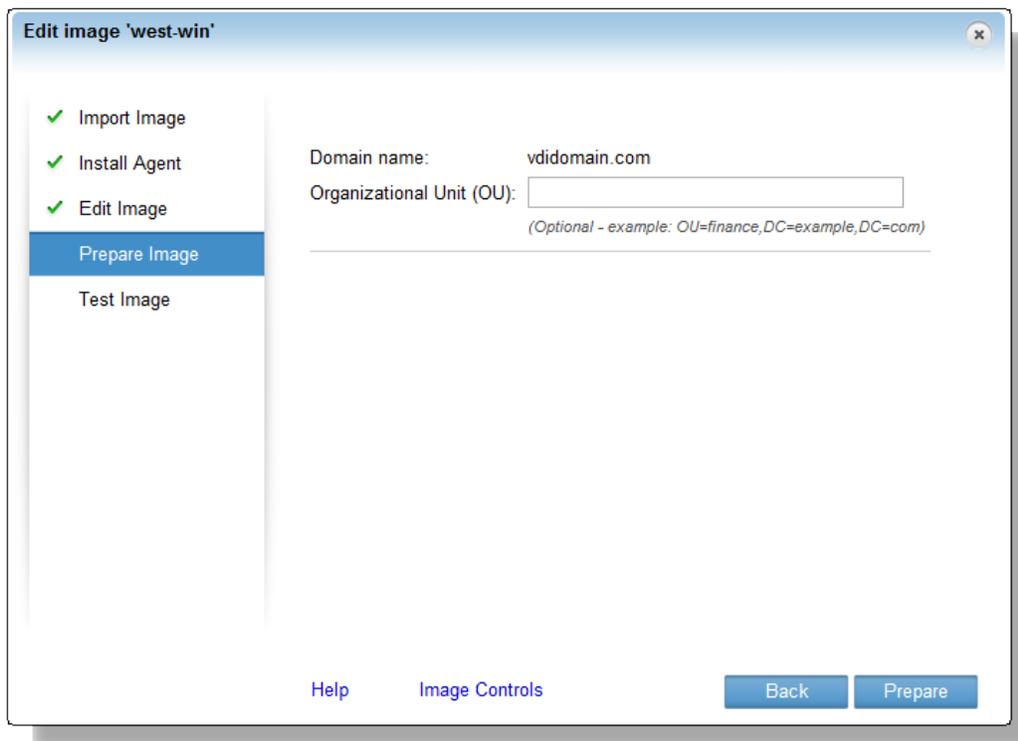
5. [Edit Image] ページで、[View] をクリックします。前提条件の一覧が質問形式で表示されます。

注：ここに表示される前提条件は、ハイパーバイザーとイメージのオペレーティングシステムによって異なります。

6. [Yes] をクリックして、各前提条件を満たしていることを確認します。
7. すべての前提条件を満たしていることを確認した後で、[Done] をクリックします。前提条件の一覧が閉じて、[Edit Image] ページに戻ります。
8. [Next] をクリックします。[Prepare Image] ページが開きます。

イメージの準備を行うには

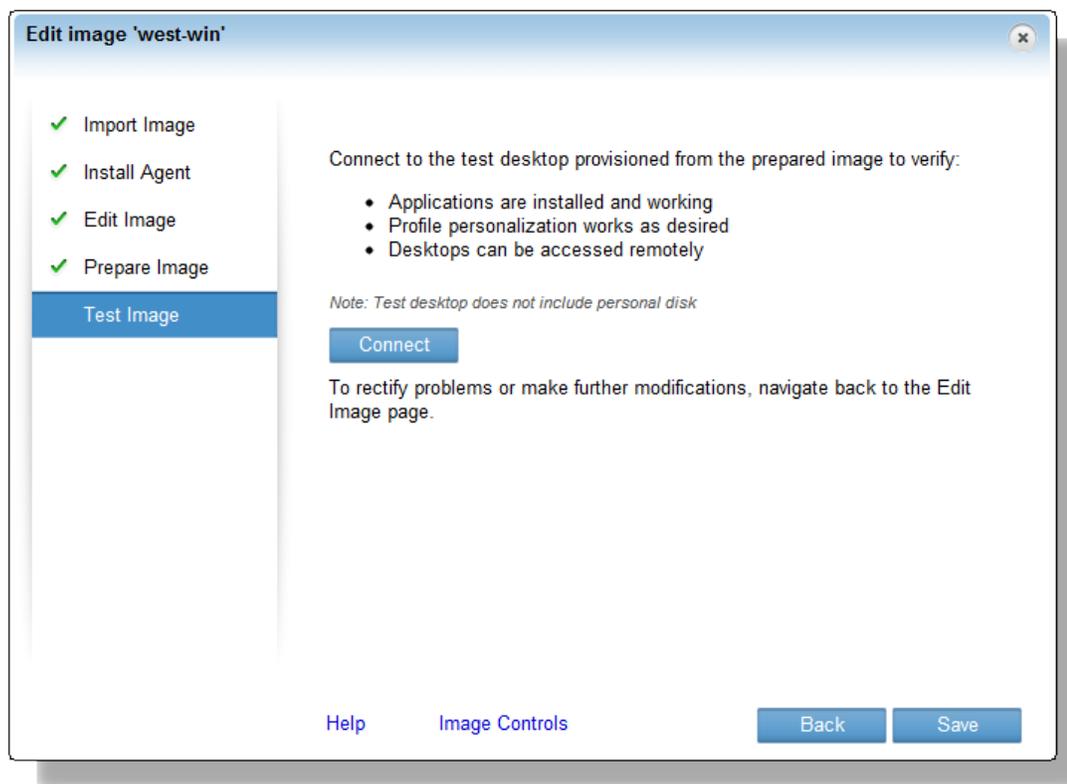
1. [Prepare Image] ページの [Domain name] ボックスの一覧で、ドメインまたはワークグループを選択します（選択可能な場合）。



2. 必要に応じて、[Organizational unit (OU)] ボックスに、イメージの適用先の組織単位を入力します。
3. [Prepare] をクリックします。[Confirm] メッセージが表示されます。
4. [Confirm] をクリックします。[Confirm] メッセージと [Prepare Image] ページが閉じます。進行状況を示す状態ページが開きます。準備されたイメージからテストデスタトップが作成され、[Test Image] ページが開きます。

準備したデスクトップイメージをテストするには

テストイメージを使用して、そのドラフトイメージから適切なデスクトップを生成できるかどうか、およびユーザーがこのデスクトップにHDX接続とRDP接続を確立できるかどうかを検証します。ドラフトイメージを保存すると、テストイメージおよびそのイメージに対する変更内容はすべて削除されます。



1. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。 [Connect to the draft image] ダイアログボックスが開きます。



2. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Citrix HDX] を選択し、[Connect] をクリックします。 [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスが開きます。
3. 資格情報を入力して、[Log in] をクリックします。 HDX接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
4. インストールされているアプリケーションが正常に動作すること、および必要なグループポリシーが適用されていることを確認します。
5. Active Directoryを使用して構成したグリッドでは、ドメインユーザーとしてログオンとログオフを行ってアクセスをテストします。
6. テストイメージからログオフします。 テストイメージが閉じます。
7. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
8. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。
9. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Microsoft RDP] を選択し、[Connect] をクリックします。 RDP接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
10. テストイメージにログオンし、RDP接続が正常に機能しているかどうかを確認して、ログオフします。 テストイメージが閉じます。
11. [Test Image] ページで [Save] をクリックします。 [Confirm] メッセージが表示されます。
12. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。 [Confirm] メッセージと [Test Image] ページが閉じます。 進行状況を示す状態ページが開きます。 [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開きます。

公開イメージから最初のテンプレートを作成するには

更新日： 2012-10-09

ここでは、必要な仕様を満たす同一の仮想デスクトップを生成するためのテンプレートを作成します。テンプレートは、イメージとポリシーで構成されています。イメージにはデスクトップ上で実行されるオペレーティングシステムとアプリケーションが含まれます。イメージの作成について詳しくは、「[最初のWindowsイメージを作成する](#)」を参照してください。

重要： テンプレートを作成する前に、少なくとも1つのイメージの作成と公開を行う必要があります。

テンプレート作成中に設定するポリシーにより、いくつのデスクトップを作成するのか、どれだけのRAMを割り当てるのかなどの特性が定義されます。

テンプレートから生成されるデスクトップに一定のパターンの名前が付けられるように、コンピューター名の先頭（プレフィックス）および末尾（サフィックス）に特定の語を追加します。プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。サフィックスには、最大で4文字の数字を設定できます。サフィックスの上位桁に「0」を使用することもできます（「0001」など）。サフィックスにより生成される番号は、仮想デスクトップの作成ごとに増分されます。たとえば、プレフィックスとして「<name>」、サフィックスとして「0000」を設定し、仮想デスクトップを2つ作成すると、「<name>0001」および「<name>0002」という名前が使用されます。サフィックスの上位桁に「0」を使用しない場合、生成される名前にも「0」が使用されません。たとえば、サフィックスとして「1」を指定すると、「<name>1」、「<name>2」、「<name>3」などの名前が設定されます。

テンプレートでは、デスクトップを事前起動するためのオプションも選択できます。「事前起動デスクトップ」とは、電源が入り、ログオンプロンプトが表示された状態でユーザーのアクセスを待機するデスクトップを指します。事前起動デスクトップでは、ユーザーが仮想デスクトップの起動を待つ必要がありません。事前起動するデスクトップの数を指定すると、ユーザーがログオンするデスクトップの数に応じて、事前起動デスクトップの数が保持されます。たとえば、テンプレートで事前起動デスクトップ数として5を指定した場合、5つの仮想デスクトップが事前起動してユーザーを待機します。2人のユーザーが各自のデスクトップにログオンすると、新たに2台のデスクトップが事前起動され、指定した事前起動デスクトップ数が保持されます。テンプレートで指定した最大数に達するまで、この処理が継続されます。テンプレートの自動起動デスクトップ数を「0」に設定すると、そのテンプレートはシャットダウンし、ユーザーが接続できなくなります。

注： Windows XPを実行するイメージでは、テンプレートによりプールデスクトップだけがプロビジョニングされます。

Webブラウザー上に [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1. [Create Desktop Templates from the Base Image] ページで、[Continue] をクリックします。Create a New Desktop Templateウィザードの [Template

Information] ページが開きます。

The screenshot shows the 'Create a New Desktop Template' dialog box. The 'Template Information' tab is active. The fields are filled with the following values: Template name: Building A; Image name: west-win; Description: Pooled desktops for Building A; Computer name Prefix: BuildA; Suffix: 0000; Memory (MB): 512; Virtual CPUs: 1; Color depth: True color (32 bit). The checkboxes for 'Disk drives', 'Printers', 'Serial ports', and 'Other USB devices' are checked. The 'Next' button is highlighted.

2. [Template Name] ボックスに、テンプレートの名前を入力します。
3. 使用可能なイメージの一覧から、このテンプレートに関連付けるイメージを選択します。
4. [Description] ボックスに、テンプレートの説明を入力します。
5. [Prefix] ボックスに、生成したイメージの名前に追加されるプレフィックスを入力します。

注：プレフィックスとして、英数字およびハイフン (-) を使用できます。

6. [Suffix] ボックスに、生成したイメージの名前に追加されるサフィックスを入力します。

注：プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。サフィックスとして、1~4文字の数字を使用できます。サフィックスの上位桁に「0」を使用することもできます（「0001」など）。

7. [Memory (MB)] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるメモリを選択します。

注：Windows 7およびWindows Server 2008 R2のデスクトップには、少なくとも1536MBのメモリを割り当てることをお勧めします。Windows XPのデスクトップには、少なくとも512MBのメモリを割り当てる必要があります（1GB以上を推奨）。

8. [Virtual CPUs] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるCPUの数を選択します。
9. ディスクドライブやプリンターなど、仮想デスクトップに接続するローカルデバイスを選択します。

- 必要に応じて、HDX接続の表示色数を変更します。
- [Next] をクリックします。 [Template Policies] ページが開きます。

The screenshot shows a dialog box titled "Create a New Desktop Template - Building A". It has two tabs: "Template Information" (with a green checkmark) and "Template Policies" (which is selected). Under "Template Policies", there are several settings:

- "Maximum desktops": A text box containing the number "2".
- "Pre-started desktops": A text box containing the number "1".
- "Template will provision": Two radio buttons, "Pooled desktop" (selected) and "Personal desktop".
- "Refresh desktop": A dropdown menu set to "On logout".
- Two checked checkboxes: "Do not reassign desktops 'On Hold' to new users" and "Enable fast refresh of desktops".
- An unchecked checkbox: "Make this the default template".

At the bottom of the dialog, there are three buttons: "Help" (in blue text), "Back" (in a blue button), and "Save" (in a blue button).

- [Maximum desktops] ボックスに、このテンプレートで展開するデスクトップの最大数を入力します。
- [Pre-started desktops] ボックスに、ユーザーが直ちにログオンできるように事前起動しておくデスクトップの数を入力します。ユーザーがテンプレートにアクセスできるように、自動起動デスクトップ数として1以上を指定します。

注：テスト段階では、最大デスクトップ数として2、事前起動デスクトップ数として1を設定することをお勧めします。

- [Refresh desktop] ボックスの一覧で、デスクトップの更新方法を選択します。ここでは、ユーザーのデスクトップを、テンプレートから生成した直後の状態に更新するタイミングを指定します。 [On logout] を選択した場合、デバッグ上の理由からこれは管理者には適用されません。管理者は、デスクトップライフサイクルイベントをトリガーすることなくログオンやログオフを許可されます。
 - On logout : ユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。
 - Scheduled : 毎日、毎週、または毎月など、指定した日時にデスクトップが更新されます。使用中のデスクトップも更新するかどうかを指定することもできます。使用中のデスクトップを更新するオプションを選択しない場合は、指定した日時が経過した後にユーザーがログアウトした時点で更新されます。
 - Scheduled or on logout : 指定した日時、およびユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。これはユーザーが長時間デスクトップにログオンする

環境で役立ちます。

- ・ Manual : デスクトップの更新を手作業で行います。この設定により、特定のユーザーに無期限に割り当てられる「永続デスクトップ」が生成されます。永続デスクトップでは、ユーザーが追加したアプリケーションや変更した設定がログオフ後も永続的に保持されるため、通常のパーソナルコンピューターのように使用できます。

15. [Do not reassign desktops "On Hold" to new users] チェックボックスをオンにすると、デスクトップをユーザーが保持できるようになります。

注：このオプションは、デフォルトで有効になっています。

16. [Enable fast refresh of desktops] チェックボックスをオンにすると、ユーザーがログオフしたときにデスクトップが高速にリフレッシュされるようになります。

17. [Make this the default template] チェックボックスをオンにすると、テンプレートが割り当てられていないユーザーにこのイメージが使用されるようになります。

注：グリッドのデフォルトテンプレートが指定されていない場合、テンプレートが割り当てられていないユーザーの資格情報はログオン時に拒否されます。

18. [Save] をクリックします。

19. [Close] をクリックします。事前起動として指定した数のデスクトップが起動し、[Assign Users to Desktops] ページが開きます。

テンプレートを編集するには

更新日：2011-10-18

テンプレートを編集することで、デスクトップの最大数や事前起動デスクトップの数などの設定を変更できます。

Webブラウザで、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPAddress>/admin/>) にログインします。

1. VDI-in-a-Boxコンソールで、[Templates] タブをクリックします。
2. 編集するテンプレート名を選択します。
3. 必要に応じて設定を変更して、[Save] をクリックします。

重要： [Save] は、[Template Policies] ページ上にあります。

ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て

更新日： 2012-08-29

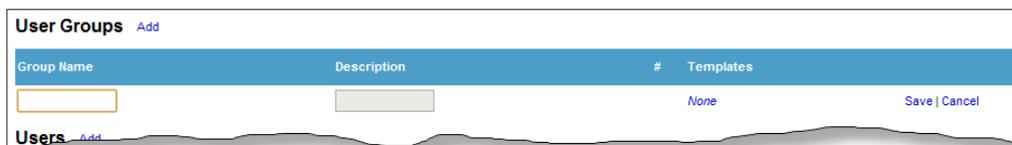
テンプレートを作成したら、ユーザー、ユーザーグループ、およびIPアドレスにそのテンプレートを割り当てることができます。ユーザーとグループには、複数のテンプレートを割り当てることができます。キオスクなどのIPアドレスにテンプレートを割り当てると、そのキオスクにログオンするすべてのユーザーで同じデスクトップが使用されます。

テンプレートが割り当てられていないユーザーがログオンした場合は、デフォルトテンプレートが使用されます。ただし、デフォルトテンプレートを指定していない場合、そのユーザーの資格情報は拒否されます。

Webブラウザー上に [Assign Users to Desktops] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

ユーザーグループにテンプレートを割り当てるには

1. [Assign Users to Desktops] ページで、[Continue] をクリックします。[Users] ページが開きます。このページには、ユーザーグループ、ユーザー、およびIPアドレスの一覧が表示されます。
2. ユーザーグループの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



Group Name	Description	#	Templates
<input type="text"/>	<input type="text"/>		None

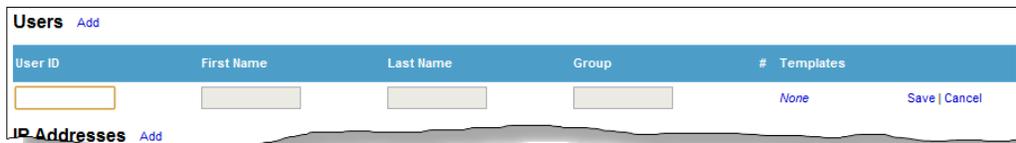
Save | Cancel

Users Add

3. [Group Name] ボックスに、テンプレートを割り当てるグループの名前を入力します。ユーザーデータベースとしてActive Directoryが使用されている環境では、グループ名の最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたグループ名を選択するには、Enterキーを押します。
4. [Description] ボックスに、グループの説明を入力します。
5. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。[Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、[None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、テンプレート名が [None] に変わります。
6. [Save] をクリックします。グループが一覧に追加されます。
7. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のグループに割り当てます。

ユーザーにテンプレートを割り当てるには

1. ユーザーの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



The screenshot shows a web interface for managing users. At the top, there is a header 'Users' with an 'Add' link. Below it is a table with the following columns: 'User ID', 'First Name', 'Last Name', 'Group', and '# Templates'. The 'User ID' column has an input field. The 'First Name', 'Last Name', and 'Group' columns have empty input fields. The '# Templates' column contains the text 'None'. To the right of the table, there are 'Save | Cancel' buttons. Below the table, there is a link for 'IP Addresses' with an 'Add' link.

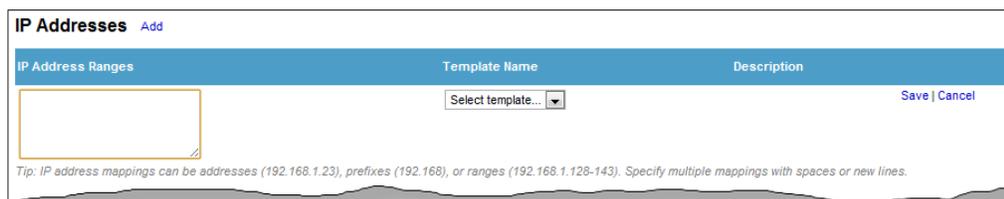
2. [User ID] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーのユーザーIDを入力します。ユーザーデータベースとしてActive Directoryが使用されている環境では、ユーザーIDの最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたIDを選択するには、Enterキーを押します。

注： [First Name]、[Last Name]、および [Group] は空欄でも構いません。そのユーザーの情報がActive Directoryに格納されている場合は、これらの情報が自動的に入力されます。

3. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。 [Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、 [None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、テンプレート名が [None] に変わります。
4. [Save] をクリックします。ユーザーが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のユーザーに割り当てます。

受信IPアドレスにテンプレートを割り当てるには

1. IPアドレスの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



IP Address Ranges	Template Name	Description
<input type="text"/>	Select template... ▼	

Tip: IP address mappings can be addresses (192.168.1.23), prefixes (192.168), or ranges (192.168.1.128-143). Specify multiple mappings with spaces or new lines.

2. [IP Address Ranges] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーデバイスのIPアドレスの範囲を入力します。個々のアドレス（「192.168.23.143」など）、プレフィックス（「192.168」など）、または範囲（「192.168.10.174-204」など）を指定できます。各エントリは改行またはスペースで区切ります。
3. テンプレートの一覧で、IPアドレスに割り当てるテンプレートを選択します。
4. [Save] をクリックします。IPアドレスが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、IPアドレスに別のテンプレートを割り当てます。

注：テンプレートをIPアドレスに割り当てたら、既存の割り当てを削除するまで再割り当てを行うことはできません。

テンプレートの割り当てを編集するには

1. vdiManager管理コンソールで、[Users] ページを選択します。
2. テンプレートを編集するユーザーグループ、ユーザー、またはIPアドレスにポインターを合わせて [Edit] をクリックします。
3. 必要に応じて編集し、[Save] をクリックします。

ユーザーとしての接続のテスト

更新日：2012-10-08

テンプレートを設定し、テンプレートからデスクトップを作成して、ユーザーに割り当てたら、ユーザーとしてデスクトップにログオンし、接続が正しく機能することを確認します。これを行うには、Citrix Receiverの最新バージョンをインストールしておく必要があります。Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、JRE（Java Runtime Environment）6または7もインストールします。

ユーザーデバイスを準備するには

テスト用のユーザーデバイスを準備するには、HDXで接続できるようにCitrix Receiverをインストールします。

- ・ Citrix Receiverがインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からWebサイトの指示に従ってダウンロードします。
- ・ Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、ユーザーデバイスにJRE 6または7がインストールされているかを確認します。必要な場合は、<https://www.java.com>からWebサイトの指示に従って、最新バージョンを入手します。

デスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって多少異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「<https://<IPaddress>/>（VDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレス）」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
4. [Citrix VDI-in-a-Box] ページの [ユーザー名] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [パスワード] ボックスにパスワードを入力し、[ログオン] をクリックします。
6. 接続するデスクトップをクリックします。仮想デスクトップに接続されます。

WebブラウザからVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「`https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。使用するWebブラウザによっては、「Opening vdiclient.jnlp」ダイアログボックスが開く場合があります。
4. 「Opening vdiclient.jnlp」ダイアログボックスが開いた場合は、「Open with」が選択され、その横の一覧に「Java(TM) Web Start Launcher (default)」が表示されていることを確認して、「OK」をクリックします。
5. 「Citrix VDI-in-a-Box Client」ダイアログボックスにユーザーの資格情報を入力し、「Log On」をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、「Select a Desktop」ダイアログボックスが開きます。
6. 「Connect」をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

コマンドプロンプトからVDI-in-a-Box Java デスクトップクライアントを使用してデスクトッ プに接続するには

以下の手順は、使用するユーザーデバイスによって異なる場合があります。

1. 「コマンドプロンプト」ウィンドウを開きます。
2. 「`javaws https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」というコマンドを入力します。
3. Enterキーを押します。
4. 「Log on」ダイアログボックスの「User name」ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. 「Password」ボックスにパスワードを入力し、「Log On」をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、「Select a Desktop」ダイアログボックスが開きます。
6. 「Connect」をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

VMware ESXiでのWindows Server 2008 R2イメージの使用

更新日： 2012-08-15

以下のトピックを参照して、Citrix VDI-in-a-Box環境をセットアップします。

- ・ [VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには](#)
- ・ [グリッドを作成して構成する](#)
- ・ [最初のWindowsイメージを作成する](#)
- ・ [公開イメージから最初のテンプレートを作成するには](#)
- ・ [テンプレートを編集するには](#)
- ・ [ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て](#)
- ・ [ユーザーとしての接続のテスト](#)

VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには

更新日： 2012-09-25

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) と呼ばれるVDI-in-a-Box仮想アプライアンスをCitrixのWebサイトからダウンロードして、VMware ESXiにインポートします。

ダウンロードパッケージのVDI-in-a-Box_ESX_v5_1_1.zipには、vdiManagerファイルであるvdiManager_ESX_v5_1_1.ovaが含まれています。vdiManagerを抽出するには、約2GBの空きディスクスペースが必要です。

注：VMware VSphereクライアントからアクセス可能な場所にダウンロードして抽出するようにしてください。

1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. My Citrixにログオンしていない場合は、ログオンします。
3. [Downloads] をクリックします。
4. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
5. ダウンロードの種類として、[Product Software] を選択します。
6. [Find] をクリックします。VDI-in-a-Box製品のページが開きます。
7. [VDI-in-a-Box 5.1.1] をクリックします。VDI-in-a-Box 5.1.1のページが開きます。
8. 「Appliances」セクションで、適切なハイパーバイザーの [Download] をクリックします。



ライセンス契約が表示されます。

9. ライセンス契約に同意します。 [Download Manager] ウィンドウが開きます。
10. [Download Now] をクリックします。
11. [Install] をクリックして、VDI-in-a-Box_ESX_v5_1_1.zipを保存します。
12. ZIPファイルから、vdiManager_ESX_v5_1_1.ovaを抽出します。

vdiManagerをインポートするには

vdiManager_ESX_v5_1_1.ovaを抽出したら、このvdiManagerファイルをVMware vSphereクライアントを使用してVMware ESXi上にインポートします。vSphereクライアントを使用したインポートについて詳しくは、<http://www.vmware.com/>を参照してください。インポート処理が終了すると、vdiManagerはvSphereクライアント管理コンソール内に仮想マシンとして表示されます。

重要： ハイパーバイザーに複数のvdiManagerをインポートしないでください。これを行うと、CPU、RAM、ディスク、およびネットワークが過度に消費され、システムが応答不能になることがあります。

グリッドを作成して構成する

更新日：2012-10-29

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) がハイパーバイザーにインポートされ、管理コンソールで利用可能になったら、VDI-in-a-Boxグリッドを構成します。

グリッドは、vdiManagerを実行しているサーバーをグループ化して負荷分散を可能にし、サーバー上の仮想マシンの高可用性を保証します。

また、WebブラウザーでJavaScriptとCookieを有効にしてください。

初回セットアップ時にvdiManager管理コンソールを開くには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって異なる場合があります。

1. ハイパーバイザー上でvdiManagerが起動しており、電源がオンの状態であることを確認します。

注：vdiManager仮想アプライアンスのIPアドレスを書き留めていない場合は、書き留めます。
2. WebブラウザーのURLボックスに「`https://<IPaddress>/admin/`」と入力し、Enterキーを押します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。さらに警告が表示される場合は、それらの警告も受け入れます。[Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページが開きます。
4. [Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページの [ユーザー名] ボックスに、「`vdiadmin`」と入力します。
5. [パスワード] ボックスに「`kaviza`」と入力し、[ログオン] をクリックします。[Welcome] ページが開き、仮想デスクトップを生成するために必要な4つの手順が表示されます。

VDI-in-a-Box

Welcome!

Thank you for choosing VDI-in-a-Box. We want this to be a fast and pleasant experience. Below is a brief overview of the set up process. If you want background information on VDI-in-a-Box before you get started, go to support.citrix.com/vdi-in-a-box.

Overview

Below are the 4 steps you will need to complete in order to generate desktops for your users.

- 
Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid
- 
Generate a Base Desktop Image
- 
Create Desktop Templates from the Base Image
- 
Assign Users to Desktops

[Get Started](#)

ハイパーバイザーをセットアップするには

1. [Welcome] ページで、[Get Started] をクリックします。 [Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid] ページが開きます。
2. [Continue] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Hypervisor] ページが開きます。

The screenshot shows the 'VDI-in-a-Box Initial Set up' wizard window. The title bar includes 'About | Logout' and a close button. On the left, a sidebar menu has 'Hypervisor' selected, with other options 'Datastore', 'Grid', and 'Configuration'. The main area contains the text 'To connect to the hypervisor, please enter the credentials below.' and three input fields: 'IP Address' with the value '192.0.2.9', 'User Name' with the value 'root', and 'Password' with masked characters '.....'. A 'Next' button is located at the bottom right of the main area.

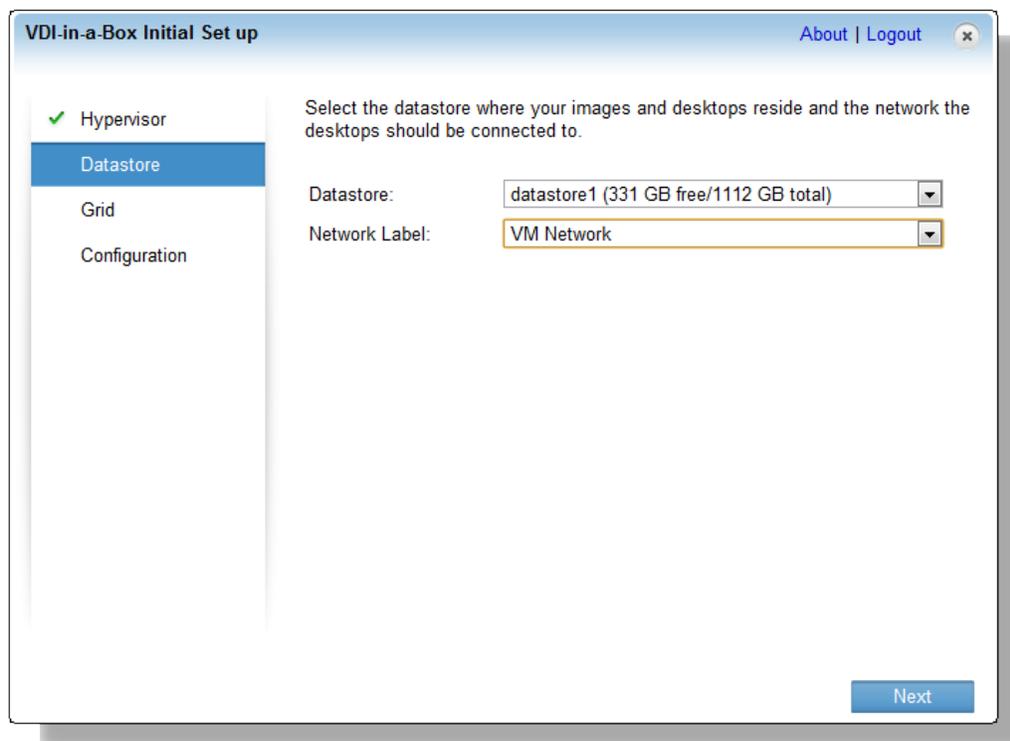
3. [IP Address] ボックスに、ハイパーバイザーを実行しているサーバーのIPアドレスを入力します。
4. [User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーアカウントは、root特権を持っている必要があります。
5. [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Datastore] ページが開きます。

データストアとネットワークラベルをセットアップするには

データストアには、デスクトップのイメージと仮想デスクトップが格納されます。

注： VDI-in-a-Boxで指定したデータストア名を変更しないでください。データストア名を変更すると、デスクトップの生成やクリーンアップに失敗することがあります。

1. [Datastore] ページでは、データストアとネットワークラベルを選択します。



2. [Next] をクリックします。データストアの情報が保存され、VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページが開きます。ここでは、新規グリッドを作成したり、既存のグリッドを追加したりできます。

新規または既存のグリッドの選択

新規のVDI-in-a-Box環境をセットアップする場合は、新規のグリッドを作成します。新規のグリッドを作成するときは、VDI-in-a-Box仮想マシンにアクセスするユーザーとグループを格納しているデータベースに、そのグリッドを関連付ける必要があります。このデータベースとして、Active Directoryサーバー、またはローカルに格納されているワークグループと呼ばれるデータベースを使用できます。

既存のVDI-in-a-Box環境を拡張する場合は、既存のグリッドにこのVDI-in-a-Boxサーバーを追加します。

新規のグリッドを作成してデータベースに割り当てるには

1. [Grid] ページで、[Create a new VDI-in-a-Box grid] を選択し、[Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの[Configuration] ページが開きます。
2. [User Database] で、[VDI-in-a-Box workgroup] または [Microsoft Active Directory] を選択します。[Microsoft Active Directory] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。[VDI-in-a-Box workgroup] を選択した場合は、この情報を入力する必要はありません。

VDI-in-a-Box Initial Set up

About | Logout

- ✓ Hypervisor
- ✓ Datastore
- ✓ Grid
- Configuration

User Database:

VDI-in-a-Box workgroup

Microsoft Active Directory

IP Address: 198.51.100.2
(Domain example: example.com)

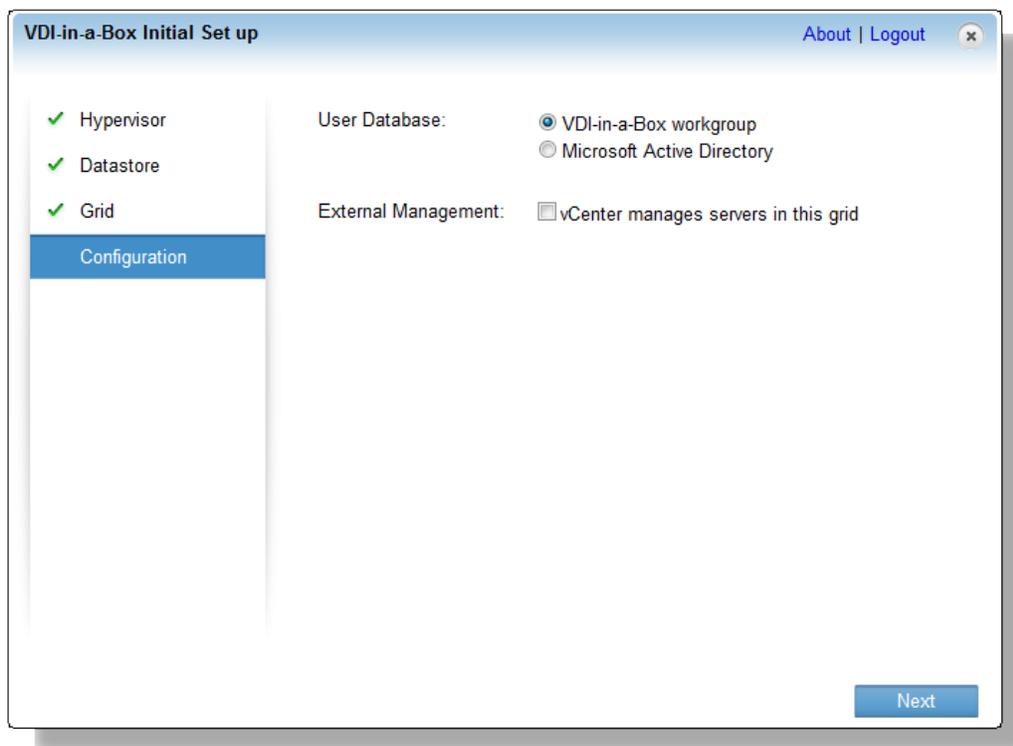
Domain: <domain.com>

User Name: administrator

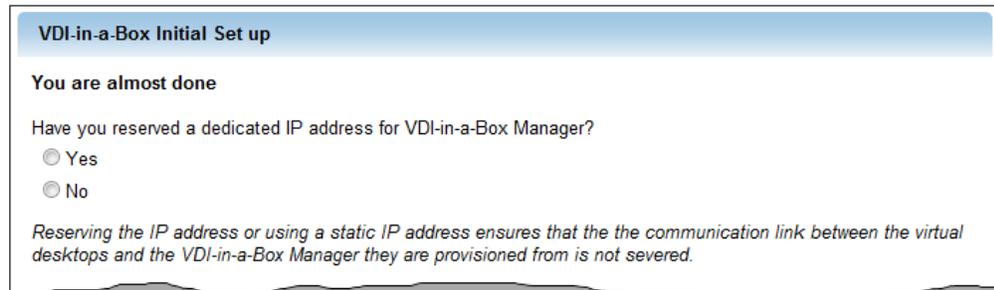
Password:

External Management: vCenter manages servers in this grid

Next



3. Active Directoryを選択した場合、[IP Address] ボックスに、データベースをホストするサーバーのIPアドレスを入力します。
4. Active Directoryを選択した場合、[Domain] ボックスにDNSドメインを入力します。
5. Active Directoryを選択した場合、[User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
6. VMware vCenterでグリッド内のサーバーを管理する場合は、[vCenter manages servers in this grid] を選択します。[vCenter manages servers in this grid] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。
7. [vCenter manages servers in this grid] を選択した場合、[IP Address] ボックスに、vCenterを実行するサーバーのIPアドレスを入力します。
8. [vCenter manages servers in this grid] を選択した場合、[User Name] および [Password] ボックスに、vCenterのユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
9. [Next] をクリックします。「Have you reserved your VDI-in-a-Box Manager's IP address?」という質問が表示されます。



10. [Yes] または [No] を選択して、[Done] をクリックします。 [Generate a Base Desktop Image] ページが開きます。

既存のグリッドにサーバーを追加するには

1. VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページで、 [Join this VDI-in-a-Box server to an existing grid] を選択し、 [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Database] ページが開きます。
2. [Configuration] ページの [IP Address] ボックスに、既存のグリッドで動作している vdiManagerのIPアドレスを入力します。
3. [Configuration] ページの [User Name] および [Password] ボックスに、vdiManager管理コンソールのユーザー名とパスワードを入力します。
4. [Next] をクリックします。 これで、グリッドの構成手順が完了しました。

最初のWindowsイメージを作成する

更新日：2012-08-30

ハイパーバイザーの機能を使用して新しい仮想マシンを作成して、Windowsをインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

ここで作成する仮想マシンは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ 仮想マシン上でWindows XP Professional (32ビット)、Windows 7 ProfessionalまたはEnterprise (32ビットまたは64ビット)、またはWindows Server 2008 R2, Enterprise Editionが実行されている。
- ・ 仮想マシン上でリモートデスクトップ接続 (RDP) 機能が有効になっている。
- ・ 仮想マシンのディスクイメージは1つだけである。
- ・ VDI-in-a-Boxにインポートする前に仮想マシンが起動しており、電源がオンの状態になっている。
- ・ 仮想マシンに4GB以上のディスクの空き領域がある。

イメージのインポートの準備を行うには

VDI-in-a-Boxとは別に、以下の手順を完了する必要があります。詳しくは、各製造元のドキュメントを参照してください。

1. 有効なMicrosoftボリュームアクティベーションキーを使用して、仮想マシンのライセンス認証を行います。
2. 仮想マシンのローカルの管理者アカウントを有効にします。
3. ハイパーバイザーの管理ツールを仮想マシンにインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。
4. 必要に応じて、仮想マシンをドメインに参加させます。

注：仮想マシンはワークグループのメンバーでも構いません。

5. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、ユーザーのリモート接続を有効にします。
6. リモートエージェントのインストールを許可するように、ファイアウォール設定の [ファイルとプリンターの共有] を有効にします。詳しくは、使用するファイアウォールのドキュメントを参照してください。

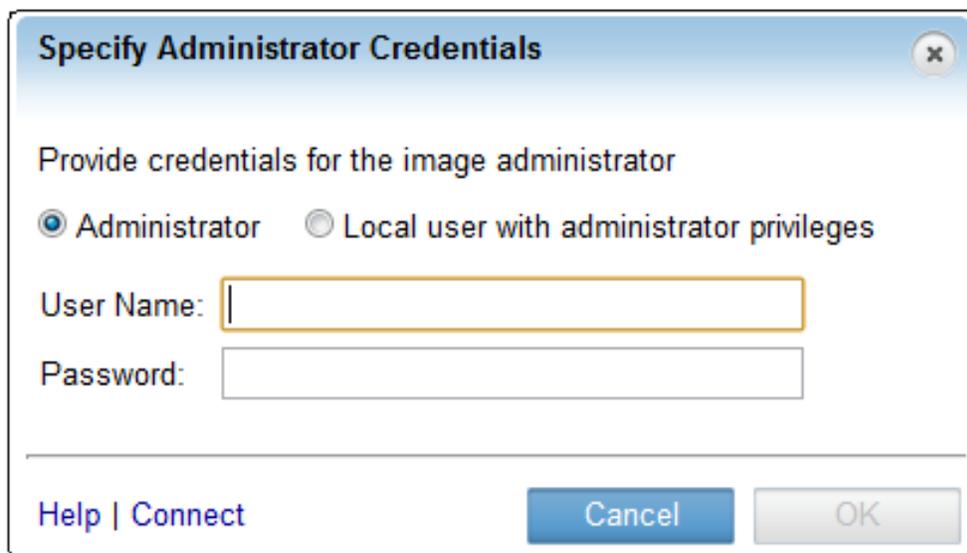
Windows仮想マシンをインポートするには

Webブラウザー上に [Generate a Base Desktop Image] ページが開いていない場合は、セットアップが完了したvdiManager (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインしてこのページを開きます。

1. [Generate a Base Desktop Image] ページで、 [Continue] をクリックします。
2. [Import new VM] ページで、イメージとして使用する仮想マシンを選択します。

The screenshot shows the 'Import new VM' dialog box. On the left is a sidebar with the following menu items: 'Import Image' (highlighted in blue), 'Install Agent', 'Edit Image', 'Prepare Image', and 'Test Image'. The main content area has the following elements:
- A heading: 'Import new VM' with a close button (X) in the top right corner.
- A sidebar menu on the left.
- A main text area: 'Select the virtual machine you would like to import as a base desktop image. If the VM you would like to import shows up as "Not importable", select it to see why it cannot be imported.'
- A 'Select VM' section with a list box containing 'nBase_Windows' (selected) and 'nWin2008R2', and a 'Refresh View' button to the right.
- A 'Selected VM' text box containing 'nBase_Windows'.
- A 'New Image Name' text box containing 'west-win'.
- A 'Description' text box containing 'western range'.
- At the bottom, there is a 'Help' link on the left and an 'Import' button on the right.

3. [New Image Name] ボックスに、インポートした仮想マシンの名前を入力します。
注： インポート元のイメージとは別の名前を指定してください。
4. [Description] ボックスに、仮想マシンの説明を入力し、 [Import] をクリックします。 [Specify Administrator Credentials] ダイアログボックスが開きます。



5. 管理者の資格情報を使用するか、管理者特権を持つローカルユーザーの資格情報を使用するかを選択します。

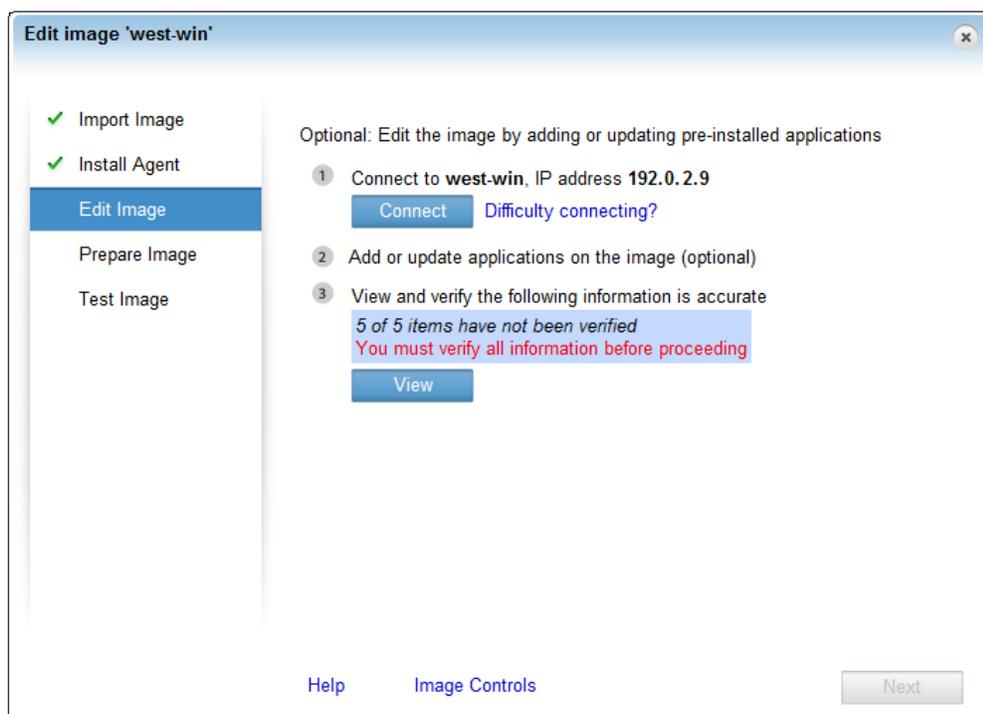
重要： 管理者特権を持つローカルユーザーの資格情報を使用する場合は、Microsoft Windowsのユーザーアカウント制御（UAC）を無効にする必要があります。詳しくは、[Microsoft社のTechNetライブラリ](#)を参照してください。

6. イメージの管理者特権を持つアカウントのユーザー名およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。インポートおよびDesktop Agentのインストールによるドラフトイメージの作成が開始され、進捗状況を示す状態ページが開きます。Import new VMウィザードの [Edit Image] ページが開きます。

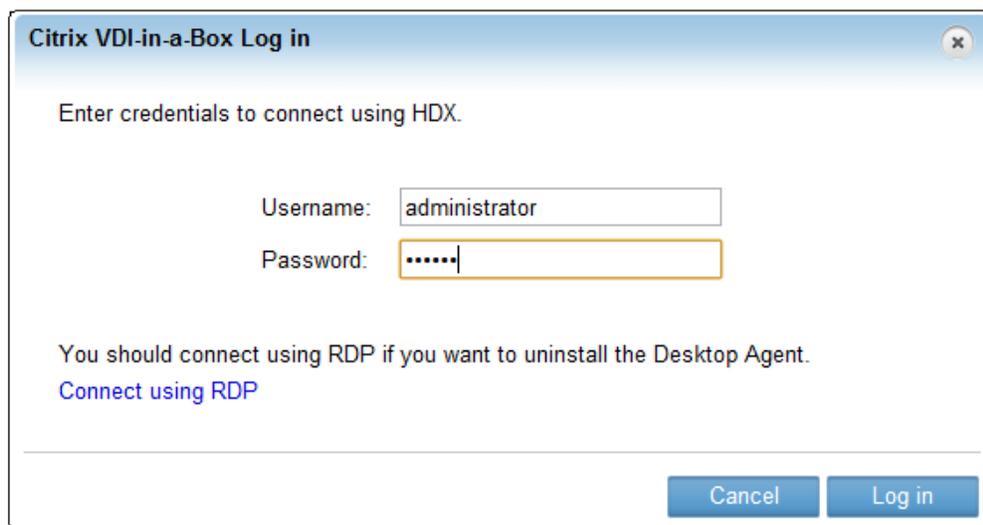
ドラフトイメージを編集するには

エージェントをインストールしたドラフトイメージを編集して、展開する仮想デスクトップに必要なアップデート、設定、パッチ、そのほかのアプリケーションを追加します。イメージからデスクトップを生成するために必要な前提条件を確認するためのチェックリストが表示されます。

1. [Edit Image] ページで、[Connect] をクリックします。



2. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、イメージの管理者特権を持つアカウントの資格情報を入力して [Log in] をクリックします。



3. 必要に応じてイメージを編集し、イメージからログオフします。
4. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

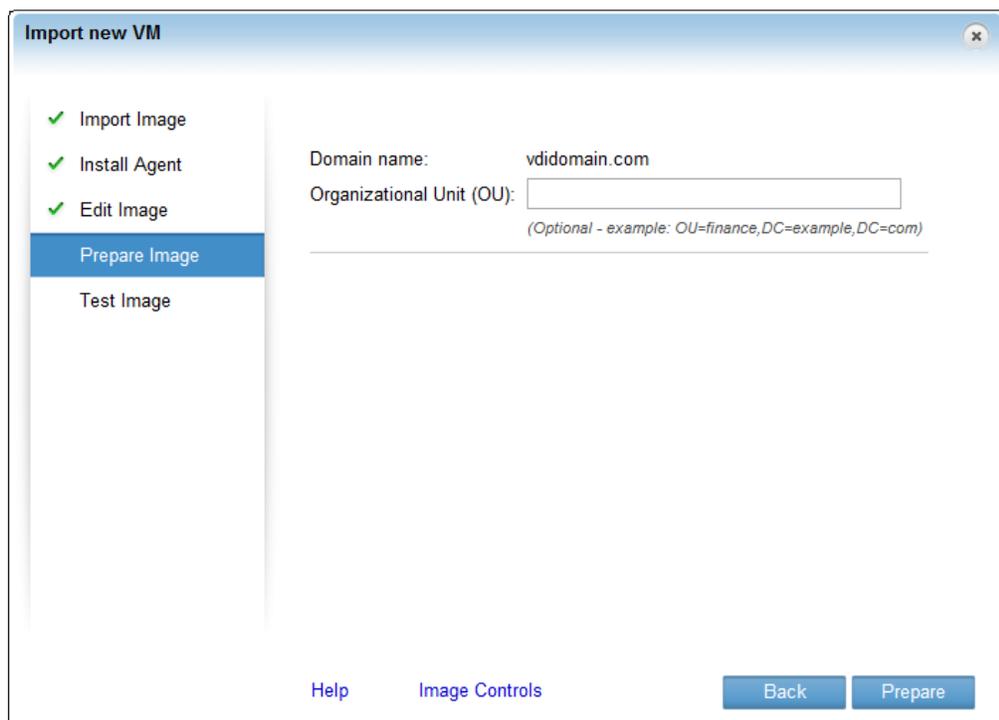
5. [Edit Image] ページで、[View] をクリックします。前提条件の一覧が質問形式で表示されます。

注：ここに表示される前提条件は、ハイパーバイザーとイメージのオペレーティングシステムによって異なります。

6. [Yes] をクリックして、各前提条件を満たしていることを確認します。
7. すべての前提条件を満たしていることを確認した後で、[Done] をクリックします。前提条件の一覧が閉じて、[Edit Image] ページに戻ります。
8. [Next] をクリックします。[Prepare Image] ページが開きます。

イメージの準備を行うには

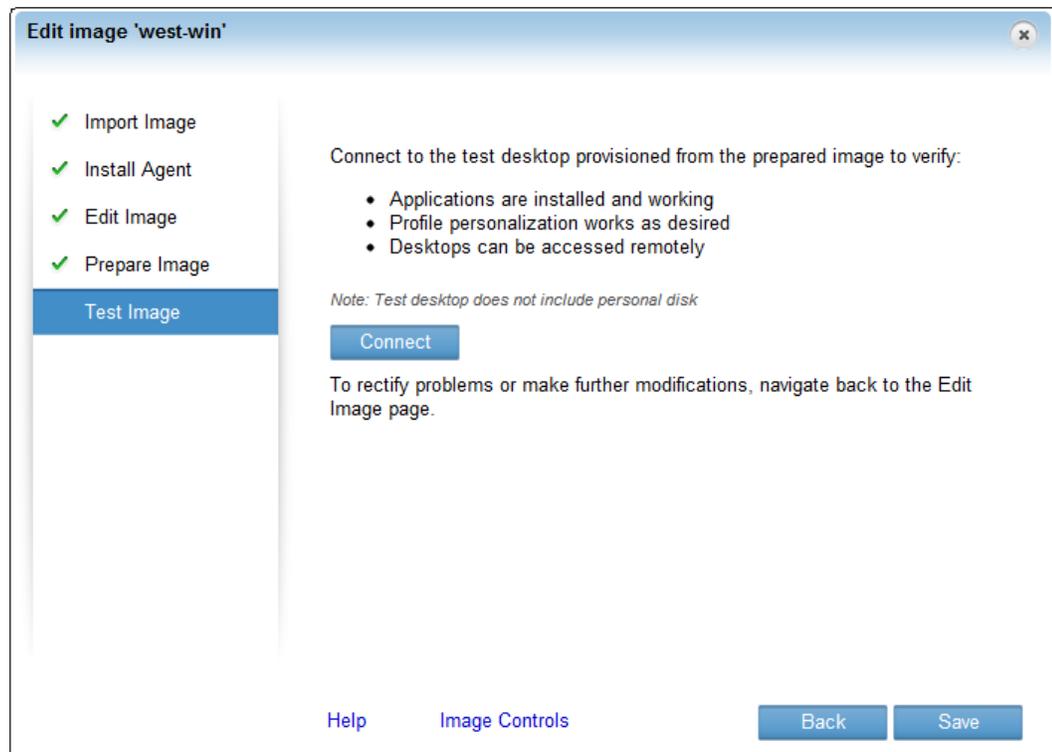
1. [Prepare Image] ページの [Domain name] ボックスの一覧で、ドメインまたはワークグループを選択します（選択可能な場合）。



2. 必要に応じて、[Organizational unit (OU)] ボックスに、イメージの適用先の組織単位を入力します。
3. [Prepare] をクリックします。[Confirm] メッセージが表示されます。
4. [Confirm] をクリックします。[Confirm] メッセージと [Prepare Image] ページが閉じます。進行状況を示す状態ページが開きます。準備されたイメージからテストデスクトップが作成され、[Test Image] ページが開きます。

準備したデスクトップイメージをテストするには

テストイメージを使用して、そのドラフトイメージから適切なデスクトップを生成できるかどうか、およびユーザーがこのデスクトップにHDX接続とRDP接続を確立できるかどうかを検証します。ドラフトイメージを保存すると、テストイメージおよびそのイメージに対する変更内容はすべて削除されます。



1. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。 [Connect to the draft image] ダイアログボックスが開きます。



2. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Citrix HDX] を選択し、[Connect] をクリックします。 [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスが開きます。
3. 資格情報を入力して、[Log in] をクリックします。 HDX接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
4. インストールされているアプリケーションが正常に動作すること、および必要なグループポリシーが適用されていることを確認します。
5. Active Directoryを使用して構成したグリッドでは、ドメインユーザーとしてログオンとログオフを行ってアクセスをテストします。
6. テストイメージからログオフします。 テストイメージが閉じます。
7. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
8. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。
9. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Microsoft RDP] を選択し、[Connect] をクリックします。 RDP接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
10. テストイメージにログオンし、RDP接続が正常に機能しているかどうかを確認して、ログオフします。 テストイメージが閉じます。
11. [Test Image] ページで [Save] をクリックします。 [Confirm] メッセージが表示されます。
12. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。 進行状況を示す状態ページが開きます。 Create a New Desktop Templateウィザードの [Template Information] ページが開きます。

公開イメージから最初のテンプレートを作成するには

更新日： 2012-10-09

ここでは、必要な仕様を満たす同一の仮想デスクトップを生成するためのテンプレートを作成します。テンプレートは、イメージとポリシーで構成されています。イメージには、デスクトップ上で実行されるオペレーティングシステムとアプリケーションが含まれます。イメージの作成について詳しくは、「[最初のWindowsイメージを作成する](#)」を参照してください。1つのイメージを複数のテンプレートで使用することができます。

重要： テンプレートを作成する前に、少なくとも1つのイメージの作成と公開を行う必要があります。

テンプレート作成中に設定するポリシーにより、いくつのデスクトップを作成するのか、どれだけのRAMを割り当てるのかなどの特性が定義されます。

テンプレートから生成されるデスクトップに一定のパターンの名前が付けられるように、コンピューター名の先頭（プレフィックス）および末尾（サフィックス）に特定の語を追加します。プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。サフィックスの上位桁に「0」を使用でき、4桁まで指定できます（「0001」など）。サフィックスにより生成される番号は、仮想デスクトップの作成ごとに増分されます。たとえば、プレフィックスとして「<name>」、サフィックスとして「0000」を設定し、仮想デスクトップを2つ作成すると、「<name>0001」および「<name>0002」という名前が使用されます。サフィックスの上位桁に「0」を使用しない場合、生成される名前にも「0」が使用されません。たとえば、サフィックスとして「1」を指定すると、「<name>1」、「<name>2」、「<name>3」などの名前が設定されます。

テンプレートでは、デスクトップを事前起動するためのオプションも選択できます。「事前起動デスクトップ」とは、電源が入り、ログオンプロンプトが表示された状態でユーザーのアクセスを待機するデスクトップを指します。事前起動デスクトップでは、ユーザーが仮想デスクトップの起動を待つ必要がありません。事前起動するデスクトップの数を指定すると、ユーザーがログオンするデスクトップの数に応じて、事前起動デスクトップの数が保持されます。たとえば、テンプレートで事前起動デスクトップ数として5を指定した場合、5つの仮想デスクトップが事前起動してユーザーを待機します。2人のユーザーが各自のデスクトップにログオンすると、新たに2台のデスクトップが事前起動され、指定した事前起動デスクトップ数が保持されます。テンプレートで指定した最大数に達するまで、この処理が継続されます。テンプレートの自動起動デスクトップ数を「0」に設定すると、そのテンプレートはシャットダウンし、ユーザーが接続できなくなります。

Webブラウザー上に [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPAddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1. [Create Desktop Templates from the Base Image] ページで、[Continue] をクリックします。Create a New Desktop Templateウィザードの [Template Information] ページが開きます。

The screenshot shows the 'Create a New Desktop Template' dialog box. It has two tabs: 'Template Information' and 'Template Policies'. The 'Template Information' tab is active. The fields are as follows:

- Template name: Building A
- Image name: west-win (with a 'View image details' link)
- Description: Pooled desktops for Building A
- Computer name: Prefix: BuildA (1-11 characters), Suffix: 0000 (0-4 digits)
- Memory (MB): 1536
- Virtual CPUs: 1
- Connect these local devices to the VDI-in-a-Box desktop:
 - Disk drives
 - Printers
 - Serial ports
 - Smart cards
 - Other USB devices
- Color depth: True color (32 bit)
- Reset the activation timer (KMS clients)

Buttons: 'Help' (blue text), 'Next' (blue button).

2. [Template Name] ボックスに、テンプレートの名前を入力します。
3. 使用可能なイメージの一覧から、このテンプレートに関連付けるイメージを選択します。
4. [Description] ボックスに、テンプレートの説明を入力します。
5. [Prefix] ボックスに、生成したイメージの名前に追加されるプレフィックスを入力します。
注：プレフィックスとして、英数字およびハイフン (-) を使用できます。
6. [Suffix] ボックスに、生成したイメージの名前に追加されるサフィックスを入力します。
注：プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。サフィックスとして、1~4文字の数字を使用できます。サフィックスの上位桁に「0」を使用することもできます（「0001」など）。
7. [Memory (MB)] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるメモリを選択します。
注：Windows Server 2008 R2のデスクトップには、少なくとも1536MBのメモリを割り当てることをお勧めします。
8. [Virtual CPUs] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるCPUの数を選択します。
9. ディスクドライブやプリンターなど、仮想デスクトップに接続するローカルデバイスを選択します。
10. 必要に応じて、HDX接続の表示色数を変更します。

11. キー管理服务 (KMS) のライセンス認証キーを持つ公開イメージでは、[Reset the activation time (KMS clients)] を選択することをお勧めします。
12. [Next] をクリックします。[Template Policies] ページが開きます。

The screenshot shows a dialog box titled "Create a New Desktop Template - Building A". On the left, there is a sidebar with two tabs: "Template Information" (with a green checkmark) and "Template Policies" (which is selected and highlighted in blue). The main area of the dialog is divided into sections. The first section contains two input fields: "Maximum desktops:" with the value "2" and "Pre-started desktops:" with the value "1". Below this is a section titled "Template will provision:" with two radio buttons: "Pooled desktop" (which is selected) and "Personal desktop". Underneath is a "Refresh desktop:" dropdown menu set to "On logout". There are two checked checkboxes: "Do not reassign desktops 'On Hold' to new users" and "Enable fast refresh of desktops". At the bottom of the main area is an unchecked checkbox labeled "Make this the default template". At the very bottom of the dialog, there are three buttons: "Help" (in blue text), "Back" (in a blue button), and "Save" (in a blue button).

13. [Maximum desktops] ボックスに、このテンプレートで展開するデスクトップの最大数を入力します。
14. [Pre-started desktops] ボックスに、ユーザーが直ちにログオンできるように事前起動しておくデスクトップの数を入力します。ユーザーがテンプレートにアクセスできるように、自動起動デスクトップ数として1以上を指定します。テスト段階では、最大デスクトップ数として2、事前起動デスクトップ数として1を設定することをお勧めします。
15. [Refresh desktop] ボックスの一覧で、デスクトップの更新方法を選択します。ここでは、ユーザーのデスクトップを、テンプレートから生成した直後の状態に更新するタイミングを指定します。[On logout] を選択した場合、デバッグ上の理由からこれは管理者には適用されません。管理者は、デスクトップライフサイクルイベントをトリガーすることなくログオンやログオフを許可されます。
 - ・ On logout : ユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。
 - ・ Scheduled : 毎日、毎週、または毎月など、指定した日時にデスクトップが更新されます。使用中のデスクトップも更新するかどうかを指定することもできます。使用中のデスクトップを更新するオプションを選択しない場合は、指定した日時が経過した後にユーザーがログアウトした時点で更新されます。
 - ・ Scheduled or on logout : 指定した日時、およびユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。これはユーザーが長時間デスクトップにログオンする環境で役立ちます。

- ・ Manual : デスクトップの更新を手作業で行います。この設定により、特定のユーザーに無期限に割り当てられる「永続デスクトップ」が生成されます。永続デスクトップでは、ユーザーが追加したアプリケーションや変更した設定がログオフ後も永続的に保持されるため、通常のパーソナルコンピュータのように使用できます。

16. [Do not reassign desktops "On Hold" to new users] チェックボックスをオンにすると、デスクトップをユーザーが保持できるようになります。

注：このオプションは、デフォルトで有効になっています。

17. [Enable fast refresh of desktops] チェックボックスをオンにすると、ユーザーがログオフしたときにデスクトップが高速にリフレッシュされるようになります。

18. [Make this the default template] チェックボックスをオンにすると、テンプレートが割り当てられていないユーザーにこのテンプレートが使用されるようになります。

注：グリッドのデフォルトテンプレートが指定されていない場合、テンプレートが割り当てられていないユーザーの資格情報はログオン時に拒否されます。

19. [Save] をクリックします。

20. [Close] をクリックします。 [Assign Users to Desktops] ページが開きます。

テンプレートを編集するには

更新日：2012-08-15

テンプレートを編集することで、デスクトップの最大数や事前起動デスクトップの数などの設定を変更できます。

Webブラウザで、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインします。

1. vdiManager管理コンソールで、[Templates] タブをクリックします。
2. 編集するテンプレート名を選択します。
3. 必要に応じて設定を変更して、[Save] をクリックします。

注：[Save] は、[Template Policies] ページ上にあります。

ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て

更新日： 2012-08-30

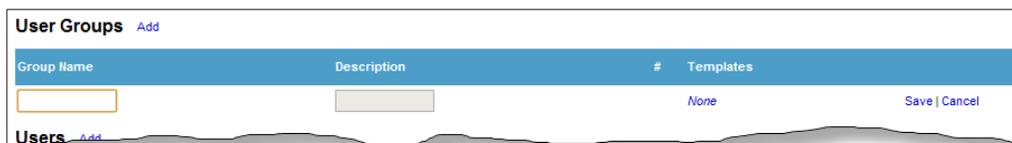
テンプレートを作成したら、ユーザー、ユーザーグループ、およびIPアドレスにそのテンプレートを割り当てることができます。ユーザーとグループには、複数のテンプレートを割り当てることができます。キオスクなどのIPアドレスにテンプレートを割り当てると、そのキオスクにログオンするすべてのユーザーで同じデスクトップが使用されます。

テンプレートが割り当てられていないユーザーがログオンした場合は、デフォルトテンプレートが使用されます。ただし、デフォルトテンプレートを指定していない場合、そのユーザーの資格情報は拒否されます。

Webブラウザ上に [Assign Users to Desktops] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

ユーザーグループにテンプレートを割り当てるには

1. [Assign Users to Desktops] ページで、[Continue] をクリックします。[Users] ページが開きます。このページには、ユーザーグループ、ユーザー、およびIPアドレスの一覧が表示されます。
2. ユーザーグループの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

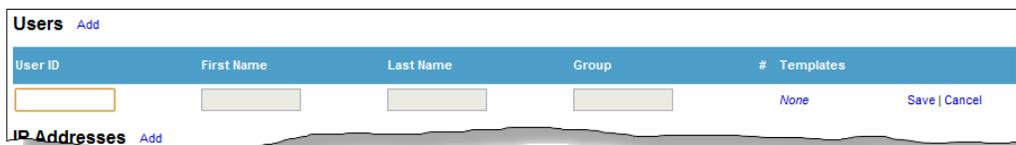


Group Name	Description	#	Templates
<input type="text"/>	<input type="text"/>		None

3. [Group Name] ボックスに、テンプレートを割り当てるグループの名前を入力します。ユーザーデータベースとしてActive Directoryが使用されている環境では、グループ名の最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたグループ名を選択するには、Enterキーを押します。
4. [Description] ボックスに、グループの説明を入力します。
5. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。[Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、[None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、テンプレート名が [None] に変わります。
6. [Save] をクリックします。グループが一覧に追加されます。
7. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のグループに割り当てます。

ユーザーにテンプレートを割り当てるには

1. ユーザーの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



The screenshot shows a web interface for managing users. At the top, there is a header 'Users' with an 'Add' link. Below it is a table with the following columns: 'User ID', 'First Name', 'Last Name', 'Group', and '# Templates'. The 'User ID' column has an input field. The 'First Name', 'Last Name', and 'Group' columns have empty input fields. The '# Templates' column contains the text 'None'. To the right of the table, there is a 'Save | Cancel' button. Below the table, there is a link for 'IP Addresses' with an 'Add' link.

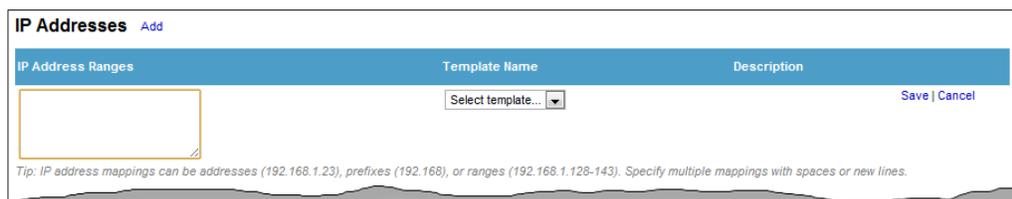
2. [User ID] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーのユーザーIDを入力します。ユーザーデータベースとしてActive Directoryが使用されている環境では、ユーザーIDの最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたIDを選択するには、Enterキーを押します。

注： [First Name]、[Last Name]、および [Group] は空欄でも構いません。そのユーザーの情報がActive Directoryに格納されている場合は、これらの情報が自動的に入力されます。

3. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。 [Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、 [None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、テンプレート名が [None] に変わります。
4. [Save] をクリックします。ユーザーが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のユーザーに割り当てます。

受信IPアドレスにテンプレートを割り当てるには

1. IPアドレスの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



IP Address Ranges	Template Name	Description
<input type="text"/>	Select template... ▼	

Tip: IP address mappings can be addresses (192.168.1.23), prefixes (192.168), or ranges (192.168.1.128-143). Specify multiple mappings with spaces or new lines.

2. [IP Address Ranges] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーデバイスのIPアドレスの範囲を入力します。個々のアドレス（「192.168.23.143」など）、プレフィックス（「192.168」など）、または範囲（「192.168.10.174-204」など）を指定できます。各エントリは改行またはスペースで区切ります。
3. [Templates Name] の一覧で、IPアドレスに割り当てるテンプレートを選択します。
4. [Save] をクリックします。IPアドレスが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、IPアドレスに別のテンプレートを割り当てます。

注：テンプレートをIPアドレスに割り当てたら、既存の割り当てを削除するまで再割り当てを行うことはできません。

テンプレートの割り当てを編集するには

1. vdiManager管理コンソールで、[Users] ページを選択します。
2. テンプレートを編集するユーザーグループ、ユーザー、またはIPアドレスにポインターを合わせて [Edit] をクリックします。
3. 必要に応じて編集し、[Save] をクリックします。

ユーザーとしての接続のテスト

更新日：2012-08-15

テンプレートを設定し、テンプレートからデスクトップを作成して、ユーザーに割り当てたら、ユーザーとしてデスクトップにログオンし、接続が正しく機能することを確認します。これを行うには、接続元のユーザーデバイスにCitrix Receiverの最新バージョンと、Java SE Runtime Environment (JRE) 6または7をインストールしておく必要があります。

注：JREは、VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを実行する場合のみ必要です。

ユーザーデバイスを準備するには

テスト用のユーザーデバイスを準備するには、HDXで接続できるようにCitrix Receiverをインストールします。Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、JRE 6または7もインストールします。

- ・ Citrix Receiverがインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からダウンロードしてインストールします。
- ・ ユーザーデバイスにJRE 6または7がインストールされていることを確認します。インストールされていない場合は、<https://www.java.com>から最新バージョンを入手します。

注：JREは、VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを実行するために必要です。

デスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって異なる場合があります。

1. Webブラウザーを起動します。
2. Webブラウザーのアドレスバーに、「[https://<IPaddress>/](https://<IPaddress>) (VDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレス)」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
4. [Citrix VDI-in-a-Box] ページの [ユーザー名] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [パスワード] ボックスにパスワードを入力し、[ログオン] をクリックします。
6. 接続するデスクトップをクリックします。仮想デスクトップに接続されます。

WebブラウザからVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「`https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」と入力します。 Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。 使用するWebブラウザによっては、[Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開く場合があります。
4. [Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開いた場合は、[Open with] が選択され、その横の一覧に [Java(TM) Web Start Launcher (default)] が表示されていることを確認して、[OK] をクリックします。
5. [Citrix VDI-in-a-Box Client] ダイアログボックスにユーザーの資格情報を入力し、[Log On] をクリックします。 ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。 仮想デスクトップに接続されます。

コマンドプロンプトからVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するユーザーデバイスによって異なる場合があります。

1. [コマンドプロンプト] ウィンドウを開きます。
2. 「`javaws https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」というコマンドを入力します。
3. Enterキーを押します。
4. [Log on] ダイアログボックスの [User name] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [Password] ボックスにパスワードを入力し、[Log On] をクリックします。 ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。 仮想デスクトップに接続されます。

VDI-in-a-Box 5.0.xから5.1.xへのアップグレード

更新日： 2012-09-25

ここでは、既存のVDI-in-a-Box 5.0.xをVDI-in-a-Box 5.1.xにアップグレードする手順について説明します。 VDI-in-a-Box 5.0よりも古いバージョンを使用している場合は、5.0にアップグレードしてから5.1.xにアップグレードしてください。

VDI-in-a-Boxのアップグレードファイルをダウンロードするには

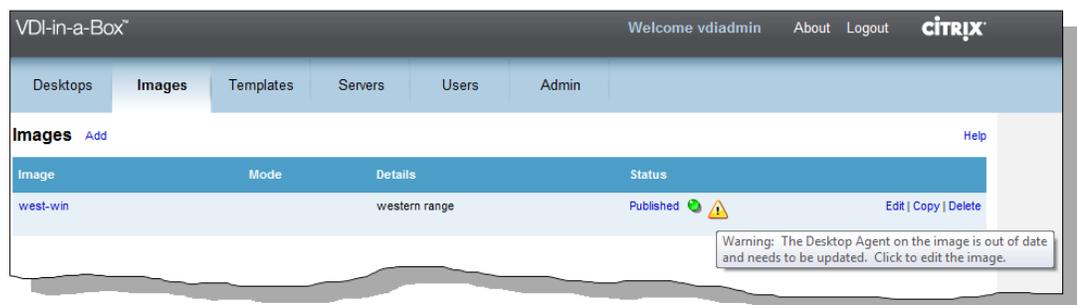
1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. My Citrixにログオンしていない場合は、ログオンします。
3. [Downloads] をクリックします。
4. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
5. ダウンロードの種類として、[Product Software] を選択します。
6. [Find] をクリックします。 VDI-in-a-Box製品のページが開きます。
7. [VDI-in-a-Box 5.1.1] をクリックします。 VDI-in-a-Box 5.1のページが開きます。
8. 「Upgrade」セクションで、「5.0 to 5.1.1 Upgrade」の [Download] をクリックします。 ライセンス契約が表示されます。
9. ライセンス契約に同意します。 [Download Manager] ウィンドウが開きます。
10. [Download Now] をクリックします。
11. HF_VDI_inabox_5.1.1.tarのダウンロード先を指定して、[Save] をクリックします。

VDI-in-a-Boxをアップグレードするには

1. グリッドをメンテナンスモードにします。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックし、[OK] をクリックします。
2. [Admin] ページで、[Grid Upgrade] をクリックします。[Grid Upgrade] ダイアログボックスが表示されます。
3. [Choose File] をクリックし、アップグレードファイルを指定して、[Open] をクリックします。
4. [Submit] をクリックします。アップグレードが完了すると、ログオン用の画面が表示されます。
5. vdiManager管理コンソールにログオンします。
6. グリッドのメンテナンスモードを解除します。これを行うには、[Admin] ページで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。

既存のイメージをアップグレードするには

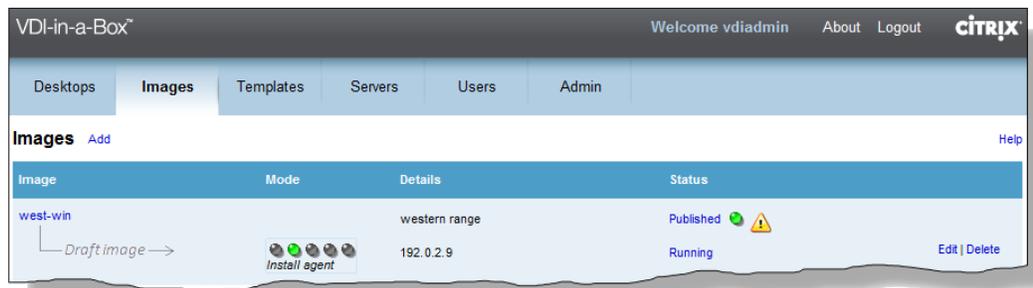
VDI-in-a-Boxをアップグレードしたら、既存のイメージもアップグレードする必要があります。アップグレードが必要なイメージには、警告アイコンが表示されます。この警告アイコン上にマウスポインターを置くと、イメージのアップグレードが必要であるという内容のメッセージが表示されます。



注：以前のバージョンのVDI-in-a-Boxで作成されたテンプレートは、イメージをアップグレードしてパーソナルデスクトップが生成されるようにしても、プールされるデスクトップを生成します。パーソナルデスクトップを生成する場合は、新しいテンプレートを作成してください。

1. [Images] ページで、アップグレードするイメージの行の [Edit] をクリックします。新しいドラフトイメージの作成を確認するメッセージが表示されます。
2. [Confirm] をクリックします。新しいドラフトイメージが起動します。

重要： 起動したイメージの状態が「Running」になるまで待ちます。



3. 新しいドラフトイメージの行の [Edit] をクリックします。 [Specify Administrator Credentials] ダイアログボックスが開きます。
4. 管理者の資格情報を使用するか、管理者特権を持つローカルユーザーの資格情報を使用するかを選択します。

重要： 管理者特権を持つローカルユーザーの資格情報を使用する場合は、Microsoft Windowsのユーザーアカウント制御 (UAC) を無効にする必要があります。詳しくは、[Microsoft社のTechNetライブラリ](#)を参照してください。

5. イメージの管理者特権を持つアカウントのユーザー名およびパスワードを入力して、 [OK] をクリックします。新しいDesktop Agentのインストールが開始され、進捗状況を示す状態ページが開きます。ウィザードの [Edit Image] ページが開きます。
6. [Edit Image] ページで必要な設定 (新しいアプリケーションの追加など) を行って、 [Next] をクリックします。
7. [Prepare Image] ページおよび [Test Image] ページで、必要な設定を行います。これらのページについて詳しくは、eDocsの「VDI-in-a-Box」 > 「VDI-in-a-Box 5.1.x」 > 「VDI-in-a-Boxの導入」で、適切なハイパーバイザーおよびオペレーティングシステムのトピックを参照してください。
8. [Test Image] ページで [Save] をクリックします。イメージの保存およびグリッド内のほかのサーバーへの配信を確認するメッセージが表示されます。
9. [Confirm] をクリックします。アップグレードされたイメージが公開され、更新ポリシーによる展開の準備が完了しました。

デスクトップを更新するには

イメージをアップグレードしたら、以前のバージョンのVDI-in-a-Boxで作成したデスクトップを破棄して、新しいデスクトップで置き換える必要があります。

1. [Servers] ページのサーバー一覧でサーバーをクリックして、 [Deactivate] をクリックします。
2. [Confirm] をクリックします。
3. [Servers] ページのサーバー一覧でサーバーをクリックして、 [Activate] をクリックします。
4. [Confirm] をクリックします。

ライセンスのアップグレード

更新日：2012-08-17

VDI-in-a-Boxの評価版ライセンスからのアップグレード

	アップロードするライセンス	アップロード後の動作
<number>ユーザー10人まで)	Citrix永続ライセンス	VDI-in-a-Box評価版ラ
<number>ユーザー10人まで)	10人以上の同時ユーザーをサポートするCitrix非永続（評価版/非再販用）ライセンス	VDI-in-a-Box評価版ラ
<number>ユーザー10人まで)	10人未満の同時ユーザーをサポートするCitrix非永続（評価版/非再販用）ライセンス	有効期限までVDI-in-a- ンスが使用されます。

Citrix永続ライセンスからのアップグレード

アップロードするライセンス	アップロード後の動作
<number>人以上の同時ユーザーをサポートするCitrix永続ライセンス	両方のライセンスが使用され、同時ユーザーの合計数が
<number>人未満の同時ユーザーをサポートするCitrix永続ライセンス	両方のライセンスが使用され、同時ユーザーの合計数が
<number>人以上の同時ユーザーをサポートするCitrix非永続ライセンス	非永続ライセンスの有効期限まで両方のライセンスが使
<number>人未満の同時ユーザーをサポートするCitrix非永続ライセンス	非永続ライセンスの有効期限まで両方のライセンスが使

Citrix非永続ライセンスからのアップグレード

アップグレード後のライセンス	アップグレードによる影響
<number>人以上の同時ユーザーをサポートするCitrix永続ライセンス	非永続ライセンスの有効期限まで両方のライセンスが
<number>人未満の同時ユーザーをサポートするCitrix永続ライセンス	非永続ライセンスの有効期限まで両方のライセンスが
<number>人以上の同時ユーザーをサポートするCitrix非永続ライセンス	いずれかのライセンスの有効期限まで両方のライセン
<number>人未満の同時ユーザーをサポートする非Citrix永続ライセンス	いずれかのライセンスの有効期限まで両方のライセン

パーソナルデスクトップの管理

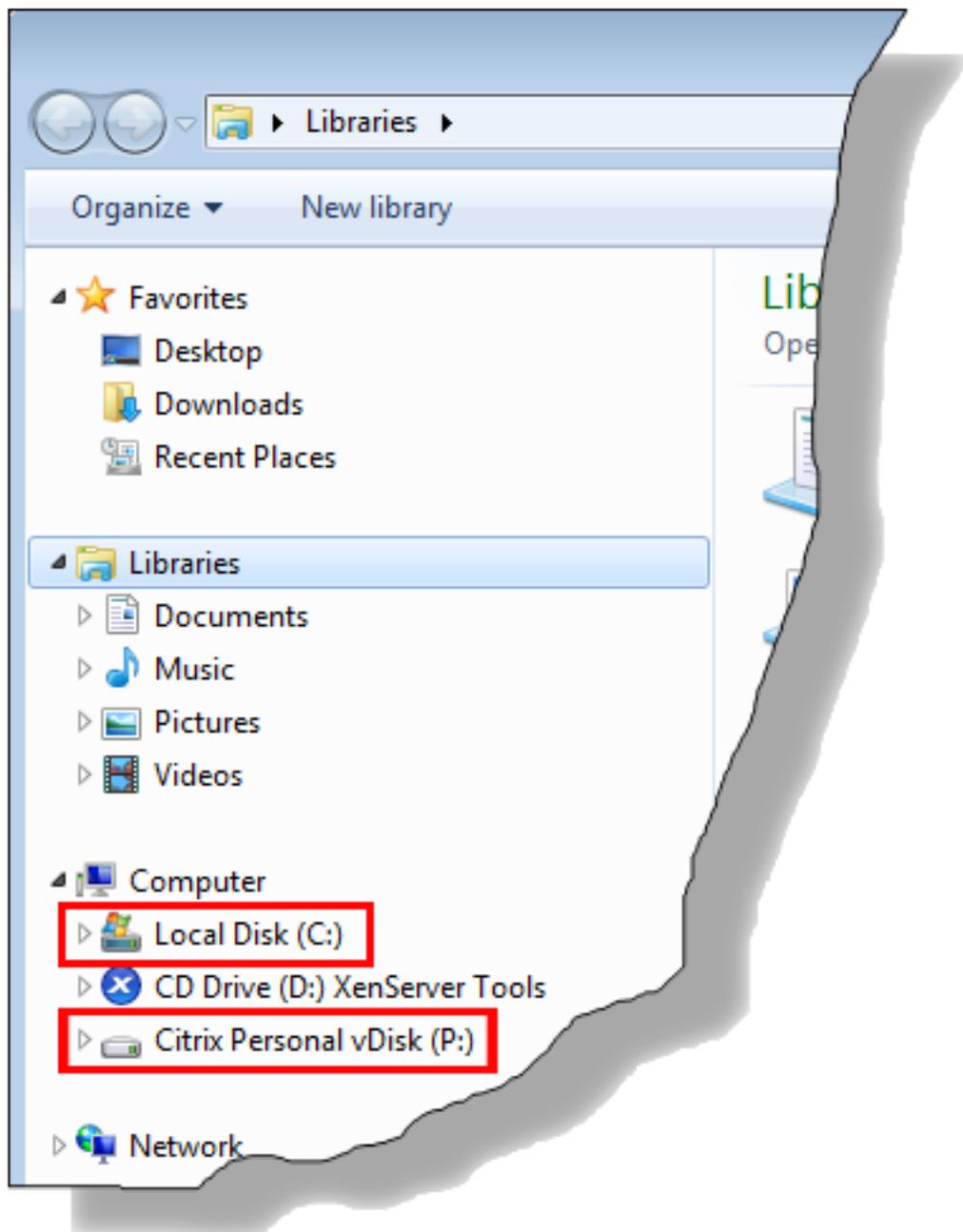
更新日：2013-01-07

パーソナルデスクトップ機能では、ユーザーに独自のアプリケーションのインストール、デスクトップ設定の変更、およびデータの格納を許可しながら、プールされたデスクトップを単一のイメージで管理できます。

重要：この機能は、Windows 7（32ビットおよび64ビット）を実行する公開イメージでのみ使用可能です。

通常、プールされたデスクトップを更新（リフレッシュ）すると、ユーザーがカスタマイズした設定やインストールしたアプリケーションが失われます。これに対し、パーソナルデスクトップでは、ユーザーがセッション中に行った変更内容が保持されます。管理者は、ユーザーによるデスクトップのカスタマイズを許可しながら、基本イメージを容易に中央管理できます。

この機能は、パーソナルデスクトップの2つの独立した仮想ハードディスクである「Personal vDisk」と「公開イメージ」により実現されています。ユーザーによるプロファイルの変更やアプリケーションのインストールなどの変更内容は、Personal vDiskに保存されます。Personal vDiskに保存された内容はデスクトップの実行時に公開イメージの内容と統合され、ユーザーに一貫した操作環境が提供されます。ユーザーは、パーソナルデスクトップ上のWindowsエクスプローラーなどのアプリケーションでこれらの2つの仮想ディスクを表示できます。



重要：公開イメージでは、Windows Updateによる自動更新を無効にすることをお勧めします。その代わりに、これらのイメージを管理者が一元的に更新することで、環境全体の一貫性や永続性を維持できます。

公開イメージに対する更新は、ユーザーがデスクトップからログオフするまでパーソナルデスクトップに適用されません。この時点では、Personal vDiskを変更することなく公開イメージがリフレッシュされます。ユーザーが次にログオンすると、リフレッシュされたデスクトップが開き、更新されたイメージとユーザーがカスタマイズした内容が使用されます。

VDI-in-a-Boxに付属のCitrix Profile managementなどのプロファイル管理ツールを使用して、プロファイルデータをNAS（Network-Attached Storage：ネットワークアタッチトス

トレージ) サーバー上に格納することをお勧めします。また、Profile managementを使用する場合は、パーソナルデスクトップでのプロファイルリダイレクト機能を無効にすることをお勧めします。これにより、プロファイルデータがProfile managementにのみ保存されるようになり、Personal vDiskを使用せずにそのバックアップコピーも排除できます。バックアップの作成については、「[パーソナルデスクトップのバックアップと復元](#)」を参照してください。プロファイルリダイレクト機能を無効にする方法については、<http://support.citrix.com/article/CTX131553>を参照してください。

パーソナルデスクトップを作成するには

1. 「VDI-in-a-Boxの導入」セクションを参照して、Windows 7イメージを作成します。このとき、[Pooled and personal desktops] を選択します。
2. 「VDI-in-a-Boxの導入」セクションを参照して、テンプレートを作成します。このとき、[Policies] ページで [Personal desktop] を選択します。パーソナルディスクのサイズとして、ユーザーがインストールするアプリケーションやユーザーのプロファイル設定 (Profile managementを使用しない場合) を格納するために十分なサイズを設定してください。パーソナルディスクのサイズは、4~60GBで設定できます。

テンプレートを作成した後もパーソナルディスクのサイズを変更できますが、その変更は新たに作成されるパーソナルデスクトップにのみ反映され、既存のデスクトップに反映されないことに注意してください。既存のデスクトップのパーソナルディスクのサイズを変更する方法については、<http://support.citrix.com/article/136156>を参照してください。

パーソナルデスクトップのバックアップと復元

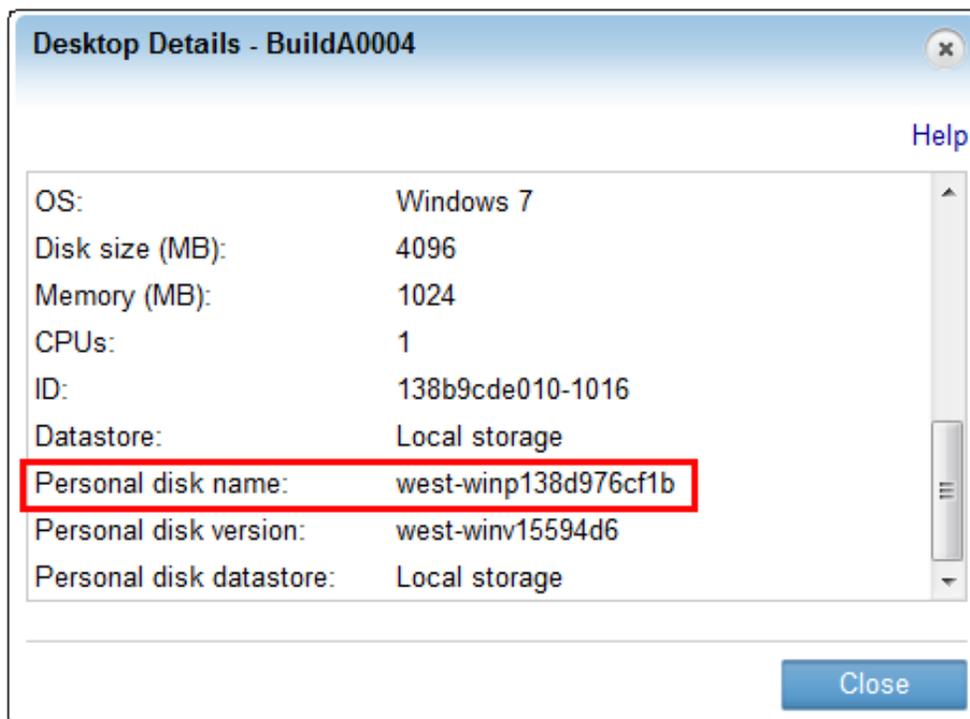
更新日： 2012-08-30

ユーザーのパーソナルデスクトップをバックアップして、ユーザーのプロファイルやアプリケーションを保護できます。バックアップを復元すると、公開デスクトップから新規に生成されたデスクトップにそのバックアップがアタッチ（接続）され、新しいパーソナルデスクトップが作成されます。

パーソナルデスクトップのバックアップを準備するには

以下の手順は、ハイパーバイザーとしてXenServer、Hyper-V、またはESXiを使用する環境で使用できます。

1. バックアップ対象のパーソナルデスクトップのパーソナルディスク名を確認します。これを行うには、[Desktops] タブの [User Sessions] ページで、そのパーソナルデスクトップの行の [VM Name] をクリックします。表示されたパーソナルディスク名を控えたら、[Close] をクリックします。



2. パーソナルデスクトップをシャットダウンします。これを行うには、[Desktops] タブの [User Sessions] ページで、そのパーソナルデスクトップの行の [Actions] をクリックし、[Shutdown] をクリックします。

XenServerでパーソナルデスクトップをバックアップするには

Citrix XenCenterで、以下の手順を行います。

1. パーソナルデスクトップを、XenServerからアクセス可能な場所にエクスポートします。
2. VDI-in-a-Boxグリッド内のほかのサーバーで、エクスポートされたOVFまたはXVAファイルをインポートします。
3. 公開イメージからパーソナルディスクをデタッチ（接続解除）して、その公開イメージを削除します。このパーソナルディスクはイメージにアタッチされないまま保存され、必要に応じて使用できます。

Hyper-Vでパーソナルデスクトップをバックアップするには

Hyper-Vを管理するWindowsベースのコンピューターで、以下の手順を行います。

1. バックアップ対象のパーソナルデスクトップをホストしているHyper-VサーバーのCドライブをマップします。
2. パーソナルデスクトップの復元先のHyper-VサーバーのCドライブをマップします。
3. パーソナルディスクイメージを格納しているデータストアから、復元先のサーバーにパーソナルディスクをコピーします。

注：パーソナルディスクは、デフォルトでC:\ProgramData\Citrix\VIAB\PVDに格納されます。

ESXiでパーソナルデスクトップをバックアップするには

VMware vSphereで、以下の手順を行います。

1. バックアップ対象のパーソナルデスクトップをホストしているサーバーと復元先のサーバーに個別のvSphereインスタンスを接続します。
2. パーソナルデスクトップをホストしているサーバーのPVDフォルダーから、パーソナルディスクをダウンロードします。2つのファイル（<PersonalDiskName>.vmdkおよび<PersonalDiskName>-flat.vmdk）がダウンロードされます。
3. ダウンロードした2つのファイルを、バックアップの復元先サーバーのPVDフォルダーにアップロードします。

パーソナルディスクを復元するには

以下の手順は、ハイパーバイザーとしてXenServer、Hyper-V、またはESXiを使用する環境で使用できます。

1. vdiManager管理コンソールの [Desktops] タブで、 [User Sessions] ページを開きます。
2. 破損したデスクトップの行の [Actions] をクリックし、 [Repair] をクリックします。選択したパーソナルデスクトップのバックアップコピーを格納しているデータストアが検索されます。データストアが検索されると、破損したコピーの破棄および検索されたコピーでの置き換えによるパーソナルディスクの修復処理を確認するメッセージが表示されます。
3. [Confirm] をクリックします。格納されていたサーバー上にバックアップコピーが復元されます。

VDI-in-a-Boxの管理

更新日：2012-08-17

ここでは、VDI-in-a-Boxの設定および管理について説明します。

- ・ [イメージの作成、アップデート、および修復](#)
- ・ [デスクトップとユーザーセッションの管理](#)
- ・ [Desktop Agentの手作業によるインストール](#)
- ・ [汎用ユーザーアカウントを設定するには](#)
- ・ [グリッドの管理](#)
- ・ [Active Directoryフェールオーバーの準備](#)
- ・ [MACアドレスのプールからデスクトップを生成する](#)
- ・ [資格情報の変更に伴うサーバー構成の更新](#)
- ・ [デュアルデータストア機能](#)
- ・ [ユーザーとコンピューターのドメインを分離する](#)
- ・ [VDI-in-a-Boxキオスクの構成](#)
- ・ [安全なリモートアクセスの構成](#)
- ・ [リモートデスクトップゲートウェイを介したvdiManager接続を構成するには](#)
- ・ [Profile managementの構成](#)
- ・ [スマートカード認証の構成](#)
- ・ [VDI-in-a-Boxアプライアンスへのログオン](#)

イメージの作成、アップデート、および修復

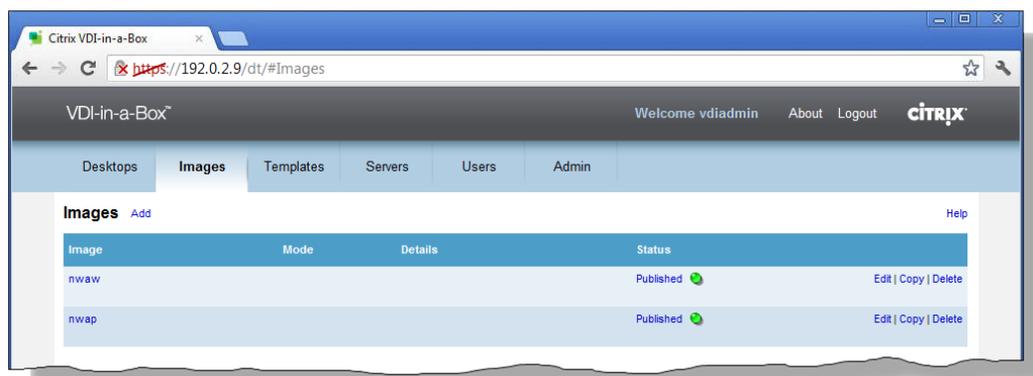
更新日： 2012-08-30

新しいドラフトイメージを作成するには、既存の公開イメージをコピーします。また、イメージをアップデートするには、公開イメージを編集します。既存の公開イメージをコピーしたり編集したりすると、「ドラフトイメージ (draft image)」、つまり公開イメージの準備を行うための作業デスクトップが作成されます。

公開イメージから新しいドラフトイメージを作成するには

イメージをコピーして、異なる設定やアプリケーションを持つ新しいイメージを作成するには、次の手順に従います。

1. VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) の管理コンソールで、[Images] タブをクリックします。
2. コピーするイメージの行で、[Copy] をクリックします。



3. [Copy to new image] ダイアログボックスで、新しいイメージの名前および説明を入力して、[OK] をクリックします。
4. [Images] ページで新しいイメージの状態が「Running」と表示されたら、[Edit] をクリックして、[Edit image] ウィザードの指示に従って操作します。このウィザードについて詳しくは、eDocsのトピック「VDI-in-a-Box」>「VDI-in-a-Boxの導入」の各ハイパーバイザーに関するセクションで、「最初のWindowsイメージを作成する」を参照してください。

イメージをアップデートするには

公開イメージに対して、ソフトウェアのアップデートなどの変更を加えるには、次の手順に従います。

1. vdiManager管理コンソールで、[Images] タブをクリックします。
2. アップデートするイメージの行で [Edit] をクリックし、[Confirm] をクリックします。これにより、アップデート用の新しいドラフトイメージが作成されます。
3. [Images] ページでドラフトイメージの状態が「Running」と表示されたら、[Edit] をクリックして、[Edit draft image] ウィザードの指示に従って操作します。
4. Edit Imageウィザードでイメージに接続して、展開する仮想デスクトップに必要なアップデート、設定、パッチ、そのほかのアプリケーションを追加します。
5. ドラフトイメージからログオフし、インストールウィザードの指示に従って操作します。このウィザードについて詳しくは、eDocsのトピック「VDI-in-a-Box」>「VDI-in-a-Boxの導入」の各ハイパーバイザーに関するセクションで、「最初のWindowsイメージを作成する」を参照してください。新しいドラフトイメージを保存すると、そのイメージが新しい公開イメージになり、元の公開イメージは非アクティブになります。公開イメージに対する変更は、そのイメージに関連付けられたテンプレートの更新ポリシーに基づいて各デスクトップに反映されます。

イメージを修復するには

複数サーバーで構成されるグリッドで、サーバー上に格納されているイメージが一貫しないことが検出された場合は、問題のあるイメージを修復できます。この問題が発生すると、そのイメージの状態は「Broken」として表示され、イメージが修復されるまでそのイメージからデスクトップが生成されなくなります。

1. VDI-in-a-Boxコンソールで、[Images] タブをクリックします。
2. [Status] 列の [Published] リンクをクリックし、次に [Fix] 列の下の  アイコンをクリックします。
3. [Confirm] をクリックします。

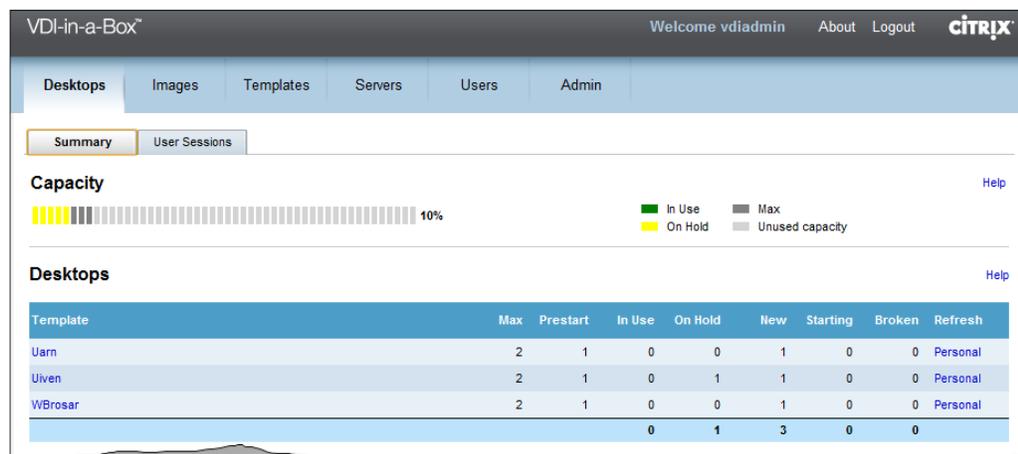
デスクトップとユーザーセッションの管理

更新日：2012-08-30

プールデスクトップをリフレッシュするには

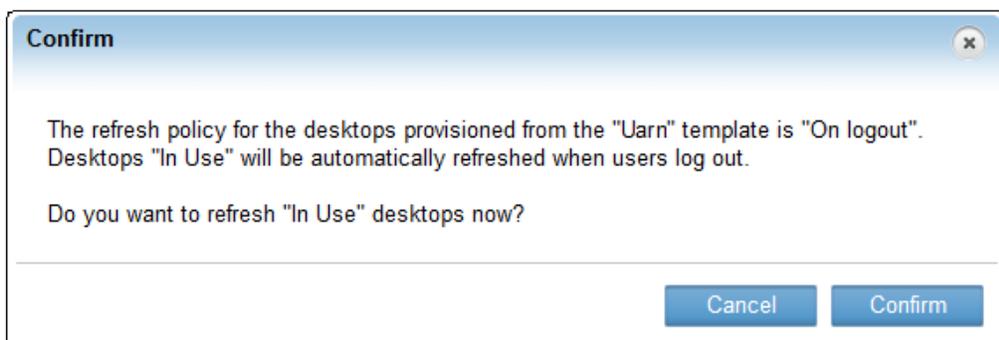
プールデスクトップは、テンプレートで指定したポリシーに基づいて更新（リフレッシュ）されます。デスクトップを強制的にリフレッシュするには、次の手順に従います。

1. VDI-in-a-Boxマネージャー（vdiManager）の管理コンソールの [Desktops] タブで、[Summary] をクリックします。
2. 変更するテンプレートの行の [Refresh] 列で、更新ポリシーの設定値をクリックします。



Template	Max	Prestart	In Use	On Hold	New	Starting	Broken	Refresh
Uarn	2	1	0	0	1	0	0	Personal
UIVEN	2	1	0	1	1	0	0	Personal
WBrosar	2	1	0	0	1	0	0	Personal
			0	1	3	0	0	

[Confirm] ダイアログボックスが開き、現在のポリシーの設定値が表示されます。



Confirm

The refresh policy for the desktops provisioned from the "Uarn" template is "On logout". Desktops "In Use" will be automatically refreshed when users log out.

Do you want to refresh "In Use" desktops now?

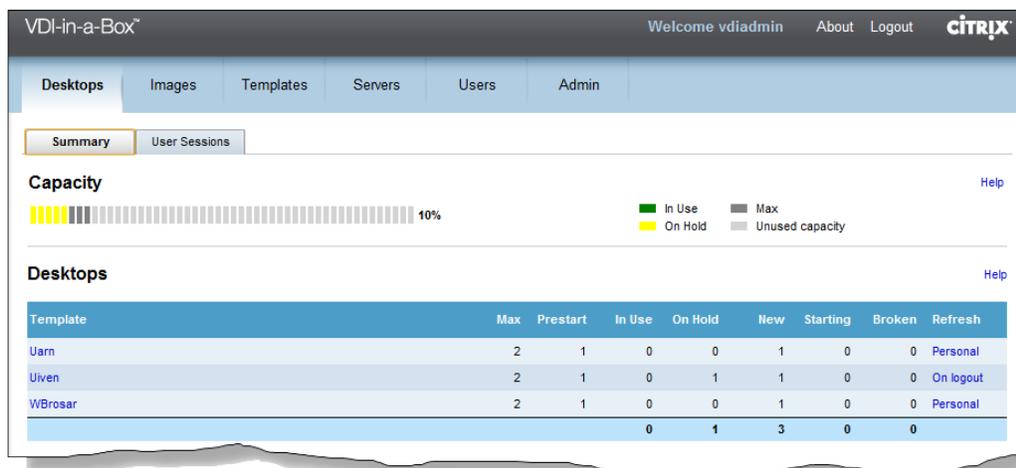
Cancel Confirm

- ここで [Confirm] をクリックすると、現在使用されているデスクトップが直ちにリフレッシュされます。ポリシーの設定値に基づいてリフレッシュする場合は、 [Cancel] をクリックします。

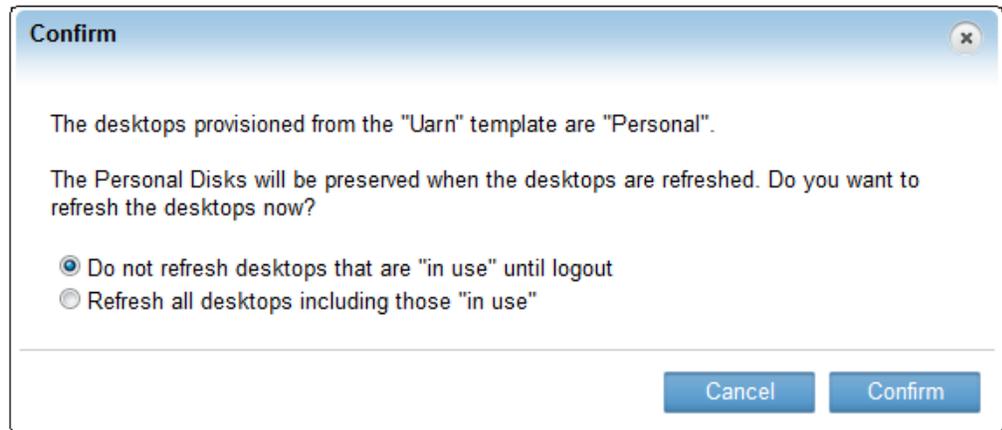
パーソナルデスクトップをリフレッシュするには

各ユーザーのパーソナルディスクは、リフレッシュされた公開デスクトップにアタッチされます。ユーザーの次回ログオン時に、リフレッシュされた内容でパーソナルデスクトップが更新されます。このとき、ユーザーが自分でインストールしたアプリケーションは保持されます。

- vdiManager管理コンソールの [Desktops] タブで、 [Summary] をクリックします。
- 変更するテンプレートの行の [Refresh] 列で、ポリシーの設定値をクリックします。



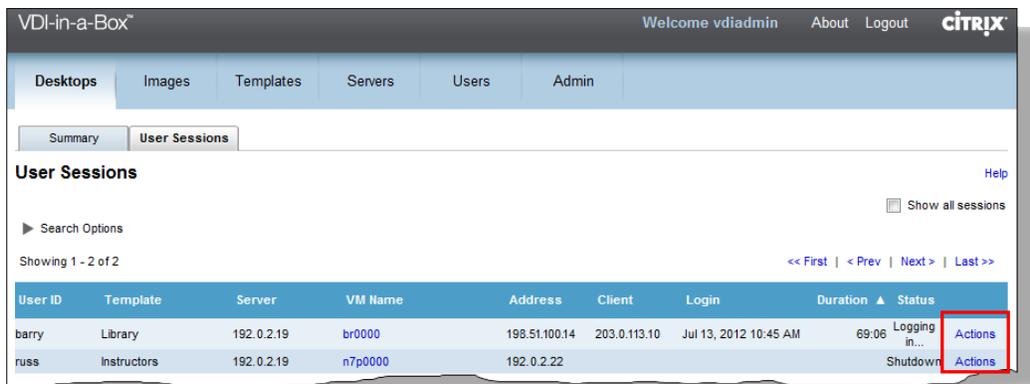
[Confirm] ダイアログボックスが開きます。



3. 現在使用されているデスクトップを含め、すべてのデスクトップをリフレッシュするの
か、使用中のデスクトップについてはユーザーがログオフするまで待機するの
かを選択して、[Confirm] をクリックします。

デスクトップのログオフ、再起動、シャットダウン、修復、または破棄を行うには

1. vdiManager管理コンソールの [Desktops] タブで、 [User Sessions] をクリックします。
2. デスクトップユーザーの行の [Actions] をクリックします。



[Actions] メニューが表示されます。



3. 実行する操作を選択して、 [Confirm] をクリックします。デスクトップの更新（リフレッシュ）ポリシーで [On logout] が設定されている場合、 [Restart] と [Shutdown] はメニューに表示されません。

破損したデスクトップを破棄するには

デスクトップの状態を検出できなくなると、その状態が「Broken」になり、ユーザーが使用できなくなります。デスクトップが破損する原因としては、以下が挙げられます。

- ・ スタートアップ構成が存在しないか正しくない（プロダクトキーまたはドメイン資格情報が正しくないなど）ために、Windowsを起動できない。XenCenterなどのハイパーバイザーの管理コンソールを使用して、このデスクトップがユーザー入力を待機していないかどうかを確認してください。
- ・ サーバーに負荷がかかりすぎているために、新規デスクトップを起動できない。
- ・ データストアに空きディスク領域がない。
- ・ 使用可能なMACアドレスがない。
- ・ テンプレートのイメージが削除されている。

破損したデスクトップを破棄する前に、問題を特定してデスクトップを修復し、破損したデスクトップを置き換えられるかどうかをテストしてください。

1. vdiManager管理コンソールの [Desktops] タブで、 [Summary] をクリックします。または、 [Servers] タブをクリックして、 [Desktops] をクリックします。
2. [Broken] 列の数字のリンクをクリックして、 [Destroy] をクリックします。
3. [Confirm] をクリックします。

セッションパラメーターを設定するには

更新日： 2012-09-04

グリッド全体に適用される詳細プロパティとして、以下のパラメーターを設定できます。

User Sessionパラメーター

- Desktop session default widthおよびDesktop session default height：デスクトップウィンドウのデフォルトのサイズを指定します。デフォルト値 (0) を使用すると、デスクトップが全画面モードで表示されます。これらのパラメーターは、Citrix Receiverによる接続には適用されません。
- Require users to re-enter password on Windows logon screen：デスクトップへのログオン時にユーザーによるパスワードの入力を要求するかどうかを指定します。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
- Retain user credentials in the VDI-in-a-Box Java Desktop Client：Javaデスクトップクライアントでユーザーの資格情報を保存するかどうかを指定します。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。このため、ユーザーがログオンした後でその資格情報が消去されます。
- Log off idle user session from the web console：アイドル状態のユーザーセッションを自動的に終了するまでの時間 (分) を指定します。デフォルトでは、5分が設定されています。
- Users can restart "active" or "on hold" desktops assigned to them：「Active」または「On Hold」の状態のデスクトップをユーザーが再起動できるようにするかどうかを指定します。このチェックボックスは、デフォルトでオンになっています。

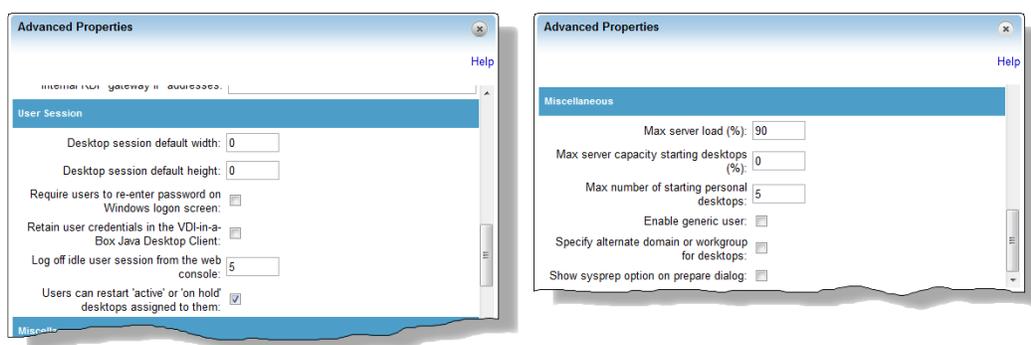
Miscellaneousパラメーター

- Max server load (%)：単一サーバーに割り当てることができる最大負荷を指定します。障害が発生したサーバー上のデスクトップ負荷がグリッド内のほかのサーバーに移動する場合でも、この最大負荷を超えることはありません。デフォルトでは、90%が指定されています。
- Max server capacity starting desktops (%)：各サーバーが同時に起動できるデスクトップの最大キャパシティを、単一サーバーに割り当てることができる最大負荷 (Max server load) に対するパーセンテージで指定します。新しいデスクトップの作成により、同時に起動するデスクトップの負荷がこの設定値を超える場合、新しいデスクトップの起動は後回しになります。これにより、過剰な数のデスクトップを起動することによるパフォーマンスの問題を避けることができます。デフォルトでは0が指定されており、同時に起動できるデスクトップの数に制限はありません。
- Max number of starting personal desktops：各サーバーが同時に起動できるパーソナルデスクトップの最大数を指定します。新しいデスクトップの作成により、起動するデスクトップの数がこの設定値を超える場合、新しいデスクトップの起動は後回しにな

ります。これにより、過剰な数のパーソナルデスクトップを基本イメージに再統合することによるパフォーマンスの問題を避けることができます。

- Enable generic user : 共通のユーザー名を使用したログオンを許可するかどうかを指定します。詳しくは、「汎用ユーザーアカウントを設定するには」を参照してください。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
- Specify alternate domain or workgroup for desktops : 追加イメージをユーザーデータベースドメイン以外のドメイン用に準備するかどうかを指定します。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。このため、コンピューターを準備するときに、構成済みのユーザーデータベースドメイン、またはユーザーデータベースドメインが構成されていない場合は「WORKGROUP」というワークグループに配置されます。
- Show sysprep option on prepare dialog : VDI-in-a-Boxの準備ツールの代わりにMicrosoft System Preparation Utility (sysprep) を使用するかどうかを指定します。Personal vDiskを使用するイメージを準備する場合は、VDI-in-a-Boxの準備ツールを使用する必要があります。デフォルトでは、この設定は無効になっています。このチェックボックスをオンにすると、Import new VMウィザードの [Prepare Image] ページに、sysprepを使用するためのチェックボックスが表示されます。

1. vdiManager管理コンソールの [Admin] タブで [Advanced Properties] をクリックして、 [User Session] または [Miscellaneous] セクションまでスクロールします。



2. 必要に応じてパラメーターを設定して、 [OK] をクリックします。

Desktop Agentの手作業によるインストール

更新日： 2012-09-25

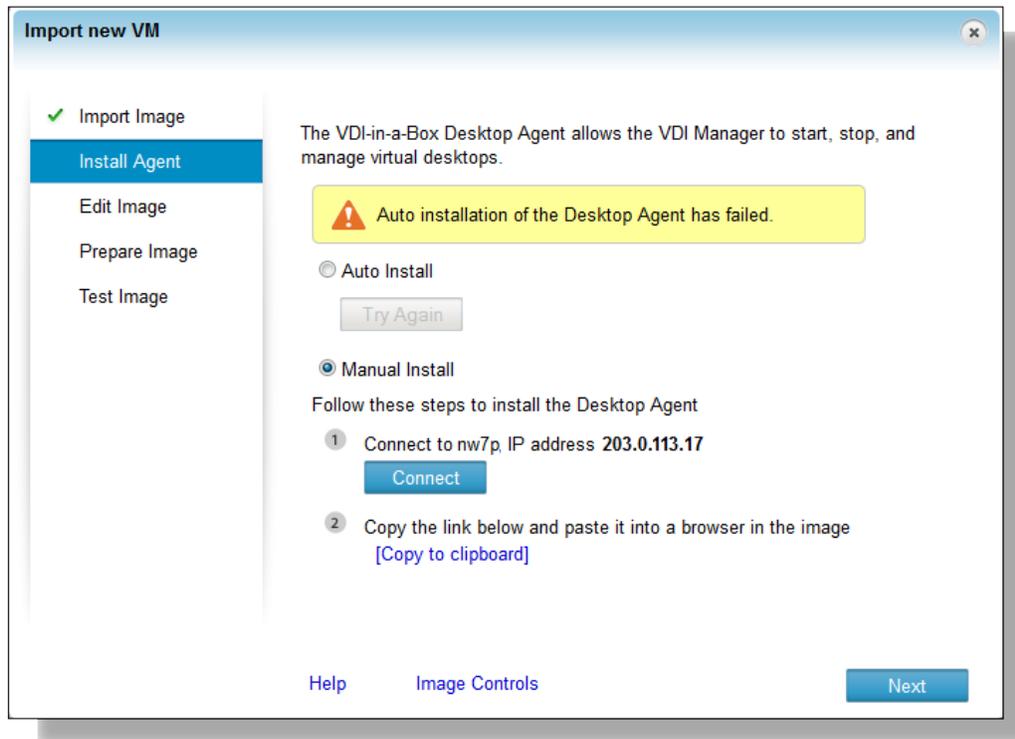
VDI-in-a-Box Desktop Agentは、イメージから作成した各デスクトップ上で動作します。vdiManagerは、このエージェントを介してデスクトップと通信します。Desktop Agentは、VDI-in-a-Boxマネージャー（vdiManager）にドラフトイメージをインポートするときに自動的にインストールされます。既存のイメージ上のDesktop Agentは、VDI-in-a-Box 5.0.xからVDI-in-a-Box 5.1.xへの移行時に自動的にアップデートされます。

Desktop Agentの自動インストールに失敗した場合は、再試行するか、手作業でインストールできます。

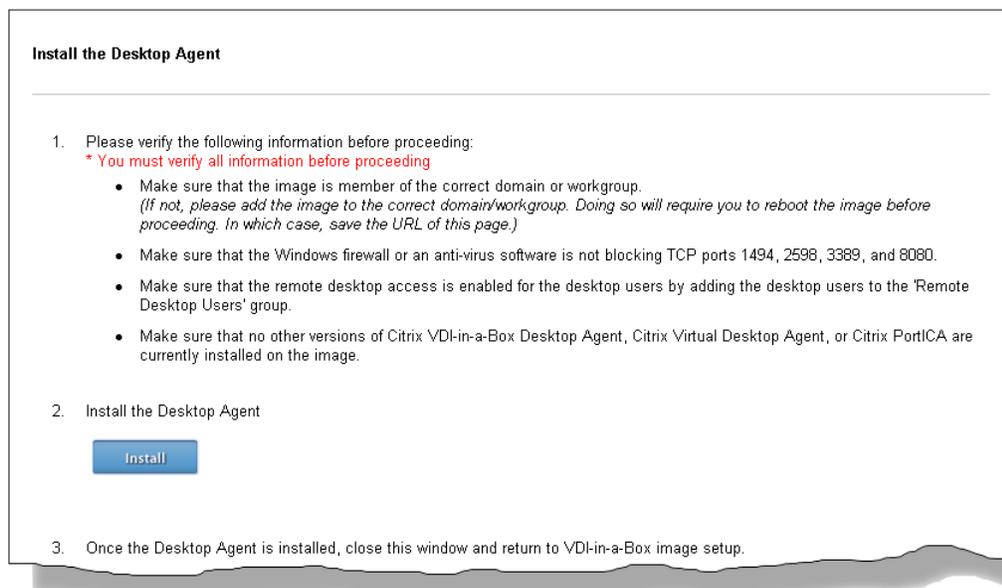
ドラフトイメージ上のDesktop Agentを手作業でインストールするには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって異なる場合があります。

1. [Manual Install] を選択します。Desktop Agentを手作業でインストールするための手順が表示されます。



2. [Copy to clipboard] をクリックして、Desktop AgentをダウンロードするためのURLをコピーし、[OK] をクリックします。
3. [Connect] をクリックします。イメージのログオン用の画面が開きます。
4. デスクトップにログオンして、手順2.でコピーしたURLにWebブラウザアクセスします。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
5. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。 [Install the Desktop Agent] ページが開きます。



6. [Install the Desktop Agent] ページの手順1.に表示される情報を確認します。
7. [Install the Desktop Agent] ページで、[Install] をクリックします。 [ファイルのダウンロード - セキュリティの警告] ダイアログボックスが開きます。
8. セキュリティ警告が表示された場合は受け入れます。 Desktop Agentをインストールするためのウィザードが起動します。
9. [Install] をクリックします。

重要： インストール中に、 [Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Installation and Configuration] ダイアログボックスが開きます。 このダイアログボックスに表示されるメッセージが停止して、インストールの成功または失敗が示されることがあります。 このダイアログボックスでは、いずれかのボタンをクリックしたり、インストール処理を中断したりしないでください。 インストールが完了すると、ダイアログボックスが閉じます。

Desktop Agentのインストール後、イメージが自動的に再起動します。

汎用ユーザーアカウントを設定するには

更新日：2012-08-30

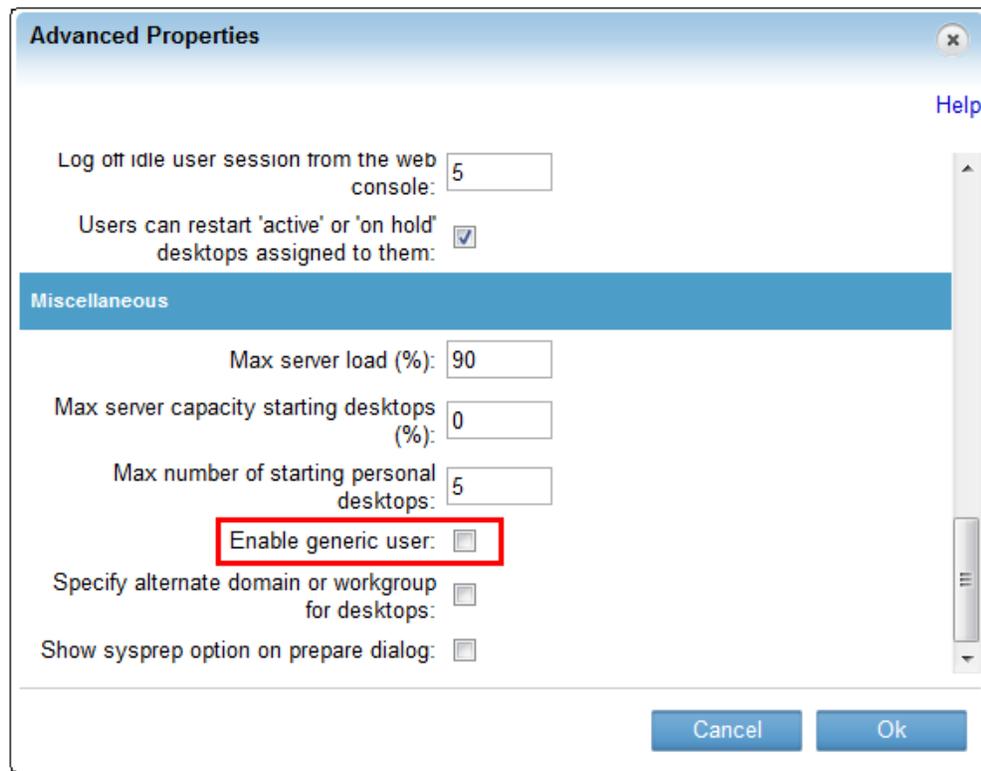
VDI-in-a-Boxは、Active DirectoryおよびMicrosoftワークグループ認証の汎用ユーザーアカウント（ゲストアカウントなど）をサポートします。トレーニング環境などでは、汎用ユーザーアカウントを使用できます。これにより、複数のユーザーが共通のアカウントを共有してデスクトップにログオンできます。汎用ユーザーアカウントはキオスクと同じような概念ですが、1つの汎用ユーザーアカウントに複数のテンプレートを割り当てることができます。

汎用ユーザーアカウントは、グリッド全体で有効または無効になります。汎用ユーザーアカウントを有効にすると、vdiManagerの動作が以下のように変更されます。

- ・ デフォルトでは、デスクトップのユーザーの割り当てと一致しないユーザーがログオンした場合、そのデスクトップは破棄されます。汎用ユーザーアカウントを有効にすると、このセキュリティ上の動作が変更され、デスクトップが破棄されなくなります。
- ・ デフォルトでは、ユーザーがデスクトップセッションを（ログオフせずに）切断して、別のデバイスから同じデスクトップセッションに再接続できます。汎用ユーザーアカウントを有効にすると、同じデスクトップセッションに再接続できなくなります。汎用ユーザーがセッションを切断して別のデバイスからログオンすると、その汎用ユーザーには新しいデスクトップが表示されます。切断されたデスクトップセッションは、vdiManagerによりログアウトされます。更新（リフレッシュ）ポリシーが「On logout」になっている場合は、そのデスクトップが破棄されます。更新（リフレッシュ）ポリシーが「Manual」になっている場合は、同じユーザーデバイスから次にログオンしたユーザーにそのデスクトップが発行されます。

汎用ユーザーアカウントを設定するには

1. vdiManager管理コンソールの [Admin] タブで、 [Advanced Properties] をクリックします。
2. [Miscellaneous] セクションまでスクロールし、 [Enable generic user] チェックボックスをオンにします。



3. VDI-in-a-Boxイメージおよびテンプレートの作成手順に従って、汎用アカウント用のデスクトップイメージとテンプレートを作成します。必要なWindows認証ソフトウェアコンポーネントを、必ずイメージにインストールしてください。
4. 以下の手順で、汎用ユーザーアカウントを追加します。
 - a. [Users] タブをクリックし、 [User Groups] の [Add] をクリックします。
 - b. [User ID] ボックスに、汎用アカウントのユーザーIDを入力します。
 - c. [Templates] 列で [Edit] 、 [None] の順にクリックし、このアカウントに割り当てるテンプレートを選択します。
 - d. [Close] をクリックし、 [Save] をクリックします。
5. 汎用ユーザーアカウントを使ってvdiManagerにログオンして、設定をテストします。

グリッドの管理

更新日：2012-08-30

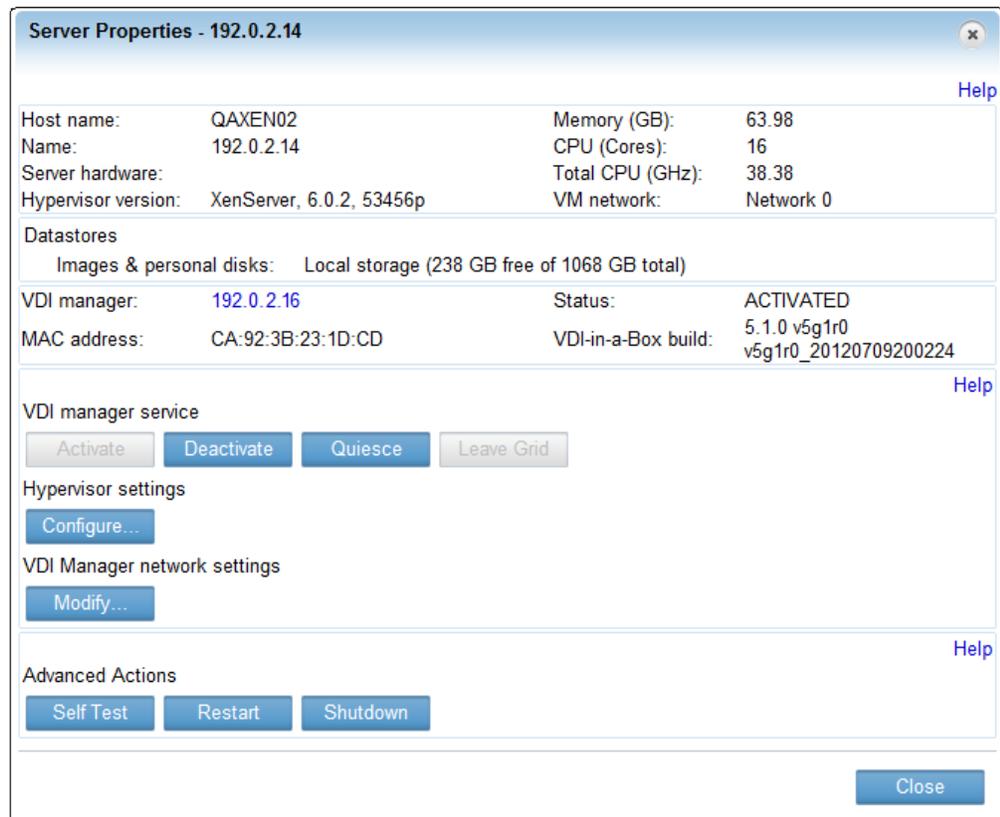
グリッドにサーバーを追加するには

1. vdiManagerアプライアンスをインポートして起動します。
2. vdiManagerのIPアドレスを書き留めて、WebブラウザからvdiManager管理コンソール (<https://IPaddress/admin>) にログオンします。
3. VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの指示に従って、ハイパーバイザーをセットアップして、グリッドに追加します。このウィザードの使用方法については、eDocsの「VDI-in-a-Box」>「VDI-in-a-Box 5.1」>「VDI-in-a-Boxの導入」のトピックを参照してください。ほかのサーバー上のデスクトップは、新規サーバーに移行されません。ポリシーの要件に基づいて、必要に応じてデスクトップが新規サーバー上に作成されます。

グリッドからサーバーを削除するには

グリッドからサーバーを削除すると、そのサーバーにより別のグリッドが作成されます。これにより、元のグリッド内のサーバーから切断され、負荷を共有しなくなります。

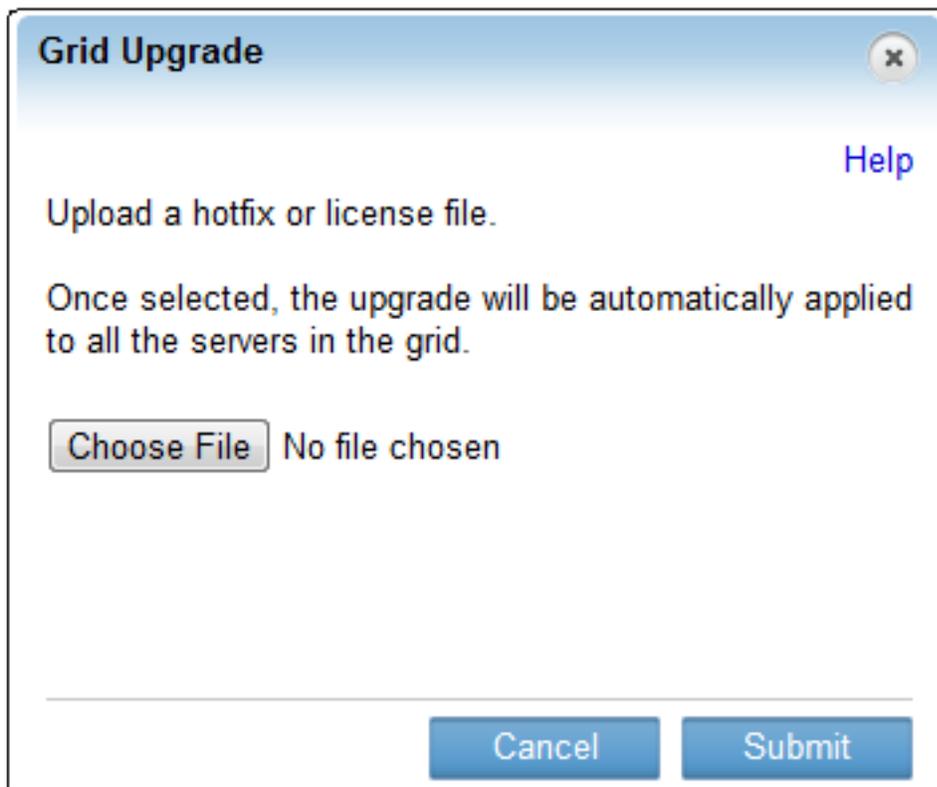
1. 削除するサーバーを非アクティブにして、そのサーバー上で実行されているデスクトップをすべて削除します。これを行うには、[Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Deactivate] をクリックします。



2. [Confirm] をクリックします。
3. サーバーの状態が「DEACTIVATED」に変わったら、[Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Leave Grid] をクリックします。

グリッドのVDI-in-a-Boxソフトウェアまたはライセンスをアップグレードするには

1. グリッドをメンテナンスモードにします。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。
2. [Admin] ページで、[Grid and License Upgrade] をクリックします。 [Grid and License Upgrade] ダイアログボックスが開きます。



3. [Choose File] をクリックし、アップグレードまたはライセンスファイルを指定して、[Open] をクリックします。
4. [Submit] をクリックします。アップグレードが完了すると、サーバーの状態が「Success」に変わります。
5. メッセージが表示されたら、vdiManagerにログオンします。
6. グリッドのメンテナンスモードを解除します。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。

サーバーのメンテナンスの準備をするには

1. メンテナンスの日時とログアウトの期限をユーザーに通知します。
2. パーソナルデスクトップのバックアップを作成しておくことをお勧めします（「[パーソナルデスクトップのバックアップと復元](#)」参照）。
3. グリッドをメンテナンスモードにします。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。
4. すべてのユーザーがログアウトし、パーソナルデスクトップのバックアップが完了したら、グリッド内のすべてのサーバーを非アクティブにします。これを行うには、[Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Deactivate] をクリックし、[Confirm] をクリックします。サーバーを非アクティブにすると、使用中のデスクトップを含むすべてのデスクトップが削除され、サーバーが直ちにシャットダウンされるので、デスクトップのプロビジョニングは停止します。パーソナルデスクトップだけが「On Hold」の状態で残ります。
5. ハイパーバイザーの管理コンソールを使用して、パーソナルデスクトップ仮想マシンの電源を切ります。対象のデスクトップセッションを特定するには、[Desktops > User Sessions] タブに移動し、[Status] 列で「On Hold」のエントリを参照します。
6. vdiManager仮想マシンをシャットダウンします。これを行うには、[Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Shutdown] をクリックします。これで、ハイパーバイザーサーバーのメンテナンスを実行することができます。

メンテナンス後に再開するには

1. ハイパーバイザーの管理コンソールを使用して、すべてのvdiManager仮想マシンの電源を入れます。
2. すべてのvdiManagerが起動したら、vdiManager管理コンソールにログオンし、グリッドのメンテナンスモードを解除します。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。[Servers] タブの [Recent Tasks and Events] セクションに、各サーバーについて「Server checks out fine」というメッセージが表示されます。
3. 各サーバーをアクティブ化します。これを行うには、[Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Activate] をクリックします。

vdiManagerに静的アドレスを割り当てるには

前提条件

- ・ まだ割り当てられていない静的IPアドレスを指定する必要があります。
1. デスクトップを実行しないようにサーバーを非アクティブにします。これを行うには、[Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして [Deactivate] をクリックし、さらに [Confirm] をクリックします。

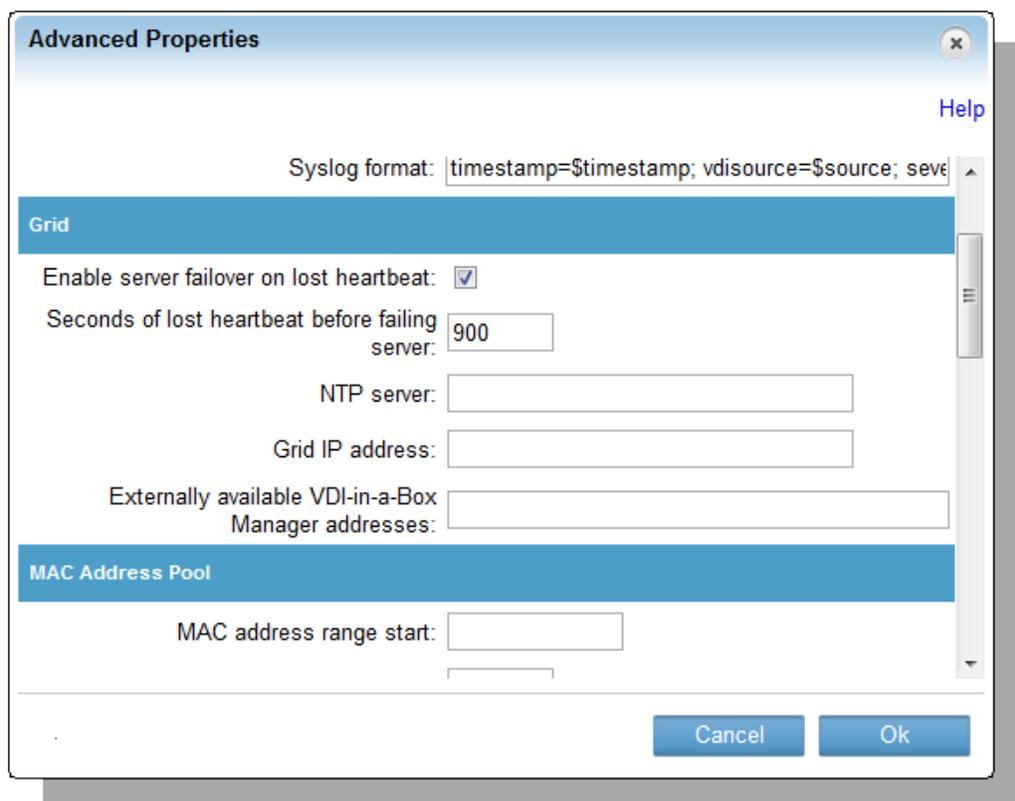
2. サーバー上で実行されているドラフトデスクトップまたはテストデスクトップをシャットダウンします。これを行うには、[Desktops] タブの [User Sessions] ページで、各デスクトップの行の [Actions] をクリックして [Shutdown] をクリックし、さらに [Confirm] をクリックします。
3. [Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Modify] をクリックします。
4. [VDI-in-a-Box Manager Network Settings] ダイアログボックスで、[Static IP configuration] をクリックし、静的IPアドレスを入力して [OK] をクリックします。
[Notification] ダイアログボックスが開き、ネットワーク構成の変更により vdiManagerが再起動されたことを示すメッセージが表示されます。
5. [Close] をクリックします。

グリッド用の仮想IPアドレスによる高可用性を提供するには

ユーザーデバイスからグリッド内の特定のサーバーのIPアドレス経由で仮想デスクトップにアクセスさせる代わりに、グリッドに静的な単一の仮想IPアドレスを割り当てることができます。この仮想IPアドレスへのアクセス要求は、そのグリッドのプライマリサーバーに転送されます。プライマリサーバーに障害が発生している場合は、グリッド内のほかのサーバーがそのIPアドレスへの要求を処理します。

グリッド用の仮想IPアドレスは、グリッド内のほかのサーバーと同じサブネットから選択した静的なアドレスである必要があります。

1. [Admin] タブで、[Advanced Properties] をクリックします。
2. [Grid] セクションの [Grid IP address] ボックスで、グリッドに割り当てる仮想IPアドレスを入力して、[OK] をクリックします。



vdiManagerを工場出荷時の設定にリセットするには

vdiManagerを工場出荷時の設定にリセットすると、元に戻すことはできません。これにより、グリッドからすべてのデスクトップ、テンプレート、イメージ、および環境情報が削除され、ハイパーバイザーのデータストアに物理的に格納されている基本イメージファイルが削除されます。

1. リセットするサーバーのvdiManager管理コンソールにログインします。
2. サーバーをグリッドから削除します。グリッド内のサーバーを工場出荷時の設定にリセットすることはできません。
3. [Admin] タブで、[Reset Server] をクリックします。リセットが完了すると、vdiManager管理コンソールからログアウトされます。次にログオンしたときに、[Welcome to VDI-in-a-Box] ページが開きます。vdiManagerのセットアップについて詳しくは、eDocsの「VDI-in-a-Box」 > 「VDI-in-a-Box 5.1」 > 「VDI-in-a-Boxの導入」のトピックを参照してください。

サーバーからvdiManagerを削除するには

1. サーバーがグリッドに属している場合は、グリッドから削除します。
2. vdiManagerを工場出荷時の設定にリセットします。
3. ハイパーバイザーの管理コンソールでvdiManager仮想マシンをシャットダウンし、ホストから削除します。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

グリッド内のサーバーの日時設定を同期するには

グリッド内のすべてのvdiManagerのシステムクロックを、ネットワークタイムプロトコル（NTP）サーバーを使用して同期させることができます。これにより、ログに記録されるタイムスタンプの一貫性が保証されます。

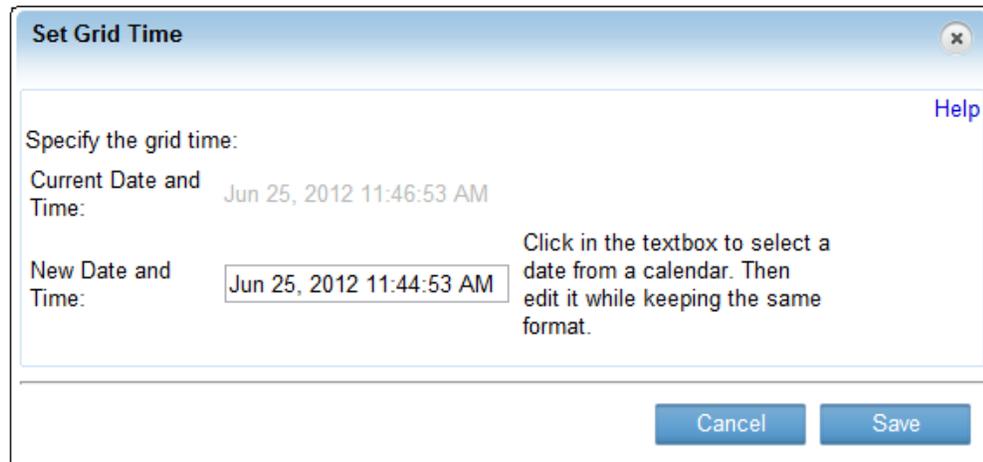
1. [Admin] タブで、[Advanced Properties] をクリックします。
2. [Grid] セクションの [NTP server] ボックスで、ネットワークタイムプロトコル（NTP）サーバーのIPアドレスを入力して、[OK] をクリックします。グリッド内のすべてのサーバーのシステムクロックが、1時間以内に同期されます。これ以降、この同期化が1時間ごとに実行されます。
3. ハイパーバイザー側でも、手順2.で指定したNTPサーバーを指定します。詳しくは、<http://support.citrix.com/article/CTX134279>を参照してください。

グリッド通信および転送プロトコル用の日時を設定するには

デスクトップの更新（リフレッシュ）スケジュールの処理など、グリッド内の通信において一貫した時間を使用することは重要です。デフォルトでは、グリッドの最初のサーバーのシステムクロックに基づいてグリッド時間（Grid Time）が決定されます。グリッド時間は特定のシステムクロックに関連付けられず、管理者が必要に応じて設定できます。グリッド時間は、24時間ごとにそのグリッド内のすべてのサーバー間で同期されます。

注：NTPサーバーによる同期を有効にすると、この同期化によりグリッド時間が変更される場合があります。サーバー間の時間の相違はグリッド時間の同期により自動的に解消されますが、NTPサーバーによる同期を有効にしたら、その直後および1時間後にグリッド時間を確認して、必要に応じて再設定することをお勧めします。

1. [Admin] タブで、[Grid Time] をクリックします。[Set Grid Time] ダイアログボックスが開きます。



2. 現在の日時を確認します。変更が必要な場合は [New Date and Time] ボックスをクリックし、表示されるカレンダーで日付を指定します。

注： 日時は「mmm dd, yyyy hh:mm:ss [AM|PM]」形式で指定する必要があります。

3. 日付を変更した場合は、必要に応じて時刻を指定します。
4. [Save] をクリックします。

Active Directoryフェールオーバーの準備

更新日： 2012-08-30

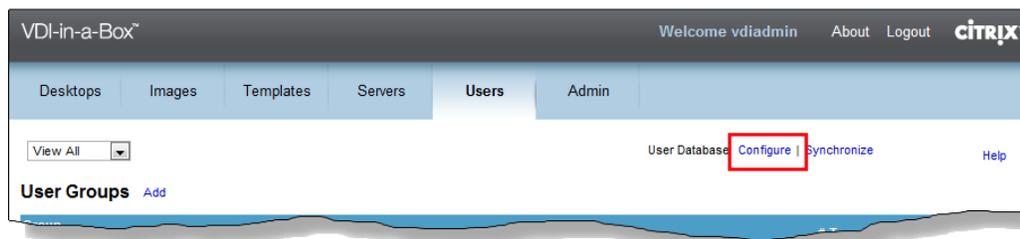
Active Directoryフェールオーバー機能を使用すると、グリッドでプライマリのActive Directoryサーバーに障害が発生しても、完全なサービスを継続して提供することができます。

VDI-in-a-Boxでは、管理者が指定した最初のActive Directoryサーバーが使用されます。このサーバーに障害が発生すると、次のActive Directoryサーバーに切り替わります。一覧に追加したActive Directoryサーバーの数に応じて、この処理が繰り返されます。同時にプライマリのActive Directoryサーバーの状態がチェックされ、プライマリのActive Directoryサーバーが障害から回復したことが検出されると、自動的にそのサーバーが使用されます。

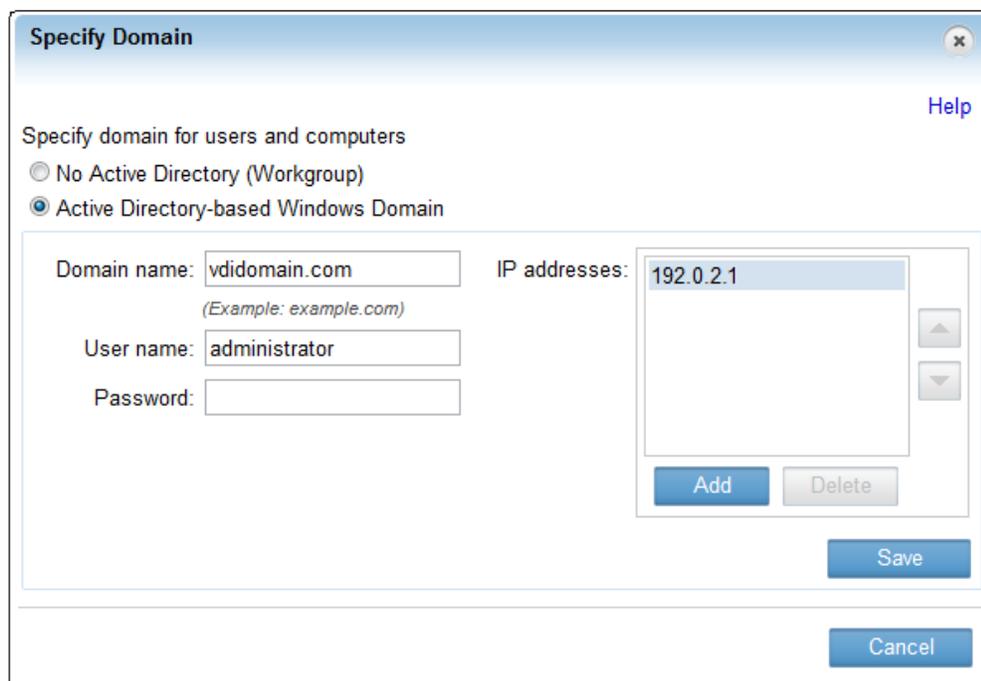
重要： デスクトッププロビジョニングのサービスを中断させないためには、指定したすべてのActive Directoryサーバーでデータが正しく同期されていることが重要です。VDI-in-a-Boxでは、Active Directoryサーバー間の同期をチェックすることはできません。

Active Directoryフェールオーバーの準備をするには

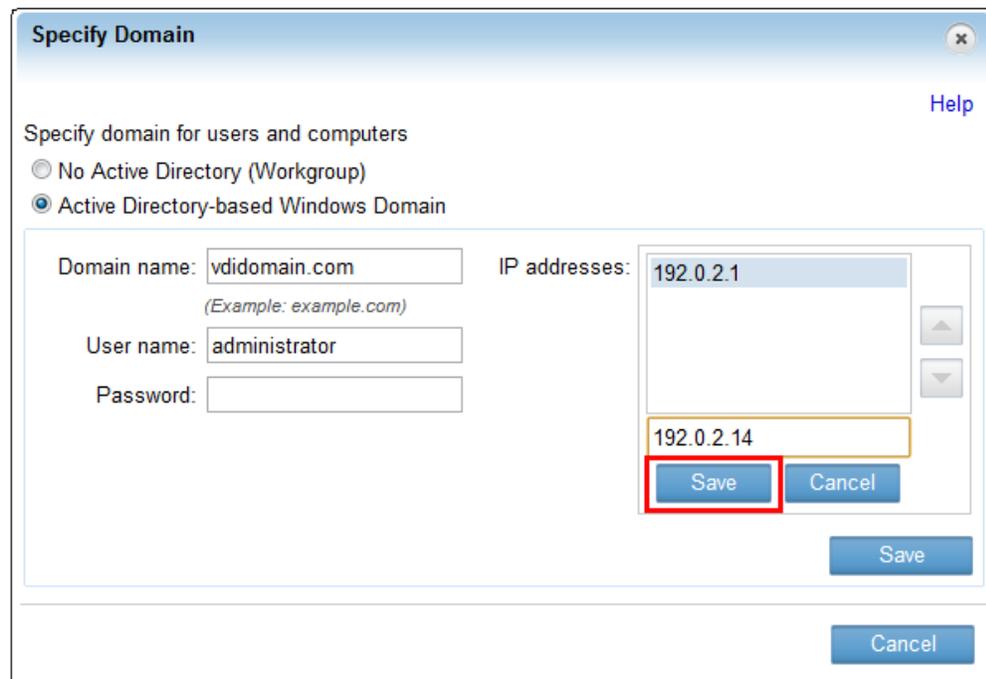
1. VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) の管理コンソールの [Users] タブで、 [Configure] をクリックします。



[Specify Domain] ダイアログボックスが開きます。

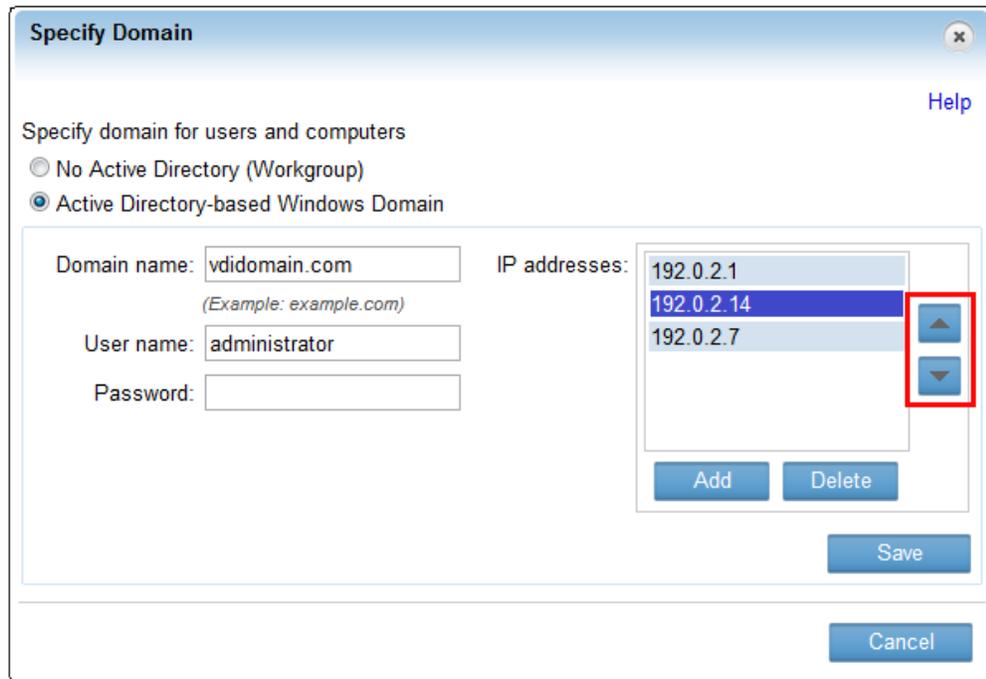


2. [Add] をクリックし、グリッド内のActive DirectoryサーバーのIPアドレスを入力して [Save] をクリックします。



[IP addresses] ボックスの一覧にIPアドレスが追加されます。

3. 一覧に追加するActive Directoryサーバーごとに手順2.を繰り返します。
4. 一覧に追加したサーバーの優先順位を変更するには、右横の矢印ボタンをクリックします。



5. [Password] ボックスにドメインのパスワードを入力し、[Save] をクリックします。

MACアドレスのプールからデスクトップを生成する

更新日： 2012-08-30

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) ポリシーによりIPアドレスがMAC (Media Access Control) アドレスに割り当てられる場合、または特定の範囲のMACアドレスのみにIPアドレスが割り当てられる環境では、特定の範囲のMACアドレスを持つデスクトップが生成されるように設定できます。この「MACアドレスプール」は、そのVDI-in-a-Boxグリッド内で生成されるすべてのデスクトップ、ドラフトイメージ、およびテストイメージに適用されます。

前提条件

- ・ グリッドで生成されるすべてのデスクトップおよびドラフトイメージに十分な数のアドレスがMACアドレスプールに追加されている。
- ・ DHCPなどの外部システムが、MACアドレスプールに追加されているすべてのアドレスを処理できる。MACアドレスプールのアドレスは、デスクトップにランダムに割り当てられます。

注： VDI-in-a-Boxでは、グリッド内のデスクトップを除き、割り当てられたMACアドレスがネットワーク上で一意かどうかを検証されません。グリッドからサーバーを削除する場合、元のグリッドのデスクトップと同じMACアドレスがそのサーバー上のデスクトップに再度割り当てられることがあります。

1. VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) の管理コンソールの [Admin] ページで、 [Advanced Properties] をクリックします。
2. [MAC Address Pool] セクションまでスクロールして、MACアドレス範囲の開始アドレスおよび長さを指定します。MACアドレスの範囲は、「00:50:56:[0-3]x:xx:xx」形式で指定します。

The image shows a dialog box titled "Advanced Properties" with a close button (X) in the top right corner. A "Help" link is also present in the top right. The dialog is divided into several sections:

- Externally available VDI-in-a-Box Manager addresses:** A text input field.
- MAC Address Pool:** A section header with a blue background. Below it, "MAC address range start:" is set to "00:50:56:01:11:1" and "MAC address range length:" is set to "4".
- Gateways:** A section header with a blue background. Below it, there are four text input fields:
 - External HDX gateway addresses:
 - Internal HDX gateway IP addresses:
 - External RDP gateway addresses:
 - Internal RDP gateway IP addresses:

At the bottom right of the dialog, there are "Cancel" and "Ok" buttons.

資格情報の変更に伴うサーバー構成の更新

更新日：2012-08-15

ハイパーバイザー、Active Directory、またはドメインコントローラーの資格情報を変更した場合は、VDI-in-a-Boxサーバーの構成パラメーターを直ちに更新する必要があります。アカウントの資格情報が定期的に変更される環境では、固定されているアカウントを使用することをお勧めします。

コンポーネント	vdiManager管理コンソールでの更新手順	変更しない場合の影響
ハイパーバイザーの資格情報	[Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Configure] をクリックします。	VDI-in-a-Boxがハイパーバイザーと通信できなくなります。
Active Directoryの資格情報	[User] タブをクリックし、[Configure] をクリックします。	VDI-in-a-Boxがユーザーを認証できなくなります。
ドメインコントローラーの資格情報	[Images] タブをクリックし、[Edit] をクリックして、ウィザードの指示に従って操作します。資格情報の変更が必要なすべてのイメージについて、この手順を繰り返します。	新しく生成されるデスクトップがドメインに参加できず、破損デスクトップとして認識されます。

デュアルデータストア機能

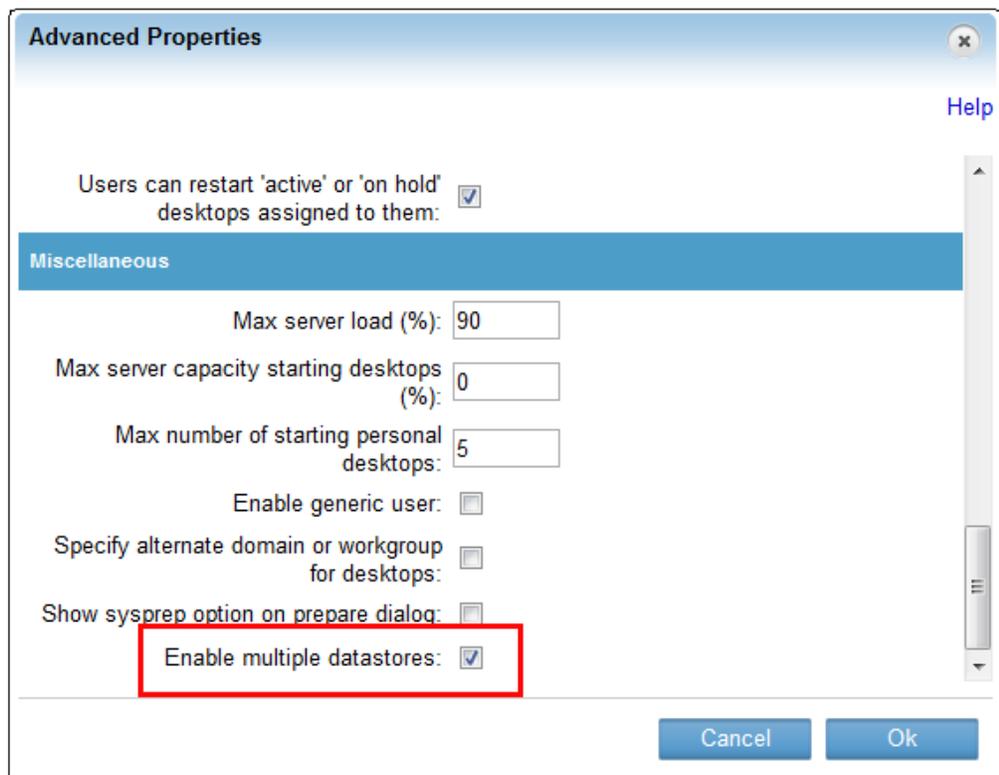
更新日：2012-10-29

デュアルデータストア機能では、プールデスクトップで使用されるデータストアとは異なるデータストアにイメージやパーソナルデスクトップを格納できます。デュアルデータストア機能は、ハイパーバイザーとしてMicrosoft Hyper-V、VMware ESXi、VMware vSphereのいずれかが動作する環境で使用できます。

注：データストアを変更しても、データは移動しません。参照ポイントは古いデータストア内のオブジェクトに対して保持され、オブジェクトは削除されません。データストアの変更は慎重に行い、頻繁には変更しないでください。

注：ESXiまたはHyper-Vを使用している場合は、VDI-in-a-Boxで指定したデータストア名を変更しないでください。データストア名を変更すると、デスクトップの生成やクリーンアップに失敗することがあります。

1. VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) の管理コンソールの [Admin] ページで、[Advanced Properties] をクリックします。
2. [Miscellaneous] セクションまでスクロールし、[Enable multiple datastores]、[OK] の順にクリックします。



3. [Servers] タブをクリックし、変更するサーバーをクリックします。 [Server Properties] ダイアログボックスが開きます。
4. [Configure] をクリックします。 [Configure Server] ダイアログボックスが開きます。
5. [Select datastores] セクションで、デスクトップ用のデータストアを選択します。

The screenshot shows the 'Configure Server' dialog box. The 'Select datastores' section is highlighted with a red box. It contains the following fields:

- Images & personal disks: D:\ProgramData\Citrix\VIAB (511 GB free/539 GB total)
- Desktops: Select...

Below this section, the 'Network Label' is set to 'HVSwitch1'. At the bottom of the dialog are 'Cancel' and 'Save' buttons.

注： [Images & personal disks] ボックスには、グリッドの初期構成時に選択されたデータストアが表示されます。

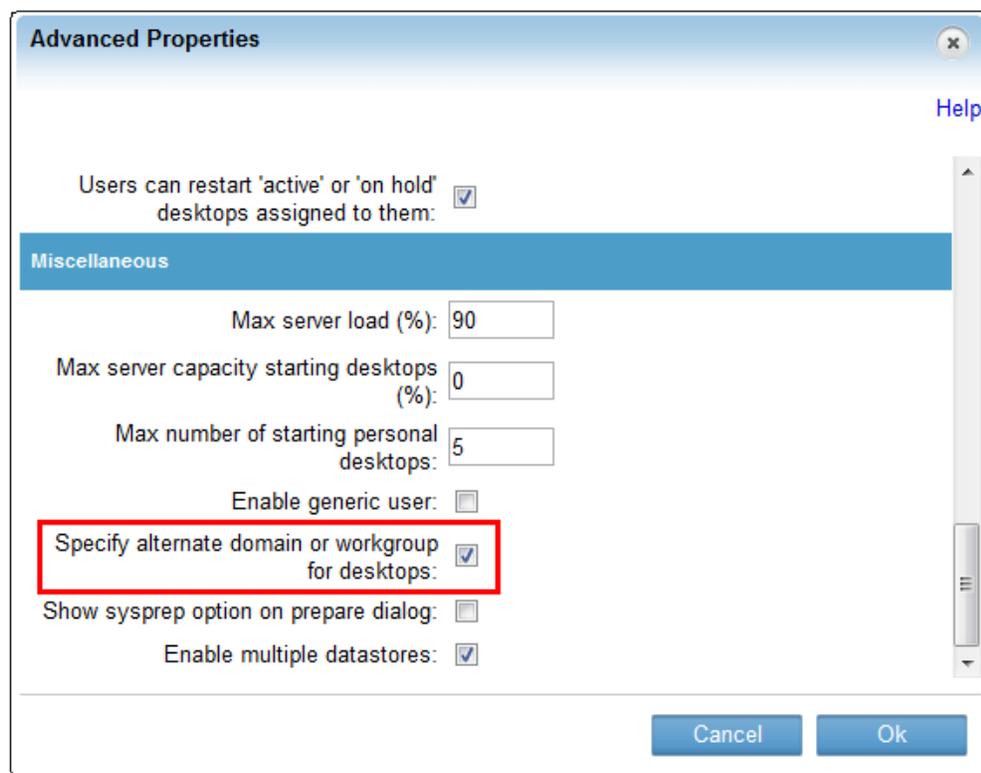
6. [Save] をクリックし、 [Close] をクリックします。

ユーザーとコンピューターのドメインを分離する

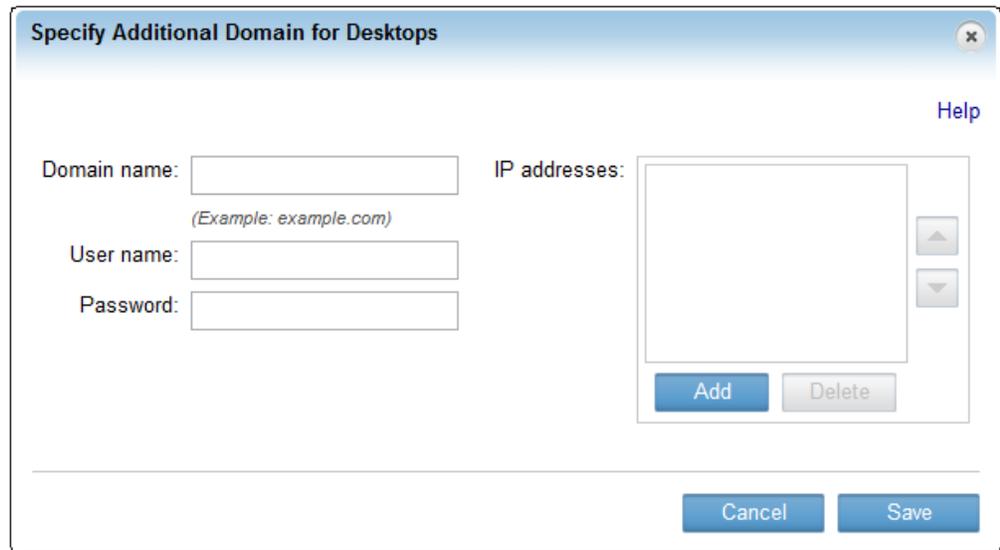
更新日： 2012-08-30

ユーザーとコンピューターとのドメインを分離すると、セキュリティ上のフレキシビリティが向上します。たとえば、脆弱性の低いユーザードメインとは異なる、厳格なセキュリティをコンピュータードメインに設定することができます。

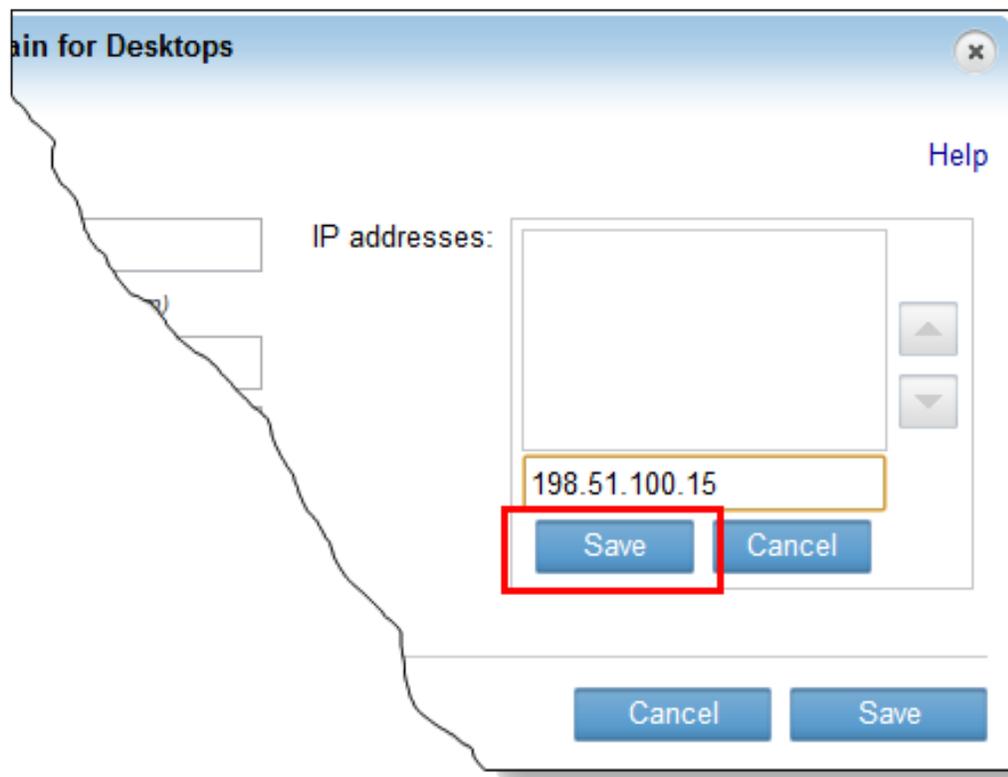
1. VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) の管理コンソールの [Admin] ページで、 [Advanced Properties] をクリックします。
2. [Miscellaneous] セクションまでスクロールし、 [Specify alternate domain or workgroup for desktop] 、 [OK] の順にクリックします。



3. [Admin] ページで、 [Additional Domain for Desktops] をクリックします。 [Specify Additional Domain for Desktops] ダイアログボックスが開きます。



4. [Domain name] ボックスにデスクトップのドメイン名を入力します。
5. [User name] と [Password] ボックスに、ドメインの管理者アカウントの資格情報を入力します。
6. [Add] をクリックしてドメインのIPアドレスを入力し、[Save] をクリックします。
[IP addresses] 一覧にIPアドレスが追加されます。



7. [Save] をクリックします。

VDI-in-a-Boxキオスクの構成

更新日：2012-08-15

VDI-in-a-Boxのキオスク機能を使用すると、会議室、学校の実験室、病院のナースステーションなどのユーザーデバイスをキオスクシステムとして使用して、標準デスクトップを配信できます。VDI-in-a-Boxキオスク用のデスクトップは、ユーザーやグループ名ではなく、IPアドレスの範囲で特定されるユーザーデバイスに割り当てます。

通常のVDI-in-a-Box仮想デスクトップと同様に、キオスク用のデスクトップもテンプレートに基づいています。デスクトップとユーザーデバイスを関連付けるために、テンプレートをユーザーデバイスのIPアドレスに割り当てます。

管理者は、ユーザーデバイスをセットアップするときに、ユーザーがCitrix Receiver（推奨）、Webブラウザー、またはVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続できるように設定します。

注：キオスクとユーザーの設定に矛盾がある場合は、キオスクの設定が優先されます。

キオスクの展開計画

以下の項目を考慮して、キオスク用のテンプレートの数を決定します。

- ・ 複数のキオスクで同じデスクトップポリシーを使用できるか、または個別のデスクトップポリシーが必要か。
- ・ ユーザーデバイスのIPアドレス。キオスク用のテンプレートは、IPアドレスまたはIPアドレスの範囲に割り当てます。

例：校内の工学研究室と芸術研究室にある既存のコンピューターにVDI-in-a-Boxキオスクを展開する場合、研究室ごとに個別のテンプレートを定義します。そして、工学研究室のコンピューターのIPアドレスの範囲をキオスクテンプレートEngineering Labに割り当てて、芸術研究室のコンピューターのIPアドレスの範囲をキオスクテンプレートArt Labに割り当てます。この設定により、それぞれの研究室からログインする学生に適切なデスクトップが表示されます。

推奨項目とポリシーに関する注意事項

- ・ キオスクデスクトップの展開先に応じて個別のテンプレートを作成します。キオスク用のテンプレートを作成して、個々のユーザーやグループではなく、キオスクデバイスに割り当てると、キオスクセッションを効率的に管理および監視できます。
- ・ デスクトップが毎日更新（リフレッシュ）されるようにテンプレートのポリシーを設定します。
- ・ 会議室など、公共の場所のキオスクでは、特に以下の点について考慮します。
 - ・ デスクトップの更新ポリシーで [On logout] を設定して、ユーザーがログオンするたびに新しいデスクトップが表示されるようにします。
 - ・ 新しいデスクトップの生成には時間がかかるので、イメージを作成するときに [Fast desktop refresh] オプションを有効にして、ユーザーのログアウト時にデスクトップが迅速にプロビジョニングされるようにします。
 - ・ 適切な数のデスクトップが事前起動したり更新されたりするように、テンプレートの [Maximum desktops] ポリシーで、キオスクデバイスよりも多い数を設定します。
 - ・ グリッドの負荷が高く、デスクトップ更新時の処理にリソースが集中的に使用される場合は、デスクトップの更新ポリシーとして [Scheduled] を設定して、デスクトップが每晚更新されるようにします。この場合、デスクトップの最大数としてキオスクデバイスよりも多い数を設定する必要はありません。
- ・ 事前起動するデスクトップの数を決定します。「事前起動デスクトップ」とは、電源が入り、ログオンプロンプトが表示された状態でユーザーのアクセスを待機するデスクトップを指します。事前起動デスクトップでは、ユーザーが仮想デスクトップの起動を待つ必要がありません。事前起動するデスクトップの数を指定すると、デスクトップにログオンしたユーザーの数に応じて、事前起動デスクトップの数が保持されます。たとえば、テンプレートで事前起動デスクトップ数として5を指定した場合、5つの仮想デスクトップが事前起動してユーザーを待機します。2人のユーザーが各自のデスクトップにログオンすると、新たに2台のデスクトップが事前起動され、指定した事前起動デスクトップ数が保持されます。テンプレートで指定した最大数に達するまで、この処理が継続されます。
- ・ デスクトップテンプレートのキオスクデバイスへの割り当てを変更する場合は、注意が必要です。再割り当てにより、新しいデスクトップがキオスクデバイスに配信されますが、古いデスクトップがVDI-in-a-Boxに保持されます。これらの孤立したキオスクセッションは、VDI-in-a-Boxコンソールの [Desktops > User Sessions] タブで削除する必要があります。

ユーザーデバイスをキオスクとして構成する

更新日： 2012-08-30

ユーザーデバイスをキオスクとして構成するには、次の手順に従います。

1. 各ユーザーデバイスのIPアドレスまたはアドレスの範囲にテンプレートを割り当てます。
2. 各ユーザーデバイスをキオスク用にセットアップします。
3. キオスクの接続を確認します。

ユーザーデバイスをテンプレートに割り当てるには

1. vdiManager管理コンソールで、[Users] タブをクリックします。
2. IPアドレスの一覧で、[Add] をクリックします。
3. [IP Address Ranges] ボックスに、テンプレートに割り当てるユーザーデバイスのIPアドレスを入力します。個々のアドレス（「192.168.23.143」など）、プレフィックス（「192.168」など）、または範囲（「192.168.10.174-204」など）を指定できます。各エントリは改行またはスペースで区切ります。ワイルドカードとしてアスタリスク(*)を使用して、「172.*.」のように172以下のすべてのIPアドレスを表すこともできます。
4. IPアドレスまたは範囲に割り当てるテンプレートを選択します。ユーザーデバイスに割り当てることができるテンプレートは1つだけです。

次の表は、校内の工学研究室、芸術研究室、休憩室、および図書室に対するIPアドレスの割り当て例を示しています。

IPアドレスの範囲	テンプレート名	説明
192.168.1.30-50	Engineering Lab	2つのIPアドレス範囲に対応するには、研究室ごとに個別のテンプレートが必要です。
192.168.1.1-20	Art Lab	
192.168.2.11	Break Room	休憩室のユーザーデバイスには独自のテンプレートが必要です。このデバイスのIPアドレスが192.168.3で始まる場合は、Libraryテンプレートを使用できます。
192.168.3 192.168.4	Library	IPアドレスが192.168.3と192.168.4で始まるすべてのユーザーデバイスには、Libraryテンプレートが使用されます。

ユーザーデバイスをキオスク用にセットアップするには

キオスクデバイスでは、通常のユーザーデバイスと同様にCitrix Receiver（推奨）、Webブラウザ、およびVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用した接続がサポートされます。セットアップ方法については、eDocsの「[ユーザーデバイスからのVDI-in-a-Boxへのアクセス](#)」で、使用するユーザーデバイスのトピックを参照してください。

Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、このクライアントをそのデバイスのスタートアップスクリプトに追加して、ユーザーデバイスの起動時にJavaデスクトップクライアントが自動的に起動するようにすることをお勧めします。または、Javaデスクトップクライアントのショートカットを作成します。これを行うには、ユーザーデバイスでコマンドプロンプトのウィンドウを開き、`javaws -viewer`を実行します。次に、Javaデスクトップクライアントのエントリを右クリックして、[Install Shortcuts] を選択します。vdiManagerが

複数ある場合は、それぞれについてショートカットを作成し、VDI-in-a-Boxアプライアンスがオフラインになっている場合にユーザーが選択できるようにしておくことをお勧めします。

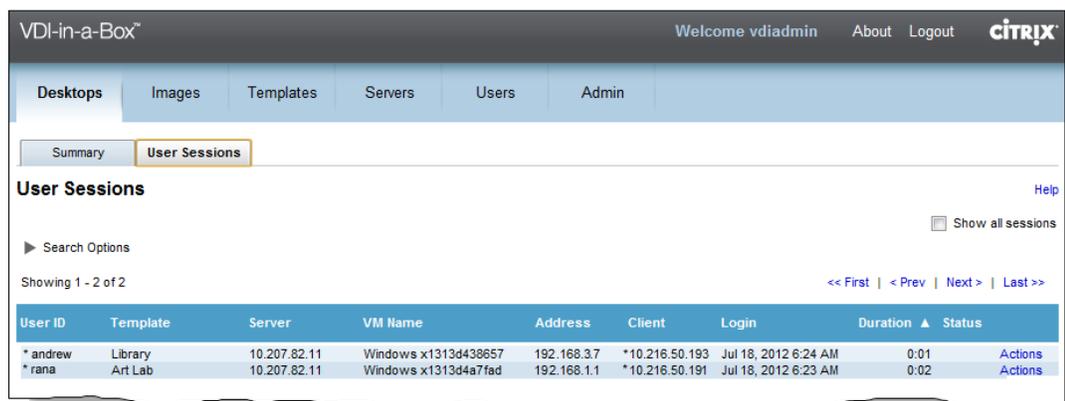
共通のユーザー名とパスワードを使用してJavaデスクトップクライアントを起動する

デフォルトのユーザー名（「guest」など）とパスワードを省略して、ユーザーが資格情報を入力せずに直接デスクトップに接続できるようにするには、次のコマンドを使用します。

```
javaws https://<IPaddress>/dt/vdiclient.jnlp?"username=<kioskuser>&password=<kioskpassword>"
```

キオスクの接続を確認するには

VDI-in-a-Boxコンソールで、[Desktops > User Sessions] タブに移動します。ユーザーIDとクライアントIPアドレスのエントリはアスタリスク（*）で始まるので、キオスクのエントリを簡単に検索したり並べ替えたりすることができます。



The screenshot shows the VDI-in-a-Box management console. The 'User Sessions' tab is selected, displaying a table of active sessions. The table has columns for User ID, Template, Server, VM Name, Address, Client, Login, Duration, and Status. Two sessions are listed: one for user 'andrew' and one for user 'rana'.

User ID	Template	Server	VM Name	Address	Client	Login	Duration	Status
* andrew	Library	10.207.82.11	Windows x1313d438657	192.168.3.7	*10.216.50.193	Jul 18, 2012 6:24 AM	0:01	Actions
* rana	Art Lab	10.207.82.11	Windows x1313d4a7fad	192.168.1.1	*10.216.50.191	Jul 18, 2012 6:23 AM	0:02	Actions

安全なリモートアクセスの構成

更新日：2012-08-30

仮想デスクトップへの安全な接続をリモートユーザーに提供するには、VDI-in-a-Boxと共に Citrix NetScaler Access Gateway 10を使用します。このVPXは、Citrix XenServer、Microsoft Hyper-V、またはVMware ESXi向けのNetScaler Access Gateway仮想アプライアンスです。これにより、デスクトップへの安全なアクセスを提供でき、ユーザーはどこからでもデスクトップで業務を行えるようになります。NetScaler Access Gatewayを使用すると、リモートユーザーが仮想プライベートネットワーク（VPN）接続を設定したり、デスクトップにログオンする前にVPNにログオンしたりする必要がなくなります。

VDI-in-a-Boxでの構成方法について詳しくは、<http://support.citrix.com/article/CTX134315>を参照してください。NetScaler Access Gateway 10については、「[NetScaler Access Gateway 10](#)」を参照してください。NetScaler 10については、「[NetScaler 10](#)」を参照してください。

要件

- ・ VDI-in-a-BoxグリッドのIPアドレスを構成します。これにより、負荷分散機能を使用しなくても、NetScaler Access Gatewayの単一エントリポイントが設定されます。

グリッドのIPアドレスを設定すると、ローカルエリアネットワーク（LAN）接続およびNetScaler Access Gatewayを介した接続の仲介機能と、VDI-in-a-Box Webインターフェイスの自動フェールオーバー機能が提供されます。

VDI-in-a-BoxのNetScaler VPX 10をインストールおよび構成するには

eDocsの「NetScaler」>「NetScaler 10」>「Citrix NetScaler VPX製品概要」の説明に従って、NetScaler VPXをセットアップします。

1. NetScaler VPX 10の仮想アプライアンスをダウンロードします。
2. NetScaler VPX仮想アプライアンスをハイパーバイザー上にインポートします。
3. NetScaler VPXの基本設定を行います。これには、管理用のNetScaler IP（NSIP）の設定とNetScaler VPXプラットフォームライセンスのインストールが含まれます。

Access GatewayへのvdiManager接続を構成するには

NetScaler上のAccess Gateway仮想サーバーインスタンスの数を超えるゲートウェイを構成することはできません。

1. vdiManager管理コンソールの [Admin] ページで、 [Advanced Properties] をクリックします。
2. グリッドのIPアドレスを追加します。 この手順については、「[グリッドの管理](#)」を参照してください。
3. [Gateways] セクションまでスクロールします。

Advanced Properties

MAC address range length: 0

Gateways

External HDX gateway addresses: www.gw1.com:443;www.gw2.com:443

Internal HDX gateway IP addresses: 172.16.1.1;172.16.1.2

External RDP gateway addresses:

Internal RDP gateway IP addresses:

User Session

Desktop session default width: 0

Desktop session default height: 0

Require users to re-enter password on

Cancel Ok

4. [External HDX gateway addresses] に、Access Gatewayの外部FQDN (Fully Qualified Domain Name : 完全修飾ドメイン名) を、ポートを含めて入力します。セミコロンで区切って複数のFQDNを入力できます。例 : www.gw1.com:443;www.gw2.com:443
5. [Internal HDX gateway IP addresses] に、NetScalersのサブネットIPアドレス (SNIP) またはマップされたIPアドレスを入力します。セミコロンで区切って複数のアドレスを入力できます。外部ゲートウェイのアドレスと同じ数のAccess Gatewayを同じ順序で指定してください。例 : 172.16.1.1;172.16.1.2
6. [OK] をクリックします。

Access GatewayをVDI-in-a-Box用に構成するには

VDI-in-a-Boxグリッド用のAccess Gateway仮想サーバーを作成します。単一のNetScaler アプライアンス上に複数のAccess Gateway仮想サーバーを作成して、異なるVDI-in-a-Box グリッドにアクセスさせることもできます。

1. NetScaler Access Gatewayウィザードを起動します。これを行うには、[NetScaler] > [Configuration] > [Access Gateway] の順に開き、[Create/Monitor Access Gateway] をクリックし、[Getting Started] をクリックします。
2. [Access Gateway Setting] セクションで適切な設定を行い、Access Gateway仮想サーバーで使用するIPアドレスを入力します。
3. [LDAP Authentication] セクションの設定を行い、VDI-in-a-Boxグリッドと同じ Active Directoryドメインを指定します。
4. [Certificates] セクションの設定を行い、[Install Certificate] または [Use Test Certificate] オプションを選択します。[NetScaler] > [Configuration] > [SSL] セクションまたはサードパーティ製のツールを使用して証明書を作成します。
5. [DNS] セクションで、DNSサーバーのIPアドレスを入力します。
6. [Web Interface] セクションの設定を行います。詳しくは、eDocsの [Access Gateway] > [NetScaler Access Gateway 10] > [Install and Setup] > [Configuring the Access Gateway by Using Wizards] > [Configuring Access Gateway Settings with the Remote Access Wizard] を参照してください。
 - a. [Web Interface Address] ボックスに、VDI-in-a-BoxグリッドIPアドレスに対応するURLを入力します。

注： [Web Interface Address] には「**https://**」で始まるURLを入力してください。
 - b. [Secure Ticket Authority] で、Secure Ticket AuthorityのURLを「**https://<vdiGridIPAddress>/dt/sta**」形式（<vdiGridIPAddress>はグリッドIPアドレス）で入力します。

注： [Secure Ticket Authority] には「**https://**」で始まるURLを入力してください。
7. Access Gateway仮想サーバーの構成を確認します。これを行うには、[NetScaler Configuration] > [Access Gateway] > [Virtual Servers] セクションで仮想サーバーをダブルクリックし、設定内容を表示します。必要に応じて、問題を修正します。

NetScaler Access GatewayでCitrix Receiverポリシーを構成するには

この手順について詳しくは、「[Receiver for iOS 5.6.x](#)」を参照してください。このReceiverポリシーは、すべてのモバイルデバイスに適用されます。

1. [Web Interface Address] ボックスに、PNAgent URLを「**https://<vdiGridIPAddress>/dt/PNAgent/config.xml**」形式（<vdiGridIPAddress>はVDI-in-a-BoxグリッドIPアドレス）で入力します。

2. [Single Sign-on Domain] ボックスに、VDI-in-a-Boxで使用するActive Directoryドメインを入力します。
3. eDocsの「Receiver for iOS 5.6.x」のトピックで説明されている、RADIUSおよびActive Directoryの認証ポリシーに関する手順は不要です。これらの手順は、VDI-in-a-Boxでは必要ありません。

Citrix Receiverを構成するには

Access Gatewayを介してVDI-in-a-Boxデスクトップに接続するには、Citrix Receiverを使用します。複数のユーザーデバイスで同じサーバーURLオプションを設定する方法については、eDocsの「[ReceiverとPlug-in](#)」のセクションを参照してください。ゲートウェイ上でReceiverセッションポリシーが作成されていない環境では、URLとして「`https://<AccessGatewayFQDN>/dt/PNAgent/config.xml`」を使用します。vdiManager管理コンソールでデスクトップにアクセスするときと同じユーザー名を指定します。

重要： 「/PNAgent/」の「PNA」は、大文字で入力する必要があります。

リモートデスクトップゲートウェイを介したvdiManager接続を構成するには

更新日： 2012-08-30

リモートデスクトップゲートウェイを経由してVDI-in-a-Boxデスクトップにリモートからアクセスすることもできます。この場合、リモートデスクトップゲートウェイがDMZ（Delimitarized Zone：非武装地帯）内で動作している必要があります。また、リモートアクセスを提供する仮想デスクトップと同じドメインに属している必要があります。vdiManagerを構成するときに、リモートデスクトップゲートウェイのIPアドレスを指定します。

注：リモートデスクトップゲートウェイの構成について詳しくは、<http://support.citrix.com/article/CTX134286>を参照してください。

1. vdiManager管理コンソールの [Admin] ページで、[Advanced Properties] をクリックします。
2. [Gateways] セクションまでスクロールします。

The screenshot shows the 'Advanced Properties' dialog box with the 'Gateways' section selected. The 'Internal RDP gateway IP addresses' field is highlighted with a yellow border and contains the text '192.0.2.5;192.0.2.20'. Other fields include 'MAC address range length' (0), 'External HDX gateway addresses', 'Internal HDX gateway IP addresses', 'External RDP gateway addresses' (www.<gateway1>.com:443;www.<gateway2.com), and 'User Session' fields for 'Desktop session default width' and 'Desktop session default height' (both 0). Buttons for 'Cancel' and 'Ok' are at the bottom right.

Section	Field Name	Value
Gateways	MAC address range length	0
	External HDX gateway addresses	
	Internal HDX gateway IP addresses	
	Internal RDP gateway IP addresses	192.0.2.5;192.0.2.20
User Session	Desktop session default width	0
	Desktop session default height	0

3. [External RDP gateway addresses] に、リモートデスクトップゲートウェイの外部 FQDN (Fully Qualified Domain Name : 完全修飾ドメイン名) を、ポートを含めて入力します。セミコロンで区切って複数のFQDNを入力できます。例：
www.<gateway1.com>.com:443;www.<gateway2.com>.com:443
4. [Internal RDP gateway IP addresses] に、リモートデスクトップゲートウェイの内部IPアドレスまたはDNS名を入力します。セミコロンで区切って複数のアドレスを入力できます。 外部ゲートウェイのアドレスと同じ数のリモートデスクトップゲートウェイを同じ順序で指定してください。例：192.0.2.5;192.0.2.20
5. [OK] をクリックします。

Profile managementの構成

更新日：2012-08-30

ユーザーの個人用設定を仮想デスクトップに適用するには、VDI-in-a-BoxでCitrix Profile managementを使用します。Profile managementにより、ユーザープロファイルが集約化および最適化され、管理の手間と必要なストレージを最小限に抑えることができます。Profile managementをすべてのユーザーの場所またはユーザーデバイスに適用することで、ユーザーのログオンとログオフにかかる時間を短縮できます。Profile managementについて詳しくは、「[Profile ManagementとVDI-in-a-Box](#)」を参照してください。

前提条件

- ・ VDI-in-a-Boxグリッドが、vdiManager 4.1以降を実行している1台以上のサーバーで構成されている。
- ・ vdiManagerでWindows 7またはWindows XPのイメージが公開されている。
- ・ ファイルサーバー上に、ユーザーが読み取りおよび書き込み権限を持つ共有フォルダーがある。

VDI-in-a-BoxのProfile managementをインストールおよび構成するには

eDocsで、使用するバージョンに関する以下の「[プロファイル管理 \(Profile Management\)](#)」のトピックを参照して、展開を計画し、セットアップを実行します。

- ・ Profile managementの製品概要
- ・ Profile managementの展開計画
- ・ Profile managementのインストールおよびセットアップ

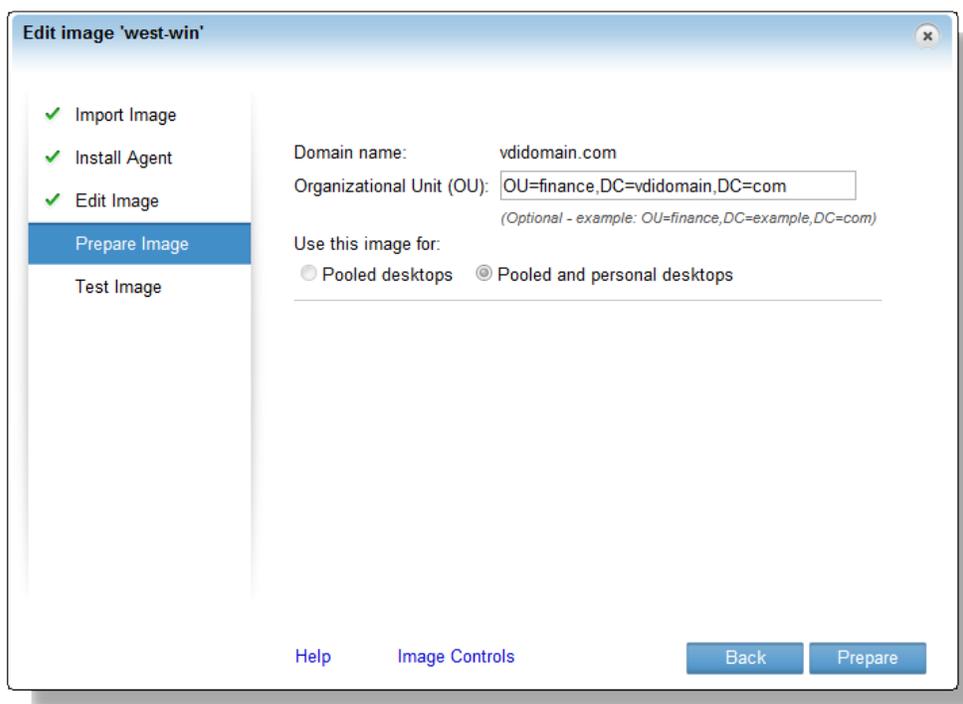
注：VDI-in-a-Boxの公開イメージの作成時または公開後に、Profile Managementサービスをインストールします。

- ・ Profile managementを有効にするには
- ・ ユーザーストアへのパスを指定するには
- ・ Profile managementとMicrosoft Outlook

Profile management用にVDI-in-a-Boxイメージを構成するには

デスクトップの作成に使用される各イメージに、グループポリシーオブジェクト（GPO）テンプレートで設定された組織単位（OU）を設定します。

1. イメージに設定されているOUを確認するには、 [Images] タブをクリックし、イメージ名をクリックします。
2. イメージのOUを設定するには
 - a. [Images] タブをクリックし、イメージの [Edit] をクリックして、 [Confirm] をクリックします。
 - b. [Edit draft image] ウィザードで、 [Organizational unit (OU)] を入力します。



このウィザードについて詳しくは、eDocsのトピック「VDI-in-a-Box」>「VDI-in-a-Boxの導入」の各ハイパーバイザーに関するセクションで、「最初のWindowsイメージを作成する」を参照してください。

新しいドラフトイメージを保存すると、そのイメージが新しい公開イメージになり、元の公開イメージは非アクティブになります。公開イメージに対する変更は、そのイメージに関連付けられたテンプレートの更新ポリシーに基づいて各デスクトップに反映されます。

スマートカード認証の構成

更新日：2012-08-30

VDI-in-a-Boxはスマートカード認証をサポートしているため、ユーザーはスマートカードリーダーを使用して仮想デスクトップにログオンすることができます。ログオンするには、スマートカードを読み取らせてから、スマートカードのPIN（暗証番号）を入力します。Citrix Receiverにより、ユーザーが使用できるデスクトップが表示されます。セッション中にユーザーがスマートカードを取り出すと、強制的にログオフされます。

必要なシステム環境

- ・ スマートカードのサポートがサーバーで有効になっている。

導入する環境固有の設定要件については、スマートカードの製造元またはシステムインテグレーターにお問い合わせください。

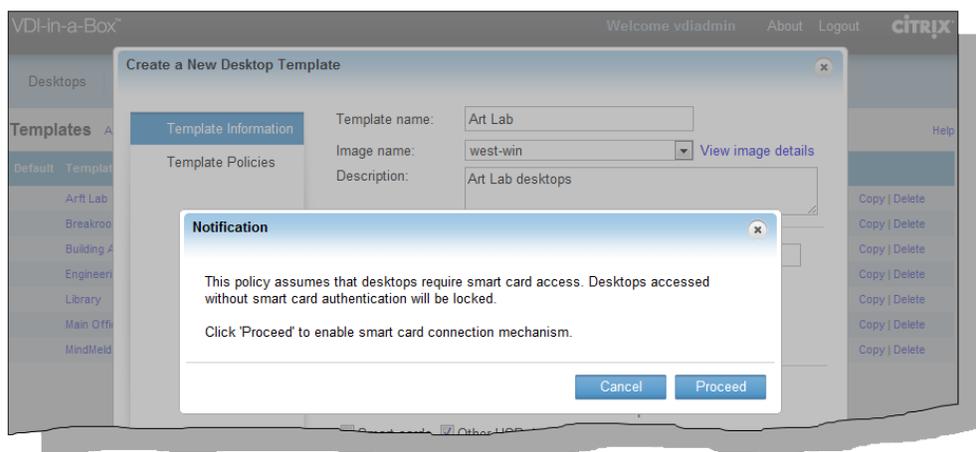
- ・ 以下のユーザーデバイス要件。
 - ・ Windowsベースのオペレーティングシステム（サポートされるシステムについては、「[VDI-in-a-Box 5.1.xに必要なシステム](#)」を参照してください）。
 - ・ Citrix Receiver。
 - ・ ActivIdentityベースのCommon Access Card（CAC）リーダー。
 - ・ キーボード機能用のActivIdentityデバイスドライバーを含むActivIdentity ActivClient 6.2または6.1。
 - ・ VDI-in-a-Boxグリッドと同じドメイン。
- ・ 以下のWindows Server 2008 R2のActive Directory環境。
 - ・ VDI-in-a-Boxグリッドと統合されている。
 - ・ スマートカード認証用に構成されている。
- ・ スマートカードソフトウェアがインストールされた1つ以上の公開VDI-in-a-Boxデスクトップイメージ
- ・ 接続を保護する場合は、ユーザーによるVPN接続の確立。

VDI-in-a-Boxでスマートカード認証を設定するには

1. スマートカード認証に必要なテンプレートを設計します。スマートカード用に構成されたテンプレートに基づくデスクトップにアクセスするにはスマートカードが必要です。

ユーザーがスマートカードを使用せずにこのデスクトップに接続しようとする、アクセスが拒否されます。

2. スマートカード用のテンプレートを作成します。
 - a. [Templates] タブをクリックし、[Add] をクリックします。
 - b. Create a New Desktop Templateウィザードで、通常どおりテンプレート情報を指定します。
 - c. [Smart cards] チェックボックスをオンにします。



- d. 確認のメッセージで [Proceed] をクリックし、[Next] をクリックします。
 - e. テンプレートポリシーを指定して、[Save] をクリックします。
3. ユーザーまたはグループを新しいテンプレートに割り当てます。詳しくは、eDocsの「VDI-in-a-Box」>「VDI-in-a-Boxの導入」で、各ハイパーバイザーに関する「ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て」を参照してください。
4. スマートカード認証をテストします。スマートカード認証用に構成したユーザーデバイスからエンドユーザーとしてログオンします。

VDI-in-a-Boxアプライアンスへのログオン

更新日：2012-08-15

VDI-in-a-Boxアプライアンスに直接ログオンするには、ハイパーバイザーの管理コンソールや、PuTTYなどのSSH (Secure Shell) クライアントを使用します。アプライアンスに初期設定されている資格情報は、以下のとおりです。

- ・ ユーザー名：kvm
- ・ パスワード：kaviza123

実稼働環境で使用する場合は、このパスワードを変更してください。ユーザー名kvmおよびrootの初期設定パスワード (kaviza123) を変更するには、これらのユーザー名でログインしてpasswdコマンドを使用します。

重要： パスワードを変更する場合は、グリッド内のすべてのVDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) でも変更する必要があります。パスワードは、グリッドではなく各vdiManagerアプライアンスに関連付けられます。

VDI-in-a-Boxアプライアンスのパスワードを変更するには

1. ハイパーバイザーのコンソールまたはSSHクライアントでvdiManagerを開きます。
2. パスワードを変更するアカウントを使用して、vdiManagerにログオンします。
3. コマンドプロンプトに**passwd**を入力してEnterキーを押します。
4. 画面の指示に従って、現在のパスワードを入力してEnterキーを押します。
5. 画面の指示に従って、新しいパスワードを入力してEnterキーを押します。
6. 画面の指示に従って、新しいパスワードを再度入力してEnterキーを押します。パスワードが正しく変更されたことを示すメッセージが表示されます。

HDX機能および拡張機能の使用

更新日：2012-08-16

Citrix HDXには、今日のメディアを駆使したユーザー環境に対して高品位のユーザーエクスペリエンスを提供する幅広い技術セットが含まれています。

HDX機能の多くは、グループポリシーを使用して設定します。ネットワーク環境でActive Directoryが使用されており、適切な管理権限が付与されている場合は、グループポリシーエディターを使用してHDXポリシーを構成できます。

以下のCitrix XenDesktopのトピックでは、HDX機能と拡張機能を構成および使用方法について説明します。

クイックリンク

- ・ [サーバー側でのHDX MediaStream Flash Redirectionの構成](#)
- ・ [オーディオの構成](#)
- ・ [HDX RealTimeによるマルチメディア会議でのエコーを解消する](#)
- ・ [HDX RealTime Webカメラビデオ圧縮を使ったビデオ会議](#)
- ・ [Aero機能のリダイレクト](#)
- ・ [色の圧縮による低帯域幅条件での応答性の向上](#)
- ・ [ネットワークトラフィックへの優先度の割り当て](#)
- ・ [スムーズなビデオおよびスライドショーの実行](#)
- ・ [マップされたクライアントドライブに対する読み取り専用アクセスを設定する](#)
- ・ [HDX Optimization Pack for Google Earth](#)

ユーザーデバイスからのVDI-in-a-Boxへのアクセス

更新日：2012-11-19

ユーザーは、Citrix VDI-in-a-Boxの仮想デスクトップにユーザーデバイスからアクセスします。ユーザーデバイスと仮想デスクトップの通信では、プロトコルとしてCitrix HDXまたはリモートデスクトップ接続（RDP）が使用されます。ユーザーデバイスと仮想デスクトップとの間で通信を行うためには、クライアント側のプロトコルエージェントとサーバー側のプロトコルエージェントが必要です。

VDI-in-a-Boxがサポートするプロトコル

VDI-in-a-Boxは、以下のプロトコルをサポートしています。

- ・ HDX
 - ・ これはデフォルトのプロトコルです。
 - ・ 追加のライセンスは不要です。
 - ・ HDXは高品位のユーザーエクスペリエンスを提供します。
 - ・ HDXは、狭い帯域幅を使用する場合でも、優れたマルチメディアサポートを提供します。
 - ・ HDXは、WANを経由したリモートアクセスに適しています。
- ・ リモートデスクトップ接続（RDP）V6およびV7
 - ・ RDPは、LAN環境に適しています。

注：リモートデスクトップ接続V7を使用する場合は、仮想デスクトップとユーザーデバイスの両方でWindows 7を実行すると最良の結果を得ることができます。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップへのアクセス

ユーザーは、以下の3つの方法でVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスすることができます。

重要：ただし、いずれの場合でも、ユーザーデバイス上にCitrix Receiverがインストールされている必要があります。

- ・ Webブラウザ：Webブラウザでは、HDXとRDPの両方のプロトコルによる接続がサポートされますが、これらのプロトコル用の設定が必要です。
- ・ Citrix Receiver

- Citrix Receiverにより、WebブラウザーやVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用することなく、HDX接続を通じて直接VDI-in-a-Boxデスクトップにアクセスできます。
- Receiverでは、Windows、Mac、Linux、iOS、Androidの各プラットフォームからVDI-in-a-Boxデスクトップに接続できます。
- Citrix Receiverを使用すると、Webブラウザーを持たない古いローエンドのシンクライアントを使用してVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスすることができます。iPadのようなモバイルデバイスでも、Receiverを使用することで、WebブラウザーやJavaデスクトップクライアントを必要とせずにVDI-in-a-Boxにアクセスすることができます。
- VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアント
 - Javaデスクトップクライアントのアップデートプログラムの有無が自動的に確認され、必要に応じて更新されます。
 - Java Runtime Environment (JRE) 1.6以降が必要です。
 - HDX接続を使用できない場合は、RDP接続に切り替わります。

Citrix Desktop Lockの使用

Desktop Lockは、ユーザーがローカルのデスクトップにアクセスできなくなるようにユーザーデバイスを「ロックダウン」します。これにより、ユーザーはVDI-in-a-Box仮想デスクトップだけにアクセスできるようになります。

ユーザーには、単一のテンプレートのみを割り当てます。

シングルサインオン機能を提供するには、ユーザーデバイスがVDI-in-a-Boxグリッドと同じドメインに属している必要があります。

Desktop Lockをインストールするには、以下の手順に従います。

1. 「[VDI-in-a-Box 5.1.xに必要なシステム](#)」を参照して、環境の要件について確認します。
2. ユーザーのコンピューターに管理者権限でログオンします。
3. Citrix社のWebサイトのCitrix Receiverダウンロードページから、Citrix Receiver 3.3 Enterprise Editionをダウンロードします。
4. Citrix社のWebサイトのVDI-in-a-Boxダウンロードページから、CitrixDesktopLock.msiをダウンロードします。
5. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行して、Receiverをインストールします。

```
CitrixReceiverEnterprise.exe ADDLOCAL="ICA_Client,SSON,USB,Desktop Viewer,Flash,PN_Agent,Vd3d" SERVER_LOCATION="https://<my.vdi-grid>" ENABLE_SSON="Yes"
```

ここで、<my.vdi-grid>はVDI-in-a-BoxグリッドのURLです。

6. Receiverのインストールが完了したら、Receiverの資格情報を入力するダイアログボックスで [キャンセル] をクリックします。
7. CitrixDesktopLock.msiをダブルクリックして、ウィザードの指示に従ってDesktop Lockをインストールします。
8. インストールが完了したら、 [Close] をクリックします。
9. メッセージが表示されたら、ユーザーデバイスを再起動します。 通常のドメインユーザーアカウントでログオンすると、ローカルデスクトップではなくVDI-in-a-Boxデスクトップが開きます。

クライアントアクセスの比較

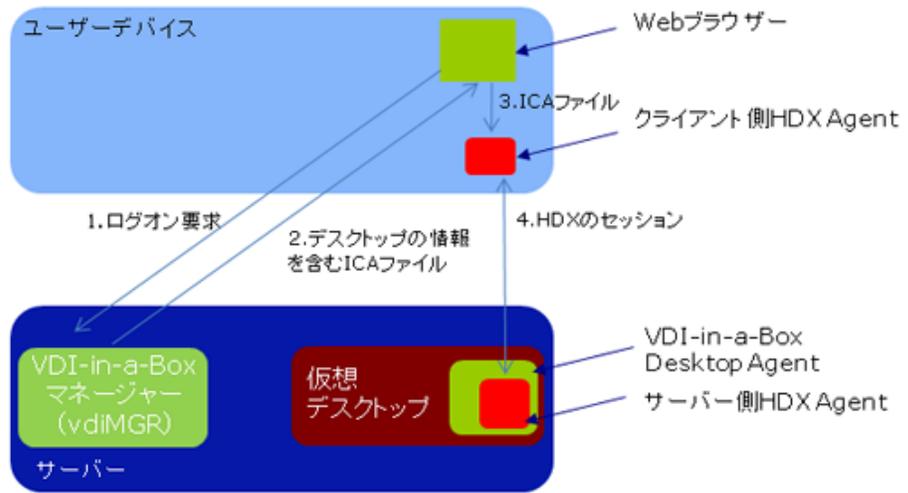
仮想デスクトップへのアクセス	HDX接続が不能な場合のRDPへの自動切り替え	キオスク	統合エラーメッセージ	vdiM
<input type="radio"/>	(不要)	<input type="radio"/>		
<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

注：グリッド用の仮想IPアドレスを設定すると、すべてのアクセス方法で自動フェールオーバー機能を使用できるようになります。詳しくは、「[グリッドの管理](#)」を参照してください。

キオスクオプションは、図書館やナースステーションなどに共有のユーザーデバイスを配置して、デスクトップをログオンユーザーではなく共有デバイスに割り当てる場合に使用します。キオスクデバイスでは、そのデバイス用に設定された同一のデスクトップをすべてのユーザーが使用します。

ユーザーデバイスからのログオン

次の図は、ユーザーデバイス上のWebブラウザとサーバー上のVDI-in-a-Boxマネージャー間における基本的なログオンプロセスを示しています。ユーザーデバイスとサーバー上の特定の仮想デスクトップ間のHDXセッションは、Citrix Receiverを使用して作成されます。接続が確立されると、セッションのトラフィックはReceiverと仮想デスクトップ間でのみ発生します。Javaデスクトップクライアントの使用時も同様のプロセスが適用されます。



VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのWindowsデバイスの構成

更新日：2012-10-04

前提条件

WindowsのユーザーデバイスからVDI-in-a-Boxデスクトップにアクセスできるようにするには、Citrix Receiver for Windowsをインストールします。これは<http://receiver.citrix.com/?ntref=citrixdotcomdownloads>からダウンロードできます。

VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用する場合、Java Runtime Environment (JRE) をインストールする必要があります。JREは<https://www.java.com>からダウンロードできます。

Webブラウザーを使用してVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスできるようにWindowsデバイスを構成するには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって多少異なる場合があります。

1. Webブラウザーを起動します。
2. Webブラウザーのアドレスバーに、「**https://<vdiManagerIPAddress>**」と入力します。ここで、<vdiManagerIPAddress>はVDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレスです。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。 [VDI-in-a-Box Log On] ページが開きます。
4. ユーザーデバイスのデスクトップ上に、WebブラウザーからVDI-in-a-Boxログオンページにアクセスするためのショートカットを作成します。

Citrix Receiverを使用してVDI-in-a-BoxデスクトップにアクセスできるようにWindowsデバイスを構成するには

Citrix Receiverを使用してVDI-in-a-Boxデスクトップに接続させる場合は、ユーザーのWindowsデバイス上にCitrix Receiverをインストールします。eDocsの「[Receiver for Windows](#)」のセクションを参照して、サーバーURLオプションを設定します。URLとして、`http://<vdiManagerIPAddress>/dt/PNAgent/config.xml`を使用します。ユーザー名は、VDI-in-a-Boxコンソールからデスクトップにアクセスする際に使用しているものを使用します。

VDI-in-a-Boxデスクトップクライアントを使用してVDI-in-a-BoxデスクトップにアクセスできるようにWindowsデバイスを構成するには

1. デバイスにJREがインストールされていることを確認します。
2. Windowsデバイスでコマンドプロンプトウィンドウを開きます。
3. コマンドプロンプトで、VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントのアドレスを指定して `javaws http://<vdiManagerIPAddress>/dt/vdiclient.jnlp` を実行します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
4. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
5. 別のセキュリティ警告が表示される場合は、受け入れて続行します。 [VDI-in-a-Box Client] ダイアログボックスが開きます。
6. VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントのショートカットをデスクトップに作成します。
 - a. デバイス上でコマンドプロンプトのウィンドウを開きます。
 - b. コマンドプロンプトで、 `javaws -viewer` を実行します。 [Java Cache Viewer] ウィンドウが開きます。
 - c. JavaClientのエントリを右クリックして、 [Install Shortcuts] を選択します。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのMacデバイスの構成

更新日： 2012-10-04

前提条件

MacのユーザーデバイスからVDI-in-a-Boxデスクトップにアクセスできるようにするには、Citrix Receiver for Macをインストールします。これは <http://receiver.citrix.com/?ntref=citrixdotcomdownloads> からダウンロードできます。

VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用する場合、Java Runtime Environment (JRE) をインストールする必要があります。JREは<https://www.java.com> からダウンロードできます。

Webブラウザーを使用してVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスできるようにMacデバイスを構成するには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって多少異なる場合があります。

1. Webブラウザーを起動します。
2. Webブラウザーのアドレスバーに、「**https://<vdiManagerIPAddress>**」と入力します。ここで、<vdiManagerIPAddress>はVDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレスです。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。 [VDI-in-a-Box Log On] ページが開きます。
4. ユーザーデバイスのデスクトップ上に、WebブラウザーからVDI-in-a-Boxログオンページにアクセスするためのショートカット（エイリアス）を作成します。

Citrix Receiver for Macを使用して VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスで きるようにMacデバイスを構成するには

Citrix Receiverを使用してVDI-in-a-Boxデスクトップに接続させる場合は、ユーザーのデバイス上にCitrix Receiverをインストールします。eDocsの「[Receiver for Mac](#)」のセクションを参照して、サーバーURLオプションを設定します。URLとして、`http://<vdiManagerIPAddress>/dt/PNAgent/config.xml`を使用します。ユーザー名は、vdiManager管理コンソールからデスクトップにアクセスする際に使用しているものを使用します。

VDI-in-a-Boxデスクトップクライアントを使 用してVDI-in-a-Boxデスクトップにアクセス できるようにMacデバイスを構成するには

1. デバイスにJREがインストールされていることを確認します。
2. Macデバイスでターミナルウィンドウを開きます。
3. ターミナルプロンプトで、VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントのアドレスを指定して `javaws http://<vdiManagerIPAddress>/dt/vdiclient.jnlp` を実行します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
4. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
5. 別のセキュリティ警告が表示される場合は、受け入れて続行します。 [VDI-in-a-Box Client] ダイアログボックスが開きます。
6. VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントのショートカットをデスクトップに作成します。
 - a. Macデバイス上でターミナルウィンドウを開きます。
 - b. ターミナルプロンプトで、 `javaws -viewer` を実行します。 [Java Cache Viewer] ウィンドウが開きます。
 - c. JavaClientのエントリを右クリックして、 [Install Shortcuts] を選択します。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのLinuxデバイスの構成

更新日： 2012-10-04

前提条件

LinuxのユーザーデバイスからVDI-in-a-Boxデスクトップにアクセスできるようにするには、以下のソフトウェアをインストールします。

- ・ Citrix Receiver for Linux。 <https://www.citrix.com>からダウンロードできます。
- ・ rdesktop 1.7.0。 <http://www.rdesktop.org>からダウンロードできます。

VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用する場合、Java Runtime Environment (JRE) をインストールする必要があります。JREは<https://www.java.com>からダウンロードできます。

Webブラウザーを使用してVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスできるようにLinuxデバイスを構成するには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって多少異なる場合があります。

1. Webブラウザーを起動します。
2. Webブラウザーのアドレスバーに、「<https://<vdiManagerIPAddress>>」と入力します。ここで、<vdiManagerIPAddress>はVDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレスです。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。 [VDI-in-a-Box Log On] ページが開きます。
4. ユーザーデバイスのデスクトップ上に、WebブラウザーからVDI-in-a-Boxログオンページにアクセスするためのショートカット（エイリアス）を作成します。

Citrix Receiverを使用してVDI-in-a-BoxデスクトップにアクセスできるようにLinuxデバイスを構成するには

Citrix Receiverを使用してVDI-in-a-Boxデスクトップに接続させる場合は、ユーザーのLinuxデバイス上にCitrix Receiverをインストールします。eDocsの「[Receiver for Linux](#)」のセクションを参照して、サーバーURLオプションを設定します。URLとして、`http://<vdiManagerIPAddress>/dt/PNAgent/config.xml`を使用します。ユーザー名は、VDI-in-a-Boxコンソールからデスクトップにアクセスする際に使用しているものを使用します。

Javaデスクトップクライアントを使用して VDI-in-a-Boxデスクトップにアクセスできる ようにLinuxデバイスを構成するには

1. デバイスにJREがインストールされていることを確認します。
2. Linuxデバイスでターミナルウィンドウを開きます。
3. ターミナルプロンプトで、VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントのアドレスを指定して `javaws http://<vdiManagerIPAddress>/dt/vdiclient.jnlp` を実行します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
4. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
5. 別のセキュリティ警告が表示される場合は、受け入れて続行します。 [VDI-in-a-Box Client] ダイアログボックスが開きます。
6. VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントのショートカットをデスクトップ上に作成します。
 - a. Linuxデバイスでターミナルウィンドウを開きます。
 - b. ターミナルプロンプトで、 `javaws -viewer` を実行します。 [Java Cache Viewer] ウィンドウが開きます。
 - c. JavaClientのエントリを右クリックして、 [Install Shortcuts] を選択します。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのiOSデバイスの構成

更新日：2012-08-17

前提条件

- ・ ユーザー認証用のActive DirectoryがCitrix VDI-in-a-Boxグリッドで設定されている。
- ・ iOSデバイス（iPadおよびiPhone）からデスクトップにアクセスするユーザーに、少なくとも1つのテンプレートが割り当てられている。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスできるようにiOSデバイスを構成するには

Citrix Receiver for iOSについて詳しくは、eDocの「Receiver for iOS」のセクション（「[Receiver for iOS](#)」）を参照してください。

1. iTunes App StoreからReceiver for iOSをダウンロードしてインストールします。
2. Citrix Receiver for Mobile Devices用アカウントを手作業で構成するには、[新規アカウント] 画面を開き、■■■■■■■にVDI-in-a-Boxマネージャー（vdiManager）のアドレスを「`https://<vdiManagerIPAddress>/dt/PNAgent/config.xml`」のように入力します。
3. [次へ] をタップします。
[検証済み] 画面が開きます。
4. [検証済み] 画面で必要な設定を行って、[保存] をタップします。そのユーザーアカウントに割り当てられているデスクトップの一覧が表示されます。

iOSデバイスからVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするには

1. [アカウント] 画面で、使用するVDI-in-a-Boxアカウントをタップします。
2. [資格情報の入力] 画面で、ユーザーの資格情報を入力して [OK] をタップします。

注：アカウントの設定によっては、ユーザーのパスワードが保存されている場合があります。その場合はこの手順は省略されます。

アカウントに割り当てられているデスクトップの一覧が表示されます。

3. 目的のデスクトップをタップします。仮想デスクトップに接続されます。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスできるようにAndroidデバイスを構成するには

更新日：2012-08-16

前提条件

- ・ Citrix VDI-in-a-BoxグリッドのHDXが有効になっている。
- ・ VDI-in-a-Box HDX Gatewayが有効でライセンスが適用されている。
- ・ ユーザー認証用のActive DirectoryがCitrix VDI-in-a-Boxグリッドで設定されている。
- ・ Androidデバイスからデスクトップにアクセスしているユーザーに、少なくとも1つのテンプレートが割り当てられている。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスできるようにAndroidデバイスを構成するには

Citrix Receiver for Androidについて詳しくは、eDocの「[Receiver for Android](#)」のセクションを参照してください。

1. AndroidマーケットからReceiver for Androidをダウンロードしてインストールします。
2. [アカウントの追加] 画面を開き、[アドレス] にVDI-in-a-Boxマネージャー（vdiManager）のアドレスを「**`https://<vdiManagerIPAddress>/dt/PNAgent/config.xml`**」のように入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. セキュリティ警告のメッセージが表示された場合は、[許可] をタップします。エラーメッセージが表示されます。
4. [手動セットアップ] をタップします。手動で設定するための[アカウントの追加] 画面が表示されます。
5. [アカウントの追加] ページで、[ユーザー名] と [ドメイン] を入力し、[追加] をタップします。

注意：必要に応じて、ここでユーザーのパスワードを入力しておくこともできます。これによりパスワードが保存されるので、ユーザーは認証なしにVDI-in-a-Boxデスクトップに接続することができます。

新しいアカウントが [アカウント] 一覧に追加されます。

AndroidデバイスからVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするには

1. Citrix Receiverの [アカウント] 一覧で、使用するVDI-in-a-Boxアカウントをタップします。
2. パスワードを入力します。

注：アカウントの追加時にパスワードを保存しておいた場合、この手順は省略されま
す。

3. ユーザーの資格情報を入力して、 [ログオン] をタップします。仮想デスクトップに接
続されます。